MAMORU NAGANO'S

F.S.S.DESIGNS

1 EASTER; A.K.D.

MAMORU NAGANO

永野護自身による太陽系史上最強最大級

ファイブスター物語

オールカラー設定解説作品集

第1弾!

MAMORU NAGANO'S

F.S.S. DESIGNS

1 EASTER; A.K.D.

MAMORU NAGANO

MAMORU NAGANO'S

F.S.S. DESIGNS

EASTER; A.K.D.

MAMORU NAGANO'S

F.S.S. DESIGNS

1

EASTER; A.K.D.

F.S.S.DESIGNS

1

EASTER; A.K.D.

恒星イースター、恒星ウェスタ、恒星サザンド、恒星ノウズ、
そして不軌道太陽スタント遊星
これら5つの太陽系から形成されるジョーカー太陽星団
筆頭は恒星イースターの惑星デルタ・ベルン、
この星すべてを統治するアマテラス・キングダム・ディメンス
ことA.K.D.のすべてである

天照の帝

デザイン／デザイン画：2005年
3月14日デジタルセル

97 ミラージュ騎士団左翼　グリーンレフト
98 斑鳩王子　レフト4
98 斑鳩王子(サリオン)／ファティマ・マージャ(デカダン・スタイル)／マージャ　プラスチック・スタイル
99 "シャフト"バーグル・デ・ライツァー　レフト2
99 "シャフト"バーグル・デ・ライツァー／ファティマ・パルテノ（ミラージュ・スーツ）
100 ティン・バイア王子　レフト3
100 ティン・バイア：クー・ファン・シー・マ王子（公藩司馬）／ファティマ・ベルダ（デカダン・スタイル）
101 ヒューズ・カーリー　レフト5
"パイソン" エイドリアン・ターク　レフト7
101 ヒューズ・カーリー：スピナー／"パイソン"エイドリアン・ターク
102 ミューリー・キンキー王女　レフト8
102 ミューリー・キンキー王女／ファティマ・イルベオ（プラスチック・スタイル）
103 ベスター・"クローズ"・オービット　レフト9
メイザー・ブローズ　レフト11
103 ベスター・"クローズ"・オービット公爵／メイザー・ブローズ
104 "スパーク"ピッキング・ハリス　レフト10
104 スパーク：ピッキング・ハリス／ファティマ・クラカライン（デカダン・スタイル）
105 スパーク　私服／クラカライン　プラスチック・スタイル
106 マドラ・モイライ
106 マドラ・モイライ／ファティマ・ベルクト（プラスチック・スタイル）
107 剣聖ミス・マドラ：アルゴン・プロミネンス
108 バイズビズ　レフト12
108 バイズビズ／ファティマ・スパルタ（プラスチック・スタイル）
109 プリンセス・タイトネイブ　出張ミラージュ騎士　レフト14
109 プリンセス・タイトネイブ／ファティマ・サロメ(デカダン・スタイル)
110 パナール・リィ・エックス王女　レフト15
110 パナール・リィ・エックス・アトワイト公女：王女（パナール・リィ・エックス・ヘンシェル・アトワイト）／ファティマ・イカロス（プラスチック・スタイル）
111 エルディアイ・ツバンツヒ〜スペック　レフト18
剣聖ベルベット　レフト22
111 エルディアイ・ツバンツヒ（スペック）／剣聖ベルベット
◆
112 ウピゾナ・バーデンバーグ　ミラージュ31
112 ウピゾナ・バーデンバーグ／ファティマ・メガエラ（デカダン・スタイル）
113 カーレル・クリサリス　ミラージュ32
113 カーレル・クリサリス／"ショウ・マスト・ゴー・オン"（プラスチック・スタイル）
114 アラート・エックス　ミラージュ33
114 アラート・エックス（アラート・リィ・エックス・ヘンシェル・アトワイト）
115 レディ・スペクター　ミラージュ35
115 レディ・スペクター
116 ザ・タワー　ミラージュ36
116 ザ・タワー
◆
117 ミラージュ騎士団顧問　ディモス・ハイアラキ
117 剣聖ディモス・ハイアラキ／ファティマ・クーン
118 ミラージュ騎士団の重鎮たち
118 ダグエラン・ルス天照家元老院議長／メルカ・ルーモアーズ侯爵
119 プロフェッサー・ビリジアン
119 プロフェッサー・ビリジアン：ギルフィー・ビリディン
120 ミラージュ騎士団MHスーツ
120 ミラージュ騎士団　騎士服／スーツ上着／女性用ミラージュ・スーツ（ディッパ）
121 フェイスガード／女性用ミラージュ・スーツ（アイシャ）／女性用ミラージュ・スーツ　背面（キュキィ）
122 ミラージュ騎士団以外の組織　ミラージュ・ダイバーほか
122 ホワイト・リンクス／メル・ズーム
123 パルゥ・スウェイン／エレーナ・クニャジコーワ

A.K.D.軍とゴーズ騎士団　125

126 A.K.D.軍とゴーズ騎士団
126 ゴーズ騎士団　制服／ボーギン・デ・ライバッハ／ファティマ・エラーラ（ゴーズ騎士団制服）
127 その後のA.K.D.〜星団暦4000年代
127 ユーパンドラ・ライム／ドクター・ジョージョ
128 A.K.D.地上軍　階級
128 地上軍　階級章／地上軍　肩章／地上軍　平服
129 A.K.D.宇宙軍　階級
128 宇宙軍　階級章／宇宙軍　兵科色／宇宙軍　階級章台座／宇宙軍　袖章
130 A.K.D.地上軍
130 地上軍　野戦服／A.K.D.正式小銃／迷彩パターン
131 野戦憲兵隊隊長メタリフェル少佐／A.K.D.戦車教導大隊指揮官ユーリー・パシュチェンコ大尉
132 A.K.D.地上軍　戦闘車両
132 空中戦車E-75／駆逐戦車E-505
133 A.K.D.地上軍　特殊兵装
133 Pz-Stvt／戦略突撃歩兵
134 A.K.D.宇宙軍
134 マイア・フォン・トッカータ宇宙軍中佐・軍参謀／ミス宇宙軍・宇宙軍通信少尉
135 インナ・ペトロワ宇宙軍戦闘飛行部隊大尉／宇宙軍デルタ・ベルン本星防衛艦隊提督・ヤン将軍
136 A.K.D.宇宙軍　宇宙船・戦艦
136 A.K.D.宇宙軍主力戦艦U-17／Z型巡洋輸送艦"イール"
137 U-XXI型機動戦艦"マクロファリンクス"／J型多目的フリゲード"キリフィッシュ"／強襲揚陸艇MC-108"パンナコッタ"
138 A.K.D.宇宙軍　艦載戦闘機ほか
138 艦載雷撃機"プルトニクス"／万能攻撃機ラム-L"フォーカー"／騎行戦闘機V-4"プローラ"
139 戦艦・戦闘機ほか比較対照表
140 ミラージュ旗艦
140 天照家・旗艦　ベル・クレール／天照家・高速巡洋艦　ホエール
142 登場人物たちが着けている装飾品・賞受章・勲章について
142 天照王朝皇帝　天照の帝／フィルモア帝国皇帝　ダイ・グ・フィルモアV／笏を持つクバルカン法国神官長　ノンナ・ストラウス
143 シーブル国騎士将軍　メイユ・スカ／特殊称号（民間人）ファティマ・マイト　桜子／A.K.D.将校　マイア・フォン・トッカータ中佐／フィルモア帝国ファティマ　オキストロ

ファティマを生み出した国 フェイツ公国　145

146 フェイツ公国の歴史とバランス家　ウラニウム・バランス
146 ウラニウム・バランス　フェイツ公国領主
147 ナッカンドラ・スパース
148 リチウム・バランスとファティマの誕生
148 リチウム・バランス公　バランス家3代目公爵／ファティマ・ザ・フォーカスライト（グロス・フェイス）
149 アルセニック・バランス
149 アルセニック・バランス　バランス10世
150 光のタイ・フォン
150 光のタイ・フォン
151 クローム・バランス（バランシェ）
151 若き日のクローム・バランス（バランシェ）バランス家11代目当主／幼少時のクローム・バランス（バランシェ）
152 QUEEN

神々と神話の世界　153

154 THE SILVIS RIDE
155 TAICA
155 シルビス・レィス・ビーナス
156 シルビス・レィス・ビーナス
157 シルビス（2点）
158 シルビス／シルビスの側近
159 シルビス／シルビス・ミラー／デモン・ホーン
◆
160 第3部・ラキシス外伝
160 LACHESIS 6599
162 ESCAPE 3239／OUT SPACE 4300
163 DESTINY LACHESIS 5899／7777
164 マンティコア
165 クフィル・インペリューン
◆
166 神々・神話の世界
166 ゲートキーパー
167 サタン・コマンダー
168 カレン
168 カレン／花蓮
169 懐園剣
169 懐園剣
170 カラミティ・ゴーダース星団皇帝
170 カラミティ・ゴーダース星団皇帝
171 モナーク・セイクレッド
171 モナーク・セイクレッド
172 作品集「DESIGNS」について　永野護
173 「DESIGNS 1」スタッフリスト
174 Last Design is a Wedding Dress from the Collections
174 ザ・ブライド

F.S.S. DESIGNS 1 EASTER; A.K.D.

CONTENTS

4 ジョーカー太陽星団 星団表
データの見方

デルタ・ベルン星 アマテラス王朝と諸国 5

6 主人公・天照の帝
6 天照の帝 天照家甲種1等正装
8 天照の帝 天照家乙種2等正装
9 天照の帝 天照家乙種1等正装

10 運命の女神 ラキシス
10 ラキシス 天照家甲種1等正装・婚礼服
11 ラキシス デカダン・スタイル
12 ラキシス 先行プロトタイプ プラスチック・スタイル／ラキシス 天照家甲種1等礼装(洋装)
13 お出かけラキシス／ラキシス 金のワンピース

14 レディオス・ソープ
14 レディオス・ソープ(立ち姿)／レディオス・ソープ・ダッシュ
15 レディオス・ソープ(旅装)／幼少時のソープ

16 天照の分身・リンスと東
16 メル・リンス
17 メル・リンス 初期イメージ／東の君

18 天照家と天照王朝
18 収光帝 フォーカスライト 天照家初代女帝
19 天照家家系図
20 天照の命
21 天照王朝国家一覧／天照王朝 帝位継承順位

22 天照家直系王子王女たち
22 アイシャ・(コーダンテ)ルーマー女王／ワスチャ・コーダンテ王女
23 斑鳩王子／斑鳩王子(初期イメージ)

24 天照家 ダイバーズ・パラ・ギルド
24 メル・クール・リトラ
25 メル・サッチャー

26 ザ・ナイト・オブ・ゴールド
26 ザ・ナイト・オブ・ゴールド
27 ラキシス オペラ・スーツ／ラキシス デカダン・スタイル

28 ナイト・オブ・ゴールド・A-T
28 ナイト・オブ・ゴールド・A-T

29 運命の3人の女神 アトロポス
29 アトロポス オペラ・スーツ

30 ザ・ナイト・オブ・ゴールド・ルミナス
30 ファティマ・ヒュートラン(プラスチック・スタイル)
31 ザ・ナイト・オブ・ゴールド・ルミナス

32 プロトタイプ・ナイト・オブ・ゴールド
32 シュペルター・K.O.G.
33 オージェ・アルスキュル

34 みどりの杜とマシンメサイア・オージェ
34 ファティマ・ダイオード／聖院グリーン・ネイバー
35 マシンメサイア・オージェ

36 アマテラス・キングダム・ディメンス
36 グリース王国と天照王朝を形成する東方10カ国地図
37 グリース内宮

38 A.K.D.浮遊城フロートテンプル 天照家外宮

東方第一等幻像軍団 ミラージュ騎士団 41

43 ミラージュ・モーターヘッド

44 L.E.D.ミラージュ
44 L.E.D.ミラージュ
45 L.E.D.ミラージュ V3
46 L.E.D.ミラージュ 装甲内部
47 L.E.D.ミラージュ 頭部内部／L.E.D.ミラージュ 頭部とキール(竜骨)／ミラージュ騎士団 ガーメント・スタイル

48 MH開発用ファティマ
48 ファティマ・バクスチュアル：バシクチュアル
49 ファティマ・ヴィッターシャッセ／ファティマ・シシス

50 J型駆逐戦闘兵器 ～ヤクト・ミラージュ
50 天照家・J型駆逐戦闘兵器
52 フル装備のヤクト・ミラージュ
53 フル装備のヤクト・ミラージュ (拡大)
54 ヤクト・ミラージュ 副腕副脚
55 ヤクト・ミラージュ 頭部／"シャフト"バーグル・デ・ライツァー
56 ヤクト・ミラージュ 内部構造／ヤクト・ミラージュ コクピット
57 ヤクト・ミラージュ バスターランチャーユニット／ヤクト・ミラージュ バスター砲口

58 C型 カルバリィC
58 カルバリィC 暫定型式／カルバリィC パーツ

59 G型 クロス・ミラージュ雌型 モーター・ドーリー
59 クロス・ミラージュ雌型(アイシャ騎)／モーター・ドーリー (MHキャリアー)

60 G型 クロス・ミラージュ
60 クロス・ミラージュ

61 H型 テロル・ミラージュ
61 テロル・ミラージュ

62 スピード・ミラージュ ヴンダーシェッツェ
62 スピード・ミラージュ ヴンダーシェッツェ

63 スピード・ミラージュ ヴォルケシェッツェ
63 スピード・ミラージュ ヴォルケシェッツェ・ステージ3

64 ミラージュ騎士の使用するパーソナルMH
64 ルージュ・ミラージュ(エレシス)／アパッチ
65 マイティα 暁姫／マイティβ 雷丸(バビロンズ)／マイティγ 彗王丸

67 ミラージュ騎士団

68 ミラージュ騎士
68 ミラージュ騎士団全メンバー

69 ミラージュ騎士団右翼 オレンジライト

70 F・U・ログナー バビロン王 ライト4
70 バビロン・ファルク王 ファルク・ユーゲントリッヒ・ログナー／ログナー 子供
71 ファティマ・イエッタ(デカダン・スタイル)／イエッタ プラスチック・スタイル

72 アイシャ・(コーダンテ)ルーマー女王 ライト2
72 アイシャ ミラージュ正装／アイシャ 個人MHスーツ
73 ファティマ・アレクトー(プラスチック・スタイル)／アレクトー デカダン・スタイル

74 スペクター ライト8
74 スペクター
75 スペクター 道化服／スペクター 宮殿服／元ファティマ・ポーター 宮殿服／ポーター 道化服

76 ランドアンド・スパコーン ライト3
76 ランドアンド・スパコーン 普段着／ランド ミラージュ服
77 ファティマ・ティスホーン デカダン・スタイル／ティスホーン プラスチック・スタイル

78 リィ・エックス・アトワイト ライト7
78 リィ・エックス・アトワイト／ファティマ・イカロス (デカダン・スタイル)

79 ディッパ・ドロップス博士 ライト9
79 ディッパ・ドロップス／ファティマ・アキレス (デカダン・スタイル) ／アキレス プラスチック・スタイル

80 ハインド・キル ライト10
80 ハインド・キル：クロークル・ハーマン／ファティマ・タレイア (デカダン・スタイル)

81 レオパルト・クリサリス ライト11
81 レオパルト・クリサリス／ファティマ・ティータ (デカダン・スタイル)

82 ウラッツェン・ジィ ライト12
82 ウラッツェン・ジィ／ファティマ・ビレット(デカダン・スタイル)

83 ポエシェ・ノーミン ライト13
83 ポエシェ・ノーミン／ファティマ・シェラスタ(デカダン・スタイル)

84 シャーリィ・ランダース ライト14
84 シャーリィ・ランダース／ファティマ・エフロシューネ(デカダン・スタイル)

85 ビョトン・コーララ ライト15
85 ビョトン・コーララ／ファティマ・スパルタ(デカダン・スタイル)

86 ステートパルロ・カイダ ライト16
86 ステートパルロ・カイダ／ファティマ・カレ(デカダン・スタイル)

87 ヌー・ソード・グラファイト ライト17
87 ヌー・ソード・グラファイト／ファティマ・パシテア (デカダン・スタイル)

88 イマラ・ロウト・ジャジャス ライト18
88 イマラ・ロウト・ジャジャス／ファティマ・ソルティア (デカダン・スタイル)

89 ミシャル・ハ・ルン ライト19
89 ミシャル・ハ・ルン／ファティマ・クラッパ(デカダン・スタイル)

90 ヨーン・バインツェル ライト20
90 ヨーン・バインツェル
91 ヨーン・バインツェル(初期稿)／ファティマ・パルスエット (プラスチック・スタイル)

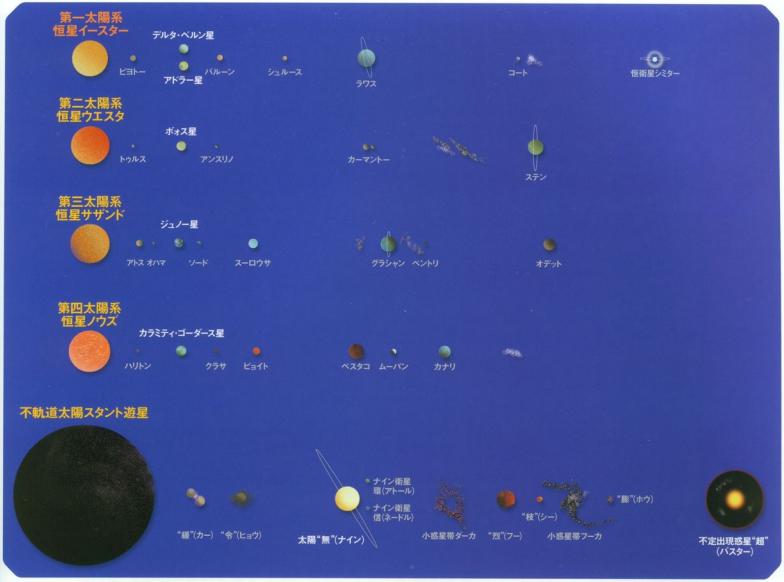
92 アーレン・ブラフォード ライト21
92 アーレン・ブラフォード
93 ファティマ・京(ミラージュ・スーツ)／京 デカダン・スタイル

94 剣聖マキシ ライト22
94 剣聖マキシ／ファティマ・ジ・アトラス (the S.S.L.)(デカダン・スタイル)

95 キュキィ・ザンダ・理津子 ライト23
95 キュキィ・ザンダ・理津子／キュキィ 初期イメージ／ファティマ・アグライア(デカダン・スタイル)

96 おまけ ミラージュ・ナイト? いえ、リアル女子高生騎士団その1です
96 ちゃあ・てい／ファティマ・ヒュートラン(デカダン・スタイル)

ジョーカー太陽星団 星団表



※図に収めるため恒星（太陽）の大きさ、衛星間の距離は実際とは異なる
※スタント遊星は上の４つの太陽系よりも巨大。太陽惑星ナインを回る衛星「環」と「信」の大きさは大体デルタ・ペルンと同じ
※不定出現惑星「超」はジョーカー星団でも実際に確認された記録はない。伝承のみの惑星として知られているが、スタント遊星が不定軌道なのはこの「超」の重力圏によるものと言われる。
スタント遊星は異人中の太陽、「無」を中心に紫外線放射光を放つ巨大な太陽スタントと、「超」が引きあいながらゆっくりとジョーカー星団の周りを螺旋状に回っているという仮説が有力である。
スタント遊星の各惑星、衛星の名は「エンジェント・ディメンジョン・センチュリー」（AD世紀）に付けられたもので、本当は別の名をもつかもしれない

〈データの見方〉

天照の帝 ―― キャラクター名称

AMATERASU no MIKADO
AMATERASU Dis GROUND GREENS
EIGHDUS FOURTH
―― キャラクター名称英語スペル（英語以外で必要な場合は各国の言語表記）

身長 185cm　体重 57kg もしくはゼロ ―― キャラクターデータ

ジョーカー星団に出現した光の神。人の世に神が存在する不条理。それこそがこの物語最大の謎であり、矛盾であるのかもしれない ―― 本文

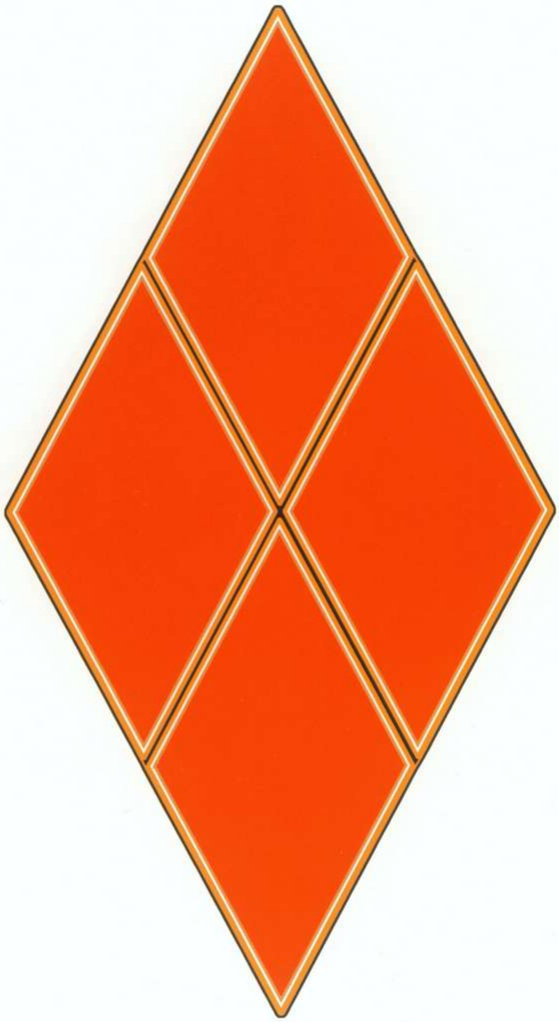
デザイン／デザイン画：2005年4月デジタルセル ―― デザイン画制作データ
デザインされた年、セルに塗られた年を表記

データ詳細
MH：全高は頭頂部まで、角や装飾、装備品は含まず。
重量は本体重量。ベイル、その他の付随装備品は含まず。
ファティマ：S・M・L型で身長体重はほぼ固定。
人物：基本的に女性の体重は一部を除いて非公開。
デザインテータ：
「セルロイドフィルム」は通常言われるアニメセルを指す。原画にカーボン紙と透明塩ビフィルムを重ね、熱でセルに原画を転写し、アニメカラーで後から着色されたもの。
「リスマチックセル」はポジフイルムでセルロイドフィルムよりも細い線が再現可能で劣化も少ない。
色はセルロイド同様の塗り方。
「デジタルセル」はスキャナで取り込んだ原画をアニモというソフトでコンピュータ着色したデータのセル。

DELTA BELUN
A.K.D.

Amaterasu Kingdom Demesnes

デルタ・ベルン星　天照王朝と諸国



天照の帝（アマテラスのミカド・天照帝）

正式名称：天照・ディス・グランド・グリース・エイダス・フォース
（以後、天照＝アマテラスとは彼を指す）

呼称：グリース王国84代目国王
エイダス大陸東方10国・天照王朝・皇帝
デルタ・ベルン代表永世大統領
ダイバーズ・パラ・ギルド総統

物語の主人公。光の神。不老不死、デルタ・ベルン星を統治する。

星団暦2020年に天照のミコトから出現した。処女懐妊ではなく、いきなり天照のミコトの子宮に出現したといわれるが、詳細は不明。生まれて数年間を仮死状態で過ごし、赤子の状態でジョーカー星団のほぼすべての情報を吸収した。その後、成長を始めたが、成人状態で再び成長を止め、以後56億7千万年この姿のままであった。

その後妻ラキシスと融合し、全能神天照大御神となる。

とはいえ、天照大御神から見れば時間などはまったく関係ないために、天照がジョーカーで過ごした時間が大御神から見て、はたして過去のことか未来のことなのかは大御神本人にしかわからない。

まして過去未来という時間そのものが光のスピードに基準を置く相対的な3次元世界での単位のために、天照のいる高次元で時間がどうなっているのかなどということは愚問なのかもしれない。たぶん天照の中において感覚的に時間とはすべて同時進行なのであろう。それはこの物語を読む読者が単行本第1巻から読もうと第10巻から読もうと関係ないように。

はるか超次元からジョーカー星団とジョーカー宇宙がいつの時代であろうと、天照大御神は制御、干渉が可能なはずである。だが、事実として大御神はジョーカー星団での天照やその世界にはまったく干渉していない。ジョーカー太陽星団に直接干渉していたのは娘のカレンであったり、タイカ宇宙のマキシであったりしたからだ。

話をアマテラスの帝（ミカド）に戻せば、彼のもつ超常の力は母、命（ミコト）から言われたとおり、自分以外に対してはほぼ完全に封印している。それはジョーカーの人類に驚異と無駄な信仰心や希望を与えないためである。

なぜなら彼は死んだ人間すら生き返らすことができるからだ。それを母の命は最も心配したことなのだ。

たぶんこういったことを赤子のときにかなりやってしまい、母を驚愕させ心配させたからこそなのだ。

母、ミコトや赤子の頃から天照を見てきたリトラの苦労は並大抵ではない。

しかし、その超常の力を使わなくとも天照はその全知とも言える知識と判断力で天照家を支え、君主として限りなく公正で聡明な執政は圧倒的な支持を内外から受けている。また、それ故にデルタ・ベルン星全星統治という他の星の支配者から見れば想像を超える地位につき、今もなお君臨しているのだ。

その頭脳は執政と王家、国家の運営だけでなく、科学技術力にも顕われ、特殊な才能がなければなることもかなわないMHの設計者、ファティマの設計者としても有名である。（ただしファティマに関しては、バランシェという友人がいたためにまったく行なってはいないが、ファティマ設計者としての能力ももっていることは言うまでもない）

その超常の力を使わずとも、と言ったが、人々のわからないところではその力を相当に駆使している。

それは、レディオス・ソープという人物になる場合、髪の色や肌の色に加え、顔つきと身長も変化させていることであり、もうひとりのレディオス・ソープ（ソープ・ダッシュ）に至っては完全なる女性である。彼は性別をも、また年齢や体型も簡単に自由自在に変えることができるようである。

このソープとソープダッシュはお忍びでさまざまなところに出かけるときのための彼なりの「変装」なのであろう。周りからしてみればそれは変装ではなく「変身」なのだが、慣れた側近たちはこの天照の行動を見て見ぬ振りをしてなんとか平静を保っているらしい。

天照の外見的特徴は、ほとんど色素のない真っ白な髪と肌。そして「白目のない真っ赤な眼球」なのだが、この赤い目に見つめられた人間はいったい彼をどう思うのだろうか？

やはり普通ではない。そう思って当然だろう。それだから天照の変な行動が周りから「そういうものだ」と納得されているのもたぶん彼と母、ミコトの思惑なのだろう。

そしてもうひとつ。彼が堂々と使っている超常の技に「騎士の力」と「ダイバーパワーのエイリアス」がある。騎士の力はジョーカー世界では珍しくはないが、本当は天照の騎士のパワーは超常のもので、騎士のものとはかなり異なる。そのパワーをセーブしているからこそ、周りからはまだばれてはいない。たぶんログナーはわかっているだろうが。

そして、分身を出す「エイリアス」は騎士と同じく超帝國のスーパーテクノロジーであるダイバーパワーのひとつで、分身を出してその分身を幽霊のように使うことであるが、本来のエイリアスパワーは本体が完全に黙想状態にあり、エイリアスには質量はなく幽霊そのものであるが、天照の出すエイリアスは実体どころかそのエイリアス固有の性格まで有する完全なる分身、いやしもべである。

この天照のエイリアスが「メル・リンス」と「東の君（あがりのきみ）」である。

最後に彼本来の性格だが、これほど恐ろしい人物でありながら、人民や近しい人々からまったくもって恐れられていないのは、単純に

「見ていておもろい」
「あんまり深くものを考えていない」
「物忘れが激しい」
「凄い人だと言うことを忘れるほど頼りない」
「ときどきすごく色っぽい」

矛盾するようだがこれが天照であり、よくも悪くも裏表のない人物なのである。

天照の帝
AMATERASU no MIKADO
AMATERASU Dis GROUND GREENS
EIGHDUS FOURTH

身長 185cm　体重 57kg もしくはゼロ

天照家甲種1等正装
皇帝最高正装。初代皇帝を彷彿とさせる正装だ。天照家の衣装は和服、振り袖を思わせるが、よく見れば大振り袖であっても下半身はスカート、もしくはケープで、足元は靴である。正装時、帝のような男子はクローズトゥのサテンシルクの靴であるが、女性はオープントゥのつま先が開いたサテンシルクの靴となる。
甲種正装とは天照家の祭事などに着用されるもので、裁断や素材、帯や縫製や着用において乙種との差はほとんどない。乙種は外交や対外的な行事など、天照家以外の行事においての最高正装で、乙種が甲種よりも格下であるということではない。
おもしろいことに「F.S.S.」では服装はさておき、女性の読者から頻繁に言われるのはキャラクターの髪の結い方で、アマテラスやアイシャ、シアンなどが髪を結って登場するたびに反応があり、作者としては食事するとき邪魔だとか帽子をかぶるために結い直すとか適当にその場で描いているのだが、服のデザインの反応は男女問わずあるが、髪型ではなく結い方というこういう反応はまず男性読者からは出てこない。男性のメカニック描写への反応ともども見ている場所がかなり違うようで描いていておもしろいし気合いも入る。

デザイン／デザイン画：2005年4月デジタルセル

天照の帝 天照家乙種2等正装

ジョーカー星団に出現した光の神、人の世に神が存在する不条理。それこそがこの物語最大の謎であり、矛盾であるのかもしれない。この正装は、天照家歴代皇帝の等と衣。物語中ではこの衣装がほとんどである。甲種正装に比べてかなり身軽であるが、必要な装飾は着けている。乙種のため軽快なサンダル履きであるが、単純に春夏服と言えなくもない。乙種といえど正装なのではとんどの場所はこの衣装でこなす。第9巻でシャーリィと会話しているアマテラスが着ていたのは同じく乙種2等で、簡単に言えば冬服である。足元もサンダルではなく靴であった。正装は上から甲種、乙種、丙種、丁種があり、それぞれ1等、2等、3等と続く。さらに甲種1等礼装（洋装）が同列に並び、さらに略服が続き……と、いずれ全て発表したいものだ。問題はアマテラスの洋装がズボンなのかスカートなのかであるが、歴代皇帝の衣装を大切に着ていることを考えるとスカートである可能性が大きい。……誰も問題にはしないだろうが。

天照の持つ正式の場での正装は甲種が1～3等で計3、以下乙種が春、冬各3種の計6。丙種が3、丁種が3、さらに礼装甲種が3、礼装乙種が3、礼装丙種が3、礼装丁種が3、合計27種類もの正装を持ち、これに舞踏服や会食着等が加わって本人も仲従もいったい何着の正装があるのかわからない。

デザイン：1985年12月／デザイン画：1986年セルロイドフィルム／1990年代リスマチックに塗り直し／2005年デジタル補正

天照の帝　天照家乙種１等正装

物語ではアマテラスではなく影となったアイシャが着ていた。アマテラスとアイシャはこうやって服の貸し借りを平気でやっているようである。同じ影のハインドなどは体型の違いから別にあつらえているようだが。実際にはアイシャのほうが背が高いために裾の長さは帯のところでたくし上げし、調整している。花魁のごとき派手なドレスである。このときにはほかにもノースリーブのチャイナ風ドレスをアイシャが着ていたが、場所や時間によって着替えが必要な堅苦しい場所でのお色直しの時間は大変だと思われる。
天照が着るときは正装の絹の靴であるが、アイシャのときはハイヒールのようだ。

デザイン：1986年夏ごろ／デザイン画：2005年4月デジタルセル

ラキシス
The Three Fates "Destiny LACHESIS"
身長 162cm 体重 37kg（成長中）

天照家甲種１等正装・婚礼服
ラキシスの最高正装は婚礼服となる。
最高正装はアマテラスもそうだが完全に様式が決まっており、あまり自由度はないようである。

デザイン／デザイン画：2005年4月デジタルセル

ラキシス・天照

正式名：祇妃・ラキシス・ファナティック・バランス・天照・グリエス

天照の帝の妻。
天照の友人、クローム・バランシェが造った人工生命体・ファティマである。
運命の3人の女神のひとりで超常的パワーをもつ。
彼女がジョーカー星団に生まれた事で光の神、天照にさまざまな影響を与えることとなるが、そのことを天照もラキシスもまだ気が付いてはいない。

MHをフルサポートするために生まれた生体演算制御生命体のファティマが、天照家の后として星団暦2988年に入城したときの人々の驚きはいったいどうだったのであろうか？

一般国民や他星の人々には彼女がファティマであることは伏せられていたし、実際まだラキシスが天照の后になったことは正式には公表されていない。
しかし城の人々や噂を聞いた人々はいったいどう感じたことであろうか？

インタビュー：ラキシス姫がファティマってホント？
側近その1「天照陛下は年取らないし、丁度よいのではと思いますが」
元老院議員「あの方の考えることはいつも我々の想像を超えておりますしねえ……」
天照家貴族「ノーコメント。あまりそういうことをおおっぴらに聞くのはどうかと思いますぞ」
侍女その4「細くて可愛らしくてうらやましい……」
ミラージュ騎士その12「殺されたくないので勘弁してください」
上院議員秘書「はあ……それどこの情報でしょうか？　かわいらしい娘さんは見かけますが……」
そこらをうろついていた子供「この前キャンデーくれたのでいい人だよ」
ミラージュ騎士その2「ぶっ殺したる!!ええ！あんなガキに陛下を…陛下を……!!」
インタビュアーがこの時点で負傷したために以後、不問。

ファティマとして生まれた彼女であるが本当はファティマではない。バランシェが全身全霊を上げて作り上げた「人間」である。運命の3人の女神アトロポス、クローソーとともに誕生したラキシスだが、彼女だけは幼少期にバランシェによって作り替えられている。
それはラキシスが望んだ「生涯天照とともにいたい」という願いをバランシェがかなえたのだ。
それは神の領域に達する人間バランシェの神々への挑戦でもあったのかもしれない。
ラキシスは人間としての「すべての能力」をもち、またクローソーとほぼ互角の演算生命体としての能力をも併せもつ。ファティマのデメリットはまったくもっていない。そして無限の寿命と超帝國の剣聖さえも上回るであろう騎士としての能力。それらをすべてもってこの世に誕生した。その騎士としてのパワーはログナー以外すべてのミラージュ騎士よりも強い。もちろんアマテラスよりもだ。ひとりで充分にA.K.D.を守るだけの力がある。

彼女は人類が最も恐れるべき「ポストヒューマン」なのである。その彼女が天照のもとに嫁いだために彼女のその正体は完全に世界から隠された。それが人々にとっては最もよいことであったのであろう。

そんな恐ろしい生命体だが周りの人間はどう見ているかというと
「見てるだけでおもしろい」
「あんまり深く物事を考えていない」
「ときどきすごく色っぽい」
「物忘れが激しい」
「アゴがすごく頑丈」
「よく甘いものを隠れて食べて怒られている」
「驚異度ゼロ」

ただの似たもの夫婦であった……。

ラキシス　デカダン・スタイル

第1話に登場したときの最初のスーツ。3女神の中心である彼女は最終的には蛍光ピンクのオペラ・スーツを着るが、登場時にはお姫様的な役割だったために白に金という清楚ときらびやかさの混じったこのスーツとなった。デザイン的には非常にもたついたものとなっているが、一般的には非常にわかりやすいデザイン的記号をもっているために人気があるようだ。ただ、お姫様として登場した割には宮殿の柱をかじったりとやりたい放題なのは仕様である。
ファティマといえばタイツなどの上から白いソックスを重ね履きしているが、デザイン的になぜこうなったかと言えば、ファティマの初期イメージがヨーロッパの女学生というもので始まり、それが彼女らの根本的なイメージとなっているために足元はソックスというパターンが生まれたのだと思う。これは足元のシルエットをまとめるためのもので、シルエットで見てもらえばわかるが、ソックスなしのパンプスやハイヒールでつま先まですとんと落ちるラインをソックスを組み込んで足首でいったん区切りを付け変化を出したものだ。女学生のスカートに三つ折りソックスというラインはたぶん足元のシルエットをいったん靴と同化させてまとめるために始まったのではないかと思う。まったく同じ理由で革の手袋を手首で折り返して手首から先のシルエットをまとめるということとも同じだ。これはブーツにレギンスやショートスパッツでも代用できるが、少女のイメージがあるS型ファティマには重く、あまりに戦闘的になってしまうことを意図的にオミットしたのだと思う。硬いMHに強い騎士、ファティマは柔らかく弱々しいというイメージ的なバランスもある。
この相反するイメージは戦闘的でプラスチッキーなファティマ・スーツに柔らかい布のブラウス、フラットなタイツにソックス、そして足元の光沢のある硬い靴という素材的なバランスにもある。こういった素材の採配はメカニックも同様で、硬い鋳造の装甲パーツに薄く硬い装甲チップの胴体、弾力のある動力チューブという単体が同一素材で作られていないというイメージをいかに出すか？　デザインにおける強弱の出し方なのだと思う。

デザイン：1986年6月／デザイン画：1987年2月3日セルロイドフィルム／2004年デジタル色補正と修正

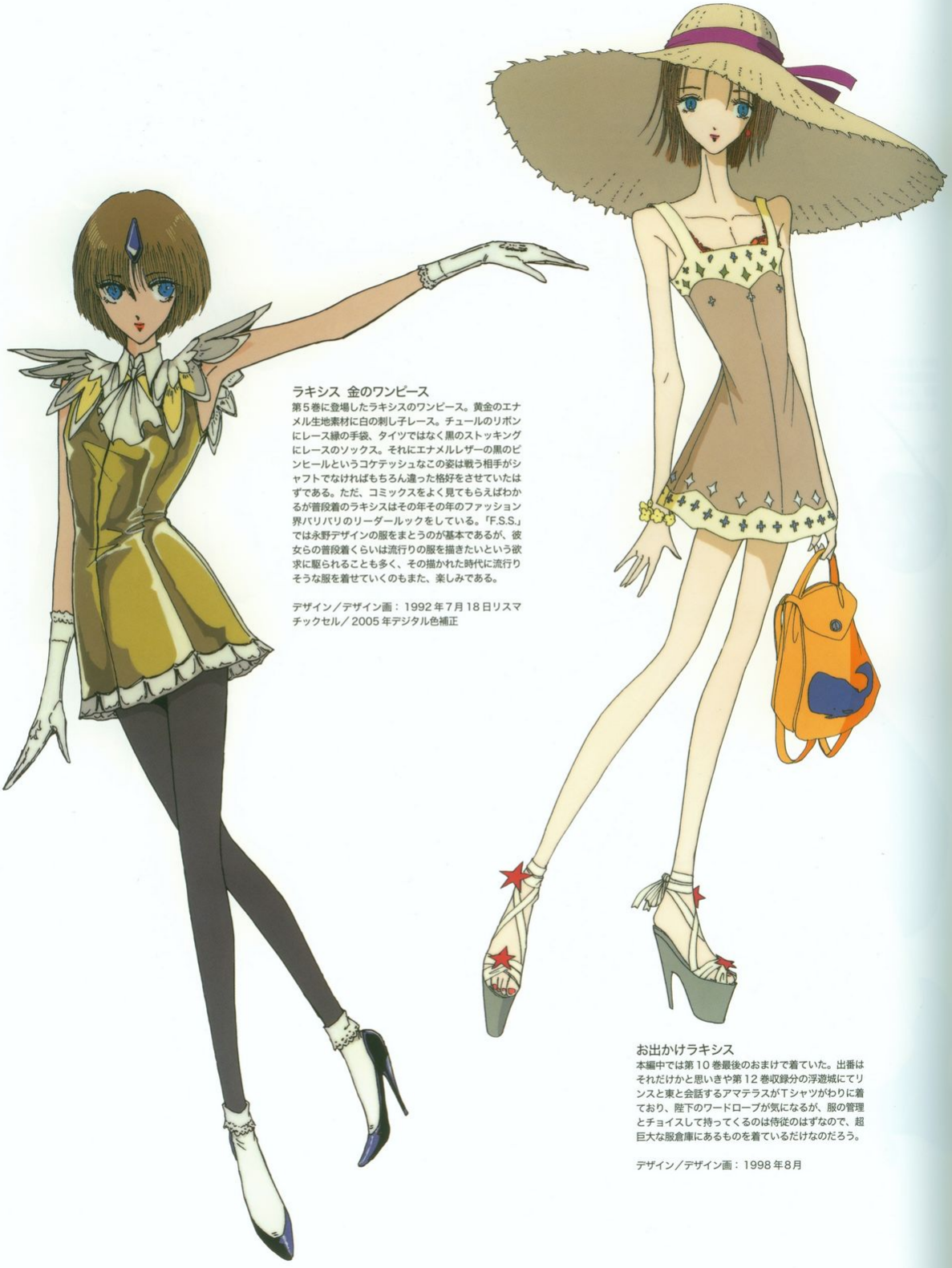
ラキシス 天照家甲種1等礼装（洋装）

ランク的には先の婚礼服と同格である。第2巻にて浮遊城に初入城したラキシスが着ていたもので、すでにファティマがこういった服を着ること自体星団法違反の御法度であるが、外部にはもちろん公開されていない。
最高級の赤のシルクを使用したドレスで、軽い化学繊維を使用していないため非常に重い。しかし天然のシルクの出す光沢にその重さから来る自然なドレープや動いたときの美しいラインはこの重さゆえ可能なものでもある。
金の飾りはほとんどが金糸の織り込みでこれも重量増加に一役買っている。襟はベルベットでシルクとの光沢の差がメリハリをつけている。
豪華なドレスであるが、気合いで解説。金糸での装飾は帽子の縁に天照家を表わすギザギザが織り込まれ、冠を表わす環状の帽帯には家紋とその装飾がつく。襟に付いている模様は天照家后を表わす文様で橙色の地に3つの柏の葉があしらわれている。
襟の縁は柔らかいベルベットの襟を崩さないための補強を兼ねたワイヤー入りの縁どり、胸元には2992年にすえぞうからもらうドラゴンドロップの片割れがあしらわれ、脇にはポケットのフラップがつくが、中には結婚指輪しか入らない。
カフスと襟は取り外しがきくので（洗濯のため）スナップも大きく目立つように作られている。長いスカートには細かいプリーツが入っているが、たぶんこれは数ミリのプリーツでほとんど広がらないはずである。スカートは基本的に引きずるので歩きにくくならないように前部は短い。
靴はよーく見ればわかるがエナメルではなくサテンシルクの布張りである。耐久性はなさそうだが、正装なので問題はない。

デザイン：1987年冬／イラスト：1998年9月15日デジタルイラスト

ラキシス
先行プロトタイプ プラスチック・スタイル

イラスト：1996年11月デジタルイラスト



ラキシス 金のワンピース

第5巻に登場したラキシスのワンピース。黄金のエナメル生地素材に白の刺し子レース。チュールのリボンにレース縁の手袋、タイツではなく黒のストッキングにレースのソックス。それにエナメルレザーの黒のピンヒールというコケテッシュなこの姿は戦う相手がシャフトでなければもちろん違った格好をさせていたはずである。ただ、コミックスをよく見てもらえばわかるが普段着のラキシスはその年その年のファッション界バリバリのリーダールックをしている。「F.S.S.」では永野デザインの服をまとうのが基本であるが、彼女らの普段着くらいは流行りの服を描きたいという欲求に駆られることも多く、その描かれた時代に流行りそうな服を着せていくのもまた、楽しみである。

デザイン／デザイン画：1992年7月18日リスマチックセル／2005年デジタル色補正

お出かけラキシス

本編中では第10巻最後のおまけで着ていた。出番はそれだけかと思いきや第12巻収録分の浮遊城にてリンスと東と会話するアマテラスがTシャツがわりに着ており、陛下のワードローブが気になるが、服の管理とチョイスして持ってくるのは侍従のはずなので、超巨大な服倉庫にあるものを着ているだけなのだろう。

デザイン／デザイン画：1998年8月

レディオス・ソープ
LADIOS SOPP

身長 173cm　体重 52kg

第1巻より登場。天照の変身した姿その1。天照本人より明らかに濃い肌。低い身長はまず彼が天照の帝とはわからないであろう。ソープとは天照の幼名で、いまだ宮中宮殿では天照をソープと呼ぶ人間も多い。城でも天照はよくこういう格好をしているが、髪をこのようにまとめているだけで、髪の色や肌の色、目の色は天照のままである。この服のイメージは飛鳥時代以前の日本の服とアラビアのパルーンパンツが基である。

デザイン／デザイン画：1986年セルロイドフィルム／1999年ころリスマチックセルに塗り直し／2004年デジタル色補正

レディオス・ソープ・ダッシュ
LADIOS SOPP' LADY SOPP

身長 167cm　体重 44kg

女性版ソープ。別名レディ・ソープ。単行本第5巻、第8巻登場。性格は非常に激しい。少年ソープとは明らかな性格の違いが見られる。情緒性に富み、しっかりしているが物忘れの激しさは天照の変身バリエーションの中で最強。これが描かれた90年初頭はクラブファッションが一段落し、ストリートもさらに砕けたヒップホップへと移行しているころであった。その中でミッドセンチュリーの流れがニューヨークあたりで見え始めたので、いち早く60年代ファッションをこのソープダッシュやハイアラキが着込んで登場した。ただ、60年代ファッションの多くはそのほとんどが数百万円のオートクチュール、安価なものでもいまの価格にして1着40万円ほどのプレタポルテであったために一般的にまずお目にはかかれなかったはずで、買うにも着るにも気合いの必要な服であった。ただ、その縫製や裁断は40年近く経ったいまでも普通に着ることができるし、マリー・クワントらの服はいまでは女子高生にも買える価格に落ち着いた。いい時代だなあ。

デザイン／デザイン画：1992年6月9日リスマチックセル／2005年デジタル色補正

天照の変装ソープ

レディオス・ソープとは天照の変装、いや変身というべき姿である。この名は天照の幼名で、天照王家ではほとんどの王子や王女は幼名をもっている。

神である天照は人のような好奇心や探求心、さらには喜怒哀楽、嫉妬、ねたみ、さらには愛情というものをまったくもっていない。

執政や行政レベルではこういった一切の感情を廃した天照の決断や采配は歓迎されるべきものだが、神ではあっても人と過ごすことに変わりはない。母ミコトは彼が神であることに気付くことはなかったが、こういった無機的な人物が王家の頂点に立つことを危惧し、幼少のころより天照に人間とはどういった行動をどういうときに取るものなのか？どういった反応をするのか？ということをひとつひとつ感情のない天照に教えていった。それは理論的な人としての行動で、まさに機械に人としてのあるべき姿を教えていったに等しい。

ミコトは最高峰の感情をもつ機械を育てたとも言える。

もちろんその手助けとして、幼い天照に興味を抱いていたウラニウム・バランス公爵の力があった。のちにこの経験が演算機としてのファティマをいかに育てていくのか？ということに役立っている。

天照はこの母の教えを理論的に理解し、人の、いや動物のもつ感情や本能を覚えていった。

現在も、天照のすべての行動や発言はこれら教えられた「人間の凡例」から抜き出しているに過ぎない。その天照の反応が非常に自然に見えるのは、凡例をすべて覚えていること、そしてその凡例の抽出が的確でとてつもなく速いことである。バランシェはわかっているが、この凡例パターンの抽出はファティマの演算よりも速い。なによりそのスピードはさておき、選び出される反応が芸術的な「ボケ、お笑い」レベルに達していることをいちばんよくわかっているのもバランシェである。単行本第12巻ではワスチャに貸すMHのサンプリング・シミュレーションを隣にいた最強ファティマのヒュートランよりも速いスピードで計算していたくらいだ。

天照はこの教育のおかげで犬やネコとの会話も可能だ。

嘘みたいな話だが本当に天照は神の力ではなく自身の経験から動物と会話が出来る。

成人してからの天照がソープとなって城の外に出ていくのはすなわちこれら教育の成果と外の世界での凡例の蓄積である。

天照のときとソープのときの人々の反応の違いはその後の天照の行動に一役も二役も買っていることだろう。なおかつ彼は美青年のソープと美少女のソープ・ダッシュの性による人の対応の差など、実際の人間の何倍もの経験を積み重ねている。

それを天照は何度も経験し、帝のときの性格とソープの性格、ソープ・ダッシュの性格を自分の中で使い分けていく内に、それらがおのおの個別の個体として性格が分離していることにも気が付いている。たぶんそれを冷静に見ているのだろう。

往々にして人は興味の対象でなければ勉強であれ、恋愛であれ自分の才能や能力を磨こうとはしないが、なにゆえ彼はそういった興味もないのにMHを造ったり、ソープとなってさまざまな人と関わり合うのであろうか？

これも謎である。

少なくとも彼には「何となくおもしろそうだから」という思考も感情もないのだから。

幼少時のソープ
天照家は男子、女子を問わず幼少時は女性の格好をしている。天照家が完全なる女帝の家系であることもあろうし、男子が幼少時は女子より肉体的に虚弱だから女子の格好をするという風習もある。

デザイン／デザイン画：1991年12月5日リスマチックセル

レディオス・ソープ
ソープの場合ほとんどが中性的でどこか頼りない雰囲気だが、MHマイスターとしてのソープの名は星団に広く知れわたっており、彼の外見がどうであれ、尊敬をもって見られているのも確かだ。第1話の上着と黒の伸縮素材のパンツ。

イラスト：1996年12月リスマチックセルにデジタルエフェクト

メル・リンス
Mell, RINCE -DSFG-Arch Master

身長 168cm　体重なし
（ただし周囲の人間に質量の感覚を与えることは可能）

第9巻で初登場。ダイバーズ・バラ・ギルドの主宰でアマテラスの分身。美しい少女の姿をし、その力とともにミコトからバラ・ギルドを引き継いだ。
正式な衣装はいくつかあるようだが、これはバラ・ギルド内での正装のようである。彼女はほかにもダイバー然としたケープ姿やファティマ・スーツのようなものを着ていたりと女性だけあって多様である。
腰と袖に付いている六方四菱は天照家ダイバーズ・バラ・ギルドの紋章である。いまごろになってこのマークがやっと登場。

デザイン画：2005年3月14日デジタルセル

天照の分身・エイリアス

エイリアスとははるか昔の超帝國のテクノロジー、ダイバーフォースのひとつ、「ルシェミバワー」を使い自分の幻影を生み出し、民衆を制御するために使うものである。

星団暦の現在ではこのルシェミバワーは失われているが、存在だけは知られており、星団暦3000年ごろに登場したボスヤスフォートによって一般的にも再びこの力が知られることになった。

しかし、天照のエイリアスはこのルシェミバワーとはまったく異なる。母から禁じられている超常の力によって生み出された本物の分身である。

これは天照が執政をやりやすくするために効率的に使っているもので、その使い方が一般にはまったくわからないためにそれがアマテラスのエイリアスと知らない内部の者も多い。

天照のエイリアス、リンスと東（あがり）は個体としての性格と実体をももち、強力なダイバーパワーの持ち主でなければそれと気が付かないであろう。気が付いたにしても何か変だ？くらいにしかわからないのだが。

リンスは若い女性の姿で、どことなくフアティマ・クローソーに似ている。

天照の第1の分身としてほとんどを天照家率いるダイバーズ・パラ・ギルドの運営に関わっている。現在の役目はパラ・ギルド盟主として星団中のダイバーの行動を監視している。このように分身でありながらも、対外的には「リンス」という人間として認められているところが恐ろしい。

東の君は第2の分身で、若い男性の姿で見た目通りの冷静で冷たい人物である。行動のほとんどはリンスと協力して星団中を飛び回っているようだが、神出鬼没なために天照も彼がどこで何をやっているのか完全につかめていない。分身でありながら天照の思い通りに動いていないところが不可解でもある。それほど個体として独立しているということなのだろう。

実際、天照本人と、リンスと東が3人で会話をしているところは滑稽を通り越して普通に見えてしまう。

リンスと東の正体

リンスと東は天照の作った霊体の分身であるが、感情をもたない天照が思うに任せて生み出したものではない。また、彼自身に動機があって2人を生み出したわけでもない。

この2人が天照と王朝に必要だったからである。

リンスの基となったのは天照のミコトである。

ミコトのダイバーパワーは他に類を見ないほどの非常に強力なものであったが、天照が少年のころ、天照家内宮に突如乱入してきたボスヤスフォートにソーブの力なくしては勝てなかった。実際にミコトの力はダイバーパワーに限って言えば充分ボスヤスフォートと同等以上に戦えるだけの力をもっていたはずであった。しかし、ミコトは天照の育成と、それに関わる数々の超常の出来事に激しく生命力を消耗し、ダイバーパワーも全盛期と比較すると非常に弱くなっており、それを危惧した天照が最初に作った幻影が、つまりエイリアスのこのリンスであった。彼女は全盛期のミコトのパワーをそのままコピーしており、3010年のボスヤスフォートにとどめを打ち込んでいる。

それだけの力をミコトからコピーした上に、さらに彼女は歴代剣聖の剣技の数々をもコピーし、恐るべきバイア（騎士とダイバー両方の力をもつもの）として知られる。ただ、人に対して非常にやさしいと言う側面をもつため、それがパラ・ギルドの弱体を招いたと内外から批判されているが、天照は自分から分離独立したこのリンスの性格と行動を見守っているだけである。

リンスがミコトのコピーであるなら、推測される通り、東は天照の先妻、リトラの力を天照がコピーして生み出したものである。リトラと同じ強力なパラ・サイマル能力をもち、その力はハスハの巫女と同レベルである。だが、その性格はもちろんリトラとはまったく違う。

東の君
AGARI no KIMI

身長 178cm　体重なし

第10巻より登場。天照家らしい服装だが、ジョーカーではさまざまな様式が混然とあらゆる国に広がっているために、多少変な服を着込んでいても誰も変な目では見ないようだ。それでもこの東の雰囲気は人の目を引くだろう。同じエイリアスとしてリンスとの決定的な違いは彼はパラサイマルをメインとするエイリアスで戦闘は得意ではない。背中がふくれているのは帯があるから。

デザイン／デザイン画：2000年6月23日リスマチックセル

メル・リンス 初期イメージ

まだこの手の軽装では登場していないが、どことなくソーブの服とも似ている。

デザイン／デザイン画：1990年7月10日リスマチックセル／1990年11月24日肩の模様とサンダルのデザイン変更

収光帝 フォーカスライト 天照家初代女帝

1st Empress of AMATERASU Imperial
SYUUKOUTEI/FOCUSLIGHT: the Beginning of AMATERASU

身長 170cm

第9巻登場。天照家の祖帝。その弓形で目尻がつり上がる特徴的な目は天照家すべての者に受け継がれている。ただ、この目の形を受け継いでいないのは天照の帝その人だったりもするが、これはいたしかたないところだろう。その後のカレンも受け継いでいない。後年天照家やミラージュ騎士団の正装が朱と白をメインとするようになったが、近年のアマテラスはこの初代皇帝にならったカラーリングに切り替えつつあるようだ。日本の飛鳥時代をイメージさせる、中華テイストの強い正装である。この衣装で特筆すべきは腕元の首飾りで、これがなあんとおおお……ということでいまはすえぞうの首にかかっている。

デザイン画：2005年3月14日デジタルセル

天照家の歴史

天照家は星団暦の少し前、エンシェント・ディメンジョン・センチュリー（AD世紀）末期にデルタ・ベルンに登場したダイバーの家系であると言われている。AD世紀に栄華と繁栄を誇ったファロスディー・カナーン超帝國のスーパーテクノロジーは炎の女皇帝によって封印された。時を経てそれらのテクノロジーは薄く広く星団中に行き渡ったが、超帝國のテクノロジーにはほど遠いものでもあった。

ダイバーパワーと呼ばれる一般的に言うところの精神霊能力は物質世界では説明しがたいものがある。人の感性や思考がどこまで物理的に影響を与えるのか？など、現在の我々には想像もできない。

魔法のようなと言ってしまえばそれまでだが、そのレベルにまで科学技術が達していたと考えてもらえばよいのではないだろうか？

天照家は星団でもまれな強力なダイバーパワーをもつ家系として知られてきたが、天照家を興した初代女帝フォーカスライトは「収光帝」と呼ばれ、天照・メル・グリース・アインスを名乗った。

彼女はAD世紀8383年、グリースへと帰還中に炎の女皇帝と遭遇し、超帝國の騎士、スパースとドウター・チップを受け取った。実はこれだけではなく、そのときの炎の言葉には次なる時代を引き継げ、とも言われている。

それを受けたわけではないが、その後天照家はそのダイバーパワーをもって星団の情報網を把握。ダイバー・ギルドを創設し、デルタ・ベルン星のほとんどをその情報管理下に置いている。

その後、徐々に力を拡大した天照家は代を重ね、エイダス大陸の諸国を天照家の衛星国家とし、王朝制をとる。そして天照の帝の代には重工業国家としても屈指の巨大王朝を築き上げている。

天照王朝は巨大な集合国家であるが、グリース王国とその東方10国を指している。王朝国家はほぼ天照家の近縁者か王朝貴族諸侯の管轄地であり、帝の管理のもと、名目的には独立採算制を採っている。

この王朝を動かしているのはグリース議会やAKD議会とは離れて運営される王朝元老院で、この下に各国の議会が続いている。

本来ならかなり問題視されるのはすでに1000年以上にわたる天照の帝ただひとりの帝位がまったく不動なこと。不老不死の天照にとって天照家にはもう1000年以上も跡取りが生まれていないことでもある。

近縁者もそのために天照家の血がかなり薄くなっており、それは元老議会の悩みの種でもある。完全直系は天照の帝ただひとりしかいないのだから。

天照家家系図

天照・メル・グランド・グリース・ツバイ～ノイン（2～19代）
天照・メル・グランド・グリース・ツバイス～（20～29代）
天照・メル・グランド・グリース・ドライス～（30～39代）
天照・メル・グランド・グリース・フォーシス～（40～49代）
天照・メル・グランド・グリース・フィフス～（50～59代）
天照・メル・グランド・グリース・ゼクシス～（60～69代）
天照・メル・グランド・グリース・ジーベンス～（70～79代）

天照太祖帝・収光帝
天照・メル・グリース・アイン

クリサリス公家

ヘンシェル・アトワイト公家

天照・メル・グランド・グリース・エイダス・アイン
（81代目）

メルカ公家

スクリーク公家

メル・サッチャー・スクリーク

ライム・アゾート公爵

ミューリー・キンキー王女
（ミラージュ騎士団・レフト8）

メル・リィ・エックス・ヘンシェル・アトワイト
（ミラージュ騎士団・ライト7）

天照・メル・グランド・グリース・エイダス・ツバイ
（82代目）

メル・バナール・リィ・エックス・ヘンシェル・アトワイト
（ミラージュ騎士団・レフト15）

分家ライム公家（養子）

AT・ライム伯爵（アトロポス）

ユーパンドラ・ライム伯爵

メル・アラート・リィ・エックス・ヘンシェル・アトワイト
（ミラージュ騎士団・33）

（妹・2女）

（兄・長男）

メル・サイサ・コーダンテ・天照親王

ディス・グリース・ムムカーラ・シナーテ・天照親王

ハリエリ・ビュビュス・コーダンテ侯爵

天照の命
天照・メル・グランド・グリース・エイダス・ドライ（83代目）

ワルブルギス・メナー・ムムカーラ公爵

シトロン・フリーズ・メナー王女
（ミラージュ騎士団・レフト16）

ディス・ビュビュス・コーダンテ公爵

ディス・アドミス・シナーテ・天照

メル・愛謝（アイシャ）・ルーマー女王
（幼名ニャン・ティ）
（ミラージュ騎士団・ライト2）

メル・ダージリン・天照親王
メル・環謝（ワスチャ）・紅壇鼎公爵（幼名チャア・ティ）

ディス・蝦鼎・斑鳩王子
（幼名サリオン・イイ）
（ミラージュ騎士団・レフト4）

ルート・コーダンテ・天照親王
（ミラージュ騎士団・30）

天照の帝
天照・ディス・グランド・グリース・エイダス・フォース
（84代目）

メル・クール・リトラ・天照・グリエス
（初妻・死去）

ラキシス
祇妃・ラキシス・ファナティック・バランス・天照・グリエス

天照嘩憐泰華・カレン
天照・メル・グランド・フォーチュン・エイダス・フィフス（85代目）

＊王位称号のメルは女性。ディスは男性を表わす。天照家は完全女系王位なので
第1子が男子でも女子が生まれればその女子が帝位を継ぐ。
直系で女子がいない場合のみ男子が帝位を継ぐ。
帝位継承権は女性優位のため82代目エイダス・ツバイの兄家系シナーテよりも
妹のコーダンテ家のほうが帝位継承権は上位となる。
帝位名の「グランド」はグリース王家が天照王朝になり皇帝家となった時点で名前に入れられた。
ただし、グランドが入っていない場合もある。

天照の命(ミコト)
AMATERASU no MIKOTO
83rd Empress of AMATERASU Imperial

身長 166cm

第5巻より登場。83代目、天照家女帝。天照の母親。
物語中では間違いなく最も偉大な母親なのであろう。天照の帝が彼女の体内に超常発生したことは彼女以外誰も知らないことである。国民すべて、重臣たちすらこの事実は知らず、帝はいったい彼女の間にできたのだろうかという憶測がいまも飛び交っている。強力なダイバーの家系で人工的な処女生殖もあり得るという説も有力であるが、事実は処女生殖ですらない。天照はミコトの体内に出現する時点で天照家の遺伝子情報をすべて取り込み、ほぼミコトのコピー体として生まれている。天照がまごうことなき天照家の跡取りであることは個体情報（塩基配列）が天照家そのものであるからでもある。
我が子天照の赤子のころよりの超常の力や怪現象によりミコトは激しく寿命を縮めた。それはミコトの跡を継ぐように天照の初覚となったリトラにとっても同様であり、その後天照をサポートするためにスペクターが降臨し、そばに付くが、現在もなお我が子を心配し霊体となって帝を見守っている。
よく見るこの衣装は天照家乙種2等正装で、天照のいつもの服と対応する。

デザイン／デザイン画：1992年7月18日リスマ
チックセル

天照王朝国家一覧

●コーダンテ家（太公家・コーダンテ王家）
アイシャを筆頭とする武家の王家で、天照家の第3王家である。
天照は王朝国家の代表を簡単に変えてしまうことがある。コーダンテ家とまったく繋がりのないルーマー王国の国王にアイシャを任命したのは、長女のアイシャに跡継ぎを作る気がないこと、対外的にはルーマー王国の国力低下を抑えるためである。そのアイシャが3007年にルーマーの「女王」となったために、現在はアイシャの妹にあたるワスチャ王女がコーダンテ家を取りしきっている。自動的にアイシャはグリース王国議会首相を降りた。このワスチャの家系からルート・コーダンテが生まれるが先の話。

●シナーテ家（消滅）
天照第2王家であったが、当主の王子サリオンが王位奪還のクーデター失敗により取りつぶし。以後この家の名はない。

●エミーテ家（太公家・エミーテ公家）
3010年、シナーテ家の王子サリオンが天照から王位継承の復活を得て、正式に斑鳩王子を名乗ったときに新設された現在最も新しい王家。が、この家系は公表はされていない。あくまで天照家内部での動きである。

●クリサリス家（公家・クリサリス王家）
グリース国内にある公家で、クリサリス大公が取りしきる。

●アトワイト家（公家・アトワイト王家）
アトワイトを仕切るエックス公家は、AD世紀のメース・マイト、アナミー・ヘンシェル・クルップの末裔でもある。星団暦1700年代のアマテラス・メル・グランド・グリース・エイダス・アイン（81代）からである。
現在の大公はバナール・アトワイト。彼女はエックス公家の家長でもあり、アトワイト家の代表でもある。正式な名は、メル・バナール・リィ・エックス・ヘンシェル・アトワイトであるが、母の冠名「リィ」の名も継いでいる。リィが結婚せずにバナールを生み、正式な父親がいない状態で、3010年にリィが死亡したため、名前ごと引き継いだ。女系王朝天照家ならではの単独家督継承である。

●スクリーク家（公家）
スクリーク家はアトワイト家から分家した家で、メル・サッチャー・スクリークが治めている。住居はグリースの首都グリステリアで、こととフロートテンプルを行き来している。スクリーク家のサッチャーはダイバーで、天照家とダイバーズ・パラ・ギルドの公での代表である。

●ダグエラン領（侯爵家・候領）
バビロン王国内にあり、ダグエラン・ルスが現在は管理する侯爵領である。この家は天照家の家老のような役割を果たすが、本来はバビロン王国の家である。ダグエラン領内には多くの分家筋があり、ハインド・キルもこの家系の出身であるといわれる。

●フェイツ公国（大公家・フェイツ王家）
東方10カ国からは離れた位置にあり、3020年に王朝入りした国家である。また、バランシェの国でもあったフェイツ公国はファティマの生まれた国家としても有名だ。
正統なる跡継ぎのバランシェが子孫を残さず逝ってしまったために、バランシェの名を継ぐミースの子、マキシが公国の跡継ぎとして帰ってきた。

●バビロン王国（大公家・バビロン王家）
数ある天照家やその衛星国家の中でも異彩を放つのがこのバビロン王国である。
天照家の血を引いていないにもかかわらず東方10カ国の中でも、アマテラス王朝の中でも絶対的な権力をもち、事実上の軍事司令塔となっているのがこのバビロン王国なのである。
詳しくは物語が進めば出てくるだろう。

●ライム家（公家・ライム家）
ライム公亡きあと閉鎖されていたが、いつの間にか美しい女性が当主となっていた。現在の当主はAT・ライムとされているが、この人物は当家にいないようだ。
このように一般には一切公開されずいつの間にかなくなっていたり、新興していたりすることが多いのが天照家である。
便宜上わかりやすくするために太公家と公家を分けてある。太公家は国王を兼ねる。英語でプリンス。公家は公爵領領主。同じく英語でプリンス。英語でのデュークはまったくおなじ公爵だが直系王家とは血の繋がりがない、または薄いということで区別してある。天照家にはデュークの公爵はほとんどいない。
漢字違いの侯爵は大名のことで血の繋がりのない家系で拝領されている人物のこと。「F.S.S」では騎士家の名家がこの侯爵である。英語でマーキス。
だが、日本ではこの上に並行して「大納言」などの称号が存在するように、天照家にも同様のものが存在するが、複雑になりすぎるために省略される。サッチャーなどがこの二重称号をもち、侯爵以上の大納言である。
侯爵の下、伯爵はもし天照に子供がいれば親王で、貴族的な称号は伯爵となる。英語でカウント。
経済的功労者、文化的著名人、軍属で国家に多大な利益を上げたものは男爵の位を与えられるのもAD世紀と同じ。英語でバロン。
騎士は卿で英語でサー。サーの上位称号がロードだが日本語では同じく卿である。英国の最低ランクであるMBEは大きく3つに分かれ、この一番上位がナイトである。「F.S.S」もこれに準じ、騎士は男爵のすぐ下にある。これらはあくまで便宜的なもので実際にはもっと複雑怪奇である。また、各国家や時代においても貴族称号は流動的で騎士クラスなのに拝領して公爵などということもあるし、オーストリアのハプスブルク家の称号授与などはけっこう皇帝の一存で決められていたりと一概に決められない。
もっとも天照家もそうで、天照の独断でカイエンやミースなどに適当な称号が与えられていたりするのであくまで目安である。
子供の呼び名は王朝国家は基本的に皇女子、皇男子。通常継承権1位のみを皇太子（皇太女子）と呼び、次男、次女以下は皇太子とは呼ばれない。
また、直系兄弟系列で（伯爵と呼ばれる家系）家系を外れていてもアイシャやワスチャ、斑鳩などにもし子供ができれば、その子は姫、若、と呼ばれる。姫の称号は王女より低い。日本でも王女と呼ばれるのは直系だけ。直系兄弟家であっても代を重ねていくうちに称号が低くなっていくのである。
天照家ではワスチャの家系が延々と王女と呼ばれ続けるのは本家天照に跡継ぎがいないからである。リィなどもまったく同じだ。
また、直系王家以外の大名や将軍の直系の娘が「王女」ではなく「姫」と呼ばれるのはそういうことである。王族ではない娘なので姫なのだ。
なお、ラキシスが姫と呼ばれるのは「インペリアル・プリンセス」の略で姫と呼ばれており、直系でないために王女と呼べない苦肉の策なのかもしれない。しかしラキシスは本当は皇后で「インペリアル・クイーン」である。天照の母親は女帝なので「エンプレス」である。英語では該当するわかりやすい単語の語彙が少ないために的確な翻訳はかなり難しい。（英古語には存在するが半分以上ラテン語系列となる）
最後にすべてを越権する称号がある。
アイシャの「左大臣」、ログナーの「右大臣」であるが、これらはほとんど使われてはいないようだ。しかし、この称号がA.K.Dにおいては天照を除外すれば最も強力な称号であることに間違いはない。アイシャがコーダンテ家王女からルーマー女王に「格下げ」となっていても、A.K.Dでは第2の権力をもつことに変わりはない。

●天照王朝帝位継承順位
※ジョーカー星団暦3030年時点

1位	天照の帝（84代目天照王朝当主）
2位	ラキシス・天照（83代目天照の命養女）
3位	アイシャ・ルーマー女王（ルーマー王国女王）
4位	ワスチャ・コーダンテ王女（コーダンテ家当主）
5位	斑鳩王子（エミーテ家当主）
6位	シトロン・フリーズ・メナー（メナー家当主）
7位	ハリエリ・ビュビュス・コーダンテ（コーダンテ家）
8位	メル・バナール・リィ・エックス・ヘンシェル・アトワイト（アトワイト家当主）
9位	非公開
10位	メル・サッチャー・スクリーク（スクリーク家太公）
11位	非公開
12位	非公開
13位	F・U・ログナー（バビロン国王）
14位	非公開
15位	ミューリー・キンキー王女
16位	レオパルト・クリサリス（クリサリス公家太公）
17位	AT・ライム（ファティマ・アトロポス ライム家当主）

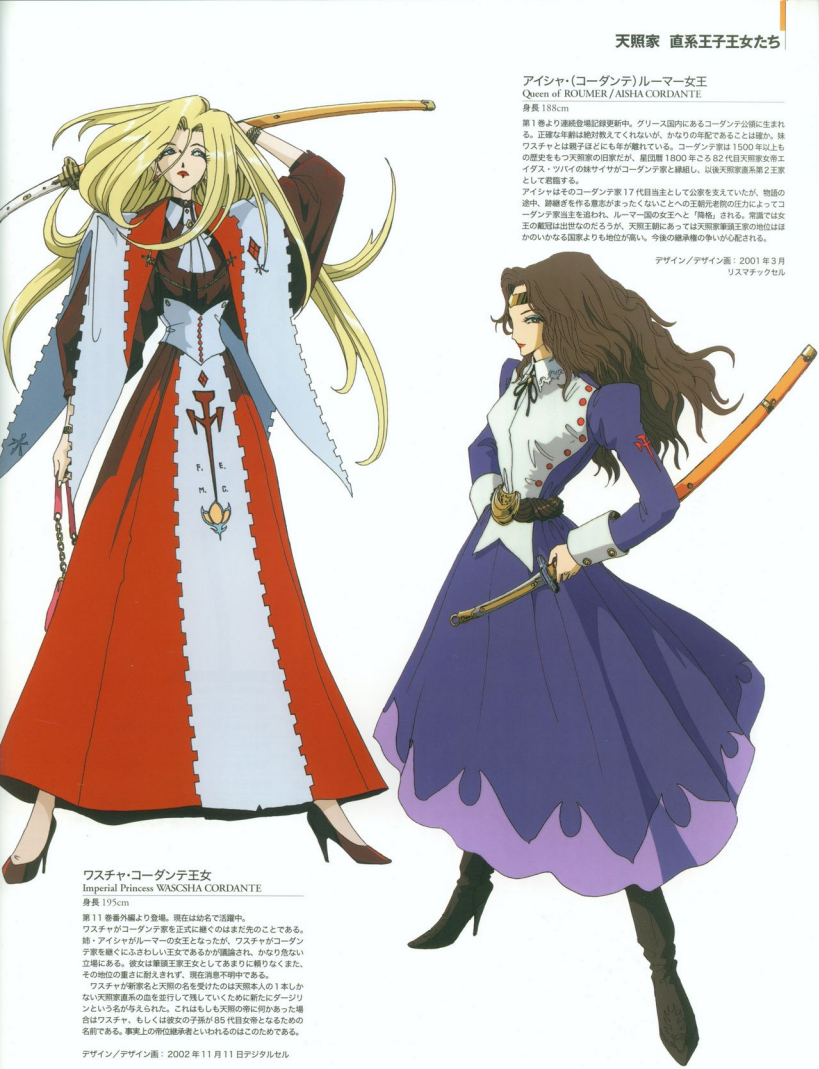
以下100位まで続く。次の代の継承権1位は56億年後の娘、カレン。
（帝位継承権1位というのは王そのものことで、王座を示す。天照に子供が産まれれば1位はその子供に移り、次の子が産まれればその子が2位となり、以下繰り下がる）

アイシャ・(コーダンテ)ルーマー女王
Queen of ROUMER/AISHA CORDANTE

身長 188cm

第1巻より連続登場記録更新中。グリース国内にあるコーダンテ公領に生まれる。正確な年齢は絶対教えてくれないが、かなりの年配であることは確か。妹ワスチャとは親子ほどにも年が離れている。コーダンテ家は1500年以上もの歴史をもつ天照家の旧家だが、星団暦1800年ごろ82代目天照家女帝エイダス・ツバイの妹サイサがコーダンテ家と縁結し、以後天照家直系第2王家として君臨する。
アイシャはそのコーダンテ家17代目当主として公家を支えていたが、物語の途中、跡継ぎを作る意志がまったくないことへの王朝元老院の圧力によってコーダンテ家当主を追われ、ルーマー国の女王へと「降格」される。常識では女王の戴冠は出世なのだろうが、天照王朝にあっては天照家筆頭王家の地位はほかのいかなる国家よりも地位が高い。今後の継承権の争いが心配される。

デザイン／デザイン画：2001年3月
リスマチックセル



ワスチャ・コーダンテ王女
Imperial Princess WASCSHA CORDANTE

身長 195cm

第11巻番外編より登場。現在は幼名で活躍中。
ワスチャがコーダンテ家を正式に継ぐのはまだ先のことである。姉・アイシャがルーマーの女王となったが、ワスチャがコーダンテ家を継ぐにふさわしい王女であるかが議論され、かなり危ない立場にある。彼女は筆頭王家王女としてあるりに頼りなくまた、その地位の重さに耐えきれず、現在消息不明中である。
　ワスチャが新家名と天照の名を受けたのは天照本人の1本しかない天照家直系の血を並行して残していくために新たにダージリンという名が与えられた。これはもしも天照の帝に何かあった場合はワスチャ、もしくは彼女の子孫が85代目女帝となるための名前である。事実上の帝位継承者といわれるのはこのためである。

デザイン／デザイン画：2002年11月11日デジタルセル

斑鳩王子
初期イメージの斑鳩。もともとアイシャやアマテラスの影としての任務を負うことは決まっていたためにこういういでたちのデザイン画もあった。アイシャに化けた斑鳩の服がアイシャの薄いグリーンではなくオレンジだったのはこの色から。

デザイン／デザイン画：1993年2月2日リスマチックセル

斑鳩王子
Imperial Prince IKARUGA OUJI

身長 169cm　**体重** 47kg

第5巻より登場。幼名はサリオン。
アイシャやこの斑鳩が直系王子と言われるのは82代目女帝エイダス・ツバイからの直系でアイシャは83代目ミコトの姪、斑鳩は甥の家系にあたる。本来アマテラス84に子供があり、ちゃんと寿命をまっとうするのであればアイシャや斑鳩はすでに6世代以上の遠縁筋となって帝位継承もかなり後に並ぶはずなのだが、ご存じの通りアマテラスの長寿と跡取りがないことによって、彼らの家系はいまだにミコトの姪、甥として認識される。82代目ミコトからの直系ということで、天照家ならではの言い回しでもある。実際、このままアマテラスに子供がなければ、彼らが帝位を担うことになるのだ。
いまだ若い斑鳩は天照家の中でも特殊な人物で、騎士の力と天照家の特徴である強力なダイバーパワーを受け継ぎ、ミラージュ騎士団レフトを率いる左翼騎士団長でもある。
天照家第3王家シナーテ家の王子であったが、王位継承権を巡る両親の陰謀に気が付き両親を殺害。以後、シナーテ家は取りつぶしとなりサリオンは幽閉される。幼くして強力な力と地位をもつこの少年の気性は非常に激しく、天照王朝を憂慮するその気持ちが過激な行動に走らせるのだが、所詮は天照の帝の手のひらで遊んでいることに過ぎないと納得したのか、ボスヤスフォートの浮遊城攻撃のあと天照より正式に斑鳩王子の成人名と新たな家名エミーテを与えられ、表の世界に戻る。
現在では崩壊したミラージュ騎士団の再編と、ダイバーとしてサッチャー等を支える天照家の中心人物でもある。

デザイン／デザイン画：2005年3月14日デジタルセル

メル・クール・リトラ
Mell, COUL LITHORA

身長 170cm　体重なし

第1巻より登場。天照の帝の先妻。非常に若くしてこの世を去ったが、現在も霊体として天照を見守っているようだ。彼女は超絶なるパラサイマルの力をもつ女性で、その預言、霊能力は当時の聖宮ラーン・ハスハの巫女並みとも言われる。いまだ謎の多いこの女性だが、彼女に関してのエピソードはあまりに多く、そのうち語られるであろう。これほどの女性であるにもかかわらずその素性がまったく公開されていない。ミコトが天照を産んだこととその後の超常の世界に関わることで激しく寿命を縮め、まだ若き天照を残したままこの世を去ったとき、天照を彼女に託した。そして彼女もまたミコト同様に寿命を縮め、同じように若くしてこの世を去ったのである。天照のあの力をまともに受けてしまうとミコトやリトラほどのダイバーですら生きながらえないということの証でもある。
肩の翼を覆うための布がびっくりするが、それを考えなければドレス本体は黒のライン取りやシンプルなカッティングなどお気に入りである。

デザイン：1985年／デザイン画：1992年7月18日リスマチックセル

天照家ダイバーズ・パラ・ギルド

ダイバーズ・パラ・ギルドはその名の通りダイバーたちの組織である。しかしいまやパラ・ギルドと言えばこの天照家のパラ・ギルドを指すようになってしまったが、星団にはいまでも数多くのパラ・ギルドが存在する。

かつて、星団最大の天照家パラ・ギルドに対抗するためにさまざまな勢力がナンバー1の座を取ろうと対抗してきた。歴代の天照女帝たちがそれを退けてきたが、天照の帝の代になってからはそのけた外れの力のために他勢力は完全になりを潜めていた。

しかし、ボスヤスフォートの台頭で他のパラ・ギルドとダイバーたちの勢力は天照家に迫る勢いとなってきている。

歴代の天照家はこれらダイバーたちとの戦いを避けて語れないほど、歴史の表には出てこない血なまぐさいダイバー戦争が行なわれてきたのだ。

第5巻でのミコトとボスヤスフォートのような戦いが延々と繰り返されてきたのだろう。

天照家のパラ・ギルドはもちろん天照の帝が頂点であるが、実質的な運営は天照のエイリアスであるリンス、それに天照家のスクリーク家の当主、サッチャーが取りしきっている。天照家のパラ・ギルドはどちらかというと霊能力よりも攻撃力重視にある。それも対抗勢力との戦いの多さがそうさせたのであろう。

天照家のパラ・ギルドは本拠をグリース王国の天照家内宮内に置いているが、多くのダイバーたちは外宮のフロート・テンプルで業務を行なっている。ダイバーたちの数は不明だが、ミラージュ騎士団とともに行動する「ホワイト・リンクス」のような「ミラージュ・ダイバー」の存在が知られている。ミラージュ騎士団の項を参照されたい。

ダイバーとは星団暦以前の超帝國の産んだハイパーテクノロジーで精神霊能力の物理的変換によって魔法のような力を使う者たちの総称である。

その力は騎士を作り出すために作られ、超帝國時代の騎士はダイバーにはまったく歯が立たなかった。星団暦現在の騎士たちよりもはるかに強力な超帝國の騎士たちが、である。

しかしそのダイバーの力も騎士同様、星団暦に入り薄まり、現在では直接対決ではダイバーは騎士には歯が立たないまで弱まった。

星団中のダイバー組織の実権を握っているのは天照家だと思われがちだが、実はダイバーを取り仕切る総本山はボォス星にある。

カステポーの東部にある「聖宮ラーン」がそのすべての中心である。

ここは炎の女皇帝を祖とする巨大な神聖都市で、星団暦以前より治外法権、干渉不可の場所でもある。

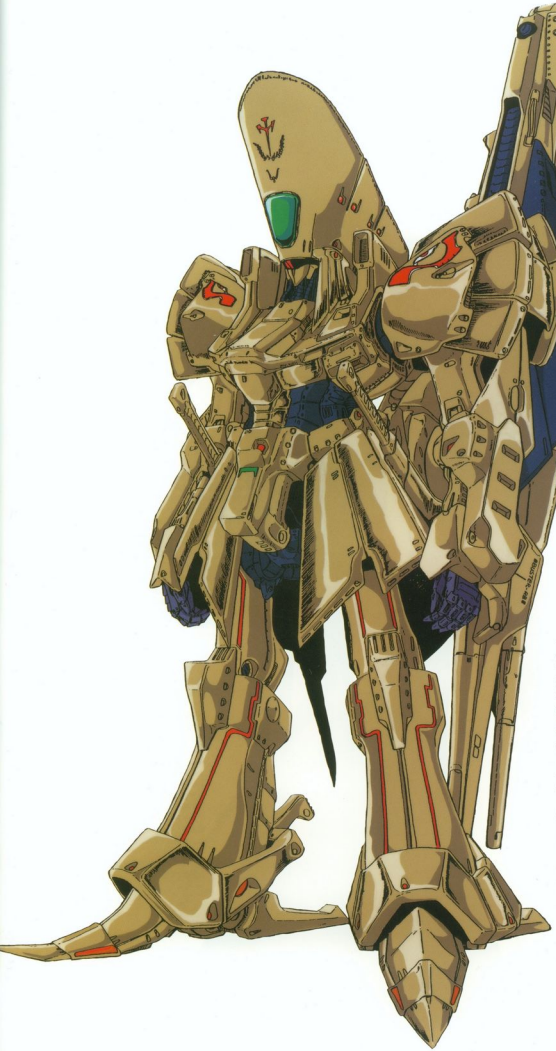
残念ながらいまはこのダイバーズ・パラ・ギルドの詳細と組織図は公開できない。

メル・サッチャー
Mell, SATCHER SCREACH

身長 174cm

第5巻より登場。本名はメル・サッチャー・スクリーク。天照家スクリーク公家の主。天照家ダイバーズ・パラ・ギルドの代表。攻撃パワー主体といわれる天照家に置いては異例のパラサイマル、霊能力者である。天照家のパラギルドは不明な点が多く、サッチャーがなぜ事実上の統制者なのか他国は疑問の目で見ているが、それがなぜなのかは第6巻において天照の力の消失と共に封印の円陣より出現した奇怪な者たちとの戦いでもわかる通り、彼女らパラサイマルの力によって押さえつけられている「なにか」があるということなのだ。天照の先妻であるリトラもたぐいまれなるパラサイマルであったことから一般には理解しがたい現象が天照の周りでは起きているようだ。もちろんそれら超常の現象はサッチャーでは抑えきれず、天照いてこそということなのだが、幸いにももうひとり、天照家には斑鳩というダイバーがいる。これらの不意なる現象には私利私欲を捨てて協力しているようである。
上半身の大半が透ける紫のオーガンジーに光沢のあるレザードレスが特徴だが、連載ではうまくこのオーガンジーを表現できず、リベンジ必須である。それとは別に彼女はメッシュの髪をしているが、脱色、ヘアダイ、ヘアマニキュアが一般的となったいま、メッシュの色替えくらいではあまり特異さを出せなくなってきたのも事実である。困った。

デザイン：1984年／デザイン画：1990年7月10日リスマチックセル



ザ・ナイト・オブ・ゴールド
the KNIGHT of GOLD
Type D MIRAGE

全高 17.1m　自重 144t
推定最大出力３兆３千億馬力以上

第１巻より登場。天照の個人MH。通称 K.O.G.ラキシス。幼いラキシスの「いつまでも朽ち果てない黄金のMHを作ってください」との お願いにて天照が作り上げたMHである。普通はそういう無体なお願いは聞き流したり、相手に思い直すように説き伏せたりするものだが、さすがは天照、その星団一の経済力をもって純金を使い本当に作ってしまったMHである。
主役MHとして活躍の場よりもカレンに怒られたり、ヒュートランに大変な目にあわされたりと苦労の絶えないMHであった。
ちなみに最後の主人はカレンで、これまた大変なことに最後の最後まで巻き込まれてしまうのも主役MHならではだろう。

デザイン：1984年／デザイン画：1986年セルロイドフィルム／1999年ごろリスマチックセル（塗り直し）／2004年デジタル色補正

主役MH、ナイト・オブ・ゴールド

物語の主役MHとして登場するナイト・オブ・ゴールド（以下K.O.G.）はラキシスのために作られたMHであり、2騎目のK.O.G.はアトロポスのために作られた。

基本的な性能はL.E.D.・ミラージュと同じはずだが、天照とラキシスが乗り込んだ場合はこの世でかなうものは存在しないと断言できる。略してK.O.G.と呼ばれるが、このMHはほかのMHとは完全に異なる思想で作られている。

ひとつは完全なるメンテナンスフリーでほぼ永久に稼動が可能なこと、もうひとつがラキシス、もしくは天照ひとりでも完全制御が可能であること、である。ひとりで完全制御というのは現時点では完成していないようだが、後にラキシスが星団外で完成させる。

完全メンテナンスフリーはほぼ完成しており、K.O.G.の巨大な頭部にはかなりの空間があり、ここでK.O.G.のあらゆるパーツが元素から生産可能になっている。MHのパーツだけでなく、ラキシスの服の生地などや食料なども生産可能だ。

さらにK.O.G.は他のMHにないバスター・ランチャーの固定武装化がある。これは通常のMH戦闘にはまったく必要のないもので、公開されたK.O.G.はその黄金の装甲とともに折り畳みのバスター砲が星団中の科学者の苦笑を買った。「金持ちのはったりと道楽」。そう言われても仕方がないが、ジョーカーでの行動をほとんど想定していないために仕方のないところである。

強力なエンジンパワーのために次元航行コロニー「ザ・ウィル」と同様の時間移動装置もつが、すべては未来のラキシスのために作られており、天照もなぜこんなものを組み込んだのかは作った当時はわかっていないようであった。

K.O.G.が作られたのは星団暦2988年ごろであるが、天照は自分の騎士団「ミラージュ騎士団」のために新型のMHを以前から開発中であった。そのMH、ミラージュシリーズのために作られたのがイレーザー1050というスーパーエンジンで後にミラージュMHに組まれるより以前に数基が作られていた。これをK.O.G.のために組み上げ、チューニングしたものだと思われる。

目を引く黄金の装甲はMHの基本的な装甲材質である石化装甲をラミネート化（積層）し、3層のプライからなる。真ん中に純金を薄くコーティングし、その上下を覆う石化装甲は半透明で、黄金色が透けて見えるものとなっている。

MHの装甲はほとんどが一発抜きの鋳造で無重力空間でいかなる複雑な形も鋳造が可能にした。またこの鋳造のときに装甲のカラーを付けることによって激しい戦闘や作戦によってMHの色がはげ落ちるということはない。

天照はこの半透明装甲をL.E.D.ミラージュにも使用しているが、総称して「ブロンド・アーマー」（下地が透ける装甲）と呼ばれる。

その他各部に関してはミラージュMHに詳しい。

なお、定冠詞「the」が付くのはラキシスのK.O.G.のみである。

K.O.G.のいままでに発表された、もしくは現存する設定、イラストなどは「DESIGNS」次巻にて詳しく掲載予定である。

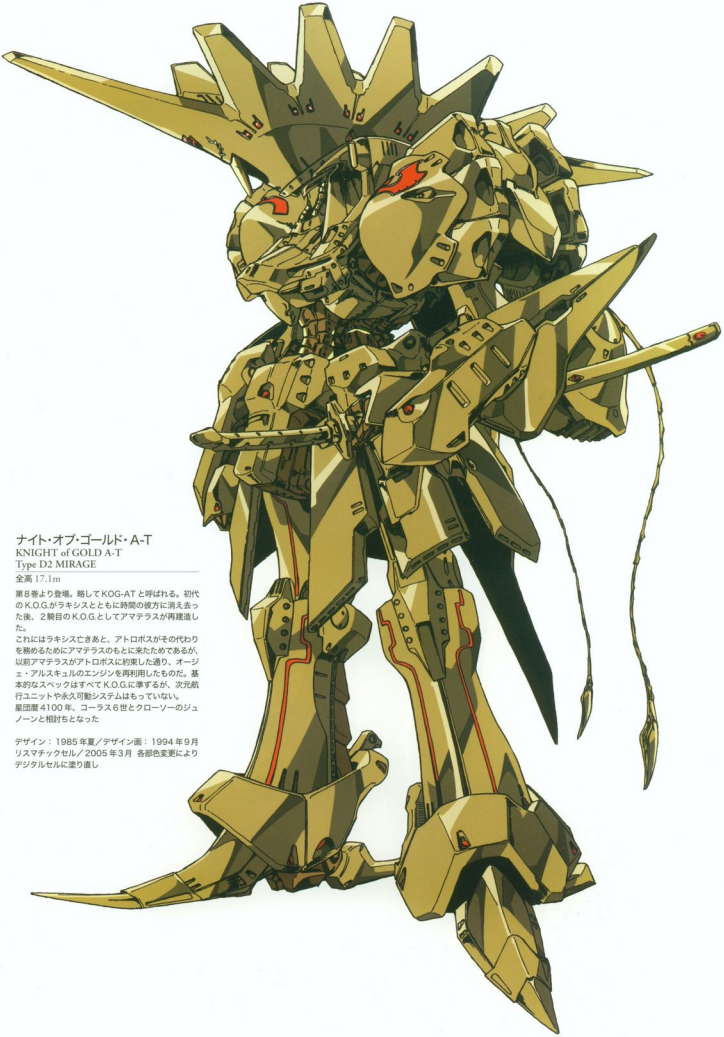
ラキシス オペラ・スーツ（デカダン・スタイル）
"Destiny LACHESIS"
身長 172cm　体重 45kg

運命の3人の女神アトロポス、クローソーと3人おそろいで作られた蛍光ピンクのスーツ地だが、太陽光線にあたると黄金色の光沢をもつ。乱反射の非常に美しいスーツで3女神を象徴するスーツとなっている。このスーツを使用するのはカラミティ攻防戦からとなる。栗色のラキシスの髪が藍色へと変化したのは、ダンバーゲルに包まれたまま数千年を眠って過ごしたためと見られるが、アトロポスもクローソーも黒髪なのにラキシスだけが栗色というのはどこかおかしい。たぶんこの髪の色が本当のラキシスの髪の色である。
こればかりは本人に聞いてみないとわからないが、どうせろくな答えは返ってこないだろう。

デザイン：1984年／デザイン画：1986年セルロイドフィルム／2004年デジタル色補正

ラキシス デカダン・スタイル
ラキシスの正式なMHスーツ。お姫様らしい純白と金のコントラストが可憐だが、ほとんど着ることはないようである。第1巻で着ていた服が我ながらあまりにださかったので第1巻カバーイラストにてリベンジをしたのだが、じぇんじぇん気に入らず、さらにリベンジ。初期のファティマはベルトを付けていたが、3巻の静からベルトなしのすとんとしたスーツになり、そこから今のミニドレスのラインが決定した。この服にもベルトはなく、ようやくこれで一段落ついた。

デザイン画：1997年5月
リスマチックセル



ナイト・オブ・ゴールド・A-T
KNIGHT of GOLD A-T
Type D2 MIRAGE

全高 17.1m

第8巻より登場。略してKOG-ATと呼ばれる。初代のK.O.G.がラキシスとともに時間の彼方に消え去った後、2騎目のK.O.G.としてアマテラスが再建造した。
これにはラキシス亡きあと、アトロポスがその代わりを務めるためにアマテラスのもとに来たためであるが、以前アマテラスがアトロポスに約束した通り、オージェ・アルスキュルのエンジンを再利用したものだ。基本的なスペックはすべてK.O.G.に準ずるが、次元航行ユニットや永久可動システムはもっていない。
星団暦4100年、コーラス6世とクローソーのジュノーンと相討ちとなった

デザイン：1985年夏／デザイン画：1994年9月
リスマチックセル／2005年3月 各部色変更によりデジタルセルに塗り直し

放浪する女神・アトロポス

クローム・バランシェ43体目のファティマで、妹に当たるラキシスとクローソーよりも1年だけ先に生まれた。人工生命体であるファティマが人間に反抗しないための精神制御を受けておらず、また、バランシェが自分の命をかけてまで作った子の3人の娘たちは皆、超常の能力をもっている。

クローソーは始まりを紡ぎ
ラキシスは運命を紡ぎ
アトロポスはその糸を断ち切る

この役割はこの物語そのものとして星団年表よりも重要で最後まで変更のない決定事項である。

これだけは全能神、天照大御神とて手を付けることのできないことである。物語は星団年表ではない。彼女ら3人こそが"フ

アイブスターストーリーズ"なのだ。

ラキシスたちより1年先に外の世界に出たアトロポスは、天照がファティマとのコンビネーションを調整するためにバランシェ城に置いてあったMHオージェ・アルスキュルとともに、星団法の手の届かないカステポーに向かい、そこでひっそりと暮らしていた。

しかし2992年、命の水を巡る戦いに巻き込まれ、天照ことソープと再会したが、アルスキュルを失った。

ソープが連れていたジョーカー星団最強の生命体L.E.Dドラゴンの幼生すえぞうを預かることになり、以後また天照や社会からは離れて暮らしている。

アトロポスは天照から今後のことも踏まえ、人間としての戸籍と天照家のひとつラ

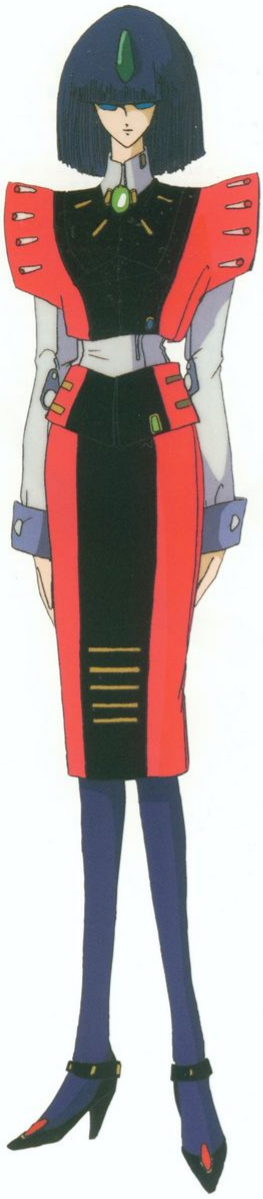
イム公家の籍を渡され、AT-ライム伯爵としての身分をもつこととなった。

また、最も重要なのはドラゴンの幼生すえぞうである。

この幼生はアトロポスにとってMHやいかなる兵器よりも強力なパートナーであり、女神の守護者としてこれ以上のものはないであろう。すえぞうは最初からアトロポスを生涯守ることを決めている。

放浪する女神。それがアトロポスである。

ジョーカーに人類が死滅するそのときまで彼女は人間たちを見守っているだろう。



アトロポス　オペラ・スーツ
運命の3姉妹として描かれたのはかなり昔でいまの目から見ればさすがに見劣りもするが、デザイン画としてはまったく問題ない。運命の3女神のスーツは今後もまったくデザインを変えずに登場するであろう。なぜなら彼女らこそF.S.S.だからである。

デザイン1985年／デザイン画：1986年セルロイドフィルム／2004年11月デジタル色補正

アトロポス　オペラ・スーツ（デカダン・スタイル）
"The Three Fates" ATROPOS

身長 172cm　体重 45kg

第1巻より登場。アトロポスのスーツはL型のロングタイトツーピースである。タイトスカートなので動きにくいと思われがちだが、伸縮性がものすごいためほとんどストレスなく動き回ることができる。これはほかのL型ファティマ・スーツも同様だ。スーツ自体は非常に耐久性があるが、内張りのシルクやレースなどは天然素材のために数年に1度くらいの間隔で張り替える。袖に付いているのはパニング・バランサーで星団最初の4ファティマたち以外では運命の3女神くらいでしか見られないものだ。これはバランシェがシアン夫人に頼んで付けさせたものであろう。アトロポスたちはほかのファティマと違って精神制御を受けていないために、あらゆる状況で戦闘可能なようにMHの戦闘サポートをこの袖のバランサーが行なうためである。
コンピュータの普及によりセル状のイラストがようやくストレスなく描けるようになったころのイラストである。

デザイン：1986年／イラスト：1996年12月23日デジタルイラスト

ファティマ・ヒュートラン
HUGTLANG

身長158cm　体重37kg　バランシェ・ファティマ

第12巻より登場。ワスチャのパートナー。星団最強のスペックをもつファティマであるが、星団最強のどうしようもないスペックをもつファティマでもある。そのMHコントロール能力はJ型駆逐戦闘兵器はおろかラキシス以外では不可能とされているthe K.O.G.すらコントロールすることが可能なのである。ラキシス以外に制御不可能なthe K.O.G.がなぜ彼女に制御されるのかは彼女のMHコントロール能力がすごいからではなく、MHへの威嚇力がすごいためで、the K.O.G.は脅されて彼女に制御されているというのが真相である。

その星団最強のスペックも「自己鍛錬プログラム」というバランシェ、いやたぶんこれはそのとき隣にいたソープとのノリで結果的に彼女は「弱い騎士のみをパートナーとして強い敵と戦うことで自分の能力を上げ続ける」というとんでもない選択をした。従って彼女の超弩級の性能をもってしてもthe K.O.G.をもってしても、普通の騎士とMHとどっこいどっこいくらいの強さしか発揮できない。こういうとんでもない奴がごく自然にいるのも天照家ならではの芸当である。

ああ、なんてもったいない。これで最強スペックを強い騎士と発揮できれば……なんて思うのは凡人で、そんなことしたら何もおもしろくないじゃないか、というのが天照とバランシェの意見であった。で、当のヒュートランはじゅーぶん幸せそうである。

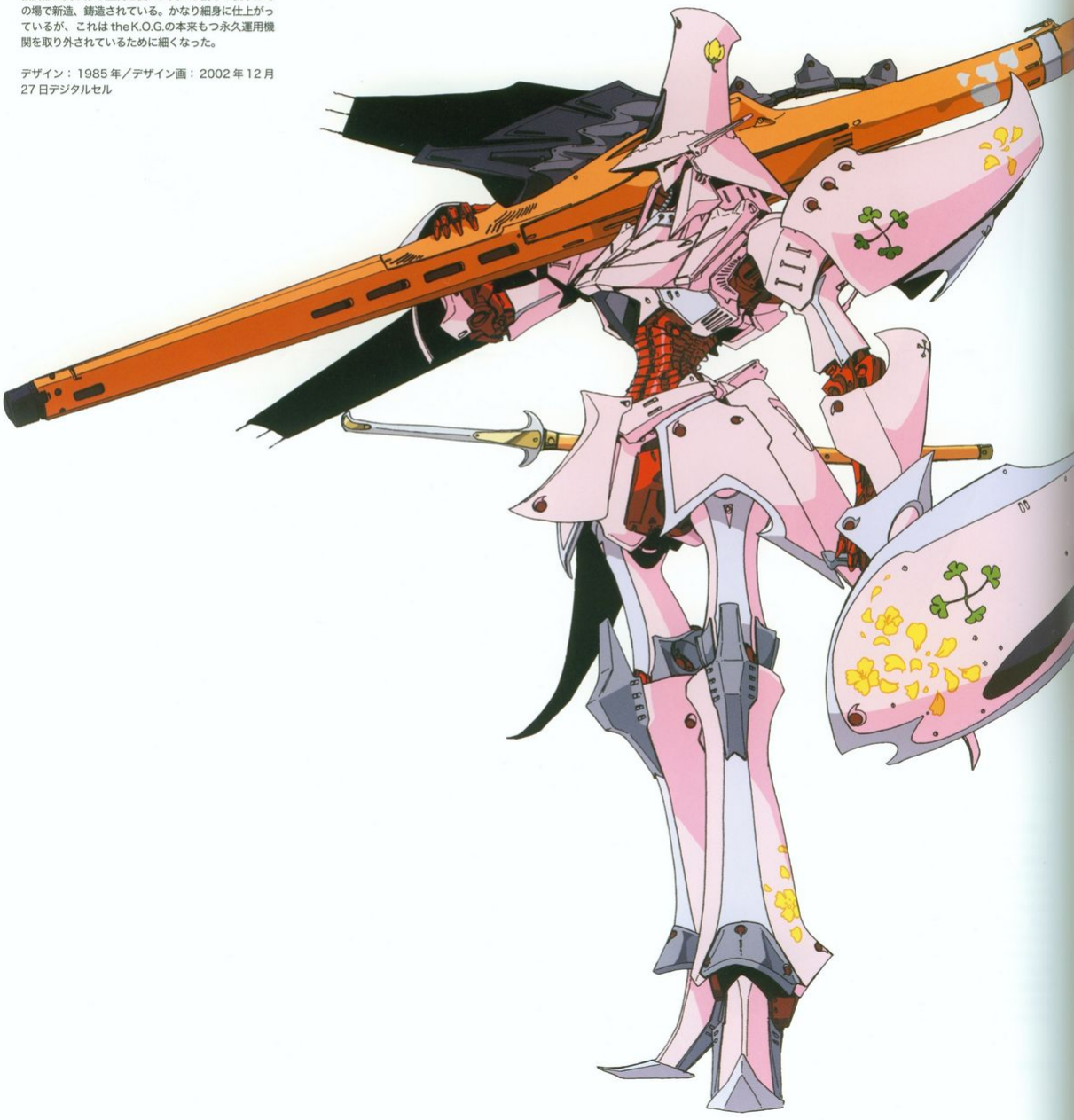
デザイン／デザイン画：2002年12月デジタルセル

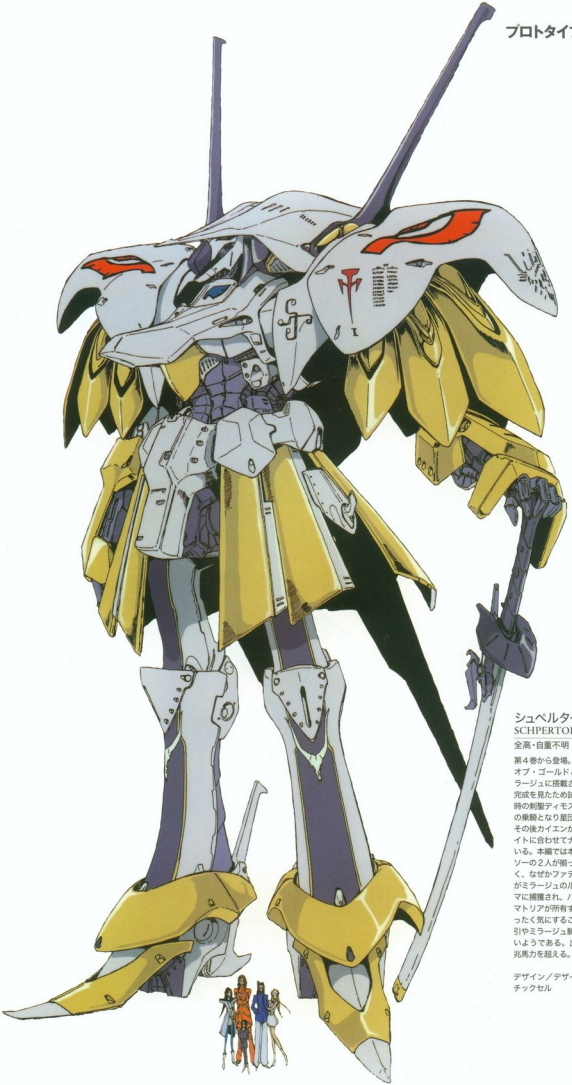
ザ・ナイト・オブ・ゴールド・ルミナス
the KNIGHT of GOLD as LUMINOUS

全高 16.8 m　自重不明

第12巻にて登場。正式名称は「ポコちゃん1号」。強烈な印象を与えるこのMHは一見クロス・ミラージュに見えるが、theK.O.G.ラキシスの装甲換装版である。正真正銘のK.O.G.なのだ。ワスチャとヒュートランが実戦デビューすると聞いた天照が大慌てでtheK.O.G.の装甲を取り払い、ストックされていたプロトタイプ・クロス・ミラージュことカルバリーCの装甲とクロス・ミラージュ雌型の装甲をはぎ取ってわずか1日で組み上げたものだ。この常識を外れた組み上げは天照だからこそできたもので、たぶんその場にいたマイスターやファティマも突貫工事に引っ張り込まれていたはず。チューニングだの試験運用だのまったく無視されているが、時間がないと言いながらも機関部に真っ赤な金属を使い、実に3割もの装甲はその場で新造、鋳造されている。かなり細身に仕上がっているが、これはtheK.O.G.の本来もつ永久運用機関を取り外されているために細くなった。

デザイン：1985年／デザイン画：2002年12月27日デジタルセル





シュペルター・K.O.G.
SCHPERTOR K.O.G.

全高・自重不明

第4巻から登場。天照設計のプロトタイプ・ナイト・オブ・ゴールドとも呼ばれるMH。のちにL.E.D.ミラージュに搭載されるスーパーイレーザーエンジンが完成を見たため試験的に作られたMHでもあるが、当時の剣聖ディモス・ハイアラキとファティマ・クーンの乗騎となり最団にその名を知られるようになった。その後カイエンが引き継ぎ、彼の造りもシルバー・ナイトに合わせてナイト・オブ・クロームとも呼ばれている。本編では本来の所有者であるカイエンとアウクソーの2人が揃って搭乗するエピソードもシーンもなく、なぜかファティマはアトロポスであったり、騎士がミラージュのルンであったりする。現在はバッハトマに搭載され、バッハトマの騎士ジョー・ジャッド・マトリアが所有するが、天照は所有者が変わってもまったく気にすることはなく、放置中である。国家間取引やミラージュ騎士による奪還もまったく考えていないようである。出力はL.E.D.ミラージュと同じく3兆馬力を超える。

デザイン／デザイン画：1991年5月14日リスマ
チックセル

オージェ・アルスキュル
AUGE ARSCULS

全高 16.5m　自重不明

第７巻に登場。天照がシュペルターと並行して作っていたMHで、天照家のマシンメサイア「オージェ」と同じイメージの外観をもっているのが特徴。基本的な性能はシュペルターやL.E.D.ミラージュに準ずるが、ファティマの育成のサポートのためにアドラーのバランシェ部に移されていた。ここでファティマたちはMHコントロールの調整を受けていたのである。そんなこともすっかり忘れていた天照はアトロポスがバランシェ部を出たときにこのアルスキュルを持ち出していたのを見てびっくりしていたのだからたいした光の神である。ブラフォードの駆るMHアパッチに肉弾戦で敗北し、エンジンを残して灰となった。アトロポスをふびんに思った天照がその残ったエンジンで作ったのがKOG-ATである。

デザイン／デザイン画：1994年8月11日リスマチックセル

天照家・視程院～みどりの杜

みどりの杜（もり）とは厳密には天照家ではない。多くの国家が三権を分立し権力の集中と暴走を抑えるためにあるのと同様、みどりの杜は天照家にとっての司法院である。

古くより、みどりの杜は天照家とは一定の距離を置き、歴代アマテラスの女帝、帝を正式に戴冠させるために存在してきた。そのためにかなりの権力と軍事力をもっていたが、天照の帝の代になって永久に年を取らない天照に呆れたのか、みどりの杜の祭主、グリーン・ネイパーはクラウン銀河の中心近くにある時を停止する空間「ファンタスマゴリア」に向かった。

ファンタスマゴリアは光の空間とも呼ばれここでは時間の進みが圧倒的に遅くなる。ネイパーはここで天照の帝と生涯つき合うことを決めたようである。

それでもたまにはグリースに帰星することもあり、星団暦3010年にいったん帰還している。このときはラキシスの正式な天照家編入と帝への報告であろう。

彼のもつMHは星団暦以前より天照家に伝わるロボットで正確にはマシン・メサイアである。非常に強力なこのロボットはファティマ誕生のときにファティマ・コントロールが可能なように再設計され、ダイオードという特殊なファティマを専任とし、現在に至っている。

ダイオードはリチウム・バランス公爵が作った5人目のファティマでフォーカスライトらの妹に当たる。

聖院グリーン・ネイパー
Judgement GREEN NEPER King of GREENS

身長 193cm　体重 65kg

第10巻より登場。天照王家の訳のわからない人物の代表格であるが、暇なものだから魔導大戦に参戦して退屈を紛らわすか、という動機が当を得ているようである。そうはいっても腰に付いたマイトマスターの紋章は彼がただの騎士ではないことを物語る。超強力なマシンメサイア「オージェ」を旧時代のコントローラーで難なく駆る彼の騎士としての腕は天位をもつ騎士以上であると思われる。

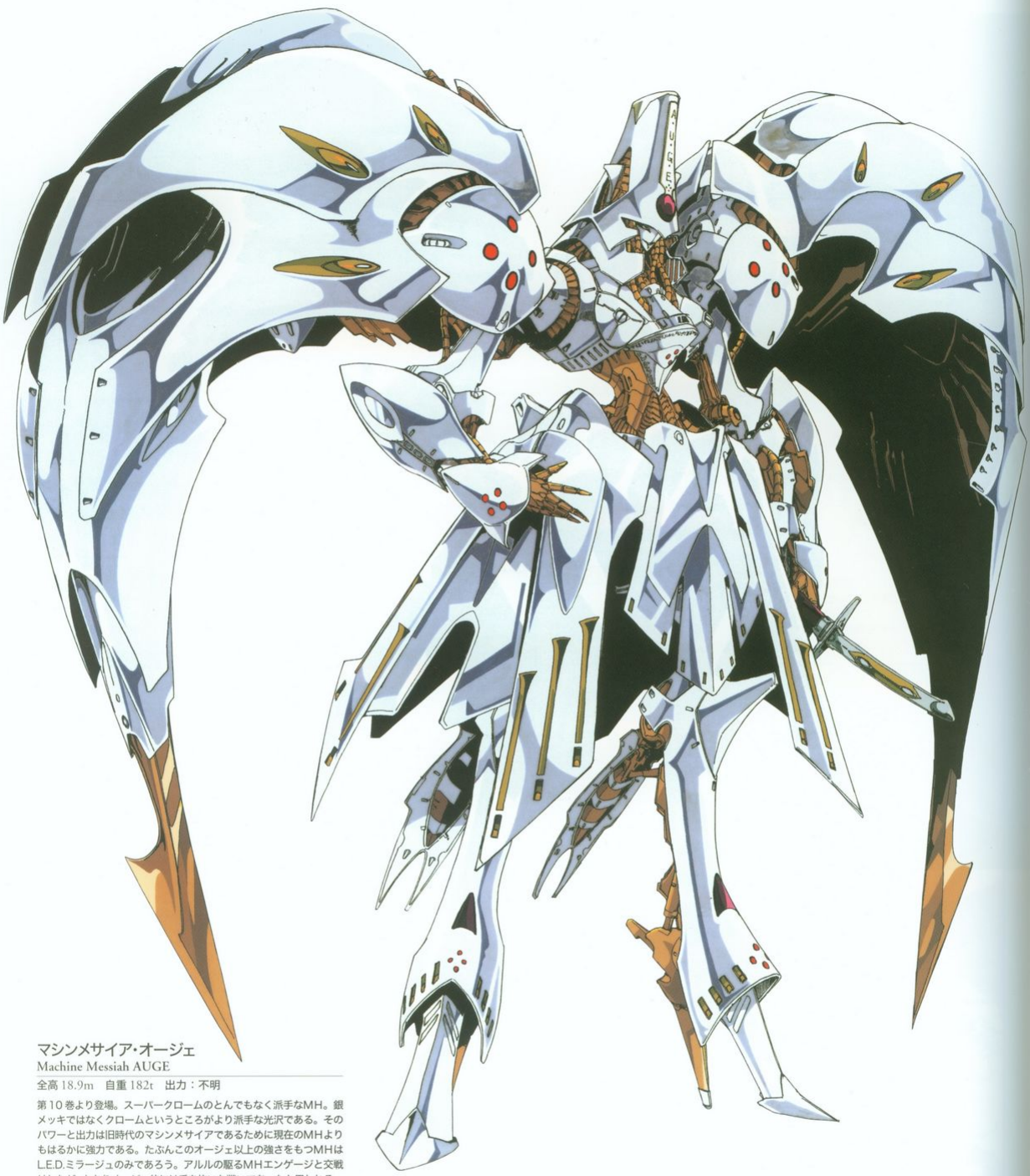
デザイン／デザイン画：2000年4月17日リスマチックセル

ファティマ・ダイオード
DIODE

身長 158cm　体重 38kg　リチウム・バランス作

第10巻より登場。マスターはグリーン・ネイパー。通常会話のほかにMHとのコミニュケーションのために「ピコピコ」とか機械語を使っているのがよく見かけられる。ファティマの生みの親であるリチウム・バランス公の作ったファティマで星団科学史的には国宝もののファティマであるが、そんなこと知ったこっちゃあないとネイパーともども魔導大戦真っ最中のハスハの激戦地で戦闘を繰り返している。特徴的なスーツはマンティック・モードと呼ばれる時代のもので、ゆったりとしており宇宙でのストレスを和らげるためのものであるが、プラスチックスタイル真っ盛りの星団暦3030年においてもこのスタイルでハスハをばく進中である。

デザイン／デザイン画：2000年4月17日リスマチックセル



マシンメサイア・オージェ
Machine Messiah AUGE

全高 18.9m　自重 182t　出力：不明

第10巻より登場。スーパークロームのとんでもなく派手なMH。銀メッキではなくクロームというところがより派手な光沢である。そのパワーと出力は旧時代のマシンメサイアであるために現在のMHよりもはるかに強力である。たぶんこのオージェ以上の強さをもつMHはL.E.D.ミラージュのみであろう。アルルの駆るMHエンゲージと交戦はしたが、かなりオージェ的には手を抜いた戦いであったと思われる。搭乗者がネイバーであったことで、ネイバーとダイオードがエンゲージと同等のパワーマネージメントにデチューンしてあの場に赴いたのだろう。対等に戦うために。ヤナ奴らだなあ。ホント。

デザイン：1983年夏／1984年リファイン／1984年末リファイン／1994年リファイン（アルスキュル）
デザイン画：2000年2月21日リスマチックセル／2004年10月デジタル色修正ボディ色をクロームに変更

グリース王国と天照王朝を形成する
東方10カ国地図

天照家東方10カ国とは天照家の支配地域であり、この10カ国すべてが天照家およびグリース王国の領地であると言って差し支えない。
グリース王国クロスとはグリース王国クロス地方とも言い換えられる。
中心となるグリース王家自体の領地は日本の本州ほどしかない。
基本的に王朝集合国家のために民主政治の自治区などはなくすべてが天照家ゆかりの王族、貴族によって運営されている。しかし、政治形態自体は一般国民による政党、議会政治で行政は行なわれており、よほどの事態でない限りは天照の皇帝越権による執政は行なわれることはない。
この10カ国すべての領地の所有者は天照の帝。星団最大の個人土地所有者でもある。各王家、公家は永世的に天照から土地を借り受けているという契約となっている。天照王朝10カ国において天照以外誰も「土地所有権」というものが存在しない国家である。すべて借地権なのだ。

A.K.D.

A.K.D.とはアマテラス・キングダム・ディメンスと呼ばれ、グリース王国の84代目国王にして周辺10カ国をまとめる天照王朝の皇帝。そしてデルタ・ベルン星すべてを統治下に置く天照の帝の集積国家の総称である。

物語の主人公でもある天照はそのために国王、皇帝、星王、帝とさまざまな呼ばれ方をするがどれも間違ってはいない。グリース国民にとっては国王であり、東方10カ国の人民からすれば皇帝。デルタ・ベルン星すべての国民にとっては星大統領であり、本星はもとより、他星の人々から帝と簡単に呼ばれることも多い。

A.K.D.の組織形態

デルタ・ベルン星はアマテラスの統治によってかなり民主的な政治形態をとるが、政治経済すべての中枢となるグリース王国は完全専制君主制度をとり、グリース王国すべての土地、財産、そこから生み出される膨大な富はすべて天照個人ひとりの所有物である。

また、王朝10国の経済的利潤や資産、莫大な税金などの多くも天照個人が管理し、根幹的な天照王朝の財務は天照ひとりがコントロールしている。

天照は想像を絶する経済力の持ち主であり、その個人的資産が天照王朝だけではなくA.K.D.すべてに影響を与えている。

すべてが天照の所有物であるグリース王国と周辺10カ国。そこから生まれる莫大な税金や土地の借地料、直轄の企業、事業から来る収益はすべて一度天照個人に集中して集まってくる。そこから天照が国家予算を下ろしているのだ。

原始専制君主が行なわれていた数万年前ならいざ知らず、個人にすべての収益が集中するこのような経済体制はジョーカーの世界であっても大変に危険なものだが、2000年以上にわたる天照家への信頼と体制は揺るぎない。

また、天照の性格と能力なら絶対に収益配分を間違うことはないという迷信にも似た信頼感がそうさせているのだ。彼のコンピュータのような判断能力はみずからを過ちに走らせる失策、浪費、失政がほとんどないといえるからかもしれない。これは事実である。彼には人間が必ずもっている、失政に走らせる欲望や煩悩などがまったくない。感情そのものがないからだ。リィやログナーが目の前で殺されようと眉ひとつ動かさない天照は、行政システムや立法においても同様の措置をとる。これがいかに恐ろしいことであるのか、政治家や官僚は痛いほどわかっているのだ。天照には泣き落としも買収も根回しも何も効きはしない。これが国民に支持されている天照の政治でもあるのだ。

その圧倒的な天照の政治システムがデルタ・ベルン星の多くの国家に支持され、1国、また1国と天照王朝に賛同し、統一化された経済圏を拡大していった。それがA.K.D.の始まりであり、気が付けば天照はデルタ・ベルン星統一大統領となり、同時にデルタ・ベルンすべての国家がA.K.D.に属するという驚異的なシステムを誕生させてしまったのである。

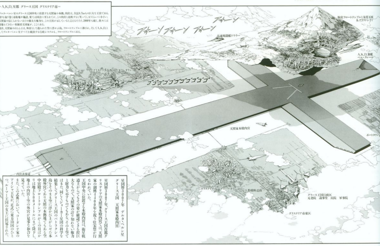
経済面において天照家がデルタ・ベルンで絶対的な地位を誇るのはその産業が安定しているからでもある。意外と思われるかもしれないが、A.K.D.の特産品は重工業製品である。艦艇や重化学産業機械はもちろん、MH、兵器、バスターランチャーなど、実はフィルモア帝国をはるかに上回る重産業国家なのだ。第8巻でのA.K.D.軍の驚異的な装備を見れば想像がつくが、戦車にしてもその砲にしても、星団最強と言われている兵器を相当数生産し、輸出している。

天照家はその時代時代において何を筆頭に置けば国家をコントロール下に置けるかわかっている。国力のなかった黎明期にはダイバーパワーの家系をもって星団の情報を束ねシステム化した。国力が向上するとともにその基盤を産業に置き、経済を集中コントロールすることによって王家の安泰をはかり、天照家以上の経済力をもつ会社や集団を徹底的に排除、吸収した。その中で絶えず国家と国民の安定を第一とした天照王朝はデルタ・ベルン星すべてを管理下に置いた現在も、完全なる絶対専制君主を誇る驚異の帝国なのである。

A.K.D.は事実上天照家の延長のシステムをそのまま当てはめた全星統一の政治形態と言ってもいいだろう。

グリース内宮

巨大な天照家内宮は想像を絶する広さをもつ王朝本宮殿でもある。
この宮殿の巨大な朱色の十文字は衛星軌道上からでも肉眼で確認できるほどの大きさである。



＝A,K,D,星都 グリース王国 グリステリア市＝

デルタ・ベルン星のグリース王国中央に位置する天照家の本拠、内宮は、全長9.7kmもの巨大な王宮である。周りを取り巻く市街地や施設、果ては国会に至るまでが、この内宮と比較すると笑ってしまうくらいに小さい。天照家の信じられないほどの強大な権力を、この王宮が示していると言えるだろう。2000年も続く、我々には想像もできない専制君主国家が、ここにある。
現在、天照家のほとんどは、外宮として造られた空に浮かぶ島、フロートテンプルに移され、そしてA,K,D,としてデルタ・ベルン星すべてを統治する行政システムも、フロートテンプルにある。

星団暦3007年　デルタ・ベルン星
グリース王国　天照家本殿内宮

王国中央に位置する本殿内宮は、衛星軌道上からでもその姿が確認できる程巨大なもので、天照家の計り知れない権力と財力を示すものでもある。その上空ではまた、同じくジョーカー星団の科学を結集してグリース王国のバトラクシェ島をそのまま空に浮かび上がらせた本殿外宮であり天照の本拠地でもある空中宮殿フロートテンプルがこの日ばかりは地上500メートルにまで降下し、地上の内宮と空の外宮が見事な和合を見せていた。
また、この式典において、コーダンテ家のアイシャ王女が、正式に東方10国のひとつ、ルーマー王国の女王に任冠された。

島の下部の周囲にはバリケードラインがあり、地上に物を落とさないようにしている。それでもたまにスペクター・ウラキシスがドラム缶などを落とすためにバリケードロボット「エキストラクター」が周回し見張っている。このエキストラクターはヤクトミラージュやオージェのもつ警戒用ブィと同じものである。

マウント・クロスメア
現水線から標高 700m 足らずの山だが、ウエザーラインよりも上にあるために浮遊城の漂空する標高 3000m 以上の気候をもろに受けて見事な雪山となっている。

A.K.D.ミラージュ・パレス
A.K.D.とミラージュ騎士団の総本山。7つの巨大な塔と行政機関がある。

ウエザーライン
浮遊城の現水線（中央）からここまでが人工的気候の影響を受ける限界点である。雲は地上と同様に自然発生し、雨を降らす。

天照家・次元戦闘コロニー
“ザ・ウィル”
全長 3.25km　船体長約 2.5km
物語中ではまだ完成していない。

クラウド・シティ
浮遊城のダウンタウン。住民の生活街である。地上を見下ろすものすごい景観である。

A.K.D.と天照家の旗艦“ベルクレール”

A.K.D.の高速巡洋艦“ホエール”

0　1km

浮遊城内部構造図

内部構造はあらゆるところにフレームと交通バイパスが走り、巨大な宇宙船と言ってもいいだろう。これらはこの島が地上にあったころより建造されたものだ。ジョーカー星団のとてつもない科学力がうかがい知れる。

ミラージュパレス基部
優雅なパレスの地下ほぼほとんどMHや兵器の開発工場となっている。

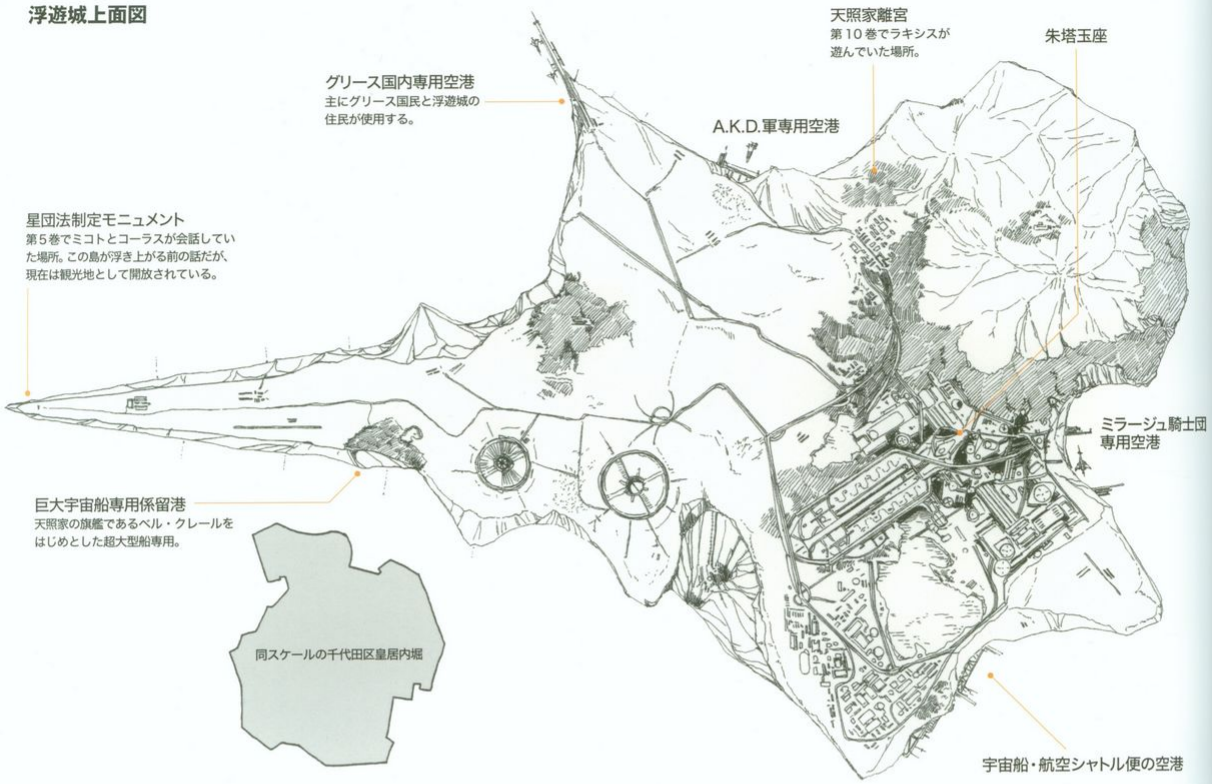
島の上面に目立つ2つの円形のものは給排気を行なうデバイスで湿度や温度をコントロールしている。

旧海面を天板のように設計されている。島の先端にまで高速バイパスが走り、地下から島のどこにでも高速移動が可能だ。

イレーザーエンジン・ジェネレーター
島を浮遊させすべての動力を生み出すエンジンは2基と予備1基で稼動されているがエンジンそのものは直径わずか1mに満たない。MHのエンジンと同じ物が使用されている。

イラスト：1991年4月 水性サインペン

浮遊城上面図



A.K.D.の象徴、浮遊城・フロートテンプル

現在天照王朝はその中心をフロートテンプルに移している。フロートテンプルは天照家の本殿外宮として建立されたもので、完全なる天照家の移動宮殿でもある。

内宮はグリース王国中心部にあり巨大な十字の建造物である。（P.37参照）

この偉大なる空中宮殿はジョーカー太陽星団の科学の結晶でもある。

全幅5800メートルはあろうかというこの巨大な浮遊物は、もともと自然の島であった。グリースの小さな島、パトラクシェ島をそのまま浮かび上がらせたのである。

星団中の民はその自分たちの培ってきた科学力に改めて驚き、何よりそれを成し遂げたデルタ・ベルン全星を統一する支配者、天照の支配力と莫大な経済力に感嘆と驚異と警戒を懐いたのである。ジョーカーの政治、軍事にはほとんど関わらず、各国の調整役としての顔しかなかった天照とA.K.D.がどれほどの力をもっているのか、改めて知ることになった。

この浮遊城の建造費はすべて天照個人が出資した。天照のこの浮遊城建立の発表にグリースや王朝国家の国民は喝采をもって迎えた。我らが麗しい君主の居住区として、我らが王朝の誇りとしてその事業を成し遂げようと。

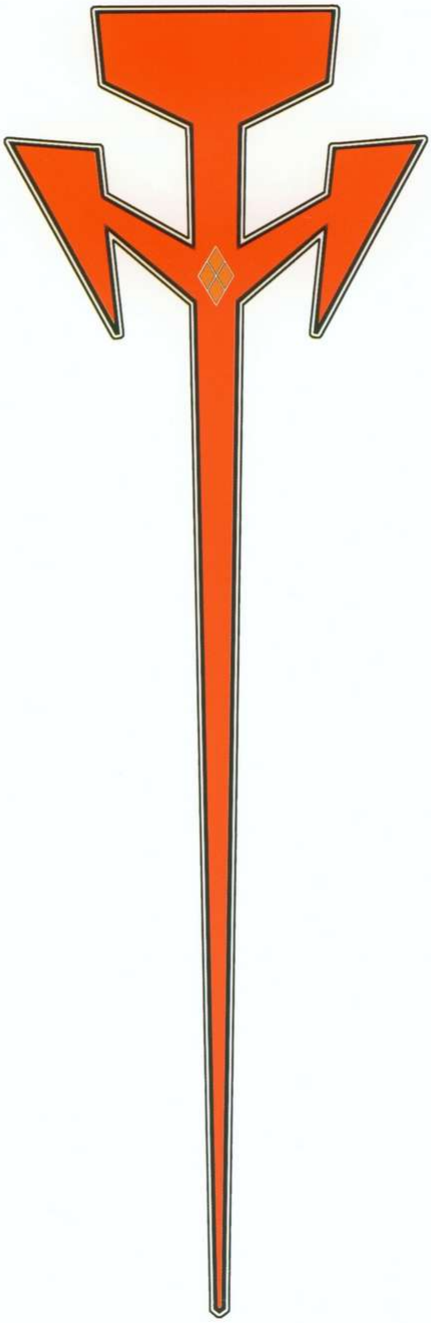
もちろん反対する輩はどこにでもいるが、本来天照個人が自分の土地であるパトラクシェ島を大地から削り取り、莫大なポケットマネーを使って建造しているのだからどう文句を言えばいいのだ？　自分たちの税金を使ったわけではないのだ。彼らの言い分としては上空を周回することによる日照権だの環境への影響などそんなものしかなかった。それより、とんでもないものを造っているんだという大半の国民の勢いのほうがはるかに強く、デルタ・ベルンのほとんどの国家が天照に建造の経済協力を申し出たくらいなのだ。これには天照に対する忠誠心もあったかもしれないが、このジョーカー初の試みとその影響力に少しでも協力しておいたほうがよしとする風潮だろうか。

島の浮遊後はA.K.D.各国の領事官邸や、中枢となるA.K.D.議会、行政関連の建物には税金とデルタ・ベルンすべての国家の経済協力を仰いでいる。これは当然である。A.K.D.の行政システム関連のものまで天照が勝手に造ることはできないからだ。

浮遊城の真の目的であり、天照が最初と最後に手を着けたのはもちろんミラージュ騎士団に関連するすべてのシステムだ。

ミラージュ騎士団。この天照個人の騎士団はF・E・M・Cこと、「ファースト・イースター・ミラージュ・コーア・東方第1等幻像軍団」と呼ばれる、ある意味での星団最高の騎士団である。皇帝や国家代表が個人の騎士や騎士団をもつことは多々あるが、これほど大規模なものはない。その騎士の数は20名を超え、最新の装備が投入されている。

F.E.M.C.
First Easter Mirage Corps
東方第一等幻像軍団 ミラージュ騎士団



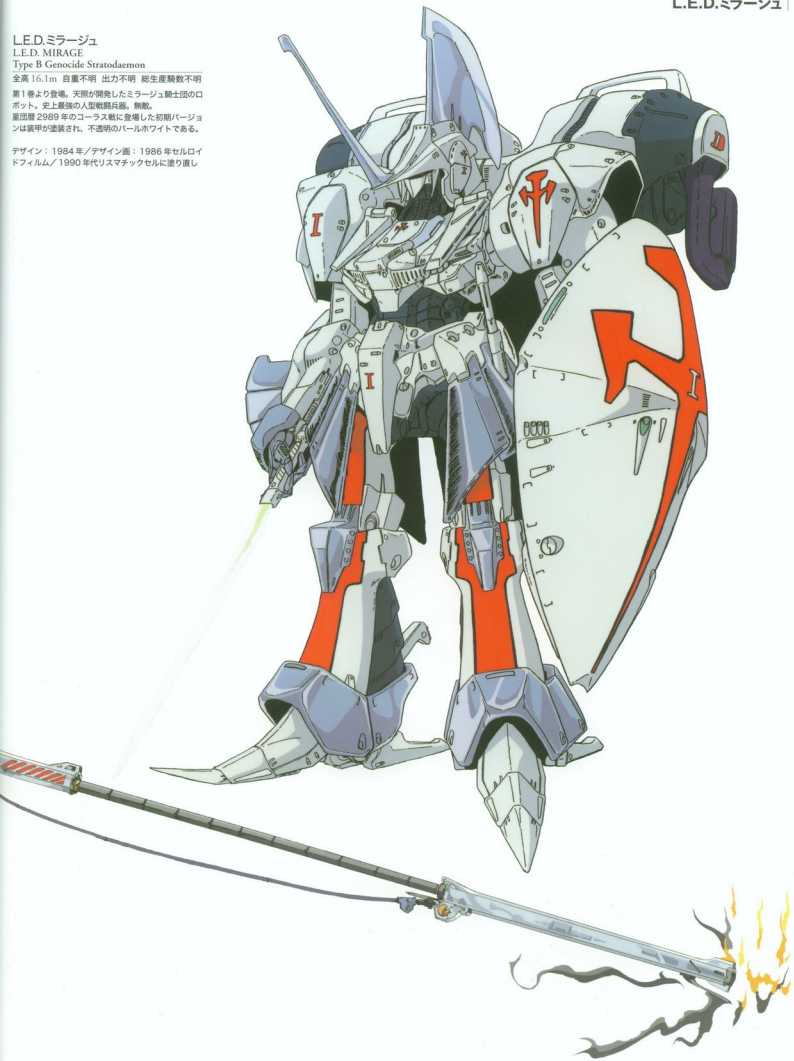
F.E.M.C.
MIRAGE MORTAR HEADD
ミラージュ・モーターヘッド

L.E.D.ミラージュ
L.E.D. MIRAGE
Type B Genocide Stratodaemon

全高 16.1m　自重不明　出力不明　総生産騎数不明

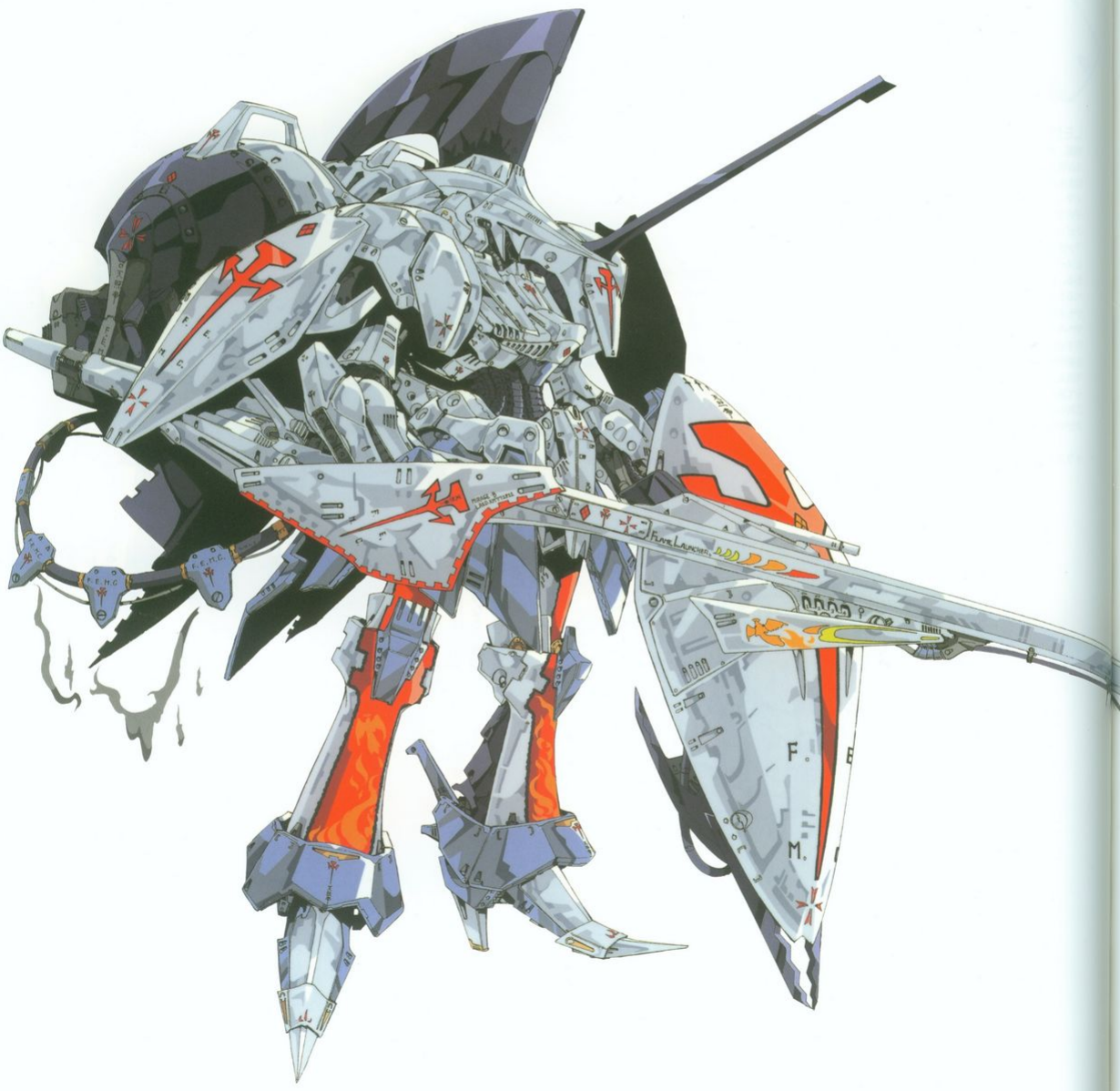
第1巻より登場。天照が開発したミラージュ騎士団のロボット。史上最強の人型戦闘兵器。無敵。
星団暦 2989 年のコーラス戦に登場した初期バージョンは装甲が塗装され、不透明のパールホワイトである。

デザイン：1984 年／デザイン画：1986 年セルロイドフィルム／1990 年代リスマチックセルに塗り直し



L.E.D.ミラージュV3
火炎砲などフル装備状態。装甲を半透明化した3000年以後のバージョン。完成形態。

デザイン画：2000年7月10日リスマチックセル



L.E.D.ミラージュ　装甲内部

頭部、開いたハッチの内側にファティマ・コンソールが見える。これはプラスチック・スタイルに合わせたもので非常に派手な色が付いているが、ファティマ・コクピットは真っ暗なためにあまり関係ない。その下、首のすぐ下に見える鎖骨の真下に騎士のコクピットが見える。他の装甲部分はそうでもないがファティマと騎士のコクピットの周りはかなり補機とメインパーツでぎゅうぎゅうになっているのがわかる。L.E.D.ミラージュの装甲形態は他のMHに比べるとかなり複雑で、硅化半透明装甲もさることながらその内側にある一次装甲は積層された複合装甲やヘキサゴンプレートを多用した重合装甲であったりする。他のMHがこういった複雑でコストのかかる装甲を採用しないのは単にあまり意味がないからである。装甲強度はこれらを採用しているからといって強化されるわけではない。なぜ、L.E.D.にだけこれらの装甲が採用されているかと言えばアマテラスがやりたかったからである。

イラスト：1999年末ごろ

謎の多いMH、L.E.D.ミラージュ

L.E.D.ミラージュの詳細なデータは、実はほとんど公開されていない。その生産数も不明であるが、最大で15騎が同時に戦闘投入されている記録があることから15騎以上のL.E.D.ミラージュが生産されているとわかるのみである。

L.E.D.ミラージュがその姿を現わしたのは星団暦でもわずか7回である。

星団暦2989年

ジュノー星、コーラス・ハグーダ戦争の終盤、3騎のL.E.D.ミラージュと見られるMHが確認されているが、後年発表されたL.E.D.ミラージュとはかなり外見が異なっている。

星団暦3007年

天照家の式典において初めて正式に公開された。

星団暦3159年

天照のアドラー侵攻戦争において15騎のL.E.D.ミラージュが投入。このとき初めてフレームランチャーとフレームユニットが装備され、L.E.D.ミラージュの完成体が登場したことになる。遭遇したすべてのMHを一瞬にして灰にした後、アドラー全星をA.K.D.に編入。

星団暦3199年

ボォス星侵攻作戦において出撃。出撃数は不明。

星団暦3225年

接近するスタント遊星に向けて全騎のL.E.D.ミラージュとヤクト・ミラージュを搭載した戦闘コロニー「ザ・ウィル」が出航。その後何があったのかはまったく不明。

星団暦3238年

カラミティ星侵攻作戦において出撃。出撃数は不明。この戦闘でカラミティ星は爆発。K.O.G.を時間の彼方に失う。

星団暦3960年

ジュノー侵攻作戦において登場。コーラス城を蹂躙し、コーラス王国を壊滅させた後、全星団制圧。

以上、出撃回数は7回である。

しかし、実際に戦闘を行なったのは6回で、星団の民が知るのはここまでである。

L.E.D.ミラージュの概要

イレーザー1051を搭載したL.E.D.ミラージュの推定出力は3兆3千億馬力。星団に登場したすべての戦闘兵器の中でも最大であるが、出力数はあまり強さの基準にはならない。その出力のほとんどはMH戦闘とは別のところで使用されるためにあまり意味のないものとなっている。

そうはいってもまったく同条件で剣を叩き合わせれば出力の大きいほうが相手の剣をはじき飛ばすのだが、MH戦闘はそういう単純な物差しでは測れないために厳密には意味のないことである。

このMHが製作された本当の理由はMH戦闘ではない。スタント遊星からやって来る「あるもの」と戦うだけの兵器が必要だったからである。天照はそのあるものとの戦いを想定し、ミラージュ騎士とファティマの並列演算による戦闘を強化していったのだ。

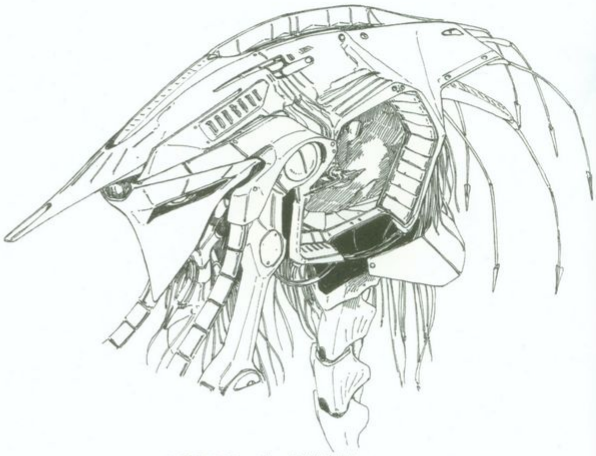
言い替えれば星団でのMH戦闘は「おまけ」でしかなく、敵MHと戦うことにあまり意味がないこともわかっていた。侵略された国家にしてみればこれ以上の侮辱もないが、事実はそういうことであったのだ。

尚、この並列演算を必要としないで単騎で戦っていたのはログナーと剣聖マキシである。

ミラージュ騎士団 ガーメント・スタイル

ミラージュ騎士団のL.E.D.ミラージュ搭乗用の専用ファティマ・スーツである。このスーツはファティマの外見をすべて隠し、個体識別は不可能である。また、密閉スーツのために宇宙空間での使用が想定されていることがわかる。

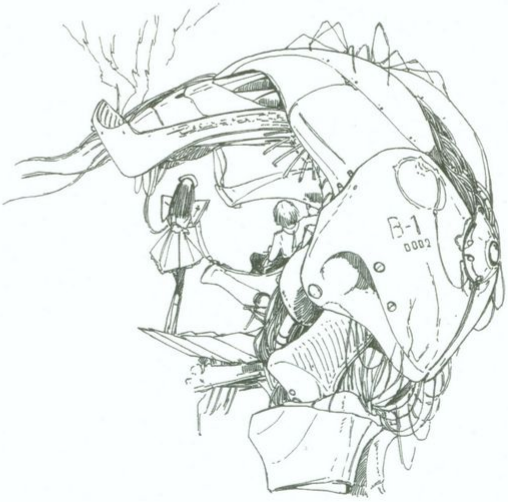
デザイン／デザイン画： 2000年7月10日リスマチックセル



L.E.D.ミラージュ 頭部内部

頭部横に大きく口を開けているのはファティマ・シェルと呼ばれるファティマ・コクピットの筐体である。非常に堅牢に作られており、MHが爆発大破するような場合でもこのシェルだけは無傷である場合も多い。ファティマとMHの制御情報のやりとりは骨のように見えるメインフレーム（竜骨）の中を通り、情報伝達システムを守っている。その外側に何本も見えているケーブルは補記や各部のデータ取得用のケーブルで、乱暴な言い方をすればこういう外部に露出しているケーブル類は戦闘で破壊されてもあまり支障はない。後頭部から伸びているものはK.O.G.等が肩にもつスタビライザーである。

イラスト： 1991年9月18日



L.E.D.ミラージュ 頭部とキール（竜骨）

MHの頭部。竜骨のみで顔のパーツはほとんどない。バクスチュアルとシシスがメンテナンス中だが、ファティマ・コクピットはこのように竜骨にダイレクトに設置されている。ファティマ・コクピットを守る堅牢なシェルを取り外した状態での調整である。

イラスト： 1991年9月18日

ファティマ・バクスチュアル／バシクチュアル
BACSTUAL/BASHIKUSTUAL
身長 165cm　体重 39kg　パランシェ・ファティマ

第6巻より登場。パランシェの開発専門ファティマとして名高い。マスターは基本的に固定せず。彼女の特徴はひとりでも騎ものMHを並行制御できることで、これは彼女以外誰ももっていない特徴である。並列演算能力を強化させてしまうとファティマというよりどその演算能力には限界があり、演算機能と通常の大脳の機能がバニックとなり、精神的に崩壊する。そのためにパランシェは完全な演算生命体として設計した。つまり感情部分が完全にカットされることで大脳機能を安定させたのだ。彼女には感情はない。そのためにファティマの不文律である「ダムゲート・コントロール」は必要なく、彼女には開されていない。しかし、そのMHコントロールは最高の3Aをもつ通り、とてつもない制御能力を示し、天照はその確認のためにミラージュ騎士に彼女を貸し出し、何度も実戦を経験させている。
これは天照が興味でやったことではなく「実戦経験を積んだファティマはその経験に比例して能力を上げる」ということに期待したからである。このバクスチュアルの実戦モードの名前が「ザ・プライド」で、アレクトーをめとる前のアイシャが彼女をパートナーに延々と各地で実戦を繰り返している。アイシャとプライドとホーンド・ミラージュでのMH撃破数は12騎。ログナー、さらにランドやダゲエラン等が実戦でスコアを伸ばして総撃破数38騎というものすごいスコアを残している。

デザイン：1987年／デザイン面：1988年3月セルロイドフィルム

MH開発用のファティマたち

騎士とMHとのインターフェイスとなるファティマはMHの完全制御を行なうが、彼女らの情報処理能力や演算機能は星団のいかなるコンピュータよりも優れている。これは、有機演算生命体ならではの通常のデータ処理による仕事に加えて人間的なひらめきや思いつきによる演算と処理が可能なことによる。

もっとも星団の無機型コンピュータは膨大な規模でのネットワークとファティマ以上のデータを保有するが、単一機能に関して言えばファティマのほうが圧倒的に効率がいいことはよく知られている。

そのために現在ファティマは本来のMH制御以外でもさまざまな場所で必要とされ使われている。

そうは言っても星団法があるために一般社会ではまず使用はされないが、軍の戦闘解析に召喚されたり、戦時中は映像レポートなどの解析や解読に使用されていたりする。通常のコンピュータでは戦争による磁気やショックなどでコンピュータがフリーズしたり、ジャマーや磁気妨害などによる通信障害で戦闘中はネットワーク機能がほとんど使えなかったりすることが多いが、ファティマは全絶しない限りデータの解析が可能だからだ。

そういったMH制御以外の使いかたでファティマが最も重宝されているのが万H の開発である。

騎士の乗るMHはもちろんその騎士のファティマがあらゆる調整を行なうが、国家の開発するMHや騎士団レベルでのMHの調整などには専門のファティマがあたることが多い。これはファティマのMHコントロール能力のレベルに関係なく、国家やMHマイトの要請に応えてファティマ・マイトがファティマを育成中にMHのデータとそれらの関する情報を集中的に与えることによって「MH開発ファティマ」として誕生する。

彼女らはもちろん本来のマスターを選ぶことも可能だが、開発能力のみに重点が置かれていたためにほかのファティマのような戦闘能力や情報安定性などがかなりスポイルされていることが多い。

彼女らはMHが設計される場所や国家直属におかれ、騎士と戦闘に出ることはほとんどない。新型MHの開発や国家騎士団のMHのマイナーチェンジや各種メンテナンスにおいていまだはなくてはならない存在となっている。

彼女ら開発ファティマの主な役目は新型MHのファティマ・コントロールシステムの開発と調整、複雑の騎士とファティマのモニターかっての最適パラメーターの割り出しなどMHが完成してからも彼らの仕事は多い。

開発ファティマの数はあまりなくく、その性質上ほとんどの開発ファティマは男女なのマイトの鈴人りのファティマたちである。しかし、国家によっては通常のファティマが開発、調整用として使用されていることも多い。これは実戦経験を積んだファティマだからこそ可能な開発、調整からであろう。引退した騎士とそのファティマが開発を担当していることが多いのも事実。

しかし、いずれのファティマもMHコントロールシステムを組んで開発調整を行なっていることに変わりはない。

ファティマ・シシス
CIECIESTERKESREM

身長 158cm　体重 39kg　アルミオン・エイポス作

未登場。本当の名はシシステルケスレム。長いのでいつも省略される。マスターは天照で、数多くのミラージュMHの開発に携わり、ミラージュだけではなく手の空いているときはゴーズのMHやA.K.D.各国のMHの改良、チューニングを行なっている。彼女は開発専門のファティマではなく普通のファティマのためパートナーの天照がやると言えば普通にMHでの戦闘もこなす。
ヘッドコンデンサーは調整用の特殊なものである。
……と言ってみる。

デザイン：1991年9月／デザイン画：2005年2月デジタルセル

ファティマ・ヴィッターシャッセ
VITTER SCHASSE

身長 163cm　体重 41kg　バランシェ／天照作

第6巻登場。マスターは天照の帝。彼女はバランシェ・ファティマの13人目であるが、当時の天照がファティマ育成に興味を示していたためにファティマの胚だけをバランシェが造り、天照が18年かけて成長させた。彼女はMH開発専門で基本的な戦闘能力は非常に低く、実戦向きではない。その代わり育成中からミラージュMHの開発データを流し込まれ、L.E.D.ミラージュなどのファティマと騎士のコントロールパラメーターをセッティングしている。開発専門のファティマであるために外に出るためのプラスチック・スーツは必要なく、従来通りのデカダン・ドレスである。今後は天照の星団侵攻とともに捕獲されてくる数々のMHの調査やチューンを行なうことにもなる。シシス同様天照をマスターとするためにほかの騎士とMHに乗ることはない。ただし、シシスもそうだが、調整やテスト時はほかの騎士とMHを制御することもある。これは不思議でも何でもなく、人間の命令に服従することが彼女らの性格だからである。つまりは第1話でのユーバーのように騎士でなくともファティマは服従するが、過酷なMH戦闘となるとマスターと呼ぶ相性が合う騎士でなければ明らかな戦闘力のダウンとなるので通常はマスター以外と組んでMHに乗ることはない。

デザイン：1991年9月／デザイン画：2005年2月デジタルセル

天照家・J型駆逐戦闘兵器
Type J Huge Hauters Stratoweapon
MIRAGE Ausf.J JAGD MIRAGE

データは右の本文参照

通称ヤクト・ミラージュ。初登場は第2巻。
細く見える下半身はそのほとんどが装甲板の固まりである。通常はむき出しのくるぶしやふくらはぎ、膝関節など、すべてが密閉型の装甲パーツで覆われている。巨大さゆえのピンポイント攻撃に対処するためである。
上部装甲は反対に胸関ウスケルトンフレームのままの装甲が目立つ。これらは上半身の重量を軽減し、なおかつバスターランチャーを装備するための取り付けポイントも兼ねているからである。背中後方に伸びているのはスタビライザー。目技を安定させ、過剰エネルギーを放出するためのものである。

デザイン：1985年／デザイン画：1992年12月18日リスマチックセル・原画スキャン不可能のサイズのためポジフィルムをスキャン／2005年デジタル色補正

ヤクト・ミラージュ

ミラージュ騎士団のもつモンスターMHで、バスタ（砲を搭載しない状態でも全高43メートル、戦闘重量402トン。それに2本のバスターランチャーを装備した状態では全高201.8メートル、822トンもの巨体となる。これほどの常識を外れたMHを造出したアマテラスの真意にはL.E.D.ミラージュの開発と同じ意図があった。つまりはいう「まともな」騎士の戦いを無視する、ということであり、情け容赦ない破壊と殺戮を目的に建造されたものであるということだ。

この巨体が発注されたとき星団各国は薄笑いを浮かべた。またアマテラスのMH製造に関わる者たちもそう思ってはいずに。

彼ら直情だけでなく騎士のMH歴史を経験し、現在の肩までの高さが14メートルという大きさに自格を決定した。この14メートルという大きさにはエネルギー効率や騎士の動きとのバランス、そして最も効率よく戦闘ができるサイズとエンジン出力の値なのである。

それを完璧に無視したこの巨大さは、その巨体ゆえの扱いづらさに加え、出力的な問題と戦闘バランスにおいて通常のMH敵ではないと判断されたも無理はない。

彼らは決して間違っていなかった。ジョーカー星団での常識、騎士の戦いを考えればアマテラスの「こんなでっかいMHくもちゃった」という意味以外にはない。

だが、しかし、このMHの恐ろしさはもちに星団すべての人々を恐怖におとしいた。

この巨体がMHと変わらずに軽快に動くということ。それは3倍ちもの破壊力。またこの腕から振り下ろされる武器のリーチのある腕から振り下ろされる武器の破壊力。またこの間隙なく敵MHを軽々と蹴散らせてゆくその姿。そして敵MHの攻撃はその3倍ちもの巨体、つまり3倍以上の装甲厚によって簡単に弾かれてしまうこと。

事実通常のMH剣の攻撃が届くのはこのヤクト・ミラージュの腰までが限界で、その膝までの装甲はこのMHのでも最も厚く作られており、簡単に切断出来るものではなかった。

まして、2本のバスターランチャーは情け容赦なく町を、島を、山脈を跡形もなく吹き飛ばしてしまった。

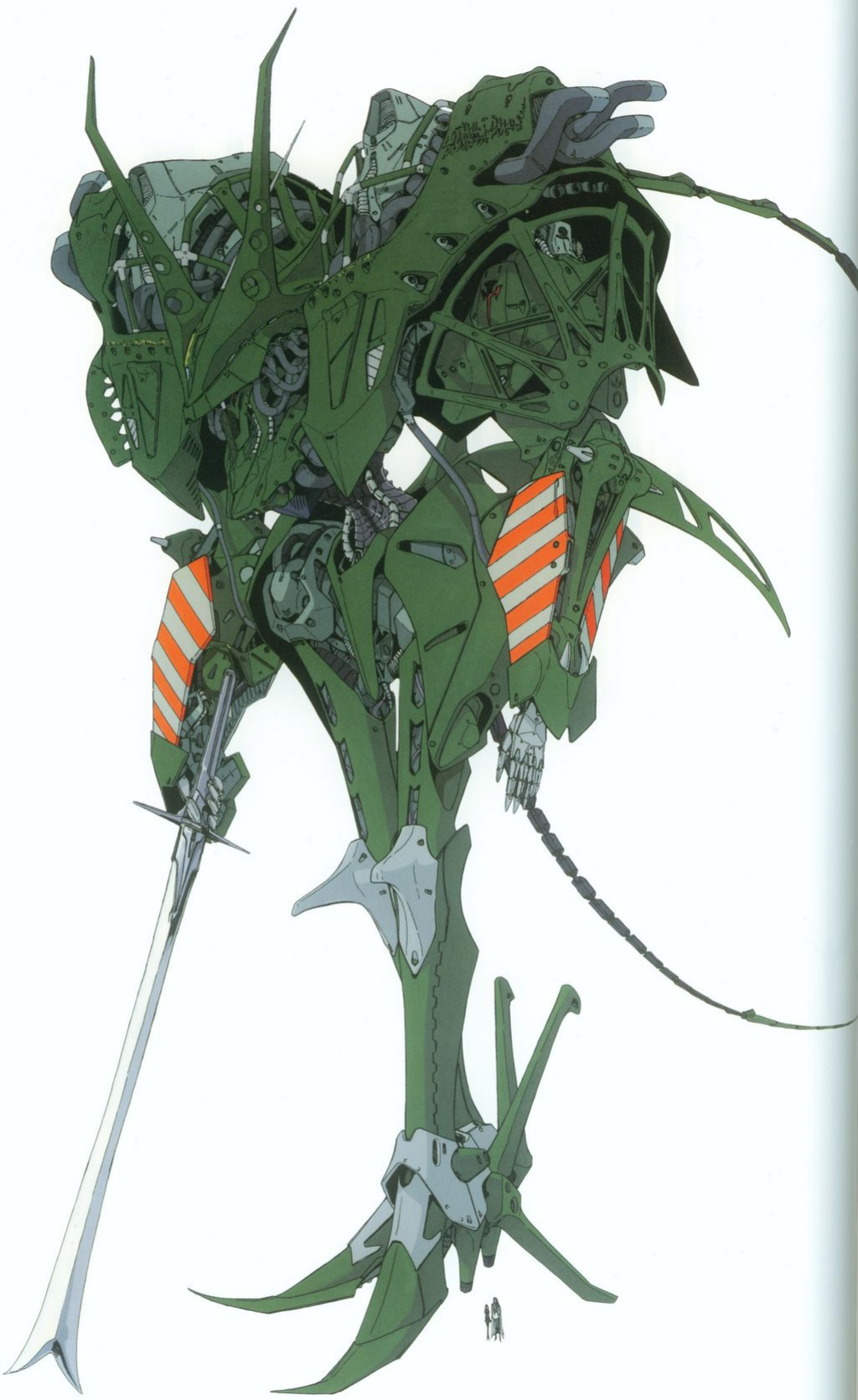
従来の騎士戦闘に対応することも可能だが、このMHの目的は、そんなもの一切合切を星団法無視のバスターランチャーによって灰にすることであったのだ。

それに気が付いたときすでは手遅れで、天照は次々とジョーカー星団をこのMHとL.E.D.ミラージュによって制圧していった。

こういった星団の科学者たちの予想を超えた性能は天照が彼らの想像を超える科学技術をもっているという証明でもあった。しかしそのことはアマテラスがL.E.D.ミラージュを登場させた315年にすでにわかっていたことなのだが、人々はそういった自分の常識の範疇を越えることに関して理解するのに、非常に長い時間がかかるということの証明でもある。

「緑の悪魔」と呼ばれたこの「J型」ミラージュは人類の歴史の中でも希有な存在であった。

生産数は1騎。



フル装備のヤクト・ミラージュ

バスター砲2門を装備したこの状態で軽々と動き回る。しかし、対MH戦闘は多少厳しくなるようで、2騎のL.E.D.ミラージュが必ずサポートに付いている。バスター砲を使用するときは水平になり、戦艦の主砲よりも巨大な移動砲塔となる。周りに浮いているのは周囲警戒用のロボット「エキストラクター」である。同様のものがフロートテンプルの外周警戒用に配備されている

デザイン／デザイン画：1992年12月29日リスマ
チックセル・原画サイズスキャン不可能のサイズのため
ポジフィルムをさらにスキャン／2005年1月デジタル色補正

ヤクト・ミラージュ 脚ブロック

重量軽減のためか装甲各部には大きく穴が開けられ、補強のためにスポークが張ってある。

砲身を跨り上げるダンパーブロック。

副脚
通常は腰のサイドスカートに内蔵されているがバスター砲展開時にはバスター砲の尾部を跨り上げて砲身を水平に持っていく。バスター砲連射時には巨大な杭となり、大地に突き刺さって機体を固定する。
砲身の上下左右はヤクト・ミラージュ本体が行なうため副脚は安定基という役割だ。

通常のMHはこういう関節部分がむき出しとなっているが、ヤクト・ミラージュは装甲で完全にシーリングされている。

ヤクト・ミラージュ 副腕副脚

ヤクト・ミラージュは通常の手足に加えてバスター砲を支持、制御するための副腕と副脚をもっている。副腕は通常时から手首までの背面に隠されて収納されている。主砲を支えるための前腕を展開する場合は上腕部の副腕接続パーツと結合して主砲を支える強度を得る。
副脚は腰の装甲内に通常は隠され、バスター砲を水平展開するときに副脚のかかと部でバスター砲を跨り上げて展開する。展開後は地面に付いて主脚と共に4本足でバスター砲の発射のショックを支える。
副腕副脚共にバスター砲の支持架であり、バスター砲ユニット自体には砲身の上下を行なうモーターなどはない。主砲の照準はヤクト・ミラージュの姿勢制御で行なうために非常に正確かつ素早い照準が可能だ。しかし、バスター砲には照準はほとんど必要ないのも確かだが……。

イラスト：1993年1月2日～4日B4コピー用紙に水性サインペン、水性マーカー着色／2005年1月デジタル色補正

ヤクト・ミラージュ腕ブロック

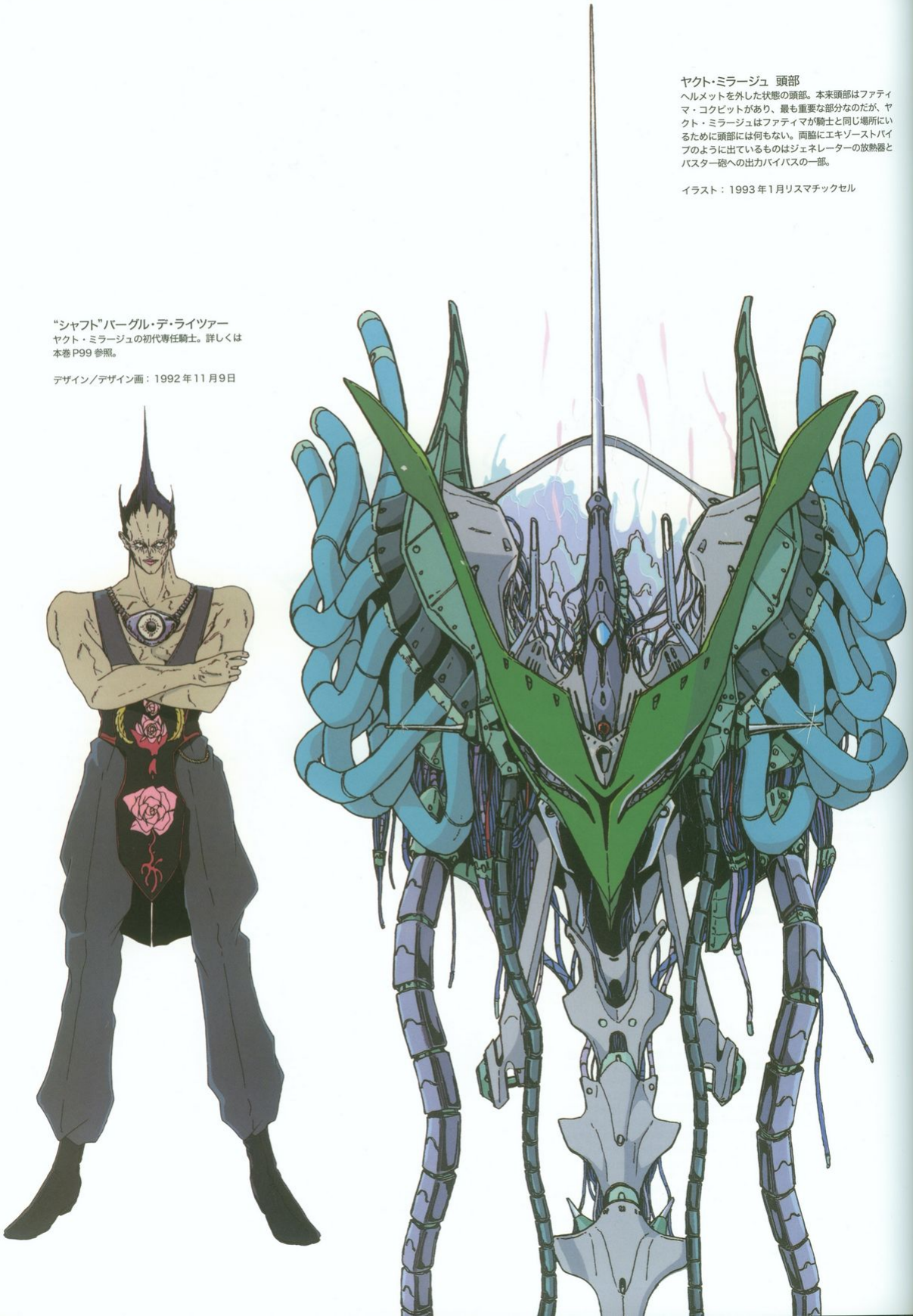
上腕部と肩をつなぐ腕部パワーピストン。非常に強力である。

この赤白の塗り分けは「危険部分」と言う対外的な表示だが、このMHの場合は警戒色といって試作騎やテスト中の物体であることを示すものだ。

副腕は折れ曲がるように赤白部分に収納可能だが、バスター砲展開時には上腕部と結合して固定される。

副腕
通常は巨大なペイルの保持架として使用されるがバスター砲展開時には砲架となる。

巨大な指のために細かい操作が可能なように指先にはピンセットのような小さな指がインサートされ。本のページをめくることも可能だが、まず使われない。



ヤクト・ミラージュ　頭部
ヘルメットを外した状態の頭部。本来頭部はファティマ・コクピットがあり、最も重要な部分なのだが、ヤクト・ミラージュはファティマが騎士と同じ場所にいるために頭部には何もない。両脇にエキゾーストパイプのように出ているものはジェネレーターの放熱器とバスター砲への出力バイパスの一部。

イラスト：1993年1月リスマチックセル

“シャフト”バーグル・デ・ライツァー
ヤクト・ミラージュの初代専任騎士。詳しくは本巻P99参照。

デザイン／デザイン画：1992年11月9日

イレーザーエンジン
この位置にセットされている。

ファンクションタービン
エネルギーを電気化したりジェネレーターに戻したりする機関部。

スタビライザー
イレーザーエンジンに直結し、過剰エネルギーのドレインを行なう。

キャタライザー
MH機動とは別にバスター砲にバスターエネルギーを送り込むための減速機。

エネルギーバイパス
ここを通って顔の脇に付けられている12本のエキゾーストで排出される。

竜骨
ヤクト・ミラージュの背骨。各関節のジョイントを外して恐竜の首のように伸びる。大腿部まで続く。

コクピットホール
通常のMHはこのコクピットすぐ下にエンジンがあるが、ヤクト・ミラージュは何もないために巨大な副操型コクピットが収容されている。

肩の関節部分はここまで胸と離れてセッティングされている。バスター砲のちょうど真下に位置し、巨大なバスター砲を砲架ごと支える。

副腕と上腕を繋いだり離したりするクラッチ。

副腕基部

まるで恐竜の如く伸び縮みする竜骨のためにこの腹部に遊びのためのスペースが切ってある。MHはこの蛇腹状の腹部の中は竜骨しかないがヤクト・ミラージュも同じだ。

副脚基部

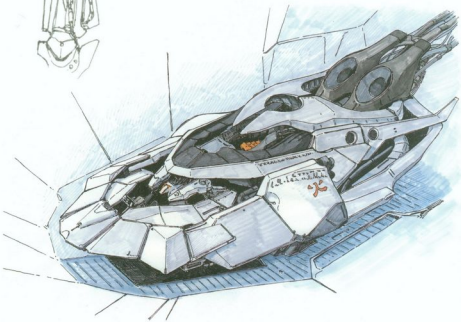
腕部
腕部はこの通り何もなく、補助火器がインサートされることもあるが、手首を駆動させるためのパワーピストンだけである。

大腿部関節
竜骨の終点、大腿部関節である。最も頑丈に作られている。

大腿部基部・腰ブロック
恐ろしく複雑な大腿部基部と腰ブロック。複雑だが非常に堅牢に作られている。MH自体がバスター砲の砲架のためにここにはすさまじいストレスがかかる。通常MHは腰の竜骨がシングルパーツなのだがヤクト・ミラージュはダブルパーツである。

ヤクト・ミラージュ　内部構造
MHの基本的な内部構造に関しては「DESIGNS」次巻に詳しい。右側が駆動部を付けた状態。左側が「竜骨」と呼ばれるMHのメインフレームである。

イラスト：1993年1月水性サインペン



ヤクト・ミラージュ　コクピット
ヤクト・ミラージュはコクピットも通常のMHのものとは異なる。それはコクピットスペースが広く、騎士とファティマ2人分のスペースが確保され、騎士のコントロールユニットのすぐ上にファティマのコントロールがある。この一体型コクピットはファティマが情報制御だけではなくMHのコントロールをある程度受け持つことが前提にあり、MHの動きとバスター砲の制御を同時にこなすために騎士側のコントロールと一部シンクロしている。これもヤクト・ミラージュだけに見られる特殊な設計だ。

イラスト：1993年1月B4コピー用紙に水性サインペン、水性マーカー着色／2005年1月デジタル色補正

ビラルケマ・レーザーマシンガン
地上蹂躙用のレーザーマシンガンで戦艦の主砲に近い威力をもつ。これの連射だけで大半の町は跡形もなく吹き飛ぶが、使いすぎるとバスター砲に回すエネルギーが危なくなる

バスター砲身
現時点で星団最大のサイズと威力を誇る。勘弁してください。

チェインカートリッジ装甲カバー
本当はないほうが軽くなっていいのだが、描くのが大変なので付けているのだ！

センターポール
リヒテンシュタイン型のアンテナはバスター砲の連射による通信妨害と測定妨害を補佐するもので、周りに浮遊するエジェクターと連動して正確なデータを本体に送る。

サーマルジャケット
長い砲身は基本的にワンピースで製造されているために外気温度によって曲がったり伸縮したりする（と言っても人間ではわからないくらいわずかの狂いであるが）。そのため、サーマルジャケットと呼ばれる砲身の外套を巻き付け、そのわずかな狂いすら出ないように砲身を外気温度から守っている。すべてのバスター砲やMHのもつ大砲はこのサーマルジャケットが付けられているはずである。

バスターランチャー（副砲）
信じられない話だがこの小さなバスター砲はK.O.G.のもつバスター砲と同サイズで、その名の通り主砲が使えないときなどに使用する。

チェインカートリッジ
片側22発のバスターカートリッジを収納する巨大な弾倉。チェーンで駆動主砲に送られていく。

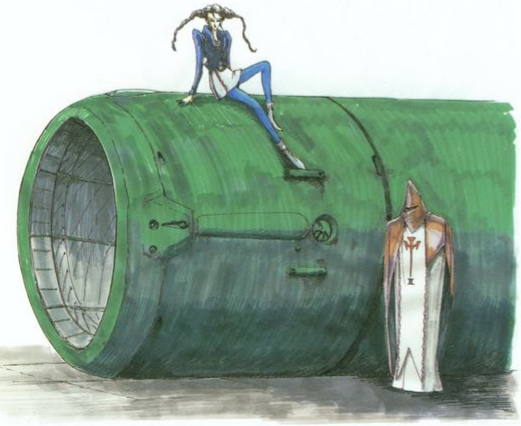
ヤクト・ミラージュ バスターランチャーユニット
バスターランチャーユニットは2門の主砲とバスターカートリッジの弾倉、左側の主砲の脇に副砲のバスターランチャー。そして蹂躙兵器のビラルケマ・レーザーマシンガンが背面にセットされている。
通常バスターランチャーはどれほど出力に余裕があっても次弾のエネルギーチャージに時間がかかるが、ヤクト・ミラージュは44連発の連続発射が可能である。これはバスターカートリッジという砲弾のようなものにバスターエネルギーの触媒を凝縮し、素早いエネルギーチャージを行なうことが可能となったのだ。このカートリッジは使い捨てとなる。副砲として装備されている小さなバスターランチャーが実は通常サイズのバスターランチャーであることがこの主砲の巨大さを物語る。

イラスト：1991年8月B4コピー用紙に水性サインペン、水性マーカー着色／2005年1月デジタル色補正

チェインカートリッジ
駆動モーター

バスターカートリッジ
44連発の砲撃が可能なバスターカートリッジの撃ち殻。

リフレクター・スカート
バスター砲のすさまじい砲撃によるエネルギーの衝撃と爆風から本体を守るためのもの。またバスター砲のドレインエネルギーを後ろに逃がすためにも使われる。



ヤクト・ミラージュ バスター砲口
直系2mもある砲口は人が立って通り抜けられるほど巨大である。砲身の中は不安定なバスター砲弾を少しでも安定させるための回転を付けるためにポリゴンパレルと呼ばれるアールのついた8角形となっている。砲身にあるのはエネルギー制御のキャタライザー端末と測定装置。上に乗っているのは成長したタイトネイブ。横にいるのはクラックというミラージュ騎士である。

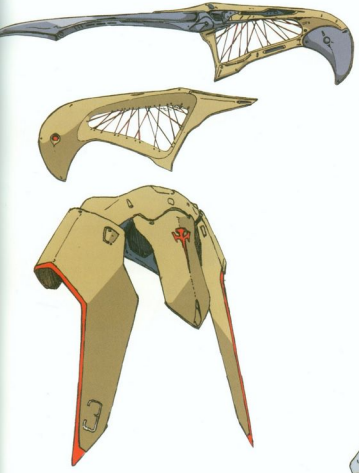
イラスト：1993年1月水性サインペン

カルバリィC（暫定型式）
CALVARY C
Type C MIRAGE

全高 16.3m 自重 132t

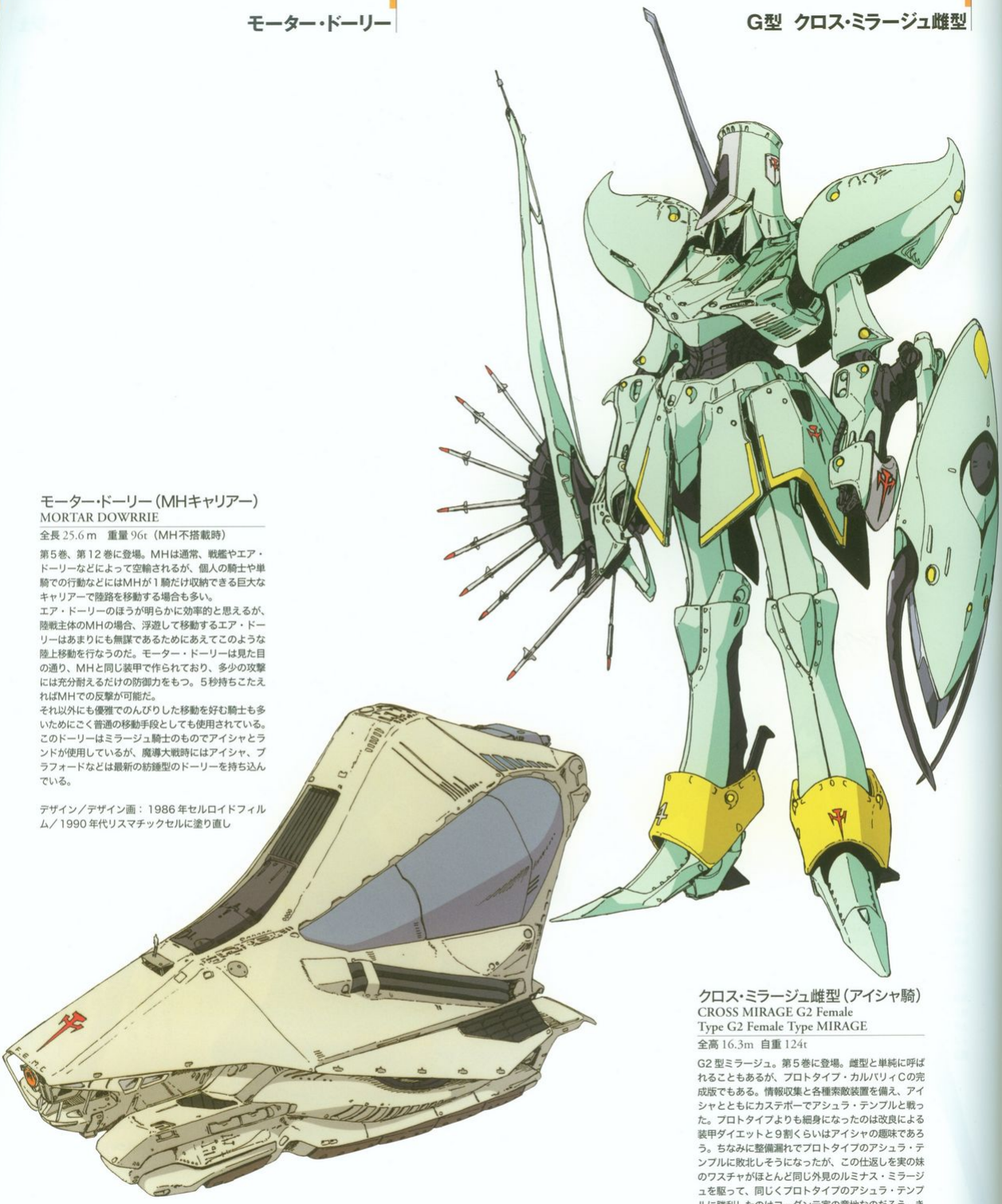
C型ミラージュの暫定型式。
第2巻に登場。クロス・ミラージュのプロトタイプで2989年実戦テストを兼ねてミラージュ騎士のディッパが使用した。
軽快な装甲に索敵システムと「ビヨンド・シーカー」という偵察ロボットを長い頭部に収納し、敵の情勢を探るには非常によくできたMHである。その後、フロートテンプルに戻り、クロス・ミラージュへと換装された。
製作数は2騎。

デザイン：1985年／デザイン画：1986年セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し



カルバリィC パーツ
第3話でディッパのカルバリィCの装備していた盾と背面スカート。
盾は防御だけでなく攻撃にも使用されるのは常だが、カルバリィCの盾はジャックナイフ状の剣が収納されほぼ主力武器として使用されていた。
これらのイラストはMHのキャラクター商品を製作する際、モデラーたちの要望によって描き起こされたもの。で作品集などに収録されていないものがかなりある。今回はそう言ったものも含めてここに収録してある。

デザイン画：1988年3月／2005年デジタル彩色



モーター・ドーリー（MHキャリアー）
MORTAR DOWRRIE

全長 25.6m　重量 96t（MH不搭載時）

第5巻、第12巻に登場。MHは通常、戦艦やエア・ドーリーなどによって空輸されるが、個人の騎士や単騎での行動などにはMHが1騎だけ収納できる巨大なキャリアーで陸路を移動する場合も多い。
エア・ドーリーのほうが明らかに効率的と思えるが、陸戦主体のMHの場合、浮遊して移動するエア・ドーリーはあまりにも無謀であるためにあえてこのような陸上移動を行なうのだ。モーター・ドーリーは見た目の通り、MHと同じ装甲で作られており、多少の攻撃には充分耐えるだけの防御力をもつ。5秒持ちこたえればMHでの反撃が可能だ。
それ以外にも優雅でのんびりした移動を好む騎士も多いためにごく普通の移動手段としても使用されている。このドーリーはミラージュ騎士のものでアイシャとランドが使用しているが、魔導大戦時にはアイシャ、ブラフォードなどは最新の紡錘型のドーリーを持ち込んでいる。

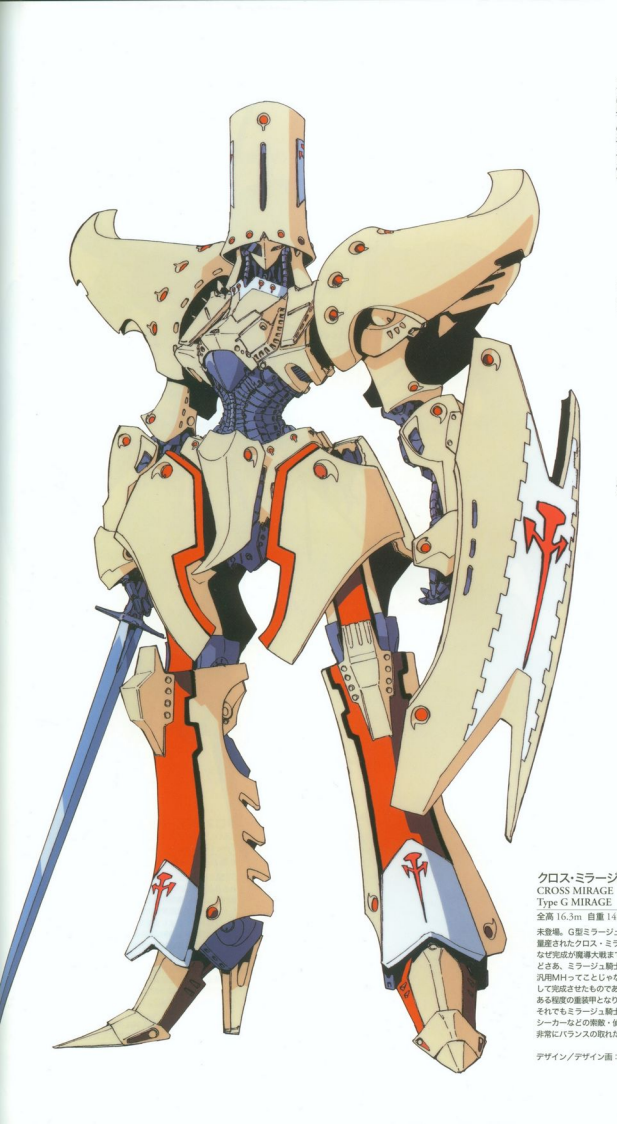
デザイン／デザイン画：1986年セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

クロス・ミラージュ雌型（アイシャ騎）
CROSS MIRAGE G2 Female
Type G2 Female Type MIRAGE

全高 16.3m　自重 124t

G2型ミラージュ。第5巻に登場。雌型と単純に呼ばれることもあるが、プロトタイプ・カルバリィCの完成版でもある。情報収集と各種索敵装置を備え、アイシャとともにカステポーでアシュラ・テンプルと戦った。プロトタイプよりも細身になったのは改良による装甲ダイエットと9割くらいはアイシャの趣味であろう。ちなみに整備漏れでプロトタイプのアシュラ・テンプルに敗北しそうになったが、この仕返しを実の妹のワスチャがほとんど同じ外見のルミナス・ミラージュを駆って、同じくプロトタイプのアシュラ・テンプルに勝利したのはコーダンテ家の意地なのだろう、きっと。

デザイン／デザイン画：1991年8月20日リスマチックセル／2005年3月セル画劣化および色変更のためデジタルセルに塗り直し



ミラージュ・マシン

ミラージュ騎士団のMH

天照はミラージュ騎士団のMHを作り続けている。ミラージュ騎士団の正式なMHはもちろんL.E.D.ミラージュであるが、L.E.D.ミラージュは殲滅侵攻作戦以外では使用されないため、個別の各騎士の作戦行動のために汎用性をもちつつ、各使用目的に合わせたMHを趣味で設計していた。

当初は非常にたくさんのバリエーションが存在していたらしいが、現在のラインナップは以下の通りである。

B型　L.E.D.ミラージュ　殲滅圧倒殺戮
C型　プロトタイプ　偵察　2騎のみ存在
D型　K.O.G.　ディステニー・ミラージュ
D2型　K.O.G.－AT
G型　クロス・ミラージュ　汎用
G2型　クロス・ミラージュ　趣型　偵察索敵
H型　テルル・ミラージュ　隠蔽悪天候
J型　ヤクト・ミラージュ緑　駆逐
J型　ヤクト・ミラージュ燈　駆逐
S型　スピード・ミラージュ　ヴンダーシェッツェ
S2型　ステージ1－3　スピード・ミラージュ　殲滅圧倒殺戮
ヴォルケシェッツェ

これ以外にも実際には存在するがフロートテンプルの地下でいつになったら天照が組み立てるのか完成するのかわからないものが多すぎ、天照本人でさえすべてを掌握していない。

「上半身はかっこいいんだけどな」、下半身がな」

とか言って放置されたままのMHいかに多いか。性能なんてどうでもいいみたいである。

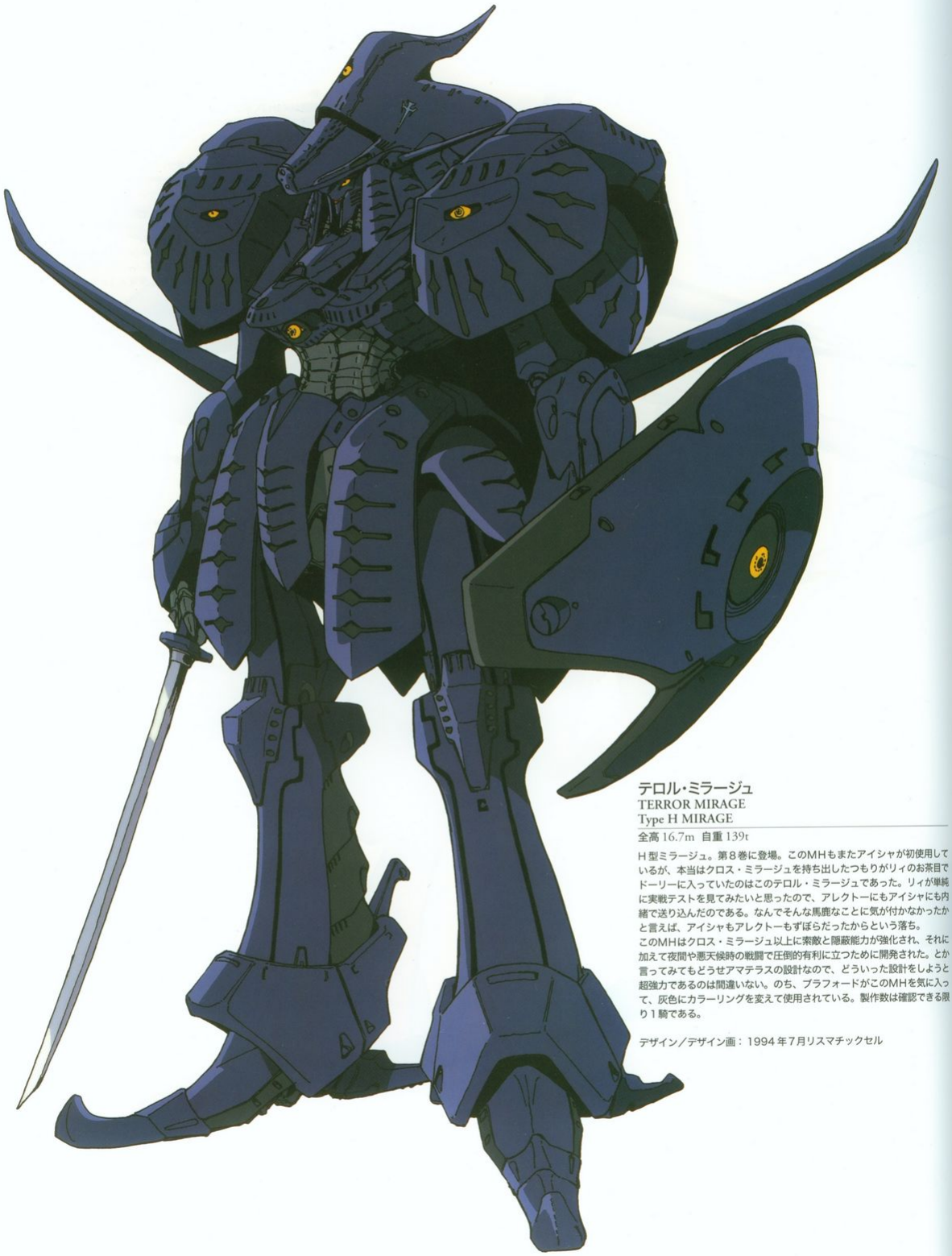
魔導大戦勃発後、E型とされていたヤクト・ミラージュは手型に、G型であったテロル・ミラージュはH型に、クロス・ミラージュはC型からG型とG2型が派生したのかは完全な謎とされていた。天照も「あれ？これでよかったんだっけ？」と、言っていたくらいだから。しかし、真実はこの型番変更をやったのはを隠そう娘のカレンで、56億年後に天照にばれて思いっきり怒られた。

クロス・ミラージュ
CROSS MIRAGE
Type G MIRAGE

全高 16.3m　自重 148t

未登場。G型ミラージュ。
量産されたクロス・ミラージュでミラージュ騎士が最も使用するMHである。なぜ完成が魔導大戦まで遅れたかと言えば、「いろんなMH考えてたんだけどさあ、ミラージュ騎士ってさあ、ほとんど隠蔽作戦ばっかで隠蔽用MHが汎用のMHってことじゃない」とよりやく気付いたアマテラスが汎用MHとして完成させたものである。あらゆる戦闘と作戦にストレスなく戦うために、ある程度の重装甲となり、MHサイレンと同様の堅牢さをもつMHとなった。それでもミラージュ騎士の個人行動を前提に作られているために、ビヨンドシーカーなどの索敵・偵察システムは外されずに装備されている。非常にバランスの取れた出来のよいMHだ。

デザイン／デザイン画：2001年3月リスマチックセル



テロル・ミラージュ
TERROR MIRAGE
Type H MIRAGE

全高 16.7m 自重 139t

H型ミラージュ。第8巻に登場。このMHもまたアイシャが初使用しているが、本当はクロス・ミラージュを持ち出したつもりがリィのお茶目でドーリーに入っていたのはこのテロル・ミラージュであった。リィが単純に実戦テストを見てみたいと思ったので、アレクトーにもアイシャにも内緒で送り込んだのである。なんでそんな馬鹿なことに気が付かなかったかと言えば、アイシャもアレクトーもずぼらだったからという落ち。
このMHはクロス・ミラージュ以上に索敵と隠蔽能力が強化され、それに加えて夜間や悪天候時の戦闘で圧倒的有利に立つために開発された。とか言ってみてもどうせアマテラスの設計なので、どういった設計をしようと超強力であるのは間違いない。のち、ブラフォードがこのMHを気に入って、灰色にカラーリングを変えて使用されている。製作数は確認できる限り1騎である。

デザイン／デザイン画：1994年7月リスマチックセル

スピード・ミラージュ ヴンダーシェッツェ
SPEED MIRAGE Wunder Schätze
Type S MIRAGE

全長 36m（バスター砲含む）全高 9.4m　自重 110t

第3巻に登場。ドイツ語でヴンダーシェッツェ「不思議な宝物」という意味のMH。アマテラスが星団すべてを支配してから製作されたMHで、宇宙用の高機動MHである。
L.E.D.ミラージュの宇宙空間での作戦行動をサポートするために作られ、手足が省略され、主砲のバスターランチャーが固定装備となり、脚部はスキッド状となっている。通常の大気圏内でもその機動性は生かされ、MHの対空攻撃もなんなく対処する。そうは言っても特殊なMHのために対地でのMH戦闘は不可能だ。スピード・ミラージュのS型という型番は星団暦4100年ごろに与えられたもので、3030年現在ではまだ存在していない。ヴンダーシェッツェのツバメのような美しい飛翼は次のヴォルケシェッツェのモーフィング機能を持った装甲素材で作られており、可変翼で、翼の形自体が変形するために大気圏内ではドラゴンの翼のような巨大な飛翔翼となるが、スピードに合わせて大きさは変化する。

デザイン：1987年／デザイン画：1988年セルロイドフィルム／2005年セル劣化のためデジタルセルに塗り直し。色を白に変更
2005年、以前「ワンダースカッツ」と呼ばれていた名称をスペル通りのドイツ語読みに統一「ヴンダーシェッツェ」と変更

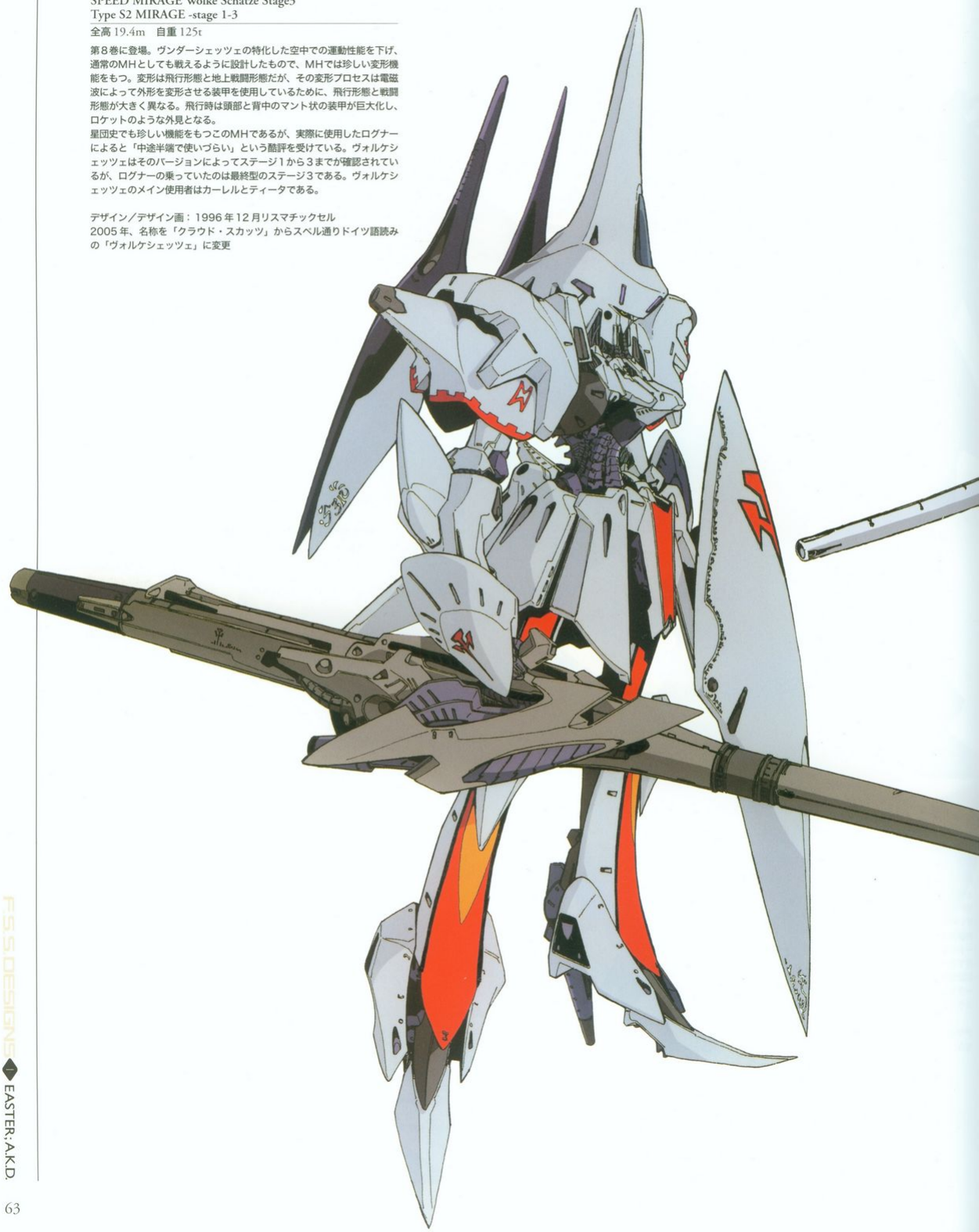
スピード・ミラージュ ヴォルケシェッツェ・ステージ3

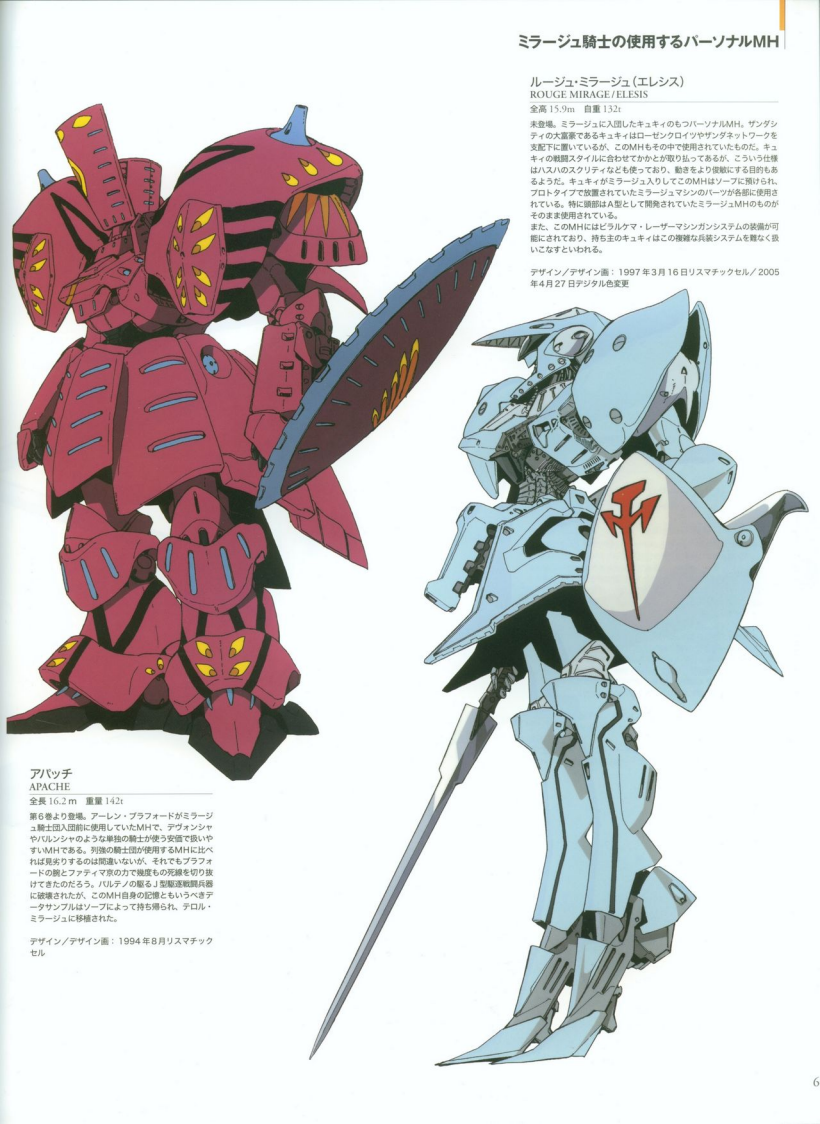
SPEED MIRAGE Wolke Schätze Stage3
Type S2 MIRAGE -stage 1-3

全高 19.4m　自重 125t

第8巻に登場。ヴンダーシェッツェの特化した空中での運動性能を下げ、通常のMHとしても戦えるように設計したもので、MHでは珍しい変形機能をもつ。変形は飛行形態と地上戦闘形態だが、その変形プロセスは電磁波によって外形を変形させる装甲を使用しているために、飛行形態と戦闘形態が大きく異なる。飛行時は頭部と背中のマント状の装甲が巨大化し、ロケットのような外見となる。
星団史でも珍しい機能をもつこのMHであるが、実際に使用したログナーによると「中途半端で使いづらい」という酷評を受けている。ヴォルケシェッツェはそのバージョンによってステージ1から3までが確認されているが、ログナーの乗っていたのは最終型のステージ3である。ヴォルケシェッツェのメイン使用者はカーレルとティータである。

デザイン／デザイン画：1996年12月リスマチックセル
2005年、名称を「クラウド・スカッツ」からスペル通りドイツ語読みの「ヴォルケシェッツェ」に変更





ルージュ・ミラージュ（エレシス）
ROUGE MIRAGE/ELESIS

全高 15.9m　自重 132t

未登場。ミラージュに入団したキュキィのもつパーソナルMH。ザンダシティの大富豪であるキュキィはローゼンクロイツやザンダネットワークを支配下に置いているが、このMHもその中で使用されていたものだ。キュキィの戦闘スタイルに合わせてかかとが取り払ってあるが、こういう仕様はパスハンのスクリティなども使っており、動きをより俊敏にする目的もあるようだ。キュキィがミラージュ入りしてこのMHはソーフに預けられ、プロトタイプで放置されていたミラージュマシンのパーツが各部に使用されている。特に頭部はA型として開発されていたミラージュMHのものがそのまま使用されている。
また、このMHにはビラルケマ・レーザーマシンガンシステムの装備が可能にされており、持ち主のキュキィはこの複雑な兵装システムを難なく扱いこなすといわれる。

デザイン／デザイン画：1997年3月16日リスマチックセル／2005年4月27日デジタル色変更

アパッチ
APACHE

全長 16.2 m　重量 142t

第6巻より登場。アーレン・ブラフォードがミラージュ騎士団入団前に使用していたMHで、デヴォンシャやバルンシャのような単独の騎士が使う安価で扱いやすいMHである。列強の騎士団が使用するMHに比べれば見劣りするのは間違いないが、それでもブラフォードの腕とファティマ京の力で幾度もの死線を切り抜けてきたのだろう。バルテノの駆る J 型駆逐戦闘兵器に破壊されたが、このMH自身の記憶ともいうべきデータサンプルはソーフによって持ち帰られ、テロル・ミラージュに移植された。

デザイン／デザイン画：1994年8月リスマチックセル

マイティα 暁姫
MIGHTYα AKATSUKIHIME

全高 16.2m　自重 119t

第11巻に登場。使用者はマキシ。
でたらめなくらいにピーキーな操縦性と運動性能をもつ暁姫はほかのマイティシリーズと比べてわかるように装甲がほとんどないと言っていいに等しいくらい薄い。これはマキシの駆るMHに剣をあてられる騎士はいないということで、運動性よりもマキシが好き勝手に動き回れるように調整されているからだ。

デザイン／デザイン画：1999年2月10日リスマチックセル／2000年6月デジタル色修正、原画のオレンジからピンクへ変更、ミラージュマーク追加

マイティγ 彗王丸
MIGHTYγ SUIOUMARU

全高 17.1m　自重 140t

使用者はジャコー。基本的にジャコーはこのMHをメインに使用し、それ以外のミラージュMHには搭乗していないようだ。

デザイン／デザイン画：1999年2月10日リスマチックセル／2000年6月デジタル色修正、ミラージュマークを追加

マイティβ 雷丸（バビロンズ）
MIGHTYβ IKAZUCHIMARU

全高 16.0m　自重 149t

ダイアモンド・ニューがフロートテンプルからかっぱらってきたL.E.D.ミラージュのエンジン3基を使用して開発したのがマイティシリーズだが、そのうちの1騎はログナーに渡され、個人的なMHとして使用されている。重装甲に黒い独特の雰囲気をもったMHである。

デザイン／デザイン画：1999年2月10日リスマチックセル

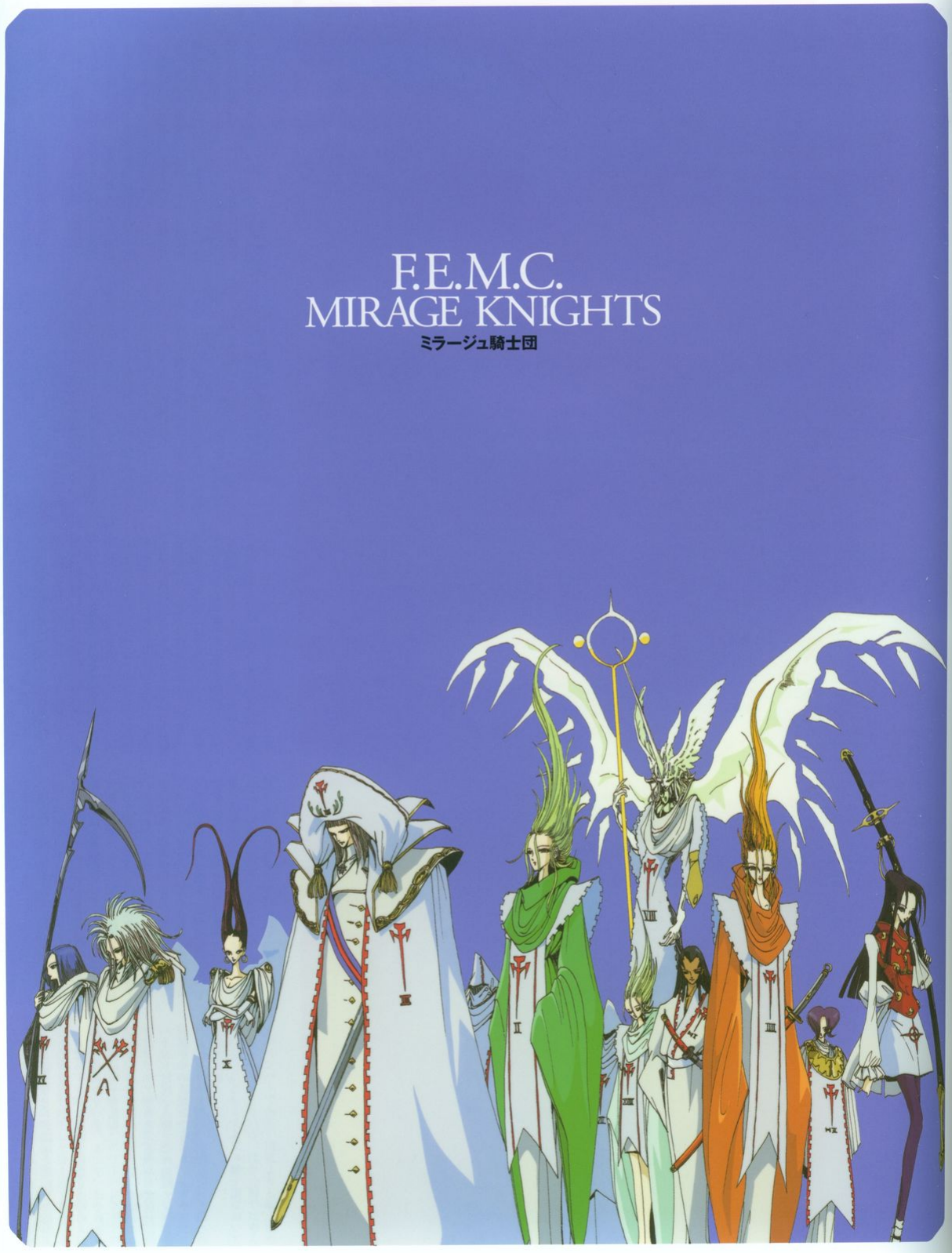
＊注：この3騎については「DESIGNS」次巻に詳しい。

ミラージュ騎士団のメンバーたち
左より、バナール、ジャコー、キンキー、スパーク、カイダ、ログナー、ブローズ、アイシャ、メナー、ルン、スペクター（上・本体）、ブラフォード、斑鳩、キュキィ、マキシ。もちろん全メンバーではない。

イラスト：1998年7月リスマチックセル

F.E.M.C.
MIRAGE KNIGHTS

ミラージュ騎士団



ミラージュ騎士団

ミラージュ騎士団とは国家や団体に属する騎士団ではなく、天照の帝個人のもつ個人騎士団である。

従って連団はすべて天照の個人財産からなるが、その予算はゆうに列強一カ国の国家予算に匹敵すると言われる。その金額を平気で捻出できる天照の経済力などの想像できないレベルである。

連団は当代引退代表が天照ひとりの個人決断によって行なわれ、他のいかなる組織や機関の干渉も受けない。そのミラージュ騎士団の使用する施設、M.I.、その開発から運用に至るすべての機関、さらには付随する軍用規模の組織が、グリース王国、天照王朝、デルタ・ベルン、A.K.D.から完全に独立して運営されている。

ミラージュ騎士団のメンバーはそれぞれが騎士団長レベル、国家剣指南役と言われるほど強力なメンバーが集まり、全星団から恐れられている。

何とでも言える最終的には騎士はおろかフアティマや全員人までがメンバーとなっているのだからこれに論は無いはずだ。

騎士団は右翼と左翼に分けられ、右翼がファルク王、左翼が斑鳩王子によって統制されている。

ファルク王所属の右翼はオレンジライトとも呼ばれ、騎士団の表の顔であり、メンバーも全員が相応の名声や知名度をもっているが、斑鳩王子率いる左翼のグリーンレフトは裏の顔と断言できる。この左翼こそ天照の直体であると言い切る政治家も多いが、天照にとって善悪、両者ふ人なじることこそが安定であるとの意志からだろう。

左翼のメンバーはそれこそ殺人者、暗殺者、国家を追われた者、政断指手配犯罪者、亡命騎士、など、およそ人生の表街道から外れたような騎士ばかりである。

それ故に非常に強力な騎士が多く、天照やリンスの裏の政策や活動で暗躍している。

ミラージュ騎士団は一部の者を除いて天照に忠誠を誓っている。その忠誠がなくなり、薄まったときは退団、つまり死を意味し、抹殺される。

そのリスクの代わりに騎士たちは天照の代理としてあらゆる権力を与えられ、ミラージュ騎士ひとりが国家をA.K.D.を動かすことも可能だ。

右翼はナンバーは騎士団設立当時のメンバーとは異なり、2、3、7、はそれぞれ2代目の騎士である。

旧ナンバー2はダグエラン。3はメルカ。7はガルシアである。6のハーマンと10のハインドは同一人物でこれ以降ナンバーは引継をめぬ新規となる。アイシャやラハンドが古いナンバーをもつ割には若いのはこのためである。

大統あたりを境に「まとたな」騎士の参入が増える。

そして2つに分かれていた騎士団は統合され、ナンバー24のフォレットからひとつになる。これはなぜかと言えば、3159年の星団大侵攻によってミラージュ騎士団自体が星団にとって恐怖の存在となり、もはや左翼である以上の悪徳と恐怖を指すことばとなったためである。2つに分けた意味がなくなったからだ。

ミラージュ騎士団は一部の者を除いて天照に忠誠を誓っている。その忠誠がなくなり、薄まったときは退団、つまり死を意味し、抹殺される。

ミラージュ騎士団全メンバー

歴代No.1

剣聖ディモス・ハイアラキ
剣聖ダグラス・カイエン
ジャコー・クォン・ハッシュ
ミス・マドラ
剣聖マキシ

左翼 レフトNo.		右翼 ライトNo.
“シャフト”バーグル・デ・ライツァー	2	アイシャ・ルーマー（コーダンテ）女王
ティン・バイア（クー・ファン・シー・マ）王子	3	ランドアンド・スパローン公爵
斑鳩王子	R-4	ファルク・U・ログナー　バビロン王
ヒューズ・カーリー	5	グラント・ライム公爵
クロークル・ハーマン	6	クロークル・ハーマン
“バイソン”エイトリアン・ターク	7	リィ・エックス・アトワイト公爵
ミューリー・キンキー王女	8	スペクター
ベスター・“クローズ”・オービット公爵	9	ディッパ・トロップス博士
“スパーク”ピッキング・ハリス／マドラ・モイライ	10	ハインド・キル
メイザー・ブローズ	11	レオパルト・クリサリス公爵
バイズビズ	12	ウラッツェン・ジィ
バーナー・ダウド	13	ボエシェ・ノーミン
プリンセス・タイトネイブ出張ミラージュ騎士	14	シャーリィ・ランダース
パナール・リィ・エックス・アトワイト王女	15	ビョトン・コーララ
シトロン・フリーズ・メナー王女	16	ステートパルロ・ルーン
エイブ・ロウ	17	ヌー・ソード・グラファイト
エルディアイ・ツバンツ七（スペック）	18	イマラ・ロウト・ジャジャス王女
ライキッド・オーシャン	19	ミシャル・ハ・ルン
バゴナ・ヘルバート	20	ヨーン・バインツェル
ワスペン・クラック	21	アーレン・ブラフォード
剣聖ベルペット	22	剣聖マキシ
	23	キュキィ・ザンダ・理津子
	24 ターストワイス・フォレット	
	25 ユーバンドラ・ライム公爵	
	26 メロウ・クリサリス公爵	
	27 ヨッヘンマ・ビストーチ	
	28 サトバイ・シュレスコルハール	
	29 ベルトバード・ゴドラ	
	30 ルート・コーダンテ天照親王	
	31 ウピゾナ・バーデンバーグ	
	32 カーレル・クリサリス公爵	
	33 アラート・リィ・エックス	
	34 ヴィクトリー	
	35 レディ・スペクター	
	36 ザ・タワー	

＊騎士団のNo.は顔問や名誉的なナンバーで正式にミラージュ騎士としての活動をしているわけではない。さらに流動的で時代によって入れ替わる。
また、No.はリーダー、もしくは総指揮官で、R4と表記される。3010年にログナーが死亡し、再生している魔導大戦の頃は斑鳩王子が騎士団総司令官であった。以前存在したローマ数字風のナンバリングは魔導大戦から使用されていない。
さらにミラージュマークも付けていない騎士が増えるが これはハスハ介入という テリクートな問題をクリアするためのようである。

MIRAGE KNIGHTS

ORANGE RIGHT

ミラージュ騎士団右翼 オレンジライト

ミラージュ騎士団とは通常このオレンジライトと呼ばれる右翼大隊のことを指す。A.K.D.ではなく、天照と天照王朝の顔ともいえる騎士団で、全員が天照に永世の忠誠を誓っている。

物語中でも天照が言う通り、天照の帝の代理人として天照王朝ほぼすべてを取り仕切る権力と富、名声、力が与えられる。力とは騎士の装備のことでMHを含む戦闘兵器、第7巻でのルンを見ての通りA.K.D.軍隊を率いることができる指揮権など、およそ考えられるほとんどの権力をミラージュ騎士団メンバーひとりひとりがもつ。

それだけの権力を実際にメンバーに与えるからにはそれ相応の義務もある。すべては天照のために、みずからの命も人生も生活も天照に捧げるということなのである。

彼らは皆天照のひと言で一国を滅ぼし、死ねと言われればみずからの命を絶つであろう。また、それを平気な顔で言い放つのも天照なのである。

すべての権力の代理人とはいっても通常は騎士たちが越権行為を行なうことはまずない。天照やソーブの警護として付いていたり、星団各地に散って情報をダイバーズ・パラ・ギルドとともに収集したりというのが主な任務である。

ただ、そうは言ってもバビロン国王でもあるログナーやルーマー王国の女王であるアイシャなど、元来、権力が集中する地位にある者も多く、どうしても政治に関連する行動も多くなっている。一国の国王や女王がメンバーであり、国家よりも騎士団の行動を優先するという、ほかの国では考えられないこともミラージュ騎士団においては頻繁にある。

これもA.K.D.国民の理解と天照王朝への信頼のなせる業なのである。

オレンジライトは天照家の顔として君臨してきたが、魔導大戦以降は騎士団長が斑鳩王子に替わったこともあり、もうひとつのミラージュ騎士団、グリーンレフトとの融合が始まっている。

ミラージュ騎士団はログナーという人物がいたからこそ誕生した騎士団であり、その構成も思想もみなこの人物によって統制されている。それは物語が終わる7777年まで変わらない。

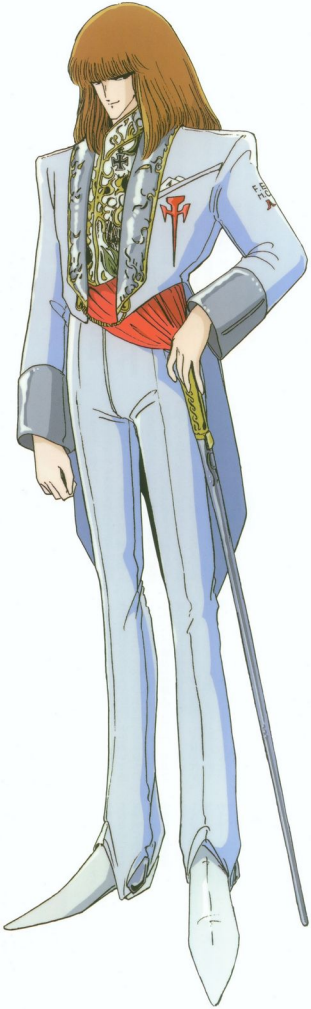
バビロン・ファルク王
ファルク・ユーゲントリッヒ・ログナー
ミラージュ騎士団総司令官
アマテラス王朝バビロン王国国王

King BABYLON
FALK JUGENDLICH ROGNER

身長 228cm　体重 125kg

第1巻より登場。
物語の序盤より登場しているが、これほど謎の多い人物は他にはいない。彼がどこから来て何を目的に天照に仕えているのか？その肝心なことはまったく公開されていない。ただ、事実なのはバビロン王国の国王としていつの間にか迎え入れられていたということだろう。この人物の真の姿を知る者は天照ではなく、実は母親の天照のミコトである。彼が何者なのか、それを知りたいと思うのは星団の人々だけでなく炎の女皇帝も彼の正体を探っている。
物語の設定上最強の「騎士」。
彼は星団で唯一、肉体もその長い記憶もすべてを完全再生できるクローン体である。彼の父親が彼をクローン化可能な体にしておいたのだが、それらのいきさつは炎の女皇帝が言う太古のおとぎ話の中の話でしかない。星団暦以前のAD世紀の女皇帝も知る人物。そして炎の女皇帝よりも前の時代「モンソロン大帝」も彼を知る人物である。謎は深まるばかりである。彼はどこから来て、いったいいつの時代からジョーカーにいるのだろうか？
本名カラミティ・ゴーダース星団皇帝。ドラゴンとともに存在するジョーカーの守護者。
この物語は彼のことばで終わる。
ログナーという名は誰が付けたのか？　それもいまは謎である

デザイン：1985年春／デザイン画：1986年
セルロイドフィルム／1999年ころ
リスマチックセルに塗り直し



ログナー 子供

3010年に死亡して復活した後の姿で以前の風貌に戻るには後100年くらいかかるだろう。かわいくないガキの代表選手。第10巻より登場。

デザイン／デザイン画：1998年8月リスマチックセル

イエッタ　プラスチック・スタイル

このプラスチック・スーツは当初薄いエメラルドグリーンだったのだが、デカダン・スタイルとの色合わせと、ファーストイメージの薄いブルーに合わせるために薄いブルーに変更された。リボンの後ろにはバビロン国の紋章が入っている。

デザイン／デザイン画：2000年6月23日リスマチックセル／2004年12月デジタル色補正・スーツ色薄緑色から水色に変更

ファティマ・イエッタ
IETTA

身長 163cm　体重 40kg　バランシェ・ファティマ

第1巻より登場。絶えずログナーに寄り添うあらゆる意味でのパートナーである。彼が普通の人間ではないと彼女は気が付いているが、そんなことはおくびにも出さない。今後も何度かマスターの死亡を見ることになるだろうが、彼女にとってはどれも同じログナーなのである。初期のバランシェ・ファティマの傑作で最高称号フローレスをもつが、その名にふさわしい凛としたファティマである。
イエッタという名を付けたのはログナー。自分の母の名であるらしい。死亡するたびにクローンとして再生してくるログナーに変わらない忠誠を誓うイエッタの行動にはバランシェも疑問を抱いている。だがこればかりはバランシェにも理解できなかった。

デザイン：1985年セルロイドフィルム／デザイン画：1987年2月／1989年塗り直し／1999年ごろリスマチックセル／2004年11月デジタルによる色変更・水色のスーツからアイスブルーに変更

アイシャ　個人MHスーツ
描かれたのは1989年だが、登場したのはかなり後の単行本第8巻である。

デザイン／デザイン画：1989年7月リスマチックセル

アイシャ　ミラージュ正装
考えてみればこの衣装での登場は第2巻だけ？ということに気がついてしまうが、この服こそ、天照家及びミラージュ騎士団のデザインラインのベースだ。この4角のギザギザ模様及び裁ち切りは服を裁断する裁ちばさみに布がほつれないように3角のギザギザばさみというのがあり、そこから発想したものだ。これは実家の母が僕が幼いころ、服の裁断や縫製をやっていたことで、家の中には裁断する前の生地、布の巨大な山がいつもあった。このギザギザばさみで縫製前の生地をよく切りまくって思いっきり怒られていたことを思い出した。僕のこの服に対する執着は幼児期のこの体験によるものだろう。幼児期の思い出には天井まで届くほどに積み上げられた布や生地、そして生地の山にダイビングしたときのそれらの布の臭いが強く残っている。そういえば僕は服を買うときなど、まず布を触って臭いを嗅いでいることが多い。これもそういう幼児期の行動がいまだに残っているということだろう。最後にミラージュ・マークの横に2本入ったラインはそのままK.O.G.のカラーリングに応用されている。ミラージュすべての基本ラインである。

デザイン：1985年夏／デザイン画：1986年セルロイドフィルム／1988年セルロイドフィルム塗り直し、色変更／1990年代リスマチックセルに塗り直し／2004年デジタル色補正

アイシャ・コーダンテ（第10巻よりアイシャ・ルーマー）
AISHA CORDANTE

※本巻P22参照

第1巻より登場。パートナーはアレクトー。現在単行本全巻登場という偉業を更新中なのは彼女のみである。主役の天照やラキシスすら全巻登場はしていないのにもかかわらずの偉業といって間違いない。今後も彼女が老衰で死ぬまでたぶん全巻意地でも登場するのはほぼ確実である。もし登場しなかった場合は単行本の描き足しを使ってでも登場することと思われるし、また彼女の死後も回想や過去のエピソードの割り込みなどで登場することであろう。つまりは死後は全巻登場は無理でもたぶん間違いなく本当に物語終了までどうも登場しそうである。なんてこった。
物語開始以前より作られていたキャラクターで、ソープよりも早い段階で登場が決定していた。性格や設定も現在に至るまでまったく変わっていない。非常に強い騎士であるが、その強さは天位や剣聖などと言った単語では表現できず、火事場の馬鹿力的強さのために、普通の騎士より弱いときもあれば剣聖と同等以上の強さを発揮する場合もあり、物語中でも例外的に「強さはそのときの彼女の気分次第」というわやなキャラクターである。たぶん本気になれば誰よりも強い。
連載当初はグリース王国の首相も兼任していたが、現在はルーマー王国の女王である。また、天照の影もやっていたが、最近では現埼王子に任せてしまおうという魂胆が見え見えで、あわれ現埼王子は天照の影のみならずアイシャの影もやらされているようだ。

ファティマ・アレクトー
ALEKTO

身長 163cm　**体重** 39kg　バランシェ・ファティマ

バランシェの39人目のファティマでアイシャのパートナー。マスターが女性であるということで物語の中でもファティマと騎士の関係がくっきりとわかるエピソードが多い。お互いに絶大な信頼をおいているのだが、アイシャのハメの外し方のおかげで苦労は絶えない。しかし、A.K.D.とミラージュの中枢を担うマスターにかかる責任と重圧を彼女もまた何度も受け止めている。バランシェからは「ひっでえ奴のとこに行った」と言われているが、なんやかや言いながらもバランシェはソーブがアイシャにいちばんの信頼をおいていることをわかっており、行くべきところに行ってホッとしているのではないだろうか。

デザイン／デザイン画：1998年10月リスマチックセル／2005年3月スーツ色を赤からえんじにデジタル色修正

アレクトー　デカダン・スタイル
デザイン／デザイン画：1988年10月セルロイドフィルム／2004年12月デジタル色補正

スペクター
SPECTOR

身長 189cm　体重 82kg ～無限

名字はない。A.K.D.の宮殿道化師として知られ、ふざけた衣装とことば遣いで天照やA.K.D.に対して辛辣な意見をしばしば呈する。これは宮殿道化師がそういった君主や権力に対して歯に衣着せぬ意見を言える立場でもあるからだ。だが、スペクターは本当の意味での天照の監視官であり、その正体はジョーカー太陽宇宙を司る神のひとりである。天照の超常の力をジョーカー星団で制御するためにスペクターはいずこからか遣わされた神で、ジョーカー星団での天照の力をかなりコントロールしている。それは第4話での天照の死亡時において天照がその力を発揮できず、一時期力を失っていたこと、その他さまざまなところでアマテラスの力を制御していると見られる。なぜそういったことをするのかは不明であるが、このことからスペクターはジョーカー星団での天照よりも強い力をもっていることがわかる。

イラスト：1991年アクリル+アクリルガッシュ
51.5cmx36.4cm

元ファティマ・ポーター
PORTER

身長 160cm　体重 37kg

元モラード・ファティマ。
死亡していた彼女をスペクターが見つけ蘇生した。そのとき以来スペクターと彼女は「蘇生する代わりにこの世界のことを教え、私に仕えよ」という契約による主従関係をもち、騎士とファティマの関係とは異なる。蘇生されて蘇ったということはジョーカーの世界においてはあってはならぬことで、従って彼女もスペクターと同様の幽霊的な立場にある。かつてもっていたMH制御能力もいまはなく、フロートテンプルでのんびりと暮らしている。出入りしていたバランシェやいまも出入りするコークス博士は彼女が壊れていること、またその壊れ方が普通ではないことに気が付いているはずだが、そのままにしているようだ。

ポーター　宮殿服
デザイン／デザイン画：1988年10月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し／2004年11月デジタル色補正

スペクター　道化服
なんやかんやで結構登場しているスペクターだが、服もその場その場でさまざまなものを着ているが、すべてアナクロチックなおふざけ服である。

デザイン／デザイン画：1993年12月リスマチックセル

スペクター　宮殿服
デザイン／デザイン画：1988年10月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し／2005年1月デジタル色補正

ポーター　道化服
デザイン／デザイン画：1993年12月リスマチックセル

ランド ミラージュ服
デザイン：1986年4月／デザイン画：1988年4月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

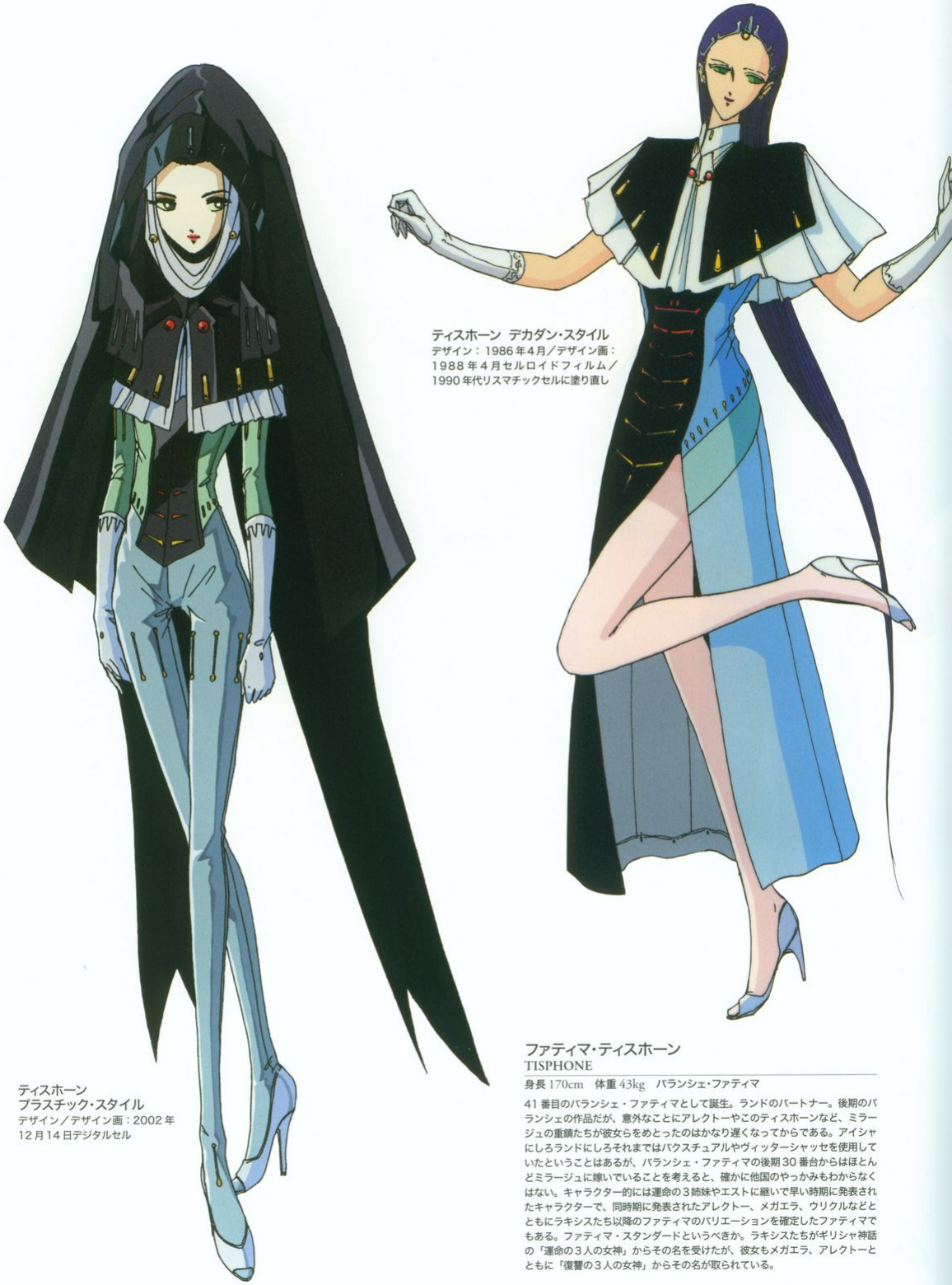
ランド 普段着
ハスハに赴いたランドが着ている服であるがこの上にコートを羽織り機械化された部分を見えないように配慮している。

デザイン／デザイン画：2002年12月15日リスマチックセル

ランドアンド・スパコーン
LOUNDWOUND SPACORN

身長 203cm　体重 115kg（装備により変化あり）

ミラージュ騎士団No.3。
第1巻より登場。眼球や左腕など、体のあちこちを機械化した半サイボーグ的な外見に威圧と恐怖を感じる者も多いだろう。しかし、本人自身はミラージュ、いや天照王朝の中でもまれとも言える質実剛健な人物で、礼儀正しく物静かで思慮深く、そして誠実な人物である。ここまで書くと誰もが気が付くが、そう、主人の天照とはことごとく正反対な人物なのだ。王朝に対する忠誠心もさることながら、戦闘時における的確な判断は戦闘指揮官としてもA.K.D.屈指である。ログナーのあまりの強さと冷徹さわまりないことによって生じる騎士団やA.K.D.の摩擦を和らげているのもこの人物だ。
機械化されている右目左腕はかつての戦闘や訓練で失ったもので、本人も生身のパーツと機械のパーツを使い分けているうちに、使いやすいほうを選んでいるようだ。また、公務等では余計な威圧を与えないために生身のパーツに切り替えていることがある。
3010年以後、ミラージュからは離れてしまったが、なぜ彼が退団しなくてもよいミラージュを退団したのかは、ログナーの自殺とも取れる3010年のボスヤスフォート戦が理由である。あのとき玉座に進入を許したミラージュに責任、どう責任をとるのか？　ログナーは自殺というけじめをもって天照に示した。ランドはそれを最高司令官にさせてしまった自分が許せなかったのだ。
彼はミラージュ退団という身を使って単身ハスハに乗り込んでいる。



ティスホーン デカダン・スタイル
デザイン：1986年4月／デザイン画：1988年4月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

ティスホーン
プラスチック・スタイル
デザイン／デザイン画：2002年12月14日デジタルセル

ファティマ・ティスホーン
TISPHONE

身長 170cm　体重 43kg　バランシェ・ファティマ

41番目のバランシェ・ファティマとして誕生。ランドのパートナー。後期のバランシェの作品だが、意外なことにアレクトーやこのティスホーンなど、ミラージュの重鎖たちが彼女らをめとったのはかなり遅くなってからである。アイシャにしろランドにしろそれまではバクスチュアルやヴィッターシャッセを使用していたということはあるが、バランシェ・ファティマの後期30番台からはほとんどミラージュに嫁いでいることを考えると、確かに他国のやっかみもわからなくはない。キャラクター的には運命の3姉妹やエストに継いで早い時期に発表されたキャラクターで、同時期に発表されたアレクトー、メガエラ、ウリクルなどとともにラキシスたち以降のファティマのバリエーションを確定したファティマでもある。ファティマ・スタンダードというべきか。ラキシスたちがギリシャ神話の「運命の3人の女神」からその名を受けたが、彼女もメガエラ、アレクトーとともに「復讐の3人の女神」からその名が取られている。

ファティマ・イカロス
IKAROS

身長 176cm　体重 48kg　バランシェ・ファティマ

第3巻より登場。リィやリィの未裂とともに物語のいろいろな場所で登場している男性型ファティマ。パナールなどとのエピソードも考えられているのだが、なかなかそういう機会もなくいまいち影が薄く申し訳ない気持ちである。
男性型ファティマは個体も少なく登場も少ないために実際のところイメージ的にどういったものなのかというのもわかりづらいというのはある。このイカロスとアキレスが役割を一手に引き受けているという意味も込めて彼らのエピソードに期待しよう。

デザイン／デザイン画：1988年4月セルロイドフィルム／1990年代リスマテックセルに塗り直し／2004年12月デジタル色修正。上着の群青色をスカイブルーに変更

リィ・エックス・アトワイト
LIE EX HENSCHEL ATWIGHT

身長 187cm

第1巻より登場。ミラージュ騎士団No.7。ミラージュ騎士団の中枢であり、また天照王朝の中核をも担うアトワイト家の女王（※本巻P21参照）。何か中途半端なポーズだと思っていたら、やっぱり右手にサーベルを持たせ忘れていたのであった。が、変更はしないでこのまま掲載する。残念ながら第10巻で死にてしまったが、キャラクターとしては話と物語最後まで同じ顔と同じ性格のリィが登場する。アトワイト家はAD世紀のマシンメサイアの設計技師ヘンシェル家の血を継ぐ家系で、リィ自身もL.E.D.ミラージュの開発を天照から請け負い、最終的な調整を行なっている。これはスーパーマシンと化しているL.E.D.ミラージュをいかに普通の人間（騎士）が扱えるレベルまで調整するか？ということに忙殺されていたようだ。最強騎士集団のミラージュとはいっても普通の騎士に違いはないため、本能で動こうとするL.E.D.ミラージュの制御は相当難しいことが予想できる。
美しいすみれ色のタイツが彼女のイメージに本当によく似合っている。

デザイン：1985年10月／髪型変更リファイン1986年5月／デザイン画：1988年4月セルロイドフィルム／1990年代リスマテックセルに塗り直し／2005年2月デジタル色補正

ファティマ・アキレス
ACHILEUS

身長 180cm　体重 56kg　バランシェ・ファティマ

第2巻より登場。リィのイカロスとは兄弟にあたり、彼もいまいち地味な感じはぬぐえないが、考えてみたら第1話冒頭の未来回想以外で本編中で最も早くミラージュマシンを駆って登場したのはこのアキレスとディッパであった。その後妹のアレクトーやらアウクソーによいところを奪われているが、君たちに必要なのは華やかさよりもギャグかもしれない。

デザイン／デザイン画：1988年4月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

アキレス　プラスチック・スタイル

プラスチック・スタイルに切り替わってからの普段作業着として使われるカレントスタイルである。

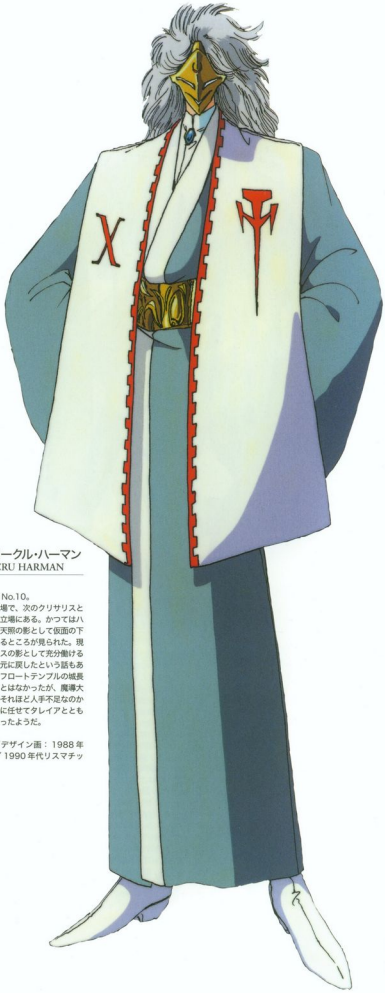
デザイン／デザイン画：2002年12月21日デジタルセル／2005年6月服の色を赤紫色に変更

ディッパ・ドロップス
DIPPA DROPS

身長 190cm

第2巻より登場。騎士だけでなく医師としての顔ももつが、ミラージュ騎士は彼女のように騎士以外の特殊職をもつ者もかなり多い。一芸に秀でる者はとかよく言われるが、これはどうも事実らしい。ミラージュの中では珍しいマイペース型の性格で、ヒューズなどともよく気が合い、羽目を外しがちなミラージュの軌道修正はもっぱら彼女らの担当なのであろう。もっともいちばん軌道を外れるのはあの方なので、焼け石に水かもしれないが。

デザイン／デザイン画：1988年4月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し



ハインド・キル／クロークル・ハーマン
HIND KILL / QUROCRU HARMAN

身長 190cm　体重 83kg

第3巻より登場。ミラージュNo.10。
ミラージュの老中のような立場で、次のクリサリスとともに騎士団のお目付役的な立場にある。かつてはハインドというコードネームで天照の影として仮面の下は天照そっくりに整形しているところが見られた。現在は斑鳩やその他がアマテラスの影として充分働ける状態になってきたために顔を元に戻したという話もあるが、これまた不明である。フロートテンプルの城長として滅多に城の外に出ることはなかったが、魔導大戦ではハスハに赴いている。それほど人手不足なのかと言えばそうでもなく、斑鳩に任せてタレイアとともに天照のお目付として出ていったようだ。

デザイン：1986年6月／デザイン画：1988年10月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

ファティマ・タレイア
THALEIA

身長 165cm　体重 41kg　バランシェ・ファティマ

ハインドのパートナー。第5巻で初登場。フロートテンプルのシーンになると登場しているが、魔導大戦はいよいよ彼女も新型スーツをもって魔導大戦に参戦する。いままで城の中でこもっていたバランシェの30番台のファティマたちがこぞって戦場に出陣していくのは感無量である。ミラージュ騎士とそのファティマが集まるムンスターはさぞかし華やかなことであろう。

デザイン／デザイン画：1988年10月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

レオパルト・クリサリス
LEOPARD CHRYSALIS

身長 194cm　体重 90kg

ミラージュ No.11。第２巻より登場。第１話に登場したカーレルのご先祖である。アマテラス王朝貴族の最右翼的な立場にあり、その言動は堅苦しく融通が利かないために、若手のウラッツェンやジャコーなどからはからかいの対象となってはいるが、その剣の腕はミラージュ騎士団たるものである。ハインドや古株のミラージュが次々とハスハに赴いていったのは、実戦というものだけではなく、3010年のボスヤスフォートとデコースの戦いにおいて、さらなる精進が必要になったと彼らも感じているからである。最新の戦術と戦い方を知り抜くことは騎士としての義務である。彼もそれに従うだけだ。

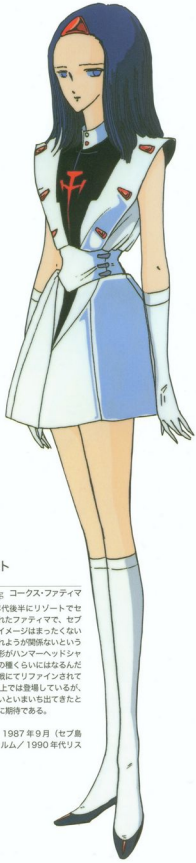
デザイン／デザイン画：1988年３月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

ファティマ・ティータ
TITA

身長 163cm　体重 38kg　バランシェ・ファティマ

第１話冒頭より登場。クリサリス家に仕えるファティマで、3960年のカーレル・クリサリスや3200年代のメロウ・クリサリスに仕えているところも確認されている。物語中でも最も古くからいるファティマであるが、リィと同じく、こうやって歴代の家主に仕えていくところがなんともバランシェ・ファティマらしいと言えばらしいが、騎士との相性で相手を選ぶといわれるファティマの本質が家に仕えることが多い事実を見ても彼女らのその選択本能が人に対する愛とか恋愛感情といったものとは異なるということがわかる。
ずいぶん早くにデザインされたためにこの服もさすがにいまの目で見るとリファインが必要のようだ。しかしもともと彼女は物語中盤から後半のエピソードのために作られたキャラクターなので彼女が中心となる物語はしばらく先になる。星団暦4100年代はヴォルケシェッツェ・ステージ２を駆って登場予定である。

デザイン：1986年２月／デザイン画：1988年３月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し／2005年７月 服の色をウルトラマリンブルーから濃いすみれ色に変更



ファティマ・ピレット
PHILLETO

身長 160cm　体重 38kg　コークス・ファティマ

第3巻に登場。1980年代後半にリゾートでセブ島に行ったときに作られたファティマで、セブ島の温暖でダイビングなイメージはまったくないという、結局どこで作られようが関係ないという見本である。いや、頭の形がハンマーヘッドシャークとかであればお笑いの種くらいにはなるんだけど。彼女もまたハスハ姫にリファインされて再登場するだろう。画面上では登場しているが、やはりセリフや芝居がないといまいち出てきたという気がしない。こんごに期待である。

デザイン／デザイン画：1987年9月（セブ島にて！）セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

ウラッツェン・ジィ
URATZEN SIE

身長 194cm　体重 82kg

第3巻より登場。パンク風味のファッションで登場した若いミラージュもいまや中核を担う中堅としてアイシャ等とともに先行でハスハに赴いている。現在のアンダーグラウンドシーンではゴスロリからゴスロリパンクと訳のわからない、というかやっぱりやることないか？みたいな風情になってきているが、ファッションスタイル自体は各個人のものなのではやりがどうこういうものでもない。いかなる時代になろうとシャネルがツィードを使用するように「F.S.S.」もイカしたアウトサイダーたちの眉唾もののファッションにファティマたちは知ったこっちゃねーと白いソックスをはいている。カッコよけりゃそれでいいの。

デザイン／デザイン画：1988年3月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

ポエシェ・ノーミン
POESCHE NOMEAN

身長 198cm　体重 83kg

第1巻より登場。第9巻にてお亡くなりになってしまいましたが、ミラージュ各騎士のエピソードはかなり作ってあった。しかし、初期からいたミラージュとしての彼の最後はあまりにあっけないと感じますが、人がいなくなるときは「え？」てなかんじでやっていきたいといつも思っています。このころのミラージュはやはり中世風のモチーフが多く、彼の襟や袖はルイ王朝が入っています。持久力や瞬発力を求められる騎士はやはり脂肪が燃焼し切ったマラソンランナーやダンサーなどの体型が多いのは仕方がないのかもしれない。レスラー体型だと耐久力はあってもMHを延々動かすには不向きだろう。

デザイン：1984年／デザイン画：1988年10月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

ファティマ・シェラスタ
SHELASTA

身長 163cm　体重 40kg　コークス・ファティマ

第9巻に登場。本当に忘れたころに登場したために最初、誰でしょか？これは？という感じだったに違いない。物語の序盤にデザインされていたためにこの能天気なエプロンドレス姿があまりにも場違いな感じであったことは作者も認める。が、どのみち場違いこそが「F.S.S.」。シリアスな場面であろうとなかろうとあくまでファッション優先。彼女もまたハイソックスなのだけれど、いつしかファティマの多くが三つ折りかショートタイプのソックスになったしまったがために貴重と言えば貴重なデザインではある。このころのデザインを見直してみると、最近色を指定するときに靴はなんとなく黒系とかにしてしまっている自分に気が付き、このころのさまざまな色の服や靴の色に改めて再注目して最新のヴィッターとかは色靴になっていますね。いいことです。

デザイン／デザイン画：1988年10月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

シャーリィ・ランダース
シャーリィ・バランカ后
SHARIE RANDERS KRÖTENSCHWANZ

身長 189cm

第3巻より登場。第2巻冒頭に登場したブルースの実の姉。現在はコーラス王朝バランカ王子の后。天照に忠誠を誓うミラージュ騎士にとって退団がどういうものなのか、忠誠ということばの重さを彼女は示してくれた。基本的人権はもちろん大切なことだが、自分のすべて、己の命を人に預けるということがいまの世では法律的にできない時代にあって、彼らミラージュのそういう忠誠と言うものは時代錯誤的に見られるかもしれないが、現実の世の中では軍隊の兵士は敵前逃亡やスパイなどは相変わらず銃殺であることを考えれば、少しも不思議なことではないとも言える。地位の高さとその責任の重さを天照はちゃんとバランスを考えてやっているだけのことで、もちろん あの場でクローリーが止めに入らなければ天照は彼女を殺していただろう。その、新たに生かされた命を彼女は今後コーラスのために使うことだろう。天照はそれもまた、自分が吁した ゆえ当然のことと思っている。

デザイン／デザイン画：1988年3月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

ファティマ・エフロシューネ
EUPHROSYNE

身長 165cm　体重 40kg
バランシェ・ファティマ

第3巻に登場。バランシェ・ファティマ後期に見られるL型のロングドレスファティマである。シャーリィとともにミラージュにいたが、現在はコーラスにいる。これはファティマの所有権や親権がマスターにあるために騎士をやめたとはいってもシャーリィとともにコーラスに入ったということだ。いまは新たな主人を取ることもなく、バランカ家でゆっくりとしていることだろう。

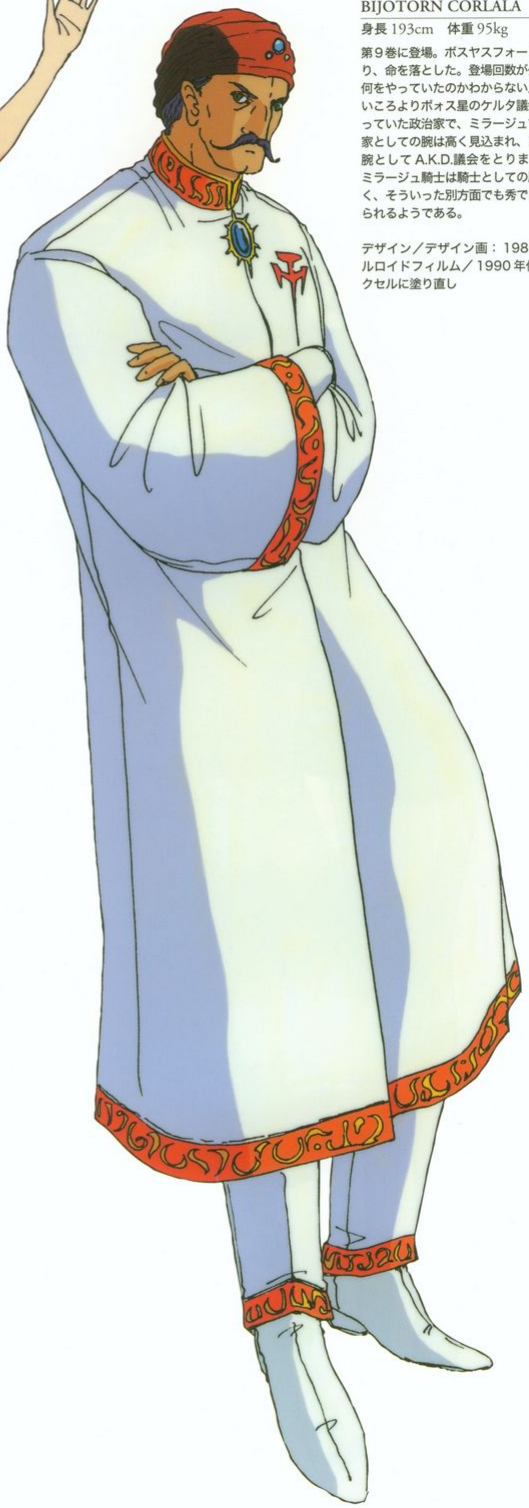
デザイン／デザイン画：1987年12月11日セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

ファティマ・スパルタ
SPALUTA

身長 158cm　体重 37kg　モラード・ファティマ

第9巻に登場。ポーターと並びミラージュにおいては非常に珍しいモラード・ファティマである。新たな主人とともにミラージュ・ファティマとして活躍してくれることだろう。アンサンブル形式のツーピースドレスにたるんだソックスがいかにも作られた時代を感じさせるが、ひと回りしていまは別にドルマン袖もおかしくはない。彼女やシェラスタ、イマラのソルティアなどあだ花的なデザインも多いが、変に固定化してしまうよりよほど自由度があっていいと思う。そのためこのあたりのデザインは大切に取ってある。

デザイン／デザイン画：1988年10月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

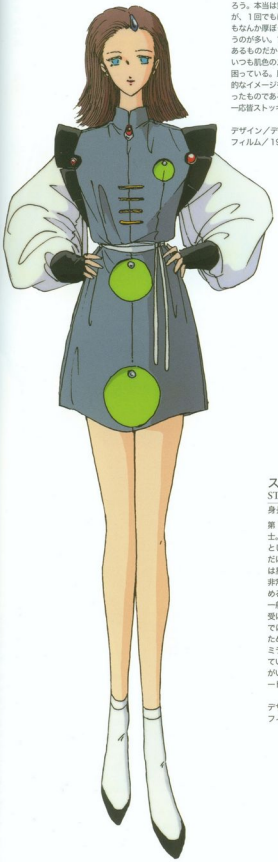


ビョトン・コーララ
BIJOTORN CORLALA

身長 193cm　体重 95kg

第9巻に登場。ボスヤスフォートの手に掛かり、命を落とした。登場回数が少ないために何をやっていたのかわからない人物だが、若いころよりポォス星のケルタ議会で執政をとっていた政治家で、ミラージュでもその政治家としての腕は高く見込まれ、アイシャの右腕としてA.K.D.議会をとりまとめていた。ミラージュ騎士は騎士としての腕だけではなく、そういった別方面でも秀でた人物が求められるようである。

デザイン／デザイン画：1988年10月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し



ファティマ・カレ
KALE

身長 160cm　体重 38kg　バランシェ・ファティマ

第10巻より登場。かなり早い時期にデザインされた彼女だが、S型ファティマの基本は実は彼女で決定している。ショートソックスや袖なしのワンピースに白袖のブラウスはその後作られたほとんどのファティマ・ファッションの母体である。詰め襟のカラーがいかにもバランシェ的であるが、素足なのは色の塗り忘れというよりもこっちのほうがかわいかったからであろう。本当は黄色のカラータイツをはいているはずだが、1回でもはかせるのを忘れるとあとからはかせてもなんか摩ぼったく見え、仕方ないのでそのままというのが多い。フィルモアの町なんか素足のイメージがあるものだからあとから何度もはかせようとするが、いつも肌色のストッキングあたりに落ち着き、非常に困っている。肌色の足は本当に軽快でファティマの病的なイメージを払拭してはくれるが、それはそれで困ったものである。ちなみに素足に見えるファティマは一応厚ストッキングをはいていることにはなっている。

デザイン／デザイン画：1988年10月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

ステートバルロ・カイダ
STATEBALLO KIEDIA

身長 190cm　体重 80kg

第10巻より登場。カラミティ出身のミラージュ騎士。ミラージュ騎士団は天照のすべての権限の代理人として超権行為から議会、軍隊を動かすこともできるだけの権力をもたされているが、ミラージュ騎士自体は星団中から集められ、A.K.D.や天照王朝出身者は非常に少ない。最大権力者の側近を他国の者たちが埋めるというある意味平等な采配はいかにも天照らしく、一般のA.K.D.国民もそれを天照政治の公平さとして受け止めている。カイダは直接ミラージュ入りしたのではなく、A.K.D.のゴーズ騎士団出身である。そのためA.K.D.騎士団の内情には詳しく、最上位にあるミラージュ騎士団と他の騎士団との調整も彼が担当しているようだ。現在はJIDJIとアイシャ等と展開中。

デザイン／デザイン画：1988年10月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

ファティマ・パシテア
PASITHEA

身長 168cm　体重 43kg　バランシェ・ファティマ

本編未登場。バランシェ・ファティマのL型としてロングドレスではなくスーツ姿である。いまはあまり使わなくなった真っ黒のカラーが美しいが、これにシルバーのポイントと合わさってほんとにファティマというよりはどこそのコンパニオンである。初期に作られた彼女らのデザインは試行錯誤はあれ、まだ様式が完全決定していなかった証拠でもある。が、それはそれでわやなところが20年経った現在ではおもしろい。彼女もそのうち登場するだろう。

デザイン／デザイン画：1988年10月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

ヌー・ソード・グラファイト
NU SWORD GRAPHITE

身長 192cm　体重 92kg

第1巻より登場。ミラージュの剣指南役として勇猛を馳せていたが、3010年浮遊城にてデコースとの死闘に敗れた。ヌー・ソードですら負けたことにミラージュ各騎士の衝撃は大きかったであろうが、天照はそれすらも一笑している。強い者がいて当然のことであるし、騎士の戦いは再戦の許されない1回限りの戦いである以上、それもやむを得ないと。天照が最も激怒するのは「負けたから次こそは」とかである。このひと言を言ったが最後、天照はその人物の首をはねるであろう。「一戦一戦が勝負であり、次などない」のだ。ただ、何度生き残ることができたかということに関しては当たり前だが寛容である。このことばの違いが戦いを生きるということなのだろう。

デザイン：1986年／デザイン画：1988年10月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

ファティマ・ソルティア
SOLTIA

身長 165cm　体重 41kg　カルス・スパンコール作

未登場。不思議な裁断のスーツを着ているが、この時期（1980年代後半）一気に作られたミラージュのファティマたちはいまの目から見ると変なスーツを着ている者が多い。よい悪いは別にして、こんこのデザインを基にリファインがかけられるだろうが、そういう形でのリファインをいちばん楽しんでいるのはたぶん作者だろう。イマラが頻繁に登場するために彼女の登場も近いだろう。と、思って原画を見直したら鉛筆で「ドカスボルトカラー」と書かれているのを発見。なるほど、この赤と青はオートバイメーカーのドカティのカラーリングを参考にしたようだ。

デザイン／デザイン画：1988年10月20日セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

イマラ・ロウト・ジャジャス
IEMARAH LOUT JAJAS

身長 188cm

第3巻より登場。凛としたA.K.D.宇宙軍の総司令官であるが、息子の登場で、ミラージュでも屈指の馬鹿キャラクターになってしまったのは、あらゆる意味でお母さんの強さと弱さを持ち合わせてしまったからであろうか？　出来の悪い息子ほどかわいいと言うが、あれはあれで充分出来のよい息子であることと間違いはない。ただ、イマラさんが思ったような子供にならなかったというだけの話。アマテラスはその息子、ジャコーを結構気に入っているようだ。大体ジャコーはラキシスにかなりなついているし。ジャコーのことば「あのねーちゃんすごいぞ。この前大理石の柱をガリガリかじってるとこ見たけどあれはすごいぞ。まねできねえ」と、いうこともあり、こんこも親子ともども大活躍をなされることであり来しょう。たぶん。このセルはまだイマラさんがああいう人物であることを知らなかった時代に描かれたもので非常にりりしい。のが、いまになってちょっと悲しい。

デザイン／デザイン画：1988年10月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

ファティマ・クラッパ
KCLAPPA

身長158cm　体重38kg　コークス・ファティマ

第7巻より登場。ルンとともにMHシュペルターをもってカステボーに降り立ったが、まさか自分がシュペルターを扱うことになろうとは思ってもみなかったに違いない。ルンとよく似た柔らかなイメージをもつファティマだが、見事にシュペルターを扱いこなしていた。アウクソーやパルテノから手取り足取り指示されていたのがなんとも可愛らしい。やはり彼女らはファティマからも尊敬される歴戦の古参兵なのだろう。彼女のアシリアを早く見てみたいものだ。

デザイン／デザイン画：1988年10月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

ミシャル・ハ・ルン
MISHALU HA LONN

身長186cm

第5巻より登場。最年少ミラージュとして登場した彼女もいまはアイシャの代わりのA.K.D.筆頭司政官を務め、行政の頂点に立っている。ミラージュ騎士として半端ではない強さを維持しながらもA.K.D.議会をまとめる彼女の苦労は想像もつかないが、周りがそれに輪をかけたやり手が多いために、それほどのプレッシャーは受けていないのかもしれない。騎士としての彼女の本能は一度敗北した同じミラージュのバイソンとの再戦という形を取って現われたが、勝てなければ未来はないというその騎士としての厳しさを見せてくれた。
この辺りのミラージュ騎士はすべて1988年10月に一気に描かれている。勢いで描いていたんだろうが日付が入っているのは隣のソルティアだけ。

デザイン／デザイン画：1988年10月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

ヨーン・バインツェル
JOHN WEINZEL

身長 188cm（最終的に200cm） 体重 75kg

第9巻より登場。3030年時点ではまだミラージュ騎士ではないが、紆余曲折を経て最後にはミラージュ騎士団入りが決定している。少年期からのトラウマとも言えるファティマ・バーシャとの関わりが後の彼に大きく影響を与えるが、多かれ少なかれ、騎士は彼のような内面での葛藤をもっているに違いない。しかし、ミラージュ騎士団が彼やブラフォードのような雑草的な強さをもつ騎士を欲していたのは事実で、彼はレオパルトやハインドなど貴族出身者にも受け入れられている。これは彼の剣筋が超一流の教えを受けた剣であり、非常に上品で風格があったからにほかならない。この模範的ともいえる剣はバーシャによって少年ヨーンに教えられ、幼いときに受けた剣の基本形は崩れることなく開花していたからである。

デザイン：1987年／デザイン画：1998年10月
リスマチックセル

ヨーン・バインツェル（初期稿）
登場は相当後になったが、彼の物語は1987年にはほぼ完成しており、その時に描かれたイメージである。現在登場しているバインツェルとは浅黒い肌以外はかなりイメージが違う。服装も当時のファティマらと同じイメージでドルマン袖だったりするが、20年経って流行りがひと回りし、いま見てもおかしくない。

デザイン／デザイン画：1988年3月セルロイドフィルム／2004年デジタル色補正

ファティマ・パルスエット
PALSUET

身長158cm　体重38kg　工場製

第5巻より登場。前のマスター、元青銅騎士団のレスターを失って放浪していたが、アイシャに拾われ、そのままバインツェルと再会。現在は行動をともにしているが、ヨーンがパルスエットとバーシャにまったく違いはないことに気が付くのはいつのことなのだろうか？ファティマを騎士の道具として扱う以上、すべてのファティマはまったく同じであるということに。本編中では数々の衣装で登場するが、しばらくはヨーンとともにこの国籍不明のスタイルでいるはずである。

デザイン／デザイン画：2000年4月16日リスマチックセル

アーレン・ブラフォード
ALLEN BRAFORD

身長 194cm　体重 88kg

第6巻で本格的に登場したが、実は第3巻より登場。才能と特化した能力に恵まれているにもかかわらず不遇な騎士としての人生を送っていたブラフォードにとって、カステボーでのソープとの戦いは皮肉にも自分の能力を最も天照にアピールすることとなった。あれだけの能力を見せつけられれば雇わない権力者はいないと思われがちだが、世の中はそうそう都合よくは行かないのも常である。天照が彼を雇ったのは単に「おもろかったから」だけである。これを太っ腹というのか無謀というのかはわからないが、「F.S.S.」ではブラフォードだけでなく、デコースも、ヨーンも極めて才能ある人間はどちらかと言えば不遇な扱いを受けているのも確かだ。

デザイン：1985年／デザイン画：1992年11月17日リスマチックセル

京 デカダン・スタイル
日本人を思わせるエキゾチックファティマの京だが、この楓の葉がなんともジャパネスクで、かわいい。

デザイン／デザイン画：1992年11月19日リスマチックセル

ファティマ・京（ミラージュ・スーツ）
KYO

身長 162cm　体重 39kg　バランシェ・ファティマ

第6巻より登場。バランシェ公の作品とあればそれなりの扱いを受けていたはずなのだが、事実は逆でその銘故に苦労が絶えなかったようだ。これも現代社会に照らし合わせれば「あまりにも美人の奥さんをもらうと出世が止まる」と言われることと似ているかもしれない。そんな不遇な時代を送った京も、マスターのミラージュ入りとともにバランシェ・ファティマとしての立場も戻ったようだ。シリアスな日々を送っていた京もミラージュ入りしてからは第10巻で見せた通りバランシェ・ファティマ本来のボケかましモードに入っている。

デザイン：1985年／デザイン画：1996年11月10日リスマチックセル

ファティマ・ジ・アトラス(the S.S.L.)
the ATLAS/the SOLID STATE LOGIC

身長 158cm　体重 38kg　リチウム・バランス作

アトラスはS.S.L.の別名で、星団初の4ファティマのひとりである。好余曲折を経て天照家で眠っていたが、マキシの誕生とともに目覚めている。彼女ら4ファッティスは本能的に超帝國の因子をもつ人間に惹かれるのかもしれない。インタシティの例もあり、アマテラスは彼女の生体的な寿命を非常に気にしているようだ。インタシティとまったく同じ生体構成の彼女もまたあと何年生きられるのか？　それは誰にもわからない。

デザイン／デザイン画：2004年11月10日デジタルセル

剣聖マキシ
MAXI / Lord:MAXIMUM HALT-FEITS

身長 189cm　体重 62kg

第10巻より登場。カイエンと超帝國の騎士そしてバランシェの46体目のファティマの遺伝子をすべてもつ超帝國の騎士で、その強さは現在星団最強と言われる。しかし、不安定な情緒が元でトラブルが絶えない。彼をちゃんと制御できなければAD世紀の人殺し機械と変わらなくなってしまう。天照はこのマキシをあの世に送ってしまったほうがよいかもしれないと考えていた節もあるが、スタント遊星攻防戦にて戦死。その後は不明である。

デザイン／デザイン画：1997年3月9日リスマチックセル

キュキィ・ザンダ・理津子
QUKEY ZANDA RITSUKO

身長 185cm

第6巻より登場。A.K.D.のファッションリーダーたるキュキィの入団は夫、ブラフォードがミラージュに入ったので浮遊城の天照に自分も入れてくれという単身突撃によって成された。なんともいい加減な話だが、もちろん天照はキュキィがそんじゃそこらの騎士ではないことくらいとっくに承知していたはずで、ああいう訳のわからない入団試験を出したのである。それは置いておいて、このキュキィ、実は騎士の腕だけでなくとんでもない出生で、カステポー・ザンダシティを取りしきるザンダ財団のリーダーであり、その名字が示すとおりザンダ家の跡取り娘でもある。地下組織ローゼンクロイツの真の統率者でもあるが、天照にしてみればそれはおまけとしてくっついてきたにすぎない。彼女がまだ実際に戦うところは出てきていないが、ブラフォード級にトリッキーで強力な騎士であることは間違いない。なにせ、あのヨーンが一歩も二歩も引く相手なのだ。また彼女は入団後もカステポーや自分の情報支配下にある組織から何人も新たなミラージュ騎士を推薦し、入団させている。ミラージュにとって彼女は現在なくてはならない人物のひとりだ。このキュキィを描いた辺りからセルがリスマチックに切り替わる。

デザイン／デザイン画：1989年7月7日リスマチックセル

ファティマ・アグライア
AGLAIA

身長 165cm　体重 41kg　バランシェ・ファティマ

作者もお気に入りのファティマで今後はキュキィとともにキュートなスタイルで登場するはずである。これまでの登場は第7巻での回想シーンのみだが、シンプルなスーツはお気に入りの1着である。

デザイン／デザイン画：1988年10月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

キュキィ　初期イメージ

最初のキュキィのイメージはストリートパンク風であったのだが、これを描いた直後あたりからクラブムーブメントが活発化し、彼女のイメージはクラブビッチとなった。が、ストリートアウトサイダーファッションがそのまんま移行しただけでさしたる変化はない。とはいってもコート姿のキュキィがほぼ1年後に描かれているので見た目はすごい変化である。

デザイン／デザイン画：1988年10月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

おまけ ミラージュ・ナイト?
いえ、リアル女子高生騎士団その1です

ファティマ・ヒュートラン（デカダン・スタイル）
HUGTLANG

※本巻P51参照

超弩級の性能を誇るエミリィことヒュートランだが、はっきり言ってマスターをだしにして遊んでいるとしか思えないが、その超弩級の性能はすばらしく、MHコントロール以外にも犬のことばをしゃべることによって天照と最高機密の会話を誰にもわからぬようにできることであった。……というかもうどーでもいい。こいつに関しては。

デザイン／デザイン画：2002年12月11日デジタルセル

ちゃあ・てぃ（茶茶）
CHA TEA

身長155cm　体重え？ええ？え？ええ？？ええ？
フツーだと思います。
えっと赤……44kgくらいか……な。
（ちゃんと教えてくれるところが彼女なのだ）

いつの間にか登場。
物語すべてを通しての「幸せ少女」。
彼女のエピソードは別の物語を作らねばならないほどに多く、それは別宇宙の話としてすでに開始されている。しかし、「F.S.S」においての彼女は……まったく同じで、何も変わらない。騎士と天照王朝王女という立場での彼女の発言はひんしゅくを買い、その立場を危うくしているが、普通の人間としての彼女の発言と行動はまったく当たり前のことなのである。それを実戦や天照家王朝公聴会という一般常識からかけ離れたところで言うことが教主として許されないという結果となって跳ね返ってきた。思想も理想もない彼女がどういう人生を送るのか、注目していきたい。

デザイン／デザイン画：2002年7月14日デジタルセル

MIRAGE KNIGHTS

GREENLEFT

ミラージュ騎士団左翼 グリーンレフト

サリオンこと斑鳩王子が率いるミラージュ騎士団レフトこと左翼大隊はいままでほとんど公の場に出ることはなかった。それもそのはずで左翼大隊のメンバーのほとんどは国際犯罪人であったり表の世界に出られないような経歴をもつ騎士であったりしたからであるが、天照はこういった騎士たちをも認め、自分のミラージュ騎士団に入れていた。彼ら左翼大隊は基本的に天照に対しての忠誠はなく、命令違反イコール死をもって、という単純かつ恐るべき戒律によってのみ動いていた。表の世界もしくはその存在が知られるだけでいかに天照といえど星団世論や星団法の前に従わざるを得ず、そのため左翼大隊の多くはコードネームで呼ばれていた。これも彼らの本名や素性を隠すためであった。重犯罪人や殺人者たちであっても天照王朝に対して益をもたらす彼らは「必要悪」などという詭弁ではなく天照はちゃんと「犯罪者？　それがどうしたの？　じゃあ、国家命令で戦争に行って人を殺したり、無差別爆撃で民間人を大量に殺している軍人はどうなるの？　彼らもそれと同じだ。国家にとって損失よりも益をもたらす」と言い放っている。

そうは言っても殺人癖をもつ左翼のメンバーにはさすがに世論に配慮し、かなり厳しい制約があったのも確かで、彼らのもっぱらの仕事はバラ・ギルドがらみの暗殺や破壊工作などが主だったものであった。

これらに該当し天照に無忠誠なのが、サリオン（斑鳩）、スパーク、シャフト、パイソン、ブローズ、ティンたちである。

だが、そういったメンバーとは別に右翼と同じくちゃんと忠誠を誓っているメンバーもおり、ヒューズ、オービットは幼い斑鳩のお目付役として天照から警護の任務を与えられていた。それ以外におもしろいのは斑鳩と同世代の若い騎士が多数いることが挙げられる。

天照家に属するキンキーや先のブローズ、リィの娘のパナール、飛び込みのタイトネイブなど、彼ら幼さのまだ残る若いミラージュは魔導大戦でようやく一人前の騎士となっていく。いかに騎士としての力が特出していようと人間としての経験もまた勝つためには必要となってくるからだ。

そうして左翼大隊もリーダーの斑鳩の王朝復帰や３０１０年のボスヤスフォート侵入によって徐々に表の世界に出るようになり、魔導大戦時には通常の騎士団として再編され、数多くの左翼メンバーがハスハに出ていった。

斑鳩王子（サリオン） ※本巻P23参照

魔導大戦が開幕して成長した左翼の騎士たちが登場することになっていちばん意外な感じを受けているのは作者自身である。アイシャら右翼と対照的な不安定な騎士団。長身の騎士が当たり前の騎士団に背の低いメンバーが混じることによって見た目的にもおかしくアンバランスな効果を狙ったというのがほんとうであるが、実際に彼らが登場すると背が低いイコール幼く若い、ということで、年代が進むにつれて彼らが3159年まで引っ張っていくことのできる物語の橋渡しも兼ねていることに気がつき、いまとなっては彼らの登場に非常に助けられている。最終的に左翼はベルベットという戦闘機械のような人物が加入することによって当初のイメージに戻る。サリオンは同世代のタイトネイブやプローズ、バナールといった人物と人間関係を築き、君主として少しは周りに配慮するようになってはいるが、根本的な性格は変わらず、アマテラスとの意見対立が繰り返されるであろう。それは彼なりの忠誠の証でもある。

デザイン／デザイン画：1992年11月9日リスマチックセル

ファティマ・マージャ
MAJA

身長 158cm 体重 37kg
バランシェ・ファティマ

第6巻より登場。
バランシェ・ファティマの4番目の娘として生まれた彼女だが、ビーキーな性能や性格の多い初期のバランシェ・ファティマと比べれば非常に素姓のよいファティマである。幼い斑鳩の面倒をずっと見ていたようだが、自分で斑鳩をまだマスターと呼ばないと決めていたようで、彼女が正式に斑鳩のファティマとなったのは3010年のことである。こういうファジーな関係が許されるのかどうかは別にしても、バランシェ・ファティマならではの豊かな情緒性とも見られる。左の美しいプラスチック・スーツは本来セルイラストに起こし直すのが常であるが、デザインにまったく変更がないことでイラストのまま掲載した。

デザイン／デザイン画：1992年11月17日リスマチックセル

マージャ
プラスチック・スタイル
イラスト：1997年イラストボード・BBケント荒目にアクリル＋アクリルガッシュ 51.5cm × 36.4cm

ファティマ・パルテノ
PARTHENON

身長 163cm　体重 39kg　バランシェ・ファティマ

第6巻より登場。バランシェ2人目のファティマである。クローソーを除けば、星団最強とまで言われるMH制御能力をもつが、初期のバランシェ・ファティマを代表するがごとき扱いづらさとピーキーな性格、それに加えてマスターのシャフトによる薬物中毒で慢性的に精神崩壊直前状態のファティマでもある。戦闘兵器として純粋に見た場合、最も求められるのは安定性と信頼性であり、いかに性能がよくともこの2点が欠けていれば戦闘兵器としての価値はまったくないのだ。自動車レースのように極限までチューニングしてレースに勝つ可能性とトラブルを起こしてリタイアする可能性を天秤に掛ける、というようなことは戦争では許されない。すばらしい命中性能をもつが1000発のうち1発は不発が起こるかもしれない、という鉄砲と、命中性能は落ちるが1000発確実に発射できる鉄砲のどちらが優れているかといえば間違いなく後者なのだ。例えばF-1のフェラーリよりも中古のカローラのほうが路上では優れているということだ。これが戦闘兵器の真の優劣であり、何かを犠牲にしての性能アップなど言語道断である。それをさらに安定性の求められるファティマでやることの恐ろしさは、そんなファティマをパートナーにした騎士にしかわからない。とはいっても実際の戦争では扱いづらいが高性能に賭けた兵器というものも多数存在し、一概には言えないのだが、残念ながらそういった兵器を使用した国が勝った話は聞かない。やはり真実は安定性と信頼性なのだ。

デザイン／デザイン画：1992年11月19日リスマチックセル

“シャフト”バーグル・デ・ライツァー
"SCHAFT"BURGLE dé LEIZER

身長 213cm　体重 125kg

第6巻より登場。元貴族、ザンダシティの秘密結社「ローゼンクロイツ」の首領であったが、メル・リンスによりスカウトされミラージュ騎士団入りした。ローゼンクロイツは非合法組織でもっぱら違法薬物や密輸など、そういった裏の商いを主に行なう組織で、仕事が仕事だけに傭兵騎士団的な意味合いも多く含んでいる結社である。ローゼンクロイツはメンバーであるシャフトやバイズビズ、さらには首領的なザンダ・シティの総元締めのキュキィがミラージュ入りした後も存続し、リョクレイが連絡の要員としてザンダシティにいる。

シャフトの騎士としての腕はパートナーのパルテノをしっかり扱っていること、さらにJ型駆逐戦闘兵器の最初のヘッドライナーであるということを考えても疑いようのない強力な騎士である。ただ、薬物中毒が激しく、その情緒ははなはだしく破壊されてはいるが。2992年カステポーにて戦死。のちにミラージュ入りしたキュキィとはすれ違いであったが、もちろんお互い顔見知りである。

デザイン／デザイン画：1993年12月リスマチックセル

ファティマ・パルテノ
PARTHENON

身長 163cm　体重 39kg　バランシェ・ファティマ

第6巻より登場。バランシェ2人目のファティマである。クローソーを除けば、星団最強とまで言われるMH制御能力をもつが、初期のバランシェ・ファティマを代表するがごとき扱いづらさとビーキーな性格、それに加えてマスターのシャフトによる薬物中毒で慢性的に精神崩壊直前状態のファティマでもある。戦闘兵器として純粋に見た場合、最も求められるのは安定性と信頼性であり、いかに性能がよくともこの2点が欠けていれば戦闘兵器としての価値はまったくないのだ。自動車レースのように極限までチューニングしてレースに勝つ可能性とトラブルを起こしてリタイアする可能性を天秤に掛ける、というようなことは戦争では許されない。すばらしい命中性能をもつが1000発のうち1発は不発が起こるかもしれない、という鉄砲と、命中性能は落ちるが1000発確実に発射できる鉄砲のどちらが優れているかといえば間違いなく後者なのだ。例えばF-1のフェラーリよりも中古のカローラのほうが路上では優れているということだ。これが戦闘兵器の真の優劣であり、何かを犠牲にしての性能アップなど言語道断である。それをさらに安定性の求められるファティマでやることの恐ろしさは、そんなファティマをパートナーにした騎士にしかわからない。とはいっても実際の戦争では扱いづらいが高性能に賭けた兵器というものも多数存在し、一概には言えないのだが、残念ながらそういった兵器を使用した国が勝った話は聞かない。やはり真実は安定性と信頼性なのだ。

デザイン／デザイン画：1992年11月19日リスマチックセル

“シャフト”バーグル・デ・ライツァー
"SCHAFT"BURGLE dé LEIZER

身長 213cm　体重 125kg

第6巻より登場。元貴族、ザンダシティの秘密結社「ローゼンクロイツ」の首領であったが、メル・リンスによりスカウトされミラージュ騎士団入りした。ローゼンクロイツは非合法組織でもっぱら違法薬物や密輸など、そういった裏の商いを主に行なう組織で、仕事が仕事だけに傭兵騎士団的な意味合いも多く含んでいる結社である。ローゼンクロイツはメンバーであるシャフトやバイズビズ、さらには首領的なザンダ・シティの総元締めのキュキィがミラージュ入りした後も存続し、リョクレイが連絡の要員としてザンダシティにいる。

シャフトの騎士としての腕はパートナーのパルテノをしっかり扱っていること、さらにJ型駆逐戦闘兵器の最初のヘッドライナーであるということを考えても疑いようのない強力な騎士である。ただ、薬物中毒が激しく、その情緒ははなはだしく破壊されてはいるが。2992年カステポーにて戦死。のちにミラージュ入りしたキュキィとはすれ違いであったが、もちろんお互い顔見知りである。

デザイン／デザイン画：1993年12月リスマチックセル

ファティマ・ベルダ
La BELDA

身長 162cm 体重 40kg
エーロッテン・ニトログン作

未登場。ティンのパートナーであるが、新たな主人とともに登場するであろう。ファティマにしては非常に珍しいウェーブのついた髪をもつが、こういった癖毛をもつファティマは黒人系のバルテノたち以外ではまず見当たらない。

デザイン／デザイン画：1991年3月14日
リスマチックセル／2005年3月デジタル色修正

ティン・バイア
クー・ファン・シー・マ王子
(公藩司馬)
DÍNG BAIA / GONG PÁN SÌ MÁ

身長 183cm 体重 62kg

第4巻より登場。騎士にしてダイバーパワーをもつ男。A.K.D.イーミュ国の王子であったが殺人癖があり、数々の凶状に耐えられなくなった国王が天罰に預けた。その後も度は放浪するさまざまな国で問題を起こしていたが、それ以外は非常にしっかりとした気質の持ち主で君主たる側面ももっていたようだ。矛盾するこういった性格は天照にとってはおもしろくもあり、左翼の中でも彼は特例的にさまざまな国に出ていたようである。そんな彼も周りの左翼同様、なぜ自分がミラージュの立場に甘んじているかということには疑問をもっていたようだが、アイシャとの戦いで納得したようである。ミラージュ騎士でいること自体が快感なのだと。アイシャとの戦いの後、みずからを清算するべく自殺。真相は不明のままである。

デザイン／デザイン画：1991年3月14日リスマチックセル

“パイソン”エイドリアン・タークレフト7

ヒューズ・カーリーレフト5

“パイソン”エイドリアン・ターク
"PYTHON" ADRIEN TARG

身長 190cm　体重 85kg

第6巻より登場。元フィルモア帝国ノイエシルチスの騎士。第6巻にてルンと対決するが、殺しきれなかった相手とはいずれ再戦するであろうことをいちばんわかっていたのも彼だ。ルンとの再対決で命を落とすが、デコースにしろ彼にしろそういうことをわかっていて相手を殺さないというのは何かあるようでもある。命のやりとりを彼ら騎士は常人とはまた違った観点で見ているようでもある。顔つきといい非常にお気に入りのキャラクターであったが、物語の流れには作者も逆らえない。

デザイン／デザイン画：1992年11月16日
リスマチックセル／2004年11月デジタル色修正。シャツの縞を青から黒に

ヒューズ・カーリー／スピナー
FUSE CURLY / SPINNER

身長 188cm

第6巻より登場。元コーラス王朝の騎士で、王朝一族のメロディ家の忠実な家臣でもあった。彼女は語らないが、メロディ家のいざこざがきっかけでコーラスを出、さまざまな場所で傭兵として戦っていたという経歴をもつ。左翼の中にあっては非常に聡明で軍団指揮官としての能力ももつために頻繁に右翼のレオパルトらと公の場に出ている。たぶんその責任感の強さからみずから不安定な左翼大隊に身を置いていたようである。後にハスハに身を寄せるアルルとも顔見知りのようで、母国コーラスを離れた同じ境遇の身として同情を寄せているようだ。パートナーはコークス博士のトランスだが、いまだ登場せず。

デザイン／デザイン画：1992年11月15日
リスマチックセル／2005年3月デジタル色修正。白をエンハンス

ファティマ・イルペオ
IRUPEO

身長 160cm 体重 39kg コークス・ファティマ

もともとキンキーはケーリッカクというエトラルル型ファティマを所持しているが、現在そのケーリッカクは天照に預けているようである。それは天照がコーネラ帝国の動きをしっかりと察知しているということに他ならない。そのためにファティマがいない状態のキンキーであったが、ミラージュファティマのメンテナンスに訪れたコークス博士と一緒についてきていた彼女がキンキーを選び、そのままイルペオはミラージュファティマとなった。ただ、キンキーはケーリッカクも所持しているが天照がいつ返してくれるのかはわからない。

デザイン／デザイン画：2005年4月12日デジタルセル

ミューリー・キンキー王女
Princess MULEY KINKY

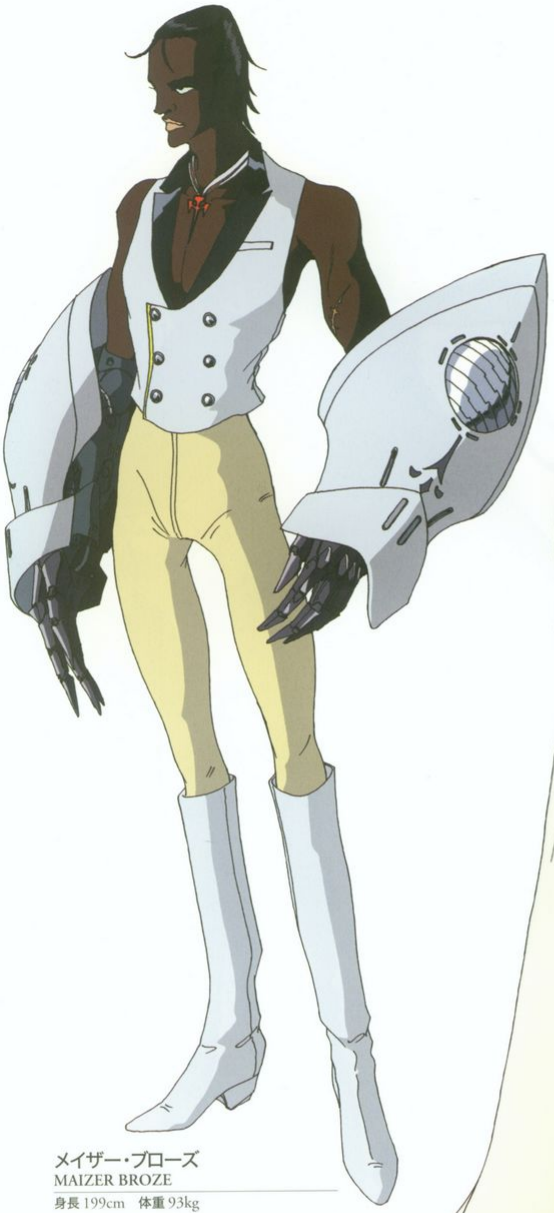
身長 165cm（成長中）

第6巻初登場。とんがり帽子のかぶり物をしての登場だったため彼女がまだ少女であるとはわからなかったであろう。そんな彼女もパタールやタイトネイブと同じく高校生になって、そのまま魔導大戦真っ盛りのハスハへと単身赴いているようである。3010年の浮遊城への乎ロで、バッハトマと実際に戦った彼女は彼らの強さを充分にわかっており、いろいろな意味を込めての参戦であろう。んで、彼女がいつも持ち歩いているこのとんがり帽子のかぶり物は、ロボットなのかただの衣装なのか不明である。彼女に聞いても答えは返ってこない。キンキーとこのとんがり帽子が会話しているところを見た人物は多いが、そっとしておいているようである。

デザイン／デザイン画：2005年3月12日デジタルセル

メイザー・ブローズ　レフト11

ベスター・“クローズ”・オービット　レフト9

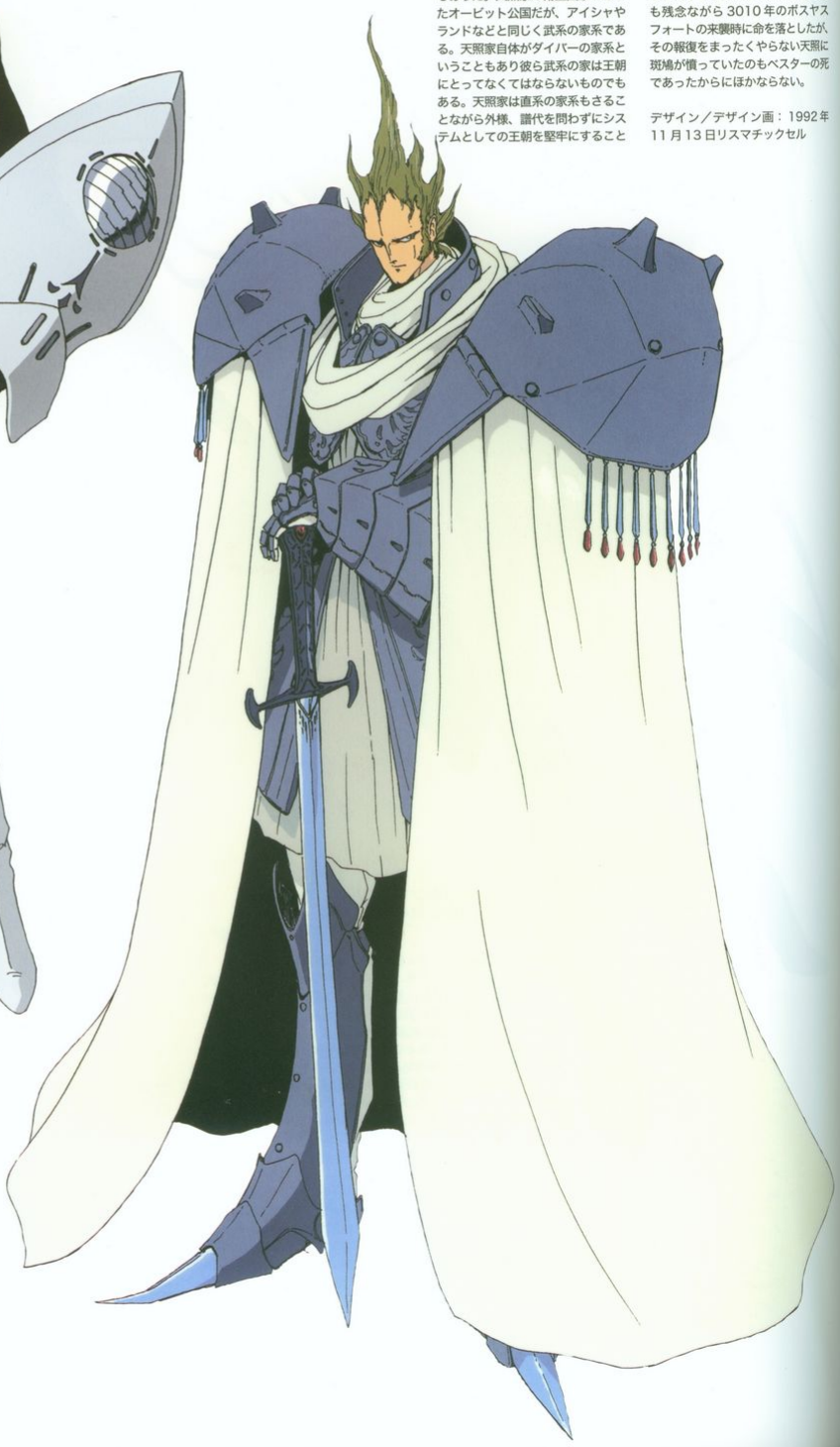


メイザー・ブローズ
MAIZER BROZE

身長 199cm　体重 93kg

第6巻より登場。彼はフィルモアのクリスティンとほとんど同じ境遇で育ち、周りへの傷害事件が多く、天照がそんな彼を見つけ助けたようだ。そのため天照への忠誠度は非常に高く、心から信頼している。斑鳩への忠誠も同様のようで、幼いときより斑鳩と行動をともにしていたようだ。初登場時はまだ幼かったために体も小さかったが、魔導大戦にはここまで大きくなった。彼はキンキー同様かぶり物的装備が好きらしく、いろいろな装甲装備を着けているのが見られる。それでも変わらないのは鉄の爪のような大きな手甲で、どんな姿をしていてもこの爪で彼だとわかるだろう。ちなみにファティマと同じタイツをはいている。動きやすいのだろう。

デザイン／デザイン画：2005年3月12日デジタルセル



ベスター・“クローズ”・オービット公爵
BESTER "CLOSE" ORBIT

身長 205cm　体重 122kg

初登場は実は第5巻で、ソープがバランシェ邸に赴いたとき外で待っていたのが彼とボエシェである。A.K.D.ではなく天照王朝東方10カ国のひとつ、オービット公国の主でもあった。天照家の衛星国家であったオービット公国だが、アイシャやランドなどと同じく武系の家系である。天照家自体がダイバーの家系ということもあり彼ら武系の家は王朝にとってなくてはならないものでもある。天照家は直系の家系もさることながら外様、譜代を問わずにシステムとしての王朝を堅牢にすることに関しては何の躊躇もなく外様や新規の家を取り立てている。こんごもその風潮は変わらないであろう。武家であるオービットが天照王朝の斑鳩の側近として付き、斑鳩が成長するようすをずっと見ていた。その彼も残念ながら3010年のボスヤスフォートの来襲時に命を落としたが、その報復をまったくやらない天照に斑鳩が憤っていたのもベスターの死であったからにほかならない。

デザイン／デザイン画：1992年11月13日リスマチックセル

スパーク／ピッキング・ハリス
SPARK / PICKING HARRIS

身長 187cm

第6巻より登場。ミラージュ左翼部隊の長と断言してもよい人物で、これほど外見、性格共に気持ちよくぶっこわれた人物は「F.S.S.」全般を通しても並ぶものが……って、天照とラキシスという最凶カップルはおいといて、いないと断言しておく。出生不明、素性不明の人物であった。徐々にその正体が物語中でも判明しつつあるが、いまだ確実なことはわかっていない。ともかく、その騎士としての強力さはミラージュ騎士団の中でも1、2を争うが、問題ははたして彼女がまともに戦ってくれるかということである。だいたい、浮遊城での襲撃戦でただの包丁持ってデコースと死闘を演じるところなど、やっぱりまじめに戦ってはいないようでもあった。

デザイン／デザイン画：1993年12月リスマチックセル

ファティマ・クラカライン
KURAKALINE

身長 162cm 体重 38kg バランシェ・ファティマ

バランシェ・ファティマ31番目の娘である。スパークというとんでもないマスターをもって苦労が絶えないと見る向きもあるが、意外や意外、スパークは自分の武器に関してはまったく繊細な扱いをする人物のためある意味自分の大切な武器である彼女には無体なことはしていない。バランシェ・ファティマとして相応のパートナーをもったというところか。

デザイン／デザイン画：1991年12月7日リスマチックセル

クラカライン
プラスチック・スタイル
デカダン・スーツと同様白と黒のツートーンでまとめられたスーツである。すでにハスハ入りしているはずだが、どのMHを使用しているのかは現在謎である。

デザイン／デザイン画：2000年10月16日リスマチックセル

スパーク 私服
元極左テロ集団のゲートジーベンに属し、その後ハスハのAP騎士団でヤーボともに戦っていた。しかしその破天荒な性格が災いし、ハスハを追い出された後はみごと天照にとっつかまった。実際ミラージュでのコードネーム「スパーク」よりも「ビッキング・ハリス」の名のほうが（こちらも本名ではないが）星団には知れ渡っており、相当有名な騎士でもある。彼女にとっておもしろければ何でもよいわけで、美人の主と最高権力を得られるミラージュはどこよりも気持ちのいいところでもあるのだろう。
浮遊城で剣聖カイエンが彼女と一度会っているが、まさかカイエンも眉を剃り落とし、スキンヘッドになった彼女がかつて自分が知る剣聖級の少女のなれの果てとは気が付かなかった。また、スパークもこっちの人格であったために絶対勝てないこともわかっていただろうが。
普段の彼女は別に殺戮人間というわけでもなく、浮遊城でも趣味の料理を生かして浮遊城内放送「スパークさんの料理教室」などの番組をもち（誰も怖くて逆らえない）充分楽しんでいるようだ。おかしなことにファティマからの人気は高い。

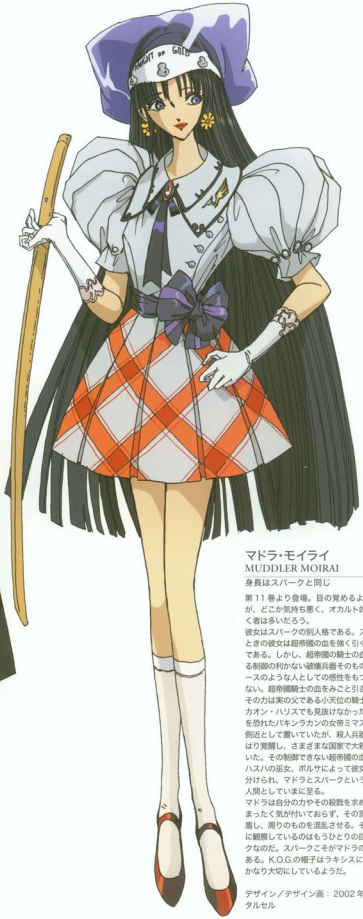
デザイン／デザイン画：1992年11月10日リスマチックセル

ファティマ・ベルクト
BERCUT

身長 164cm　体重 40kg
クープ・ファティマ

第10巻登場。クープ博士の傑作ファティマといわれる。フィルモア帝国専属のクープ博士のファティマが外に出ることはあまりないが、マドラがパキンラカン帝国に属していたため、パキンラカンとは縁つながりのあるフィルモア帝国が彼女のために用意したファティマである。しかし、当のマドラがパキンラカンを出て、ほぼ消息が不明となってからはベルクトも星団から姿を消している。スパークとなってあちこちを放浪していたマドラだが、意外とファティマの素姓までは言わない限りはわからなかったようである。ベルクトも一応いまはミラージュ所属なのかどうかというところさえはっきりしていない。

デザイン／デザイン画：2002年7月23日
デジタルセル



マドラ・モイライ
MUDDLER MOIRAI

身長はスパークと同じ

第11巻より登場。目の覚めるような美人なのだが、どこか気持ち悪く、オカルト的な彼女に身を引く者は多いだろう。
彼女はスパークの別人格である。スパークではないときの彼女は超帝國の血を強く引くけた外れの騎士である。しかし、超帝國の騎士の血とは絞首を求める制御の利かない破壊兵器そのものでもある。スパースのような人としての感性をもつ優しき騎士ではない。超帝國騎士の血をみごと引き継いで生まれたその力は実の父である小天位の騎士称号をもつオルカオン・ハリスでも見抜けなかった。その力の覚醒を恐れたパキンラカンの女帝ミマスは彼女を自分の側近として置いていたが、殺人兵器としての血はやはり覚醒し、さまざまな国家で大絞首を繰り返していた。その制御できない超帝國の血を制御するためハスハの巫女、ボルサによって彼女は2つの人格に分けられ、マドラとスパークという2人の独立した人間としていまに至る。
マドラは自分の力やその絞首を求める本能を自分でまったく気が付いておらず、その言動はすべてが矛盾し、周りのものを混乱させる。そのマドラを冷静に観察しているのはもうひとりの自分であるスパークなのだ。スパークこそがマドラの「良心」なのである。K.O.G.の帽子はラキシスにもらったものでかなり大切にしているようだ。

デザイン／デザイン画：2002年7月24日デジタルセル

剣聖ミス・マドラ
アルゴン・プロミネンス
Miss MUDDLER /
ARGON PROMINENCE

身長はスパークと同じ

第11巻より登場。ラキシス・ガードナー。マドラ・モイライの本当の姿。剣聖カイエンと剣聖マキシの間をつなぐ形でバキンラカン聖帝より「剣聖預かり」を担うこととなったマドラ。正式な意味での剣聖ではないのは彼女がこの時代の人物ではないからである。「帰ってきたのか？　プロミネンスよ」とのことば通り、超帝國剣聖プロミネンスその人そのものであると断言できるミス・マドラは魔導大戦の時代に復帰した超帝國の騎士とも言える。その力はマキシすら恐れおののくもので、物語中でもマキシが彼女の指示に従っていたことで2人の上下関係がわかる。彼女は非常に聡明な人物であり、そのけた外れの力は一切星団暦の騎士たち相手に使われることはなかった。自分が戦ってはいけない、ということを誰よりも理解しているのである。マドラ・モイライであった時代の彼女のことば、「誰も傷つけたくない。剣は持てない」ということばはこの彼女からきたものである。マドラの中にいたのは完全なるもうひとりの人格であり、マドラの矛盾する言動はこの人物との葛藤であったのかもしれない。
天照への忠誠はそのままに、本当の主、ナ・イ・ンの命令によって彼女は動いている。「ラキシスを守れ」とのことばに。
ただ、問題は……たまに「スパーク」に戻ってしまうことがあり、そのときの彼女は性格も騎士の力もスパークのまんまである。

デザイン／デザイン画：2000年10月16日リスマチックセル

バイズビズ
Biz Viz(VINS-VIZ)

身長 200cm　体重 89kg

第12巻に登場。最新ミラージュ騎士で、キュキィの子分とか言われているが、本人はあまり物事を気にかけない性格のようで、その辺もミラージュにぴったりといえばぴったりなのかもしれない。本当は「ヴィンズ・ヴィズ」という名前なのだが、キュキィがなまってバイズビズと呼ぶためにそれが正式な名前となった。この呼び方も本人は気にしていない。「だって、昔からそう呼ばれてたし」だそうだ。ローゼンクロイツ出身だが、シャフトが現役だったころはまだメンバーではなかったはずでシャフトとの面識はない。そのぼおっとした風貌からは想像もできないほど強力な騎士であるが、ブラフォードに言わせればまだまだ修行が足りないとのことである。

デザイン／デザイン画：2004年10月24日デジタルセル

ファティマ・スパルタ
※本巻P85参照

死亡したミラージュのコーララのファティマであったが、のちのお披露目にてバイズビズのパートナーとなった。主人がいなくなってもお披露目にまず出てこないと言われるバランシェ・ファティマと違い、この辺にもモラード・ファティマということがあるのだろうか。とはいっても新たな主人ことまたミラージュに出戻ったのはアマテラスの意地があったのかもしれない。

デザイン／デザイン画：2004年10月10日デジタルセル

ファティマ・サロメ
SAROME

身長 158cm　体重 38kg　工場製

第5巻より登場。最初のマスターはディモス・ハイアラキ。ハイアラキはその後クーンもパートナーにしていたが、サロメはサロメでハイアラキとともにミラージュにいたようだ。ハイアラキの死後しばらくしてお披露目に出て、タイトネイブに仕えるようになった。アドラーのファティマ工場で主にバランシェが育成を担当していたが、バランシェが公国を出て独り立ちする前の貴重な作品で、工場製とはいえバランシェ・ファティマ扱いなのはハイアラキのパートナーであったことが大きい。また、そのファッションも彼女くらいにしか見られないテントラインのデカダン・スーツで、風が吹けば胸まで丸見えである。もちろんインナースーツを着ているから平気。靴もつま先が大きく丸まったものでスーツのイメージに合わせてあるようだ。

デザイン／デザイン画：1991年12月5日リスマチックセル

プリンセス・タイトネイブ
Princess TIGHTNAVEN

身長 163cm（成長中）

第9巻より登場。ドクター・ダイアモンド、ファティマ・クーンとともに登場し、その名前だけはミラージュ騎士として公開されていたから初登場時にはわかっていた読者も多かったであろう。彼女の服装は今後の天照にも影響を及ぼすエンシェント・モードで「F.S.S.」のほんとうのファッションリーダーである。すべてのデザインラインは彼女の様式に向かって引っ張られていくであろう。

彼女の生まれは西太陽系の工場惑星カーマントーの独立国家シージラックで、元ジュノー星のシージラック王の娘である。工場星の過酷で厳しい環境とカラミティやボォス、アドラー、デルタベルンといった星々から絶えず搾取され格下に見られている宇宙民の苦境も立場もよく理解している。A.K.D.に彼女が入ったとき搾取側の象徴として彼女の頭にあった天照王朝が、意外や意外、なんだかずいぶんと聞いた話とは違って自分と波長が合うことが判明し、また、天照本人が偏見や噂などにまったく惑わされない聡明な人物であることを理解し、彼女の入城後は彼がなにかと宇宙民のために星団議会に働きかけているのを見て、「これぞほんまもんの君主じゃああ」と若さゆえの勘違いも手伝って、「ミラージュ入れてくれ。どうせ姫はそちにただで売られた体じゃ。好きに使え。あんなことやこんなこと、何してもよいぞ」「いいよお！」の相変わらずのええかげんさでミラージュ騎士団入りした。いや、単にアマテラスはそのことばをいかなる命令も聞くという忠誠のことばとして受け取っただけなのだが。が、宇宙民から慕われているシージラック王女としての立場を考慮して「出張ミラージュ騎士」という訳のわからない肩書きももらうことになった。

現在は高校生としてグリース王立高等学校にパナールと通っているが、いったいこいつらはどんな学生生活を送っているのか。同級生はともかく校長先生以下担任までえらい迷惑なことであろう。パナールは言っている。「だって峡楼って（タイトネイブの幼名・峡楼姫＝きょうろうき）転校してきた自己紹介のとき、“わしはとあるお方の慰み者で側室なのでわしをナンパしようとしても無駄じゃ”って言ったのよ！」だそうである。どうも本人は天照王朝の跡継ぎを産むと思いこんでいる節がある。アイシャはそういう彼女を完全に無視してはいるが。のち天照の星団侵攻において、シージラックほか宇宙市民たちが天照の支持に回ったのは彼女の影響があるとも言われる。

デザイン／デザイン画：1999年3月23日リスマチックセル

ファティマ・イカロス ※本巻P78参照
リィの代よりアトワイト家に仕えているが、娘のパナールが生まれた時点で彼は次の主は彼女であると決めていたのかもしれない。幼いパナールをそれこそ赤子のころより見ており、たぶん誰よりもパナールのことを理解している存在である。絶大な信頼をおける相手であるが、パナールにとっては少々勝手が違うようではある……。

デザイン／デザイン画：2000年4月16日リスマチックセル

パナール・リィ・エックス・アトワイト公女／王女（パナール・リィ・エックス・ヘンシェル・アトワイト）

Princess PANARD EX ATWIGHT/
Imperial Princess of AMATERASU/
PANARD LIE EX HENSCHEL ATWIGHT

身長 160cm（3030年まだ成長中）

初登場は第3巻。第10巻より本編登場。ウラッツェンに背負われた初登場時の赤子からいまは母の面影を受け継ぎ美しく成長している。ウラッツェンやスペクターはリィから強引にこのパナールの子守をやらされていたらしく、この2人はいまだにパナールに頭が上がらないようである。しかし、パナールの父親は謎であり、天照家にはこういった両親どちらかが不明の子供が多い。だいたい天照本人が父親不明なのだから、誰もそれを追及するものはいない。
彼女が左翼に所属しているのは同級生のタイトネイヴや斑鳩の右腕として働くために左翼のほうが都合がよいと判断されたためで、この時代にはもう右翼左翼の違いはない。……にしても大丈夫か？　なにやら恐るべき騎士団「リアル女子高生ルミナスナイツ」を結成したという噂が飛び交っている昨今のフロートテンプルであった。史上最強と言われるミラージュ騎士団員ではあるが現役の女子高校生というのも事実である。母は鎌状の武器を使っていたが、彼女の武器はどうも放課後、教室の用具入れから持ち出したこの長ほうきのよう……な気がする。
いーや。彼女がこんなものを持っているのは絶対ほかに理由があるはずだと自分つっこみで終わり。

デザイン：リィのバリエーション（本巻P78・リィの項参照）／デザイン画：2005年3月12日デジタルセル

剣聖ベルベット
VELVET WEISZMEL

身長 203cm　体重 87kg

第8巻より登場。本編に本格登場はしばらく先になる。物語中ではマドラのお腹にまだ彼はいないことからわかるように本当にまだまだ先の話である。超帝國の血を引くが、父の天才的な剣技の才能をも受け継ぎマキシとはまた違った強力な騎士である。マキシ亡き後剣聖の称号を受けることになるが、本人はいたって冷静に受け止めている。J型駆逐戦闘兵器の2番目の乗り手となるが、何百万人もの人間をそのバスターランチャーで灰にしたことに対しての罪悪感はないようである。血の継承がこの物語のテーマのひとつだが、彼のような血を引く人物もまた、次の時代へと継承されていく。パートナーはバルテノ。この時代のミラージュ騎士は化け物ばかりでL.E.D.ミラージュを使用しなくとも星団制圧は可能であったかもしれないとよく言われている。

デザイン／デザイン画：2005年2月15日デジタルセル

エルディアイ・ツバンツヒ(スペック)
ELDEAI ZWANZIG/SPECK

身長 170～230cm 可変

彼女の所属していた組織は「DESIGNS」次巻以降に詳しいため、彼女自身の説明はここでは省く。
正式な名前は「L-D-I-20」で、システム・カリギュラの製造ネームでもあるが、彼女はとりあえずれっきとした人間である。
ミラージュ騎士として活躍するのはしばらく先になる。システム・カリギュラから特殊な任務を与えられている彼女がなにゆえ天照のもとに就き、A.K.D.の一員として働くのか？　それは決して明かされることはないと思うが、そんな彼女を受け入れる天照にしてみれば「だって僕より年上なんだもん」といういつものパターンである。推定で約4000歳は超えていると思われるが、その年齢からわかる通りエンシェント・ディメンジョン・ウォリアー「超帝國の騎士」である。魔導大戦時に出現した「ショウメ」というものの探索も彼女の任務である。
パートナーはフローレス・ファティマ「湖のオーハイネ」。

デザイン／デザイン画：2005年2月15日デジタルセル

ウピゾナ・バーデンバーグ
UPIZONA BARDENBERG

身長 195cm

第8巻に登場。ミラージュ騎士団最後のメンバーのひとりで彼女の活躍する星団暦4000年代は彼女らミラージュ騎士は架空の作り話とまで言われるほど一般世間的になじみのない存在であった。
騎士の力が弱まっていく一方のこの時代に2000年代の騎士の強さを維持していたミラージュ騎士たちは自分たちのその力を奮う場もなく、悶々と過ごしていたのであろうか？　バランシェが生きていれば彼らミラージュ騎士たちの薄まらない騎士の力を解析できたのかもしれないが、それは星団を去った彼らに聞くことも調べることもできない永遠の謎となった。

デザイン／デザイン画：2005年4月10日デジタルセル

ファティマ・メガエラ
MEGAIRA

身長 167cm　体重 40kg
バランシェ・ファティマ

第1巻より登場。詳しくは「DESIGNS」次巻のアドラーに譲るが、星団暦4100年にはバーデンバーグのパートナーとして2980年代の人々の末裔の姿を見ることになる。物語全般を通して登場するファティマである。この姿は第8巻ラストに登場したときのスーツで足元はブーツではなくソックスであった。本来M型のメガエラであるが4100年代にはもう細かな識別はどうでもよくなっていたのかもしれない。が、バーデンバーグの趣味もあったかもしれず、その辺は不明である。胸元の黒いリボンはブローチ状になっている。

デザイン：1998年／デザイン画：2005年4月10日デジタルセル

“ショウ・マスト・ゴー・オン”
SHOW MUST GO ON
Last of Plastic Style / TITA

※本巻 P81 参照

物語のイメージとして３女神がおり、また、狂言回し的な役割としてファティマ・エストが用意してあるが、このティータもまた物語の根本的なイメージリーダーとしての立場は絶対に揺るがない。それは物語冒頭をエストとともに飾ったファティマというだけではなく、その彼女のデザインこそが３女神以外のファティマデザインをリードすることとなったからである。そしてまたプラスチック・スタイルの最後を飾ってくれるのもこの「ティータ」でなくてはならない。
やがてすべてのファティマは最新型スーツのアシリア・セパレーツに切り替わっていくにせよプラスチック・スタイルとはなにか？と聞かれれば「このティータのデザインこそがそのすべてである」と答えられるであろう。
そしてその証拠にアシリア・セパレーツ、ビスケット・スタイルの時代になっても彼女のイメージはこのまま変わらない。

デザイン／デザイン画：2005年4月10日デジタルセル

カーレル・クリサリス
KARRER CHRYSALIS

身長 205cm　体重 105kg

第１巻冒頭より登場。物語ではいちばん最初に登場した騎士である。しかしいまいちいまいち印象が薄いのはL.E.D.ミラージュとバッシュが主役だったから仕方がないのかもしれない。レオパルトの1000年先の子孫にあたり、まだ若く、経験も少なかったであろうが、ほぼすべての戦闘データを解析していたファティマ・エストと黒騎士グラードを相手にみごとに戦い抜いた。レオパルトのような堅物イメージはない。

デザイン／デザイン画：2005年4月10日デジタルセル

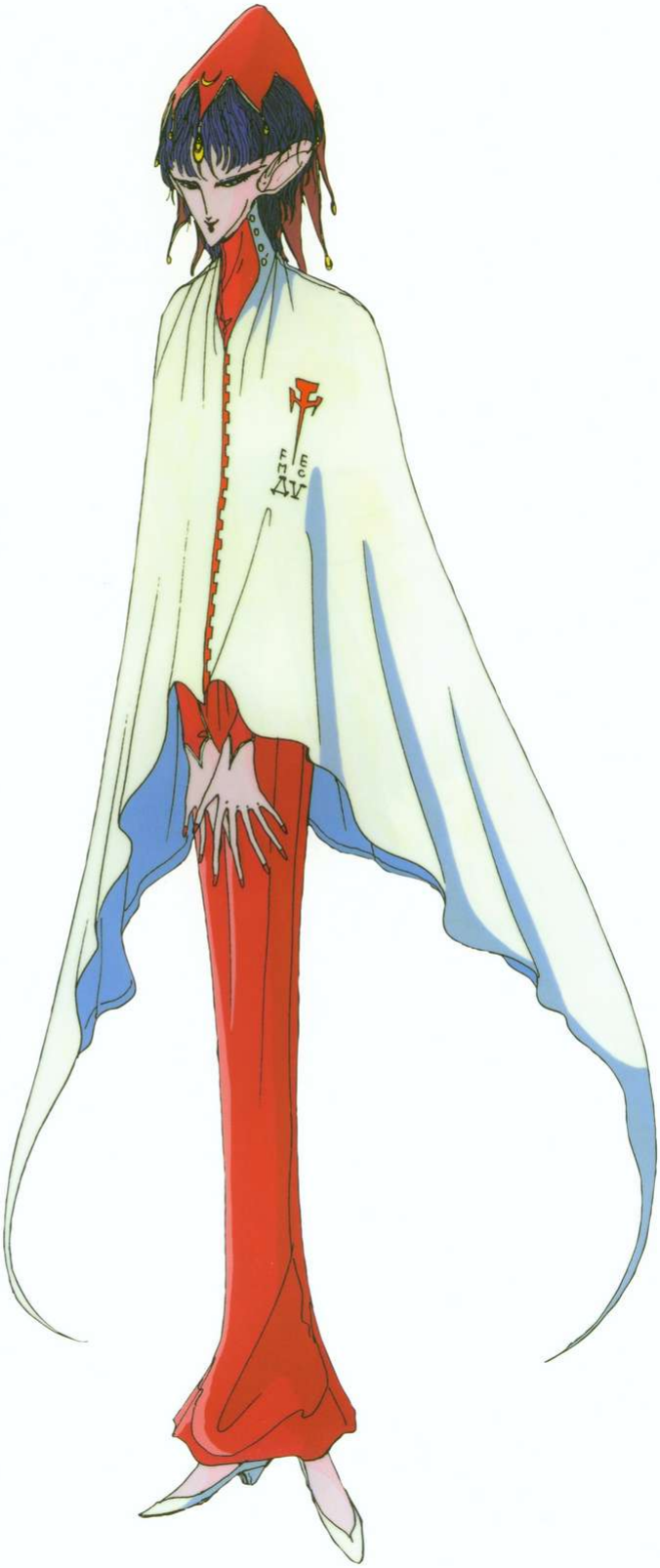
アラート・エックス（アラート・リィ・エックス・ヘンシェル・アトワイト）

ALERT LIE EX HENSCHEL ATWIGHT

身長 191cm

第3巻より登場。未来回想シーンでの登場が多いが、先祖のリィと合わせ物語全般を通じて登場する血統である。コーラスの衣装を着けているが、この時代のコーラスは天照に壊滅させられ、国家として成り立っておらず、あくまでコーラス・シックス率いる解放軍の一員としての服である。天照の勅命によりミラージュを離れ、コーラスを助けることに全力を尽くした。この時代、強力な騎士やファティマが少なく、彼女の圧倒的な力はコーラスのかけがえのない戦力になったことであろう。ただ、彼女としては複雑な想いであったであろうし、彼女を疑う仲間も数多くいたことであろう。コーラスには3000年代に同じミラージュの大先輩、シャーリィが嫁ぎ、その血はロレッタ、さらにパナロッテに続いていく。彼女もそういった運命をたどるのか？　それは第2部の最後でわかるだろう。

デザイン／デザイン画：2005年3月14日デジタルセル



レディ・スペクター
LADY SPECTOR

身長 200cm 以上

未登場。見ての通りの宇宙人。星団を離れたアマテラスがペストラル星系で偶然合流した人物でファティマのような生体演算機能をもっている。また寿命も長く、彼女がほぼひとりでその後の次元戦闘コロニー「ザ・ウィル」のメインパイロットとして舵を取っている。
物語未登場でこういうデザインシートがあるのはシナリオ上では登場していたが連載時にそういうシーンがカットされてデザインだけが残っているという場合がほとんどである。とはいっても彼女はこんご登場してくるが。
星団最強クラスの騎士を集めたのがミラージュ騎士団であるが、最終的には騎士だけでなく超帝國の騎士やファティマや宇宙人やもう強くておもしろければ何でもいいといった感じでメンバーが構成されるようになる。

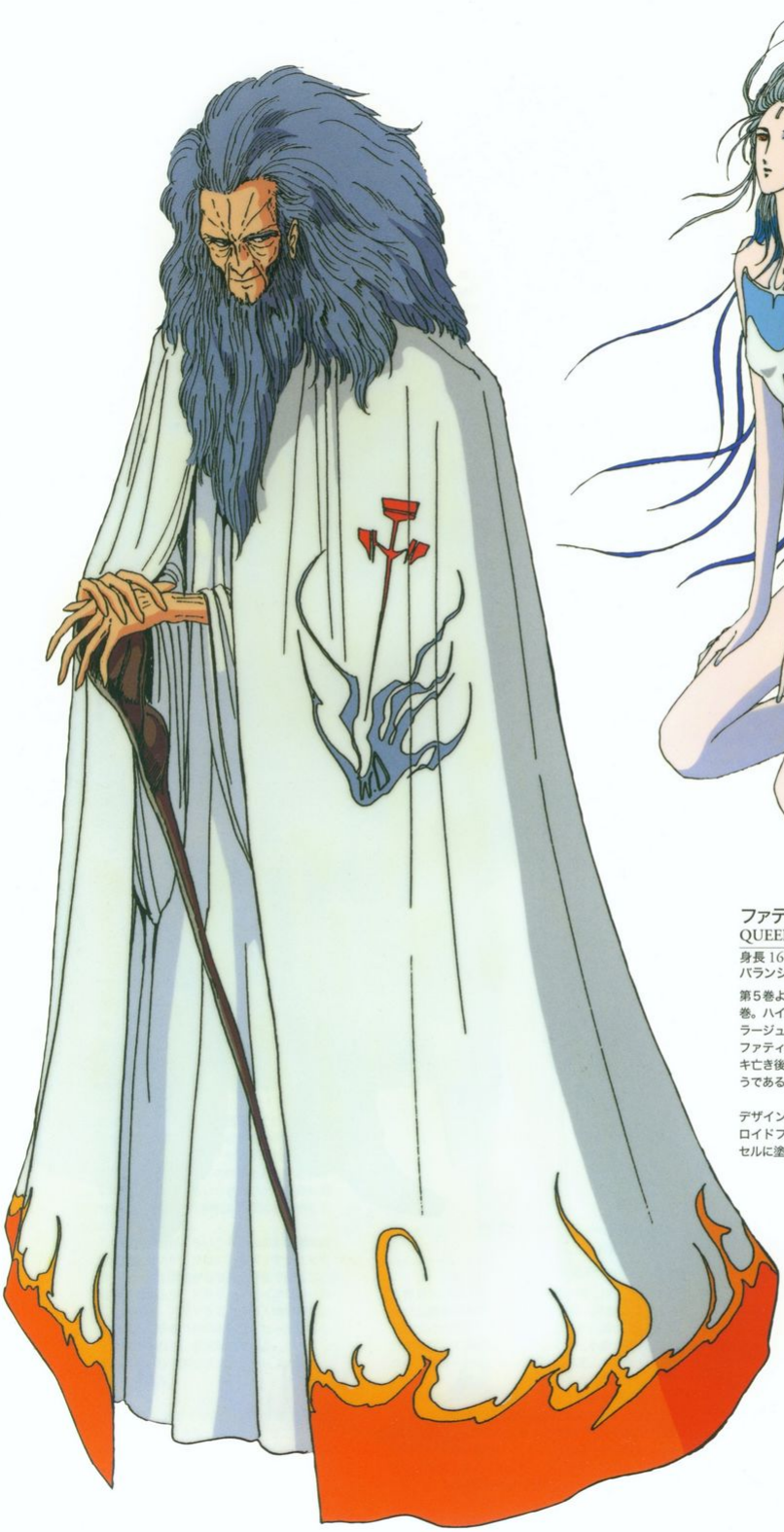
デザイン／デザイン画：1988年4月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

ザ・タワー
the TOWER

身長 167cm　体重 42kg　モラード・ファティマ

第10巻に登場。塔という名をもつファティマで、モラードが最後に作ったといわれる。星団暦3100年には浮遊城にいることが確認されている。そのときミラージュの関係であったのかどうかは不明であるが、最終的にはファティマでミラージュ騎士という肩書きをもっている。星団を離れ、天照のゴート・ミラージュを駆るが、ゴート・ミラージュはハスハの「ジ・エンプレス」のことで、どういういきさつで天照が所有するようになったのかはいまは不明である。彼女は戦闘スーツを複数もっており、これが正式なスーツというわけではない。ほかにもつハイレッグポジションカットのスーツもまた可愛らしい。

デザイン／デザイン画：1988年セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し／2004年10月デジタル色修正。タイツの色をグレーから肌色に変更



ファティマ・クーン
QUEEN

身長 168cm　体重 42kg
バランシェ・ファティマ

第5巻より登場。詳しくは「DESIGNS」次巻。ハイアラキのパートナーとして一時期ミラージュにもいたようである。バランシェ・ファティマのいちばん最初の娘で、ハイアラキ亡き後はアース・ドラゴンのもとにいたようである。カイエンの生みの親。

デザイン／デザイン画：1988年6月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

剣聖ディモス・ハイアラキ
DEIMOS HIARAK

身長 205cm　体重 118kg

第5巻に登場。彼も詳しくは「DESIGNS」次巻。最終的にミラージュ騎士団顧問として迎え入れられたのはソープとの付き合いもあるだろうし、騎士として騎士団の設立に興味があったのも確かだろう。基本的に豪快な人物なので初期のミラージュ騎士に非常に慕われていた。

デザイン／デザイン画：1988年3月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

ダグエラン・ルス天照家元老院議長
DOUGERAN ROTH

身長 189cm　体重 95kg

第1巻より登場。もしかするとダグエランはアイシャを除くとミラージュ関係者で最も登場が多い人物かもしれない。いつも天照の側におり、天照家ではなく、天照本人を気遣っているふうにも見える。ラキシスや最近ではタイトネイプなどというも笑顔で会話しているやさしい人物であるが、それは彼がそれなりの齢を重ねてきたからにほかならない。
陰謀と策謀の渦巻く天照家元老院ではそんなやさしげな彼からは想像もつかない苦労があるのだろう。彼がいま最も頭を痛めているのはコーダンテ家の地位と家督である。ダグエラン家はもともとバビロン王国の公家であったが、ログナーとはまた別に古くより天照家に忠誠を誓う名家である。ここで不思議なのは本来の臣従にあげるべき忠誠者はバビロン国王なのであるが、なぜ、天照家なのか？　それはバビロン王ことログナーの話を待たねばなるまい。

デザイン／デザイン画：2005年7月23日リスマチックセル

メルカ・ルーモアーズ侯爵
MERCA ROUMORS

身長 178cm　体重 80kg

第1巻より登場。ダグエランらとともにしばしば登場するA.K.D.の重鎮。単行本第12巻では天照の側近や相談役が新たな顔ぶれとなって「おや？」と思われた方もいたことかと思う。ダグエランやこのメルカも魔導大戦の時代となって、天照家やミラージュから一線を引いたということなのであろう。
メルカは天照王朝のライム家の系統で、メルカ侯家の長老であり、また天照家の軍事顧問である。主にA.K.D.すべての軍事関係を取りまとめていた。また、この人物について特筆すべきはあのアイシャが唯一頭の上がらない人物であるということだ。武家のコーダンテ家としてもこの人物には並々ならぬ恩があるのだろう。

デザイン／デザイン画：2005年7月23日リスマチックセル

プロフェッサー・ビリジアン
ギルフィー・ビリディン
Prof. GILFI VIRIDIAN

身長 192cm　体重 88kg

この「DESIGNS　1」の主旨、「第12巻までの登場人物」には完全に反する、単行本第13巻より登場予定人物。
出生不明の人物。「輪波理論」でその名を残す科学者。アドラー星の科学者の登竜門であるバルチックアカデミーをわずか数か月で中退したのはアカデミーの学業と研究があまりにお粗末であったという彼のことばからも察せられる通り、彼の研究は星団の科学者たちとは一線を画する。
その輪波理論がどういうものなのかは現時点では言えないが、少なくともアマテラスとミラージュ騎士団にかなり近い存在であることは確かであろう。ドクター・ダイアモンドのことば通り、アマテラスという人物の存在はすべての科学者の興味の対象となっていることは間違いのない事実なのである。
年齢不詳。超帝國科学アカデミー「カリギュラ」主任教授。

デザイン／デザイン画：2005年7月23日リスマチックセル

スーツ上着
表地はファティマ・スーツと同素材の装甲生地である。内側にはファティマ以上に生命維持のためのバイパスや装甲ガードが縫いつけられているのがわかる。非常に重く、並の人間ではすぐに疲れてしまいそうである。特に心臓部には衝撃保護と心拍制御装置が埋め込まれている。

女性用ミラージュ・スーツ
(ディッパ)
ディッパのスーツは特殊でロングドレスの外見をもつが、足のところを巻き込んで締めるとパンツスタイルにもなるようにデザインされている。こういう仕様の変更は女性ミラージュが各々特注で製作しているようである。一応男性用すべてのスーツ一式は支給されているが、自前であることがほとんどだ。んで、なしてファティマみたいに靴下を重ねばきしているかと言えば、そりゃああああ……やっぱし冷え性なんでしょうか、どうせブーツで見えなくなるレコクビットが寒いのは戦闘機以来の伝統である。

ミラージュ騎士団 騎士服
MHに搭乗するときの正式なスーツである。内臓を守るためのボディガードやジェルがインサートされた耐圧耐衝撃ブーツなどがよくわかる。
男性型はほとんどこのタイプで女性も下半身はこのズボンタイプのものをもっているはずだがパンツルックの女性ミラージュはまず見られない。

P120-121 のイラスト：1988 年 5 月 4
日セルロイドフィルム／1990 年代リスマ
チックセルに塗り直し

フェイスガード

ミラージュ騎士団の象徴ともいえる動物の頭蓋骨をそのままマスクにしたヘルメットである。実際にこのての動物の頭蓋骨を手に取ってみればわかるが非常に重く、頭にかぶれるようなものではない。たぶん内側は薄く削ってコーティングした合成素材であろう。いかに騎士とて頭部が重くなるのは戦闘に支障をきたすためそういう配慮がなされているはずである。
このヘルメットは見ての通り宇宙用として使用可能なように生命維持ユニットと連結している。酸素や水分、栄養をすべて供給することが可能だ。

女性用ミラージュ・スーツ（アイシャ）

このスーツは第６巻に登場。こうして見ると脇が非常にゆったりとした作りとなっている。さすが戦闘用としての機能は最低限もたされているようだ。胸にあるのは生命維持ユニットと心臓を保護するための装甲である。腹部はインナーに同様の装甲サッシュを付けているが、ウエストを細く見せるためにどうせアイシャは着けちゃあいないと思われる。保護を考えるとロングブーツのほうがいいに決まっているが、女性スーツは外見重視で皆好き勝手なアレンジをやっている。

女性用ミラージュ・スーツ 背面（キュキィ）

ミラージュ騎士団は白と赤が主体となったカラーリングだが、パーソナルカラーもあるようで、それが顕著に表われているのが女性のはいているタイツのカラーだ。彼女らには決まった色があり、タイツの色がほかの女性と重ならないように分けられているようにも見える。男性陣も女性ほどではないが各々のカラーのイメージはもっているようである。初期のころはそれに加えて髪の色も通常ではない青だの緑だのを使用していたが、最近は普通の色に落ち着いている。ちなみにタイツなどに使われている装甲素材は間違いなく最強の強度を誇る糸、スパイダーシルクであろう。この糸は地球でも現在急ピッチで開発がされているが、いまだ実用化できないでいる素材だ。その名の通り蜘蛛の吐き出す糸である。完全自然素材で拳銃弾くらいははじき返す。ファティマのタイツなどもこのスパイダーシルク系列のもので作られている。薄いがとんでもなく強靭である。

メル・ズーム
Mel ZOOM WONTER

身長 75cm

第6巻より登場。現在の姿は実はこの姿ではない。再登場の姿はお楽しみということで。
ひと目見ただけで常人ではないとわかるのはその黄金色の大きな瞳であろう。しかし彼女の顔の造りはどこか不自然で、人工的でもある。彼女はダイバーパワーによって自分の姿を子供のままにしているというなんともすごいダイバーで、その力も時間と空間を一部一時的に制御することが可能という。これが物理的にどういうことなのかはわからないが、現実的にそういったことをできるのは天賦だけなので、対する相手に対してということなのかもしれない。カイエンの言った「やっかいだ」というのはそういう意味を込めていた可能性もある。
母親はユーコン財団のビューティ・ベール。通称「会長」。つまりは彼女の本名は「ユーコン」であることは事実だ。しかしなぜ、ミラージュ魔導団にいたのかは謎。

デザイン／デザイン画：1993年ごろ（日付不明）リスマチックセル／2005年3月デジタルセルに塗り直し

ホワイト・リンクス
WHITE LYNX

身長 167cm

第6巻より登場。3010年のボスヤスフォートの襲撃ではその名の通りの情報のリンカーとして現場の指示を的確にグリース中のミラージュ騎士に伝達していたようだ。強力なテレパス能力をもち、通信システムなしであらゆる情報を伝達可能な女性だ。本来はダイバーズ・バラ・ギルドの一員であるが、その役目上ほとんどをミラージュ騎士団で過ごしている。

デザイン／デザイン画：2005年3月14日デジタルセル

エレーナ・クニャジコーワ
ELENA KUNIKOVA

身長 168cm

第7巻より登場。バビロン王国騎士団所属。A.K.D.宇宙軍情報部にも所属。ミス宇宙軍として内外にサービス精神とはなんたるものかを示した。わけではなく、あの性格はどこに行っても変わらないだろう。よりによってログナーの部下なのであるが、ログナーの痛烈な皮肉をまったく皮肉と受け取らない彼女はきっとログナーの部下としては使いやすいのだろう。何を言ってもこたえない彼女を一応は頼りにしている面もあるが、ログナーが大人であろうと子供であろうと態度を変えないその姿は優秀な部下の鑑（かがみ）であると、これは本人が言っているので当てにならない。一応こういういかにも間者的な格好もするということでひと安心である。現在本編中ではローラーガール姿でハスハの街道をばく進中である。乗り物使いなさいってばあ、ほんとにもお。彼女のデータを見て「？」と思われた方は鋭い。そう、彼女は騎士としては170cmに満たない身長である。この背の低さが一般の中に紛れ込んでも彼女が騎士であるとわからない最大のポイントなのだ。実は忍者的な活動をする騎士には一般人と変わらない体型である者が多く、巴なども背の低い騎士の代表である。逆に2m近いヤーボやアイシャはどう変装しようがまず騎士と思われてしまう。

デザイン／デザイン画：1998年8月リスマチックセル

パルゥ・スウェイン
PALU SWAIN

身長 162cm

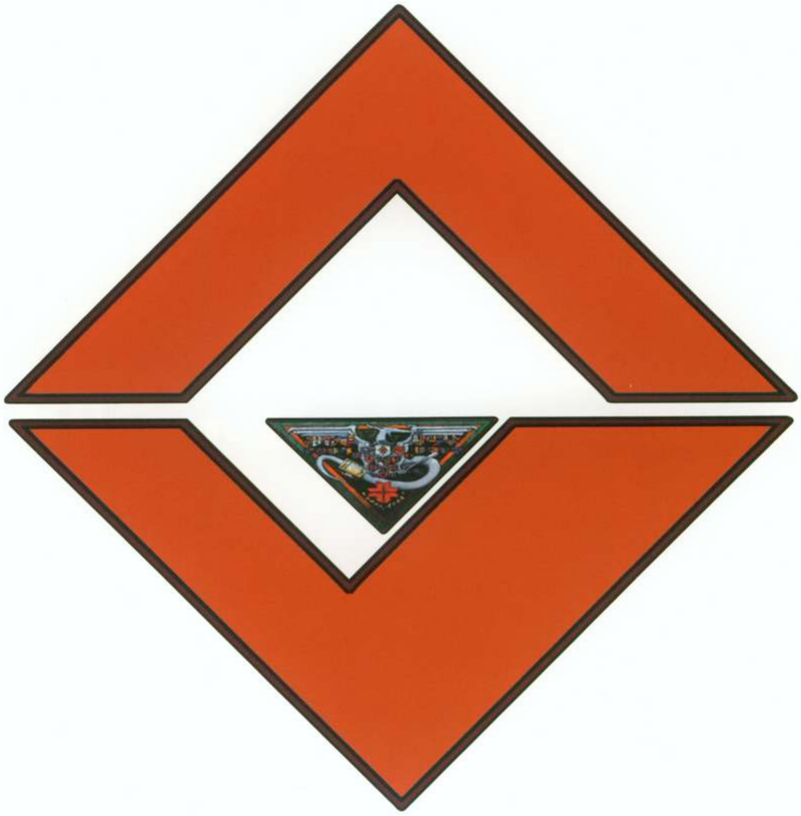
第4巻より登場。イーミュ王国の王室付き女官であった彼女は王子のティンことシーマが王国を離れてからも彼に付き添い行動をともにしている。お互いが幼いころより面識があったことからそれは単に主従関係を超えたつながりであったかもしれないが、恋愛とかそういったものでもなかったようだ。
シーマ王子が自殺した後は母国に戻りひっそりと暮らしているという。殺伐とした第4巻の中でなにかホッとさせる一面をもつ少女であった。

デザイン：1989年／デザイン画：1991年3月14日リスマチックセル

ゴーズ騎士団マーク
中央にA.K.D.国章が入っている。
ドラゴンのレリーフにA.K.D.参加国すべての国旗が
描かれている。中央のグリースの国旗が天照家の家紋
から取られているのがわかる。

Power of A.K.D.
GOHDS KNIGHTS

A.K.D.軍とゴーズ騎士団



天照が星団暦3960年に全星団を制圧し事実上ジョーカー星団をすべて支配下とA.K.D.傘下においたとき、天照は身を引き、ファティマで自分の影であったユーパンドラを前面に出し、政治のすべてを任せることとなった。

すでに恐怖の象徴であったA.K.D.と天照はこの時点で星団から完全に姿を隠し、この時代の人々にとっては紫色の目をもつユーパンドラが天照であり、恐怖の象徴はゴーズ騎士団となった。

星団最強のミラージュ騎士団は封印され、3960年以後はまったくその姿を現わさず、世界がどのような混乱になっても再登場はなかった。

ユーパンドラとその右腕、ジョージョ博士は徐々に人類の種としての限界が近づきつつあることを承知しており、その対策も始めていた。

これは正確に言えばエンシェント・ディメンジョン世紀に作られた騎士とダイバー、そのテクノロジーと長きにわたって受け継がれてきたその血の力が拡散を極めて弱くなったことが本当の理由である。実は3075年の魔導大戦終結の折、炎の女皇帝が天照に託したことばから始まったことなのだが、それはまだ先の話。

そのため、マイトやマイスターが非常に生まれにくくなり、騎士の力も魔導大戦から比べると明らかに弱まっていた。

ジョージョ博士はゴーズ騎士団を全面的に改良し、機械化騎士団として再編成を行ない、その使用するMHもエトラムルを主体とした。この技術はジョージョ博士のものではなく、3030年ごろのMHマイト、コーネラ帝国のヒュードラーが開拓したもので、彼女が開発したMHカナルコード・エリア・ナインことKANの技術がすべてのMHに投入されている。

そしてこの時代、A.K.D.が使用するMHは改良されたブラッド・テンプルに加え、カナルコード・エリア・ナイン、アシュラ・テンプルといった先の時代にその先鋭的な技術と性能で名をはせたMHが正式なMHとして採用、大量に生産されている。

騎士たちも単行本第8巻に出てきた通り、改造、機械化されてその衰えた騎士の血を増幅し、あらためて星団最強のゴーズ騎士団と言われるようになっていった。

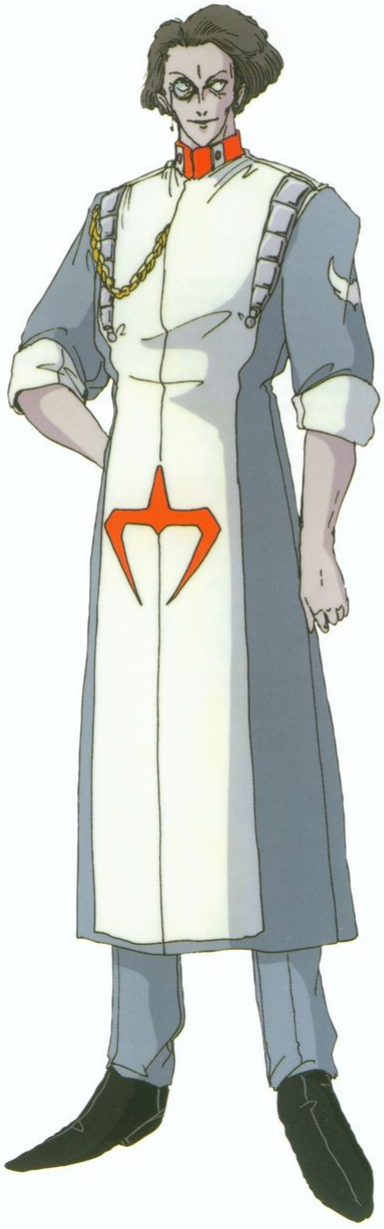
カナルコードやアシュラ・テンプルは「DESIGNS」次巻以降に詳しい。参照されたい。

ユーパンドラ・ライム
UPANDRA LIME

身長 192cm　体重 75kg　バランシェ・ファティマ

第3巻より登場。天照の影としての活動が可能なようにバランシェが造った42番目のファティマである。年を取ることもなく、延々と生き続ける天照にプレゼントしたものだ。しかし彼は精神制御のダムゲート・コントロールが施されておらず、天照は後からダムゲートを組み込むこともできたが、あえてそれをせず、覚醒させた。
人工生命体として人類を凌駕する生体能力をもつファティマ。天照はその彼に自分の全権力を譲り渡し隠居した。
3960年以降、A.K.D.とジョーカー星団の人々がユーパンドラというファティマによって支配される世界ともなったのだ。

デザイン／デザイン画：1988年10月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し



ドクター・ジョージョ
Dr. JOEJO

身長 173cm　体重 62kg

未登場。星団暦4000年代の科学者。ユーパンドラに見いだされ、A.K.D.の主任博士となるが、この4000年代になるとMH、ファティマともどもマイトと呼ばれる人材が枯渇し、生まれてこなくなるという事態となっていた。従って新たなMHもファティマもなく、減り続ける一方でもあった。MHはかつての列強諸国が使用していたものを手直ししながら使用され、ファティマはエトラムルが主力となっていた。騎士の力はさらに薄まって、その力の衰えが危惧されていたこの時代、ジョージョは騎士の生体改造によってその力をブーストさせることに専念し、半機械化の騎士団ゴーズを星団とA.K.D.の象徴とした。

デザイン／デザイン画：1988年10月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

天照が星団暦3960年に全星団を制圧し事実上ジョーカー星団をすべて支配下とA.K.D.傘下においたとき、天照は身を引き、ファティマで自分の影であったユーパンドラを前面に出し、政治のすべてを任せることとなった。

すでに恐怖の象徴であったA.K.D.と天照はこの時点で星団から完全に姿を隠し、この時代の人々にとっては紫色の目をもつユーパンドラが天照であり、恐怖の象徴はゴーズ騎士団となった。

星団最強のミラージュ騎士団は封印され、3960年以後はまったくその姿を現わさず、世界がどのような混乱になっても再登場はなかった。

ユーパンドラとその右腕、ジョージョ博士は徐々に人類の種としての限界が近づきつつあることを承知しており、その対策も始めていた。

これは正確に言えばエンシェント・ディメンジョン世紀に作られた騎士とダイバー、そのテクノロジーと長きにわたって受け継がれてきたその血の力が拡散を極めて弱くなったことが本当の理由である。実は3075年の魔導大戦終結の折、炎の女皇帝が天照に託したことばから始まったことなのだが、それはまだ先の話。

そのため、マイトやマイスターが非常に生まれにくくなり、騎士の力も魔導大戦から比べると明らかに弱まっていた。

ジョージョ博士はゴーズ騎士団を全面的に改良し、機械化騎士団として再編成を行ない、その使用するMHもエトラムルを主体とした。この技術はジョージョ博士のものではなく、3030年ごろのMHマイト、コーネラ帝国のヒュードラーが開拓したもので、彼女が開発したMHカナルコード・エリア・ナインことKANの技術がすべてのMHに投入されている。

そしてこの時代、A.K.D.が使用するMHは改良されたブラッド・テンプルに加え、カナルコード・エリア・ナイン、アシュラ・テンプルといった先の時代にその先鋭的な技術と性能で名をはせたMHが正式なMHとして採用、大量に生産されている。

騎士たちも単行本第8巻に出てきた通り、改造、機械化されてその衰えた騎士の血を増幅し、あらためて星団最強のゴーズ騎士団と言われるようになっていった。

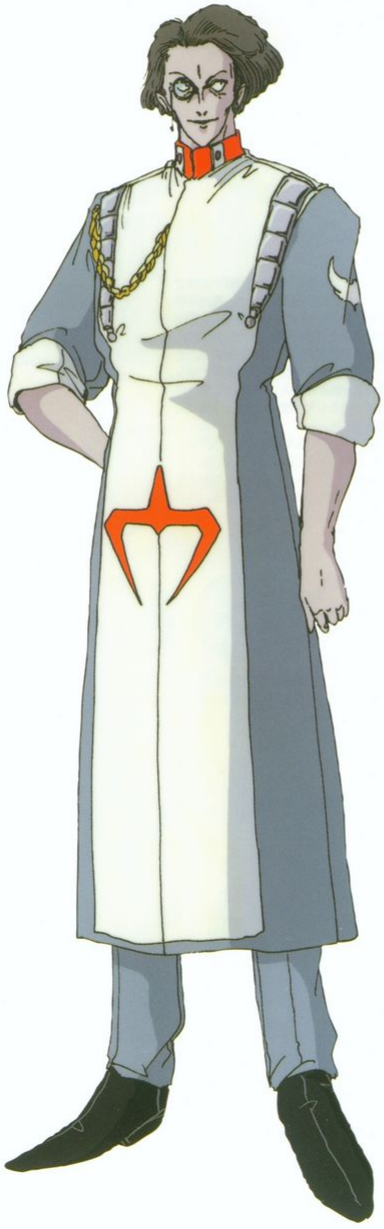
カナルコードやアシュラ・テンプルは「DESIGNS」次巻以降に詳しい。参照されたい。

ユーパンドラ・ライム
UPANDRA LIME

身長 192cm　体重 75kg　バランシェ・ファティマ

第3巻より登場。天照の影としての活動が可能なようにバランシェが造った42番目のファティマである。年を取ることもなく、延々と生き続ける天照にプレゼントしたものだ。しかし彼は精神制御のダムゲート・コントロールが施されておらず、天照は後からダムゲートを組み込むこともできたが、あえてそれをせず、覚醒させた。
人工生命体として人類を凌駕する生体能力をもつファティマ。天照はその彼に自分の全権力を譲り渡し隠居した。
3960年以降、A.K.D.とジョーカー星団の人々がユーパンドラというファティマによって支配される世界ともなったのだ。

デザイン／デザイン画：1988年10月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し



ドクター・ジョージョ
Dr. JOEJO

身長 173cm　体重 62kg

未登場。星団暦4000年代の科学者。ユーパンドラに見いだされ、A.K.D.の主任博士となるが、この4000年代になるとMH、ファティマともどもマイトと呼ばれる人材が枯渇し、生まれてこなくなるという事態となっていた。従って新たなMHもファティマもなく、減り続ける一方でもあった。MHはかつての列強諸国が使用していたものを手直ししながら使用され、ファティマはエトラムルが主力となっていた。騎士の力はさらに薄まって、その力の衰えが危惧されていたこの時代、ジョージョは騎士の生体改造によってその力をブーストさせることに専念し、半機械化の騎士団ゴーズを星団とA.K.D.の象徴とした。

デザイン／デザイン画：1988年10月セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセルに塗り直し

地上軍 階級章

地上軍の階級章である。下士官候補生は兵長以下の兵が推薦や自薦で下士官になるための教育を受けているという特殊な階級で、戦時中の場合は数ヶ月で下士官教育を終えて下士官として実戦に戻る。士官候補生は一般兵が少尉以上の将校になるための教育を受けている兵で、兵の中でも優秀なものが上官の推薦で士官学校に入る場合が多い。士官学校とは軍の大学のことで、一般教養から軍の教育まで数年かかって教育される。将校を目指す場合は一般兵と違い、最初から士官学校に入学する。基本的に卒業すれば少尉として任官される。少尉が20歳過ぎの若い青年であるのはこのためだ。

軍隊の階級になじみがなくとも会社の役職に当てはめれば大体のランクがわかる。元帥は大臣で社長クラス、中将で部長、大佐で課長、大尉で係長といったところ。意外と思われるかもしれないが、実際大佐が文官呼称を付けるときは「一方面軍参謀課長」等と呼ばれる。

地上軍 肩章

肩に着ける階級章だが、おおよその階級がすぐわかるように下士官兵と将校以上で形が違う。また、肩章の縁に付くパイピングには色が付けられ、これがその兵士の兵科を表わす。兵科には上下関係が存在し、同じ階級でも白の歩兵やピンクの装甲兵、戦闘工兵などが最も偉そうにしている。これはいちばん危険な任務を行なっていることには違いないからである。また、最精鋭部隊とはこれらの兵科を指すのも確かだ。

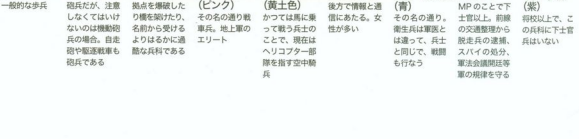
地上軍 平服

通常地上軍は野戦服だが、平時の部隊内ではこういう礼装に近いスーツ姿である。頭にかぶっているのは帽章で、一般兵、将校を問わずカジュアルに着けている。また、後方勤務が主な女性兵はスカートにショートブーツが基本の平服となる。

通常の軍隊では兵は期間付きの従軍で、2年単位で除隊するのが普通だ。下士官以上になると職業軍人と呼ばれ、定年退職まで軍に勤務する。

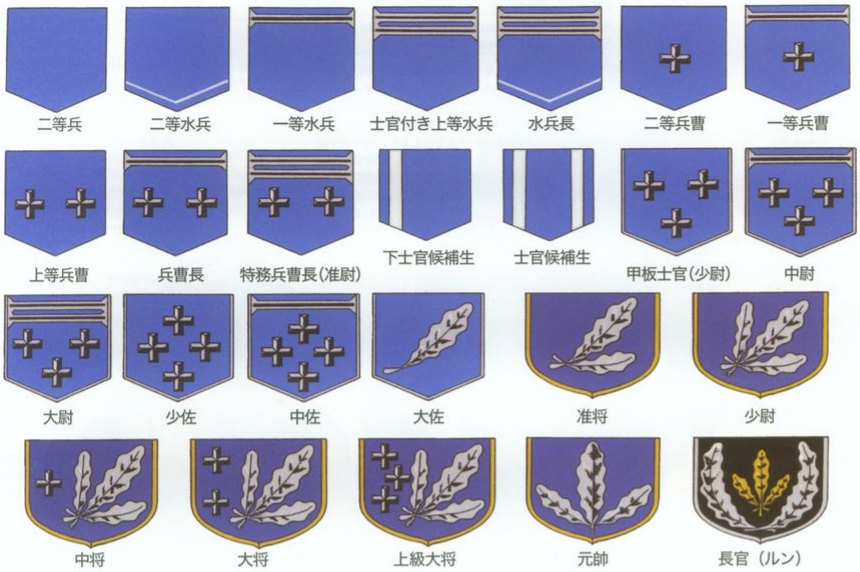
将校の被服は支給されず、自分の給料から専属の店で買うことになる。一般兵は税金からすべての被服や装備、そして食事までを無料で支給される。将校は食事も武器も自前が基本だ（実戦場ではもちろん将校も支給される。内地勤務の場合である）。

支給されるのはこういう2種平服一式、1種礼装、作業服、下着、靴下、靴、そして野戦服と武器を含む装備一式である。地域によってはそれに加え防寒服や熱帯服も支給される。通常何もたずに入隊してもかなりの量の服が支給される。



P128-129 のイラスト
セル：1994 年リスマチックセル
イラスト：1994 年／2005 年 2 月描き直し、着色

注：英語での陸軍（地上軍）と海軍（宇宙軍）では階級の呼称が反対しており、普通キャプテンと言えばA大尉だが、海軍ではA大佐となる。また、中佐は海軍ではコマンダーと呼ぶが、陸軍ではリュータナント・コローネル（ルーネル）となり、非常に混乱するので注意。コマンダーは指揮官という意味だが、誤が大文字のCommanderは海軍中佐である。ややこしすぎる。ドイツ軍になるとレベルの違う呼び方をするためにさらに混乱し、少将はドイツ語で「中将閣下陸軍指揮官」と呼ぶ方式。映画などの字幕で少将なのに「中将」と訳されている場合があり、はっきり言って間違というものには関わり合いにならないほうが無難である。



宇宙軍 階級章

宇宙軍と地上軍では将校以下の呼び方が異なるが階級は同じ。艦長は中尉から大佐までで、新任の少尉は見習い期間中の士官として甲板士官という特殊な呼び方をされる。提督は艦隊指揮官のことでたいがい准将以上の将軍クラスである。ただし、天照家直属の旗艦や戦艦はこのたぐいではなく、将軍クラスが艦長であることが多い。なお宇宙軍の最小戦闘単位は分隊であるが、この分隊は地上軍の8人ほどの分隊ではなく50人以上の小隊から中隊規模の兵の集合である。これはひとつの艦の中での単位で、地上軍とは異なっている。

宇宙軍 兵科色

各兵隊は所属によってどこの部署なのかひと目でわかるように兵科が色分けされている。兵科とは兵隊の種類で、歩兵や、工兵、砲兵などに分けられる。宇宙軍の場合は完全に所属部署を指す。

戦列(赤)
砲術など船の中で戦闘を担当する部署

機関(茶)
機関を担当する。エンジンや船体すべてのマネージメント

主計(黄緑)
船内の食料や兵の生活などの雑務

工作(群青)
船体修理や整備を担当

通信(黄色)
通信関連のオペレーション

保安(橙)
船内での保安。MP憲兵である。下士官以上が原則

操舵(緑)
航法や操舵を担当。下士官以上が原則

航空(黄土色)
艦載機や連絡艇の搭乗員、パイロット

軍医・参謀(紫)
その名の通り。2つとも将校以上が基本で、たいがい少佐以上

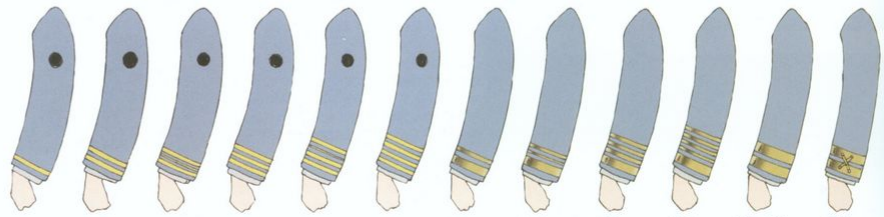
陸戦隊(白)
宇宙軍の地上戦闘部隊である。地上軍と同じ装備をもつ

宇宙軍 階級章台座

地上軍ではひと目でおおよその階級がわかるように肩章などの装飾が変えられているが宇宙軍では階級章の台座がそれにあたる。

宇宙軍 袖章

海軍からの伝統で袖にまで階級が入っている。ただこれらは一般的にも見られ、船舶の船長や旅客機の機長など一般的にも使用されているのを見る機会が多いだろう。ちなみに旅客機の場合は機長は大佐、副操縦士は少佐や大尉と同クラスの袖章を着けている。こんど飛行機に乗る機会があれば見てみるとおもしろいかもしれない。



A.K.D.正式小銃・ヘーネル社 Stg-44 7.92ミリブラスター

A.K.D. official rifle : Henel Stg-44 7.92mm blaster
A.K.D. Offizielles Gewehr : Henel Stg-44 7.92mm Blaster

50発のエネルギー弾を打ち出す小銃。エネルギーマガジンは銃身の上。
余談になるが、現在の地球の歩兵達の主力火器は小銃であるが、弾を少しでも多く持つことができるように小銃の口径は小さくなり弾の大きさも小さくなっている。口径が小さくなった分だけ殺傷力が弱まるために高燃焼火薬を採用して発射速度を上げて対処している。また小銃の総弾数も増え、第一次大戦では5発だったのが、第二次大戦では8発から10発。自動小銃化が進むと20発から30発に増え、現在ではそれでも足りずに50発を装填できる小銃が開発されている。拳銃もその流れをくみ、7、8発が一般的だった第二次大戦時から今は13発から15発、さらには18発装填のプラスチック製拳銃が主力となっている。
第二次大戦での一般的な弾薬の携行数は兵士ひとり当たりドイツ軍で小銃弾60発、半自動小銃であった米軍は少し多く80発。ドイツ同様単発の日本軍は120発である。日本軍がほかの軍より多いのは補給が追いつかないことを前提にしているというなんともばかな理論のために倍となっていた。現在では自動小銃が主なために弾薬数はさらに増えて、ほとんどの軍では1兵士あたり小銃弾180発が基本となっている。しかし実際にはこれでも足りず、250発ほどが主力となっている。一発必中の時代ではなく、当てなくてもよいから膨大な弾薬を使って、弾の壁を使って制圧するという考え方が一般的になったからだ。携行する弾薬の数が増えて装備が重くなったが、その代わり装備品が軽くて丈夫で耐水性のあるナイロンやテフロンのものになり、相対的な装備の重さは変わっていない。

迷彩パターン

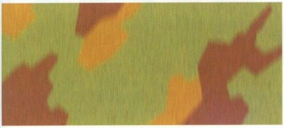
迷彩服は地球では第二次大戦前のイタリア軍が初めて迷彩服を作製した。しかし、実際に大量生産し、さらなる迷彩効果を高めた迷彩服を実戦で使用したのは旧ドイツの武装親衛隊である。武装親衛隊はドイツ陸軍ではなく独立した軍組織である。現代では迷彩服は一般化し、すべての国の迷彩服はこのドイツ武装親衛隊が開発した迷彩パターンをコピーして使っている。基本的にドイツ陸軍と武装親衛隊が開発した迷彩パターン以外の迷彩は存在しない。

春期迷彩パターン

俗にドットパターンと呼ばれる迷彩で、右の兵士が着ているものは秋期パターンである。春と夏、さらには野戦で迷彩効果を発揮するように作られている。秋期の茶色を主体としたものは秋冬以外にも市街戦などの瓦礫迷彩パターンとも呼ばれて市街地での迷彩効果もある。現ドイツ軍、日本の自衛隊などがこのパターンの迷彩を使用中である。開発されてからもう70年以上経っているというのにいまだまったく変わらないパターンで使用されているのは驚異である。物語中ではA.K.D.一般兵士が着ていた。

ライバーマイスター迷彩

見た目は春期パターンと変わらないと思われがちだが、実はまったく異なる迷彩効果をもつパターンで、旧ドイツ軍が最後に開発した迷彩パターンである。現在もスイス軍がまったく同じパターンを、また米軍のタイガーパターンや極地迷彩服、NATO軍の通常迷彩服とバリエーションは多い。
この迷彩服最大の特徴は黒が入っていることによって赤外線迷彩服をも兼ねているという点にある。赤外線による暗視スコープが普通となった現代においてようやく効果を発揮する迷彩となった。



スプリンター迷彩

旧ドイツ陸軍が使用していたパターンで、ライバーマイスターとドットパターン迷彩以外を使用していた国家によく見られるが、主力とはならなかった。細かい筋が入っているために別名ウォーターパターンとも呼ばれる。
米軍がベトナム戦以後使用していたジャングル迷彩ことタイガーパターンはこのスプリンター迷彩を基本にライバーマイスターを合体させたものである。ロシア軍も白を基本としたウォーターパターンを使用していた。

地上軍　野戦服

A.K.D. Ground Force military uniform
A.K.D. Bodentruppenuniform

体のほとんどを迷彩スモックで覆い、その下にはボディアーマーを着込んでいる。野戦服は平服とはまったく異なり、階級章や兵科、所属を示すマークを一切外から見える場所には着けない。これは情報戦でその兵科のどの師団がどこにいたか？というようなことがニュースや敵の偵察部隊に知られることを隠すためで、階級章を隠すのは狙撃兵や白兵戦時に真っ先に狙われる指揮官が誰かわからないようにするためである。そのために実戦場では将校も一般兵も基本的には同じ格好をしている。

師団マーク

敵に見られても差し障りのないマークなどは外さずに着けたままであるが、こういうマークや記章は前線で各兵士が自分で縫いつける。そういうところは微笑ましいものがある。軍隊に入れば下手な女性より家事ができるようになると言われるのは本当。

ヘルメットの下は戦闘用ブラジャーを着けて目や耳を砲撃の音や煙から守っている。

迷彩スモック

リバーシブルで裏地は別の迷彩が施されている。季節や戦場によって着替える。迷彩スモックの下は装甲を着込んでいるために大きくゆったりとした作りだ。通常の軍服の上に羽織ることで、地域による迷彩服をいちいち作る手間が省け、経済的でもある。

その他の武器

銃剣や兵種によっては拳銃を持つが、予備の火器として拳銃を自前で購入して装備することも認められてはいる。しかし、実戦では拳銃などあってもなくても同じである。気休め程度しかない。拳銃を使うような近距離での戦闘は小銃を振り回したり、携行スコップで相手を斬りつけたりするほうがはるかに身を守れるのだ。どこの兵士もあまりそんなことはやりたくないだろうが。

このページのイラスト
セル：1994年リスマチックセル
イラスト：1994年／2005年2月デジタル色修正

軍隊の構成と単位

軍最高司令部（本国）

↓

●方面軍　一般的ではないが戦争が多岐にわたって展開する場合、または戦場となる国が異なる場合などに言われるのがほとんどで、非常に広範囲の軍の総称である。

↓

●軍団　軍団は師団や旅団、連隊をひとまとめにした状態の集団でその戦場すべての総まとめとなる。稼動する軍として最大の単位となる。指揮官は軍団長で将軍クラスが指揮にあたる。

↓

●師団　軍のユニットとしては最もひとくくりにされる集団でこれ以下の集団を統合する。また、師団は個別ユニットとしての側面もあるために師団独特の空気や装備がある。指揮官は師団長で大佐から将軍である。

↓

●旅団　特殊な作戦を行なう場合などに期間限定で構成される集団を旅団と呼ぶ場合が多い。そのために構成はさまざまでいくつもの大隊や師団から抽出された大部隊である。指揮官は旅団長で階級は佐官から将軍。

↓

●連隊　連隊は同じ兵科の大隊が集まったもので歩兵連隊と言えば歩兵が中心となった大隊以上の集団である。指揮官は連隊長で、階級は大尉から大佐まで開きがある。

↓

●大隊　中隊が３つから４つ集まったもので、特殊な部隊の単位もこの大隊からである。指揮官は大隊長で階級は大尉から少佐。

↓

●中隊　小隊が３つから４つ集まった集合体で200名前後の集団となる。指揮官は中隊長で階級は少尉か中尉。

↓

●小隊　分隊が３つから４つ集まった単位でたいてい50名前後となる。指揮官は小隊長で、階級は軍曹から少尉。

↓

●分隊　軍の最小単位。陸軍では７、８名から構成される。指揮官は分隊長で階級は主に伍長から軍曹。

野戦憲兵隊隊長メタリフェル少佐

Major METALLIFEL
A.K.D. Ground Force military police commander
A.K.D. Bodentruppenkommandant der Militärpolizei

身長 183cm　体重 94kg

第７巻より登場。
その強烈な個性のために再登場の可能性が高いメタリフェル少佐だが、戦争映画や小説に出てくる憲兵将校さながらのみごとな悪役っぷりを見せてくれた。憲兵とはＭＰとも呼ばれ、軍隊の警察のことだが、軍の規制を維持するのが本来の役目である。平時や野戦では交通整理や規律を破った兵士などを処罰するのが役目であるが、実戦上ではその過酷な環境のために憲兵も規律を守るために冷酷なまでの権限をもつ。脱走兵や命令違反の兵、将校、将軍に至るまでをその場で軍法会議、処分、処刑、ゲリラやスパイ、敵地での民間人の逮捕から処分までを一手に引き受ける。その任務の性質上、憲兵隊は最低で下士官、軍曹以上が任務にあたり、憲兵隊の指揮官は最高が大佐で実際の指揮官は少佐と決まっている。実戦上ではある程度の権限が必要なために指揮官クラスが担当するのだ。憲兵は主に民間の警察からの登用も多いが、憲兵将校は情報将校をも兼ねる場合が多いために参謀本部に直結している場合が多い。また、その憲兵隊としての独立性が重視されるために野戦では師団長直轄で動く場合がほとんどである。

デザイン／デザイン画：1994年９月リスマチックセル

A.K.D.戦車教導大隊指揮官 ユーリー・バシュチェンコ大尉

Captain (Lietenant) / Hauptmann
YURY VASYUCHENCO
A.K.D. Ground Force 1st imperial division, panzer lead battalion commander
A.K.D. Bodentruppen 1.Imperiale Abteilung Panzerführungsbatallionkommandant

身長 183cm　体重 87kg

第７巻より登場。
なぜか戦争ものでは大尉がヒーローの役目を負うことが多いがA.K.D.もそれにならっているようだ。
陸軍、地上軍のヒーローは戦車部隊なのだが、その戦車部隊でも最精鋭が教導大隊、もしくは教導師団と呼ばれるエリート部隊で、その隊長である。教導とはその部隊を教育、育成するための学校のようなもので、そこで戦術や用兵を教えるのが教官である。バシュチェンコも教官と呼ばれており、軍人の先生である。この教官はたいがい実戦において大きな戦果を上げたものや、経験豊かで勝つことと生き残ることにたけた人物がなる。バシュチェンコも介入や派遣戦争で実際の戦果を上げている人物ということである。その証拠に天照も彼を知っていたくらいだ。勲章の授与などで会う機会も多かったのであろう。教導大隊や師団はこの教官たちの集合体で、実戦でのエリートから構成されるために非常に強力である。その大隊指揮官である大尉は基本的に大隊、もしくは連帯指揮官という戦術的にひとつの固まりである集団の指揮官であり、求められる役割も大きい。
A.K.D.ではこの戦車大隊は独立大隊として扱われ、戦場ではいかような配備も可能なように師団にも属してはいない。その方面の軍団直属の扱いで、必要な戦場に駆けつける。臨機応変に対処可能なように独立戦車大隊となっているのだ。もちろん各師団や連隊には専属の戦車大隊や師団があるが、それとも別個に動けるということである。

デザイン／デザイン画：1994年９月８日リスマチックセル

キルマーク
対戦車戦闘での戦車撃破数

サーマルジャケット
外気温度、砲身の熱による砲身の曲がりを防ぐもの。

テレビスコープ

車長スコープ

主照準器

跳弾板つき照準器

車長ハッチ

シュノーケルスコープ

ローダーハッチ

後部テレビスコープ

熱バイパス

砲身内熱抜きエバキュエーター

ビラルケマレーザーマシンガン

煙幕発射装置

外部連絡通信機

ドーザープレート

雑具・工具入れ

車体釣り付け金具

バズーカプレート
（シュルツェン）サイドスカートともいう補助装甲。

空中戦車E-75

Floating battle tank E-75 type B
with 185mm cannon beam gun
Luft Panzer, E-75 Ausf B, auf Pak 48-L71
Panzer Kanonen

車体長 9.3m　自重 67t

第7話に登場したある意味主役メカ。MHすら食っていた。ジョーカーの戦闘車両はすべてが空中移動するために戦闘機のような扱いであると思えばいいが、空中での捕捉や照準は無誤なために実際の戦闘では地上戦が主体となる。これは空中からの爆撃、攻撃が地上からの攻撃と捕捉に差てなくなったためで、空からの攻撃が非常に難しくなったからである。現代の地球では制空権をとって航空機による攻撃ができることが戦場制圧の証明であるが、それは地上側から航空機を捕捉、攻撃することが困難だからである。しかし、対空兵器がほぼ確実に戦闘機を攻撃、撃墜できるようになればもはや空中という障害物のない場所で飛び回るのは的になるだけで自殺行為となり、航空機は主役の座から引き下ろされ、輸送目的が主体となるであろう。時価 80 億円の戦闘機が 1 発 50 万円の対空ミサイルにほぼ確実に落とされれば戦闘機は存在する理由がなくなる。そういう経済的なことが要因だ。

ジョーカー星団では光学兵器が主力のため航空機的なものは簡単に撃ち落とされてしまう。そのため空中を移動する戦闘兵器は重装甲を施しているのが常識である。

車体の下に主砲を搭載しているが、これは低い視線位置からの射撃を可能にしたもので、実際の射撃時には砲は車体にめり込むように引き上げられて、戦車自体が砲塔として機能するようになっている。戦車砲はその砲身内でのエネルギー圧縮率によって威力を変化させる方式のようだが、この E-75 の場合は長い砲身を補助増幅推進システムの一部として使用していると見られ、圧縮率や砲口径の大きさに左右されない強力なエネルギー砲弾を発射するようである。物語中にバシュチェンコが言ったクルップ社の主砲とはアトワイト家麾下の重工業企業で、星団最強の戦車砲を開発している。

デザイン／デザイン画：1994 年 8 月リスマチックセル

駆逐戦車E-505

Floating tank destroyer E-505 with two 150mm anti tank cannons
Luft Jagdpanzer, E-505 auf zwei Pak 46-L55 Panzer Kanonen

車体長 7.9m　自重 45t

主砲を 2 門もつ駆逐戦車で正確には戦車ではなく砲兵扱いの自走砲である。従って所属は砲兵部隊で、戦車部隊所属ではなく、搭乗兵も戦車兵ではなく砲兵である。なぜこのような複雑なことになっているかといえば本来砲兵は大砲支援が任務であったが、砲自体の自走化と自動化が進み、戦車の如くの運用になったからである。これは砲兵部隊の、後方支援ではなく前線で華々しく戦いたいという願望から生まれたものだが、基本的に彼らの使用する戦車は正式な戦車部隊と区別を付けるために自走砲、駆逐戦車などと呼ばれ、戦場すべてにおいて汎用的に稼動できる戦車に比べいくつかの制限がある。

デザイン／デザイン画：1994 年 8 月リスマチックセル

Pz-Stvt

Armored assault troopers
Pz-STVT Panzerinfanterie

全高 2m 前後　自重 350kg

装甲機動兵士である。物語ではほんの少ししか姿を見せていないが、歩兵部隊に所属し、体力的にも肉体的にも優れた兵士が抜擢されてこの装甲兵となる。ひとり、もしくは少人数で拠点を突破することが目的で、頑丈な装甲バルーンに包まれて多少の銃撃や砲撃には耐える。また、浮遊移動エンジンを背中に搭載し、移動も車両を使用するよりも速い。武装は一般兵とは異なる重武装で、エネルギーシステムを装甲内に内蔵したエネルギープラスターを右腕に固定装備している。通常の戦場や対テロなどに圧倒的な強さを示すが、コストや選抜される兵士の数により一般的ではない。さらにその任務上、負傷や戦死も多く、過酷ではあるが装甲兵は一般兵からは最も頼りにされ尊敬されている。しかし、「F.S.S.」では端役以下の扱いであった。これは騎士という、彼ら以上の戦闘兵器が存在するためである。

デザイン／デザイン画：1994年9月10日リスマチックセル

戦略突撃歩兵

Mirage stormtroopers
Mirage Sturmtruppen

3159年にその存在が初めて知られた、A.K.D.ではなくミラージュ騎士団直轄の機動歩兵である。A.K.D.の国家マークを付けてはいるがこの突撃師団はL.E.D.ミラージュが投入される地域にのみ配備された。その、もう軍隊には見えない特殊な外見はL.E.D.ミラージュの諜諜の後に制圧するためのものである。服はなんと装甲服ではなくファティマ・スーツとまったく同じ素材の耐衝撃スーツで、プラスターや熱に耐えうる。その火器はL.E.D.ミラージュの火炎砲と同じもので射程500mというとんでもない火炎放射が戦場を焼き尽くした。彼らの登場でジョーカー星団は次元の違う戦争状態に入ったことを一般的にも知らしめることになる。

デザイン／デザイン画：1994年9月10日リスマチックセル

マイア・フォン・トッカータ宇宙軍中佐・軍参謀
MEYER VON TOCCATA
A.K.D. Space Force Commander, staff officer
A.K.D. Weltraumtruppenfregattenkapitän, Stabs offizier

身長 182cm　体重 78kg

第7巻より登場。天照救出作戦の総参謀として地上・宇宙両軍の作戦采配を行なった。本来参謀は、参謀本部という軍の中でも独立した組織で、実は全軍の中で最も権力をもつ部署である。独立しているがゆえの暴走も地球の軍隊の中ではよく見られる。それほど軍の権力を掌握している部署なのである。参謀とは作戦や戦術戦略、さらに軍政治から有事においては民事政治までをその範囲とし、軍の最高司令官から二等兵に至るまで指揮下に置く。
軍隊の頭脳として機能する部署であるが、その頭でっかちな論理優先の浅引な戦略にでることも多く、批判の最大対象でもある。参謀と呼ばれるためには大隊長以上の階級と連帯指揮官以上の経験が通常必要だが、階級でいえば大佐以上がそれにあたる。基本的に前線参謀はこの大佐が多く、本国の司令部に将軍クラスの参謀がいるのが常である。参謀の最高ランクは参謀長官で、長官という称号が付く通り、たいがい元帥や提督以上、首相クラスと見てよい。参謀長官はもちろん各国家にひとりしかいない。
A.K.D.の場合、参謀長官は実はミシャル・ハ・ルンで、ミラージュ騎士が兼任している。マイア・トッカータ中佐は中佐で前線参謀の扱いを受けている。これは特例ともいえる措置で、トッカータがいかに優秀な参謀であるかを物語る。

デザイン／デザイン画：1994年9月10日リスマチックセル／2005年デジタル色修正

ミス宇宙軍・宇宙軍通信少尉
ELENA KUNIKOVA
A.K.D. Space Force communication ensign(2nd lieutenant)
A.K.D. Weltraumtruppen Kommunikationsleutnant

身長 168cm　体重 50kg（軍籍手帳を紛われたために鷹内掲示板ではらされた）

実は情報部所属だったりしたが、まあ、本当は騎士なので軍の階級は関係ない。情報将校は通常「情報部でございます」などという肩書きをもつわけはなく、何か別の肩書きや部署にいるのが普通である。最前線や要の部隊に怪しげな事務将校や経理下士官などがいればたいがいその手の部署からの派遣である。情報部は通常国家の保安、公安組織の直轄でこれまた軍隊とは独立して行動している。情報組織が軍や師団などの管轄下に置かれるのは見当違いで、戦場での情報収集を行なうのは連絡将校で情報将校ではない。また、これらの部署は参謀部とも連動している。
A.K.D.宇宙軍はその所属部署と兵科（兵隊の種類。歩兵、砲兵、工兵などに分けられている）をひと目で判別できるように兵科カラーが階級章に用いられている。彼女の黄色は通信部を表わし、トッカータの赤紫は参謀部である。このほか宇宙軍では戦列（砲術など戦闘担当）が赤、操舵が緑、航空が黄土色、などいくつにも分けられている。ただし、地上展開する場合は広報やニュースなどで自分の部署がひと目でわかってはお都合が悪いのでこれらは隠している。女性兵士も多く軍に所属しているが、基本的に女性はほとんどが下士官以上で、職業軍人である。徴兵がなく志願が一般的だからだが、この　配は一般兵から見て上官であるということへの配慮もあるだろう。

デザイン／デザイン画：1994年9月10日リスマチックセル／2005年デジタル色修正

宇宙軍デルタ・ベルン本星防衛艦隊提督・ヤン将軍

Admiral YANG
A.K.D. Space Force DELTA BELUN defense force admiral
A.K.D. Weltraumtruppen DELTA BELUN Verteidigungsflottenadmiral

身長 168cm　体重 64kg

海軍では提督、陸軍では元帥という称号が一般的には軍の最高階級と思われがちだが、実は提督、元帥というのは階級ではなく称号である。特別な将軍がこの提督、元帥という称号で呼ばれているだけなのだ。軍の最高階級は「大将」が普通であるが、軍によっては上級大将なども存在する。しかし今日では大将の上の階級としてこの二つが定着しているので階級として見ても間違いではないかもしれない。提督とは艦隊の最高司令官のことで、艦隊とはいくつもの戦闘、輸送船舶が集合した集団である。ヤン将軍はデルタ・ベルン本星の防衛艦隊の提督であることから A.K.D.宇宙軍全艦隊の最高指揮官でもある。

軍隊は現在の地球でも長い歴史から複雑化し、人が増えると階級も単純なものから複雑怪奇なものになっていく。中世ヨーロッパでは下から、兵＞少尉＞大尉＞艦長＞提督。これだけの階級しかなかったのだ。それが近代になり、中間管理職のさらに中間管理と言える下士官、軍曹や曹長が追加され、将校も准尉と中尉、少佐～大佐、将軍も准将から上級大将までどんどん増えている。現在はさらに増えて、アメリカなど軍曹だけで5つものランクに分けられている。こうなってくるとシステムとしての軍が複雑化するだけでさすがに米軍も「指揮官＞兵」だけという簡略化を始めた。

ちなみに我がアニメ界はというと、聞いて驚け、たかがアニメ作るのに「プロデューサー」「制作プロデューサー」「プロデューサー補」「シリーズプロデューサー」「ラインプロデューサー」「統括プロデューサー」。これだけの肩書きがあるらしい。業界のためにも今後皆さんがこういうテロップをテレビアニメや劇場アニメで見たら指さして大笑いしていただきたいと思う。

最後に A.K.D.はどうなのかと言えば階級や役職は当たり前に超複雑化しているがまったく問題はない。なぜかと言えば「専制君主」だからだ。決定権をもつ者が指名されてちゃんと各部署にいる。

デザイン／デザイン画：1994年9月10日リスマチックセル／2005年デジタル色修正

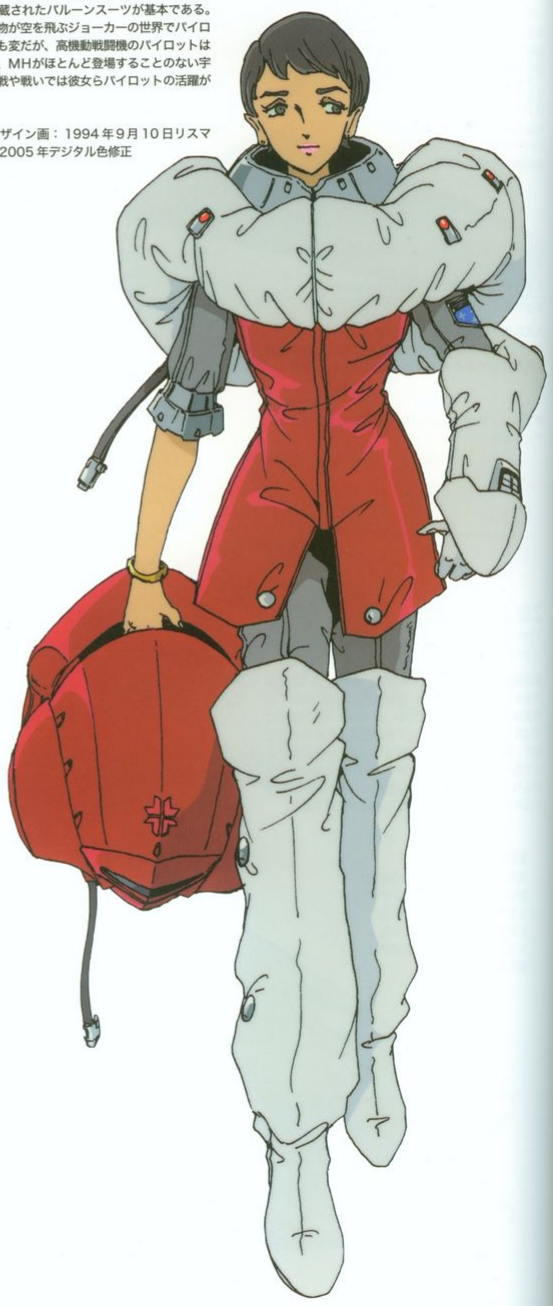
インナ・ペトロワ
宇宙軍戦闘飛行部隊大尉

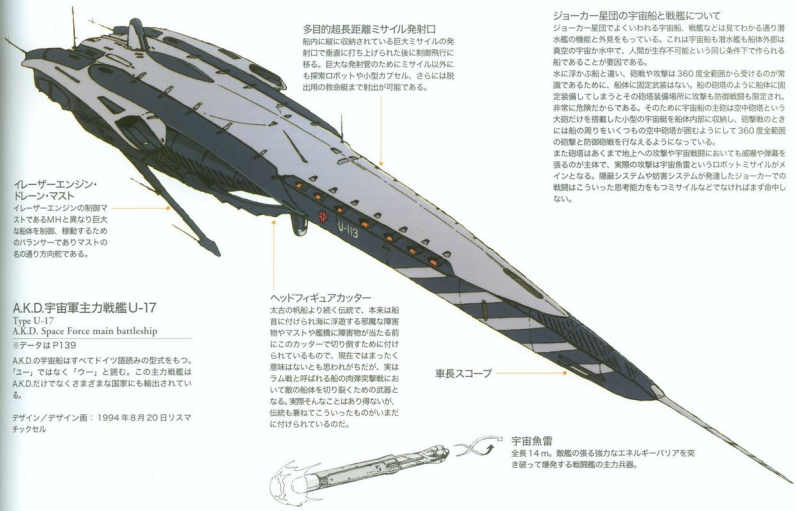
INNA PETROVA
A.K.D. Space Force lieutenant(captain),
leader of V-4 space fighter battalion
A.K.D. Weltraumtruppenkapitänleutnant,
Leiter von V-4 Weltraumkampfbattalion

身長 170cm

第8巻でシュペルターにバスター砲を渡した戦闘機のパイロット。こういった艦載機動部隊のパイロットはダークイエロー（黄土色）色の兵科カラーをもつ。パイロットスーツはMHスーツにほぼ準じており、耐衝撃ジェルが内蔵されたバルーンスーツが基本である。すべての乗り物が空を飛ぶジョーカーの世界でパイロットというのも変だが、高機動戦闘機のパイロットはやはり別格で、MHがほとんど登場することのない宇宙空間の機動戦や戦いでは彼女らパイロットの活躍が中心である。

デザイン／デザイン画：1994年9月10日リスマチックセル／2005年デジタル色修正





ジョーカー星団の宇宙船と戦艦について

ジョーカー星団でよくいわれる宇宙船、戦艦などは見てわかる通り潜水艦の機能と外見をもっている。これは宇宙船も潜水艦も船体外部は真空の宇宙か水中で、人間が生存不可能という同じ条件下で作られる船であることが要因である。

水に浮かう船と違い、砲戦や攻撃は360度全範囲から受けるのが常識であるために、船体に固定式装はしない。船の砲塔のように船体に固定装備してしまうとその砲塔装備場所に攻撃も防御戦闘も限定され、非常に危険だからである。そのために宇宙戦の主砲は空中砲塔という大砲だけを搭載した小型の宇宙艇を船体内部に収納し、砲撃戦のときには船の周りをいくつもの空中砲塔が囲むようにして360度全範囲の砲撃と防御砲戦を行なえるようになっている。

また砲塔はあくまで地上への攻撃や宇宙戦闘においても威嚇や弾幕を張るのが主体で、実際の攻撃は宇宙魚雷というロボットミサイルがメインとなる。照準システムや姿勢システムが発達したジョーカーでの戦闘はこういった思考能力をもつミサイルなどでなければまず命中しない。

A.K.D.宇宙軍主力戦艦U-17

Type U-17
A.K.D. Space Force main battleship

※データはP139

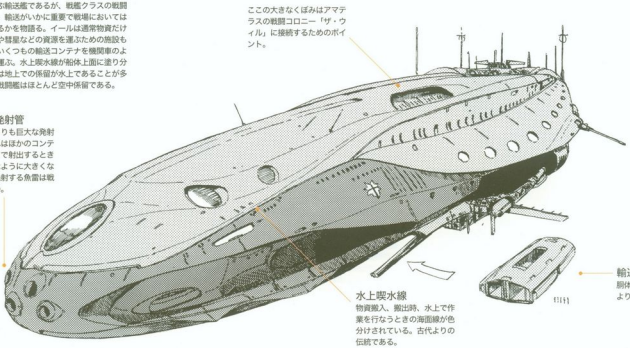
A.K.Dの宇宙船はすべてドイツ語読みの型式をもつ。「ユー」ではなく「ウー」と読む。この主力戦艦はA.K.Dだけでなくさまざまな国家にも輸出されている。

デザイン／デザイン画：1994年8月20日リスマ
チックセル

Z型巡洋輸送艦“イール”

Type Z transport cruiser "EEL"

※データはP139



Z型巡洋輸送艦は、戦艦クラスの戦闘力をもっている。輸送がいかに重要で戦場においては危険な行動であるかを物語る。イールは通常物資だけではなく他惑星や彗星などの資源を運ぶための施設も備え、艦後部にいくつもの輸送コンテナを機関車のように引っ張って運ぶ。水上喫水線が船体上面に塗り分けられているのは地上での係留が水上であることが多いためだろう。戦闘艦はほとんど空中係留である。

U-XXI型機動戦艦 “マクロファリンクス”

Type U-XXI mobility battleship "MACROPHARYNX"

※データはP139

主力宇宙船をスケールアップし、攻撃力をメインに置いた戦艦で、A.K.D.デルタ・ベルン防衛艦隊のみに配備されている。

戦艦などに限らず実際の戦争作戦時には国籍マークや船体番号などは消してしまう。

ミサイルサイロ

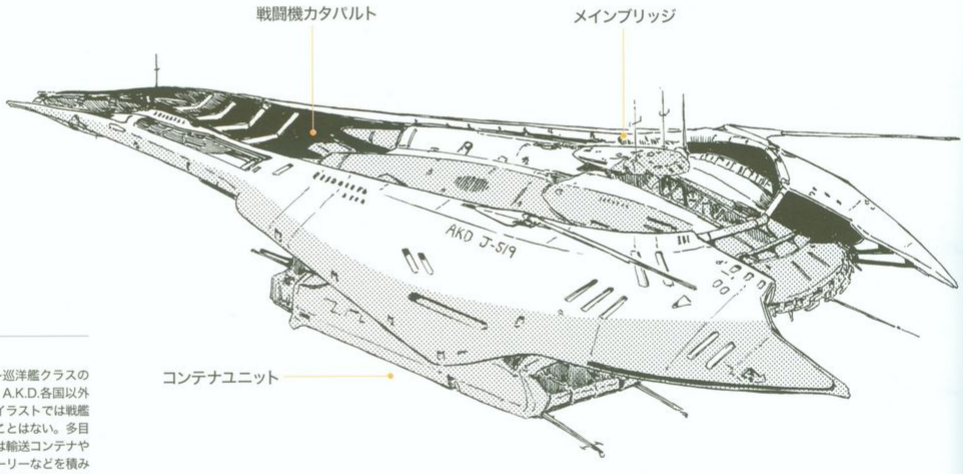
衝角戦用ハンマーポイント

滅多にないことだが、近距離戦において戦艦同士の衝突戦がある。この艦首の白い部分は敵艦に体当たりして撃破するためのものである。古来からの戦闘艦の伝統にすぎないが、実際そういうことになればちゃんと役に立つ強度をもっている。

戦闘機カタパルト

メインベント

イレーザーエンジン本体である。



戦闘機カタパルト

メインブリッジ

コンテナユニット

J型多目的フリゲート “キリフィッシュ”

Type J multipurpose frigate "KILLIFISH"

※データはP139

A.K.D.宇宙軍の主力装備となる駆逐艦〜巡洋艦クラスの戦闘艦で、配備数は非常に多い。また、A.K.D.各国以外もこのJ型艦を購入し、配備している。イラストでは戦艦と比較して小さく見えるが決してそんなことはない。多目的戦闘艦と呼ばれるとおり、船体下部には輸送コンテナやMHキャリアー、さらに作戦用エア・ドーリーなどを積み込んだりぶら下げ収容したりできる。小型だが非常に戦闘能力の高い船だ。

このJ型キリフィッシュの下にS型高速艇があり、それも各国で使用されている。

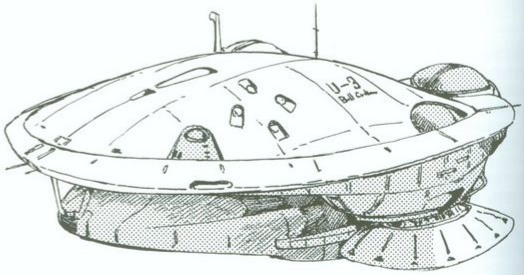
強襲揚陸艇 MC-108“パンナコッタ”

MC-108 amphibious assault landing craft "PANNA COTTA"

※データはP139

地上に戦闘部隊を展開するための輸送艇で、主に大気圏外にいる母船より地上に降下する。

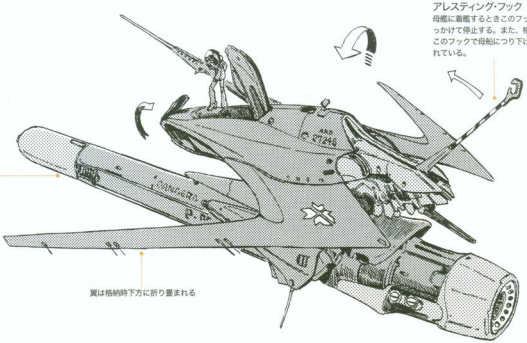
このクラスの輸送艇で戦車E-75を9機、兵員500名一個大隊を運ぶことができる。また、このタイプ以外にもひと回り大型のものやMHを輸送する専用のものがある。これらパンナコッタ型上陸艇はベル・クレールからいちばん小さなS型戦闘艇まで標準装備している。

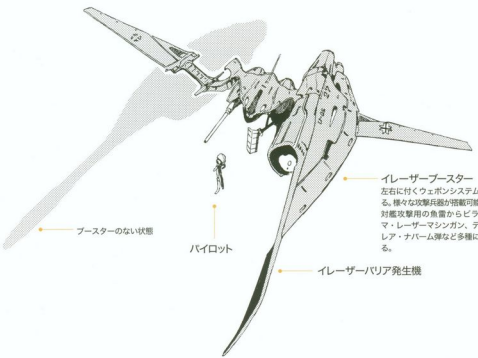


P136-137のモノクロイラスト：「月刊ニュータイプ」1994年7月号掲載

艦載雷撃機"プルトニクス"
hipboard torpedo-bomber "PLUTONIX"

幅14.8 mだが、格納時には4.5 mまでコンパクトなる。
撃機とある通り、胴体下部に巨大な宇宙魚雷をもち、
雷攻撃時には魚雷自体のイレーザーパワーをも使用
て超高速雷撃戦が可能となる。機体自体は非常にコ
パクトなために雷撃以外においてもさまざまな攻撃
戦に転用可能な宇宙戦闘機である。





万能攻撃機ラム-L "フォーカー"
RAM-L multiple attacker "FOLKER"

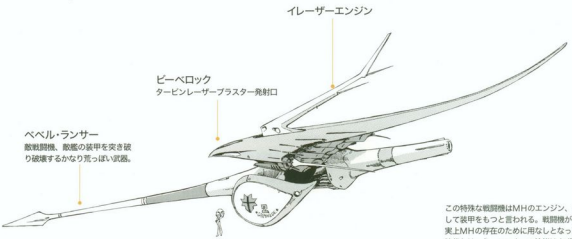
※データはP139

A.K.D.の重戦闘機で、双発のイレーザーエンジンをもち、雷撃、爆撃、攻撃、対戦闘機、対艦攻撃と、ほぼすべての作戦行動が可能な万能戦闘機である。左右につく巨大な翼はブースターで、機体本体は横長のカモメのような姿である。このブースターには様々な兵器がオプションで付けられ、中でも有名なのは3159年の天照の大侵攻において、L.E.D.ミラージュの蹂躙を逃れた場所にデミフレア・ナパーム弾を落とし、閣座したMHや回収可能なMHまですべてを灰にしている。

行戦闘機V-4 ブローラ"
4 ride fighter "ROWLER"

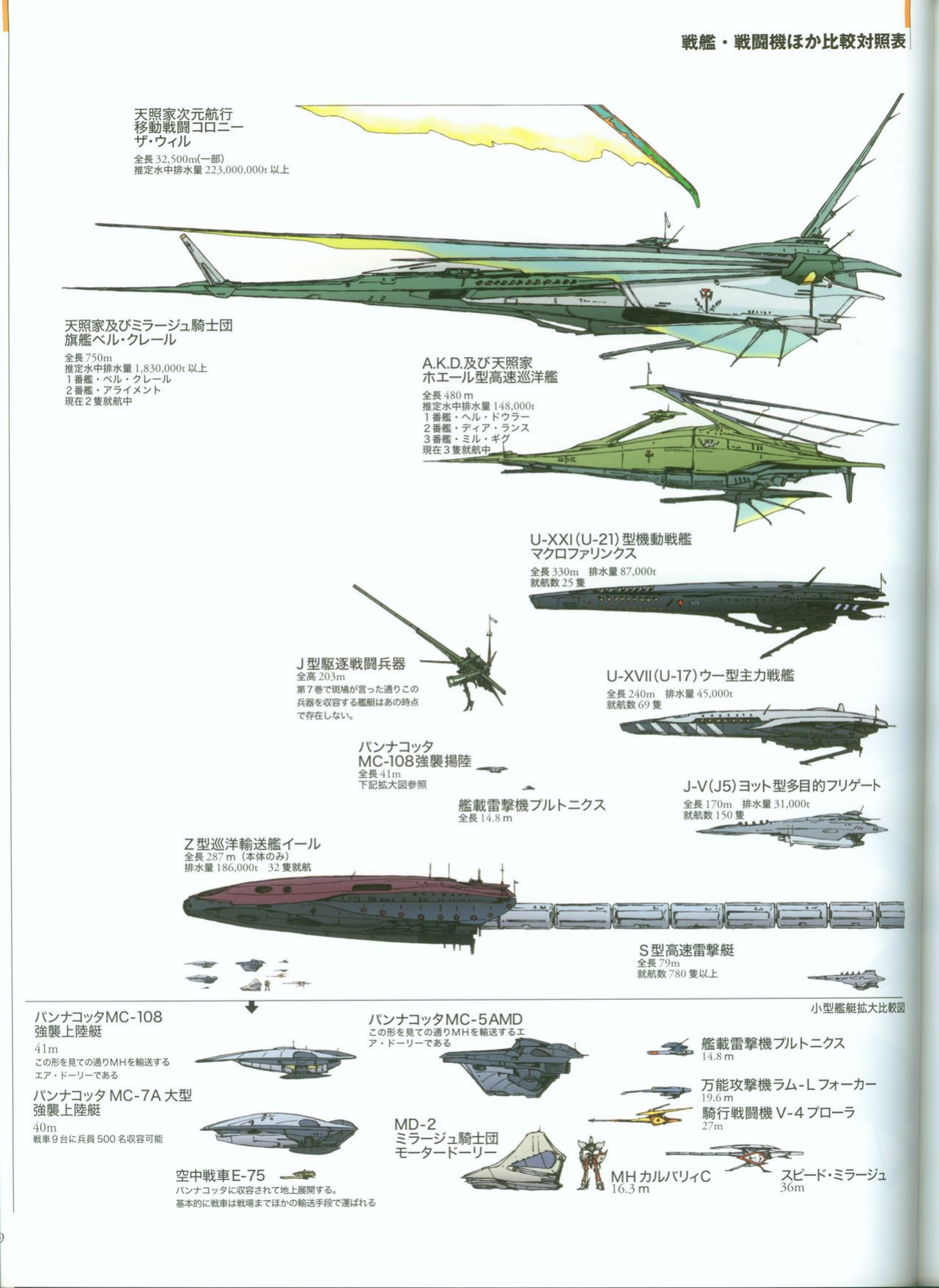
データはP139

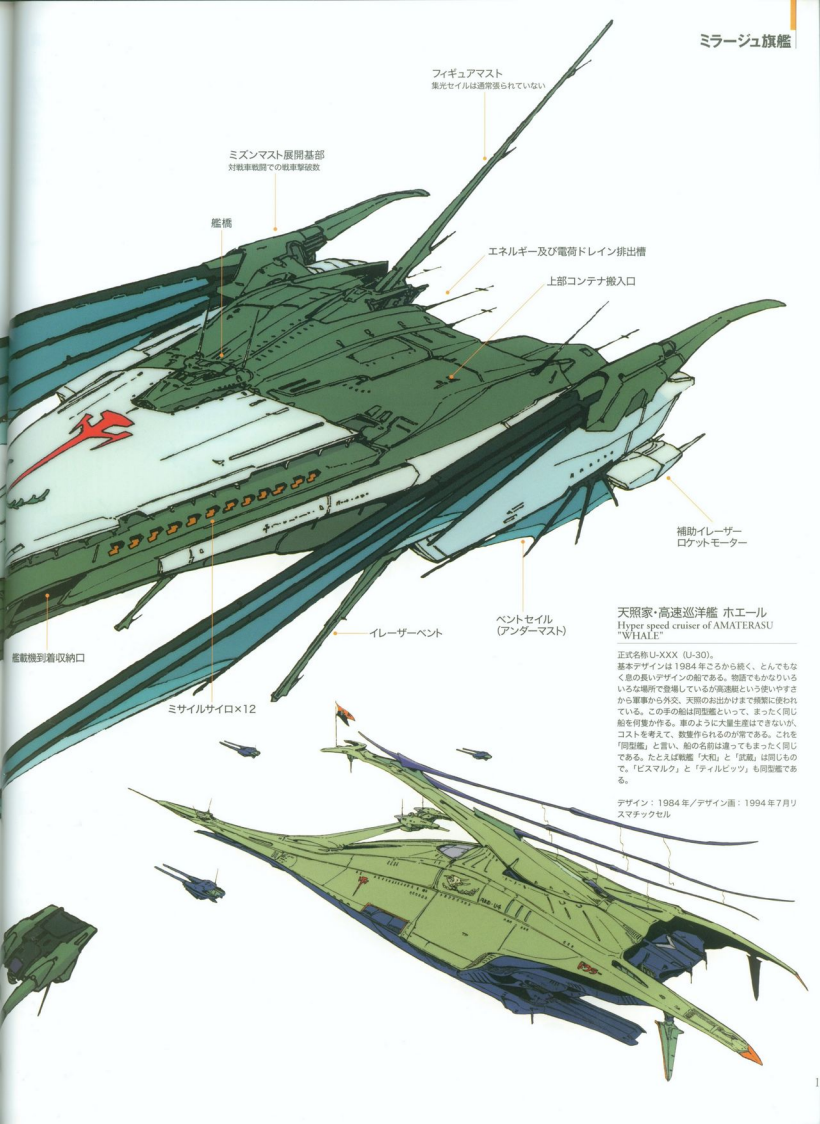
8巻に登場。A.K.D.軍の中でもわずかに9機しか
備されていない特殊な戦闘機。
の姿はAD世紀の戦闘艇のようでもある。ミラージ
騎士団直轄ともいわれ、9機すべてパイロットは女
で、騎行戦闘機と呼ばれるゆえんでもある。機首に
K.O.G.の頭部に装備されている強力なビーム兵器
ビーベロック"があり、強力な破壊能力をもつ。防
バリアを張った戦艦クラスをほぼ一撃で破壊するこ
が可能だ。その出力からこのV-4にはMHのエン
ンが搭載されているとも言われる。ともあれ、この
闘機はL.E.D.ミラージュやミラージュ騎士団の宇
戦で護衛機として使用されたことで、他の戦闘機と
一線を画する。



この特殊な戦闘機はMHのエンジン、そして装甲をもつと言われる。戦闘機が事実上MHの存在のために用なしとなった時代とはいえ、ここまでの性能はまず必要とはされない。すべて天照の趣味の産物と言われる。

のページのモノクロイラスト：「月刊ニュータイプ」1994年7月号掲載


天照家次元航行
移動戦闘コロニー
ザ・ウィル
全長 32,500m(一部)
推定水中排水量 223,000,000t 以上
天照家及びミラージュ騎士団
旗艦ベル・クレール
全長 750m
推定水中排水量 1,830,000t 以上
1番艦・ベル・クレール
2番艦・アライメント
現在2隻就航中
A.K.D.及び天照家
ホエール型高速巡洋艦
全長 480 m
推定水中排水量 148,000t
1番艦・ヘル・ドウラー
2番艦・ディア・ランス
3番艦・ミル・ギグ
現在3隻就航中
U-XXI(U-21)型機動戦艦
マクロファリンクス
全長 330m 排水量 87,000t
就航数 25 隻
J型駆逐戦闘兵器
全高 203m
第7巻で斑鳩が言った通りこの兵器を収容する艦艇はあの時点で存在しない。
U-XVII(U-17)ウー型主力戦艦
全長 240m 排水量 45,000t
就航数 69 隻
パンナコッタ
MC-108強襲揚陸
全長 41m
下記拡大図参照
艦載雷撃機プルトニクス
全長 14.8 m
J-V(J5)ヨット型多目的フリゲート
全長 170m 排水量 31,000t
就航数 150 隻
Z型巡洋輸送艦イール
全長 287 m (本体のみ)
排水量 186,000t 32 隻就航
S型高速雷撃艇
全長 79m
就航数 780 隻以上
小型艦艇拡大比較図
パンナコッタMC-108
強襲上陸艇
41m
この形を見ての通りMHを輸送するエア・ドーリーである
パンナコッタ MC-7A 大型
強襲上陸艇
40m
戦車9台に兵員500名収容可能
空中戦車E-75
パンナコッタに収容されて地上展開する。
基本的に戦車は戦場までほかの輸送手段で運ばれる
パンナコッタMC-5AMD
この形を見ての通りMHを輸送するエア・ドーリーである
MD-2
ミラージュ騎士団
モータードーリー
MH カルバリィC
16.3 m
艦載雷撃機プルトニクス
14.8 m
万能攻撃機ラム-L フォーカー
19.6 m
騎行戦闘機 V-4 プローラ
27m
スピード・ミラージュ
36m



天照家・高速巡洋艦 ホエール

Hyper speed cruiser of AMATERASU "WHALE"

正式名称U-XXX (U-30)。
基本デザインは1984年ころから続く、とんでもなく息の長いデザインの船である。物語でもかなりいろいろな場所で登場しているが高速艇という使いやすさから軍事から外交、天照のお出かけまで頻繁に使われている。この手の船は同型艦といって、まったく同じ船を何隻か作る。車のように大量生産はできないが、コストを考えて、数隻作られるのが常である。これを「同型艦」と言い、船の名前は違ってもまったく同じである。たとえば戦艦「大和」と「武蔵」は同じもので、「ビスマルク」と「ティルピッツ」も同型艦である。

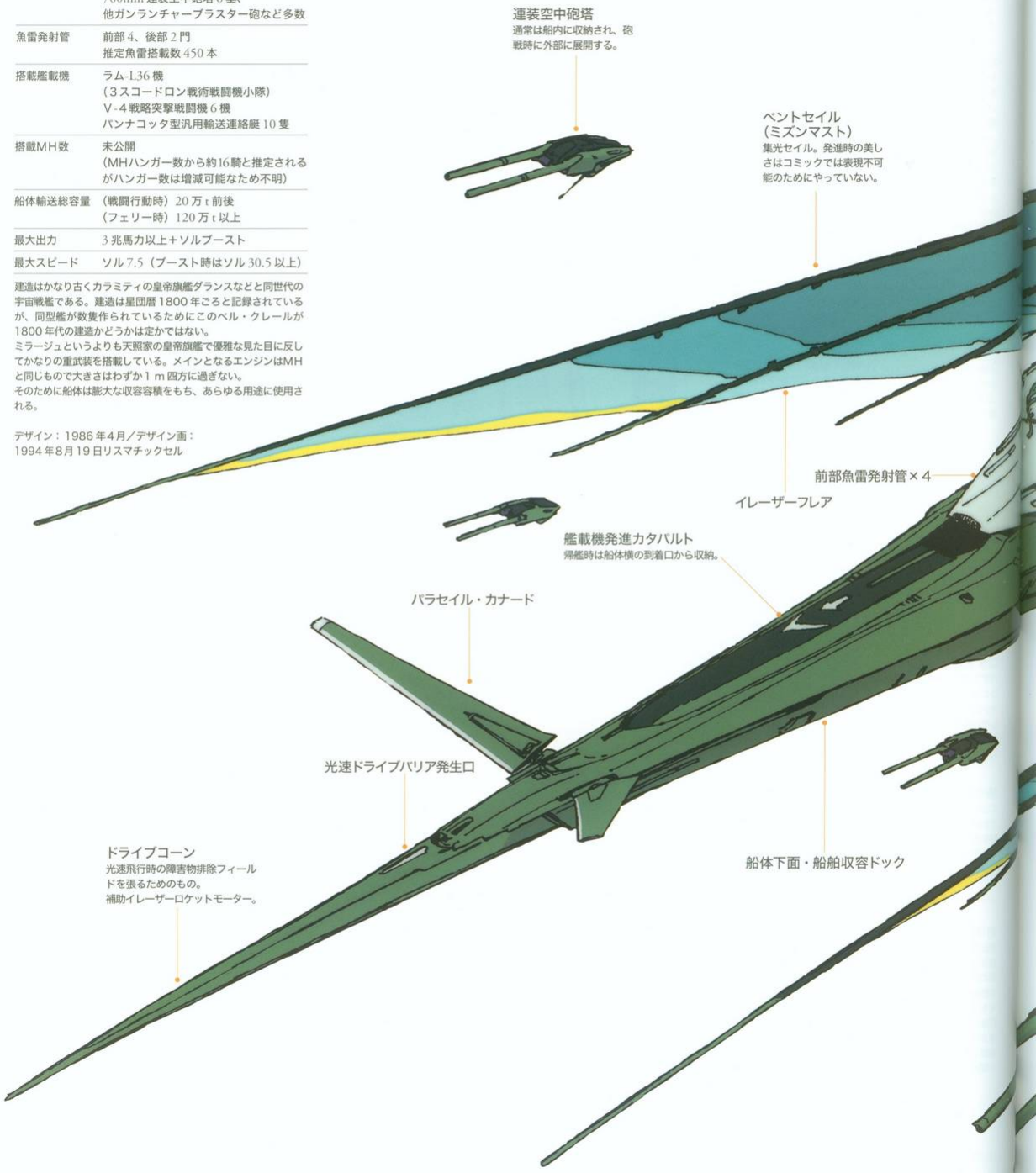
デザイン：1984年／デザイン画：1994年7月リスマチックセル

天照家・旗艦 ベル・クレール
Flag ship of AMATERASU "BELLE CLAIR"

正式名称	U-XXV (U-25)
全長	750m
想定水中排水量	1,830,000t 以上
主武装	1200mm バスターランチャー× 2 780mm 連装空中砲塔 6 基、 他ガンランチャーブラスター砲など多数
魚雷発射管	前部 4、後部 2 門 推定魚雷搭載数 450 本
搭載艦載機	ラム-L36 機 （3スコードロン戦術戦闘機小隊） V-4 戦略突撃戦闘機 6 機 バンナコッタ型汎用輸送連絡艇 10 隻
搭載MH数	未公開 （MHハンガー数から約16騎と推定されるがハンガー数は増減可能なため不明）
船体輸送総容量	（戦闘行動時）20 万 t 前後 （フェリー時）120 万 t 以上
最大出力	3 兆馬力以上＋ソルブースト
最大スピード	ソル 7.5（ブースト時はソル 30.5 以上）

建造はかなり古くカラミティの皇帝旗艦ダランスなどと同世代の宇宙戦艦である。建造は星団暦 1800 年ごろと記録されているが、同型艦が数隻作られているためにこのベル・クレールが 1800 年代の建造かどうかは定かではない。
ミラージュというよりも天照家の皇帝旗艦で優雅な見た目に反してかなりの重武装を搭載している。メインとなるエンジンはMHと同じもので大きさはわずか 1 m 四方に過ぎない。
そのために船体は膨大な収容容積をもち、あらゆる用途に使用される。

デザイン：1986 年 4 月／デザイン画：
1994 年 8 月 19 日リスマチックセル



天照王朝皇帝 天照の帝

ゴルゲット・首飾り・胸飾り
日本の天皇がもつ最高勲章と同じ意味をもち、通常は王冠が着けられない場所、舞踏会やスーツ姿の場所などに着けて出るものであるが、天照家は女帝王家のためゴルゲットは首飾り状である。天照家においても最も価値の高いもので、2992年、すえぞうからもらったドラゴンドロップが中央にけず替えられて、その価値は天文学的なものとなっているという。もともとあった紅玉は収皇帝の首飾りに付いていたもので、紅玉部分だけが取り外せ、これ以外にもさまざまな場所に付けることが可能なものであった。が、ソーブがすえにあげてしまったのでもうない。あんな簡単に国宝のルビーをあげてしまうところがおっとろしい。交換でドラゴンドロップが来なければどうするつもりだったのであろうか？

王冠・宝冠
ティアラであるが、この王冠・宝冠を着けられるのはもちろん君主、后、まれに領主といったその国を代表する支配者である。

宝帯
西洋ではあまり見かけないが、東洋では王家の証である品として正装で着けられる場合が多い。金糸を織り込んだものが多く、非常に重い。

宝剣
由緒ある剣で、主に武系王家の血統をも示すものである。アマテラスの持つものは神剣で実際の剣として使用するには不向きである

衣
各王家には使用される色というものがあり、天照家本家は朱色である。これは家紋にも適用されている。レーダー王家は孔雀色、フィルモア王家は橙、といったように。

国王、貴族などが着ける装飾品
軍人などの着ける勲章と違って彼らが着ける装飾品や宝飾品は身分を表わすもの、国家代表として他国や支配地から献上されたものがほとんどで、高価な宝石や見事な装飾がされ、宝飾品としても桁違いの価値をもつものがほとんどである。

軍人、一般人の着ける勲章など
軍人や民間人が国家から報賞として与えられる褒章は勲章、褒章などと呼ばれ、その人物が国家や組織から相応の功績があったという証である。王族や貴族がもつ宝石や貴金属で作られたものとは違い、メッキや七宝、鎖造で大量に作られたものが大半でその褒章自体にはほとんど価値はない。しかし、授与された者にとっては高価な宝石を使ったものよりも遥かに価値のあるものである。

ファティマの着ける装飾など
ファティマの服装自体は「DESIGNS」次巻に詳しいが、騎士のパートナーであるファティマも一般的ではない装飾をもつ。

笏(しゃく)を持つクバルカン法国神官長 ノンナ・ストラウス

ロザリオ
ロザリオも身分を表わす装飾のひとつで、彼女の属するクバルカン法国神官という身分を表わしているが、非常に高級な作りから相当な身分であることが窺にてもわかる。

袖の紋章（右）
この紋章は白の蛇、つまり軍隊で全般に使われている治癒、医療を表わす。神官庁がそういった場所であることがわかる。

笏(杖)
笏は宗教的な指導者や代表が持つことが多いが、軍の最上級指揮官で元帥や提督などの称号的階級をもつ人物にもその階級授与の証として同時に授与される。杖には権力の象徴としての飾りや宝石が埋め込まれる。

袖の紋章（左）
クバルカンの国家紋章以外にも身分を示す紋章は国家マークよりも低い位置に付けられるのが通常である。これはサヤステ家の紋章。詳しくは「DESIGNS」次巻。

縁飾り
肩やスカートの裾以外にもファティマ静やラビスが同じ模様の縁飾りを着けている。クバルカン法王庁のものなのであろう。

フィルモア帝国皇帝 ダイ・グ・フィルモアV

王冠
王冠は冠だけでなくフィルモアのような帽子状のものからコーラスのように冠と帽子が一体となったものなどバリエーションは多い。

ゴルゲット
国家によってさまざまな形態があるが、フィルモア帝国はこのように襟の付いたものようだ。これは歴代皇帝に渡されるもので、フィルモア皇帝の証である。

皇帝笏
皇帝の身分を示す杖で、さすがに歴代皇帝の証であったり、由緒あるもので、高価な宝石や細工が施してある。

フィルモアストライプ
フィルモア帝国の代表的なテキスタイルで皇帝以下騎士団までこの幅広のストライプが付けられている。

A.K.D.将校
マイア・フォン・トッカータ中佐

勲章（首）
基本的に勲章は襟元に着けられるものが最も位が高く、また、もっている勲章で一番ランクの高いものを着けるのが一般的である。

勲章（胸）
胸に着けられる勲章は首に着けるものよりもランクは低いが、胸に着ける勲章を授与されることがまず必要である。

袖章
海軍や将軍、パイロットなどが着けている袖章は階級を表わすというより、遠目からでもおおよその位がわかるように配慮されている。

飾り紐
高級将校などがよく肩から垂らしている数本の紐は実は飾りではなく、紐の先に鉛筆やペンを付けておくためのもので、トッカータのこの飾り紐もよく見ればちゃんとシャープペンシルがぶら下がっている。参謀や高級指揮官は野戦で作戦会議をするときに筆記用具を肌身離さず持つためのものである。しかし、実際には完全な装飾として肩ひもがわりに着けられている場合がほとんどだ。

シーブル国騎士将軍 メイユ・スカ

勲章（首）
首に着ける勲章は勲章の中でも最もランクが高く、この首元の勲章を着けている者は、その者より階級が上の将校、将軍よりもある意味尊敬され、指揮において非常に信頼される。故に将校、将軍が何よりこの首元の勲章授与を目指すのは仕方がないかもしれない。ただし、軍によってはこれらランクの高い勲章が胸に着けるものであったりする場合もあるので一般的ともいえないが。

将校用ズボン
正式には乗馬ズボンといい、一般的にはなじみがない形だ。股下内側が切り替えられているのは乗馬時、鞍によって擦れるのを緩和するためで、膝から下が細く絞られているのはブーツの中に裾を入れてばたつかないようにするためである。

略章
軍人の胸ポケットの上に付いているさまざまな色の飾りのようなものはその人物が授与された勲章や功績章の略章で、この色は授与された勲章、功績章などのリボンの色である。略章として付けるのはたくさんの勲章功績章を軍服に着けるとうるさい、みっともない、邪魔という理由からで、最もランクの高い勲章だけを着け、ほかはこの略章という場合がほとんどだ。軍人は二等兵であっても部隊参加賞、２年勤務皆勤賞といったものを授与される。これらは功績章と呼ばれる物で、その軍人の勤務状態への報償である。実戦に出れば戦闘参加章などの功績章、そして実戦において戦果を上げれば２級十字章などの「勲章」が授与される。この勲章こそが一般兵士から将軍に至るまで軍人としての誇りであり、国家への功績となるため、この勲章に固執する軍人が多いのは仕方がないかもしれない。

将軍帯
上半身だけでなくズボンにも赤いラインが入り将軍以上であることを示すが、軍人はかなりおしゃれというより目立ちたがりでもある。昨今の地味な野戦服に不満をもっている将軍達はきっと多いだろう。

フィルモア帝国ファティマ オキストロ

胸の宝珠
ファティマは緊急時の金策のために服に宝石を付けているが、フィルモア帝国の場合は功績のあった騎士とともに勲章として宝石が授与されている。同じものをマスターのケーニヒももっているはずだ。

提灯袖
フィルモア帝国は皇帝以下この提灯袖が国家の正装でもあり、ほぼすべてのファティマの服にも着けられている。

たすき
正式な晩餐や授与式などでこのたすきを掛けている人物を多く見るが、たすきに付けられている色は授与された勲章が何であるかを示す色である。ただ、たすき掛けの勲章は相当のランクのもので相当の人物でないとお目にかかることはない。また、たすきはその用途上、剣をつるすための剣帯ともなる。ただし、色は国わ家を表すナショナルカラーや家紋の塗り分けになっていることも多い。オキストロや町が着けているたすきはフィルモアファティマに見られる特徴で、マスターの身分や家柄を示すものである場合がほとんどだ。ある意味ファティマの身分でもある。たすきを掛けているファティマのマスターは貴族かそれ相応の身分のものであるということである。ファティマ・町は肩からのたすきを掛けていたが、このベルトに巻き付けるタイプのたすきは略章である。

特殊称号（民間人）
ファティマ・マイト 桜子

宝珠
マイトである彼らが胸にこういった宝石のたぐいを着けているのは買ってきたブランドものの宝石というわけではなく君主や国家から業績をたたえて与えられる最高勲章である。この宝珠は天照から。

5本線
マイトであることを表わす称号。星団すべての階級の中でも最も特権で保護されている人物であることを示す。４本線はマイスター。マイスターもマイト同様の特権をもつ。

＊騎士、ファティマの服については「DESIGNS」次巻にも詳しい

FAITS
the Land of Fatimas Fates
ファティマを生み出した国
フェイツ公国

ジ・アトラス

モノクロイラスト：1989年

フェイツ公国

ファティマを生み出した国として広く知られるフェイツ公国は、代々の王家に科学者としての因子をもち、歴代の領主は非常に教養の高い平和な国家であったために文化や学芸を中心とした国として成り立っていた。

フェイツ公国はその領主たちがイギリスのコッツのような商業都市となっており、いろいろな学者が集まり、そしてアカデミーが存在していた。これらの学業組織はすべてフェイツ学、しくしくはフェイツコレッジと呼ばれている。

現在ではA.K.D.に組込まれ、A.K.D.の科学と学業の中心となっているが、その本来の役割、ファティマを生み出し、開発するということに関してはアドラーのバルチックアカデミーに一歩譲る形となっている。これはファティマが星団規模での戦略兵器のためにA.K.D.の属しているS公国では情報的に許されないということもあるのだろうが、ファティマを生み出したS公国という事実はまだに多くの科学者やマスコミたちがこの地で研究に励んでいることもよくわかる。

このフェイツ公国は2000年代初頭、フェイツ公国の公爵で領主であったウラニウム・バランス公によって星団に名を残すウラニウムは人類の可能性と銀帝國の残った騎士という強大人類、そして人工生命体の未来という多くの課題を生涯の研究と理論、というものであった。その結果生まれたのが「生体演算理論」であるので、後のファティマはこの理論に沿って生み出されている。

当時より非常に高の知れた生体科学者であったウラニウムは、まったく生き物としての反応を示さない赤子の天照を危惧した母ミトコトによってグレースに召喚され、そのときより天照家との付き合いが始まったといわれる。

ファティマ・マイトの登場

この頃、ファティマが誕生していないためにファティマ・マイトということばはなかったが、それに頼る非常に優れた生体科学者が、医者の存在は知られる非常に高い績を残している。学業や社団に貢献してきた業績を残し、ファティマが場として初めて人工生命体を理論や実験ではなくその天才的なひらめきとカンによって生み出していく能力が認められたのである。

ウラニウム・バランスがはじめてファティマを世に発表してからしばらくは彼のフォーマットによってファティマが大量に生産されていた。星団各国でのファテマの生産が始まるともろろん各国は独自にファティマの改良や性能アップを求めて開発が始まったわけだが、ウラニウム公のフォーマット以外ではファティマの生産がそう可能で、最も是・コントロールなどの精神制御がまくいかず、制御できないファティマが生まれたりしていた。そのくらいにウラニウム星間、ファティマ・マイトはいかなるフォーマットに従ったまったく異なる性能をもったファティマを生産されていたのだ。もっともそれがお性格や外見個体にはあったものの、各国が独自にファティマを開発できるくらいの状況ではなかった。

生産が一段落し、各国の騎士団にファティマが行き渡るようになると、工場生体科学者のすから基本フォーマットをフィードしたり、その科学者個自の調整が入ったファティマが登場してくる。これらのファティマは明らかにフォーマットに沿って生まれたファティマよりも情緒性、安定性、そしてM.T.I.制御能力に優れていた。

彼らがMTIと略されるようになったのは、ファティマ・マイトというMTIの「マイト」として認識されるのは時間の問題であった。

ファティマ・マイトも非常に数が少なく、国家がマイトをひとり専任でもっていうことも珍しくもなく、ファティマ・マイトはいかなる国家にも干渉されないという特権をもつ。

ファティマ・マイトは、星団各国の要請に応えた。もっともファティマは「ファティマ側から騎士を選ぶ」という性質をもつため各国がマイトとその生み出さるファティマを確保するということ自体が無意味で不可能なことでもあった。

この後の話は「DESIGNS」次巻「ADDLER」の「マイト」の項目で詳しく述べられる。

ウラニウム・バランス　フェイツ公国領主
Prince, ACTINOIDS
URANIUM BALLANCE

身長178cm　体重72kg

正式な名前は、アクチノイド・ウラニウム・バランス・フェイツ公爵公爵。
その頭り出した巨大な前頭葉が偏大なる科学者だと主張しているようである。生体演算理論を発表したウラニウムはそれと対にもうひとつの研究対象があった。それは天照のミコトとの出会いから始まった84代目天照家、ソーフとの付き合いと研究である。まだ物語では語られていないが、このあたりのエピソードは語大にあり、ミトトとウラニウムのつき合いやソーフとのつき合い、そしてエコトが若くしてこの世を去ってからリトラにソーフが託されてからのつき合いと、彼が天照家と天照に与えた影響と業績は数知れない。このことで天照王朝からバランス家とバランス公は天照家公家としての地位を確立したが、その後は宇宙的が主体のバランス公家はバランジェの母、アルセニックの代には天照家との付き合いが疎遠になっていたような。それでもフェイツ公家はデルタ・ベレンの学園の中心であることに変わりはない。のちの11代目バランジェは天照に関して門外不出のデータを大量にもっていたことはよく知られている。これも歴代のバランス公家と天照家との付き合いからであった。最後に極秘として扱われているが、ウラニウムはハスハの巫女との付き合いもあり、炎の女皇帝も彼の存在を認識していたようである。また、最後の巫女といわれるマグダルも彼のことをよく知る人物である。

デザイン／デザイン面：1994年9月3日リスマチャッセル

ナッカンドラ・スバース
NAKANDRA SWANS FAITS

身長 223cm　体重 130kg

フェイツ公国で初めてファティマをパートナーとした騎士。剣聖として知られているが、正体はこの時代の人間ではなく、炎の女皇帝が手をかけて生み出した超帝國最後の騎士である。初代アマテラス女帝、収光帝ことアインスが外交からの帰星途中に炎の女皇帝によってテレポートしてきたスバースを介護し、炎の女皇帝みずからのことばによって天照家に預けられた。
その力は純粋なる超帝國の騎士であり、星団暦の騎士の比ではない。その純正ともいえる騎士の血を最も必要としたのはリチウム・バランス公爵で、彼の遺伝子を素体としてファティマを生み出したのだ。純粋なる騎士の血は拡散して薄まった星団暦の血と異なり、確実に騎士の血の一部を素体として受け継ぐことができた。その確実に受け継がれた騎士の血は星団暦の騎士の力の８割ほどにまで弱まっていたとはいえファティマとしてMHを制御するには充分であったからだ。
スバースは覚醒後は天照家の騎士としてフェイツ公国に仕えていたが、のちにアドラーの女性サロン・バスコと結婚しその血を残す。このスバースの子孫たちが、「超帝國の血を引く純血の騎士」として星団史に名を残している。彼らとスバースの血統に関しては「DESIGNS」次巻に詳しい。

デザイン／デザイン画：2005年4月10日デジタルセル

リチウム・バランスとファティマの誕生

ファティマの誕生

ファティマの誕生に関しては「ＤＥＳＩＧＮＳ」次巻の「ファティマ」に詳しいが、ファティマという騎士の能力と生体演算機能をもつ新生命体、いや新人類はフェイツ公国のウラニウム・バランスの孫、リチウム・バランス公爵によって作り出された。

ファティマの誕生にはウラニウム・バランスの生体演算理論と彼がその時代に残した騎士の遺伝子による生体実験や生命体の研究の功績が大きいのは確かだが、ファティマ誕生において最も重要だったのは騎士の反応速度をもった生体演算機能というものをナッカンドラ・スバースの存在によって確立できたことである。

騎士の遺伝子を使ってのファティマの研究はなされてはいたが騎士自体の、騎士となる劣性遺伝子が非常に不安定な発生確率しかもたないために、騎士の遺伝子を使っても騎士の力をもたない生命体しか発生せず、これが最大の課題であった。

しかし、ナッカンドラ・スバースは超帝國、炎の女皇帝自ら作り上げた超帝國の騎士そのもので、その騎士としての遺伝子は非常に強力であり、彼の情報から人工生命体を作り出すことによって「確実なる騎士の力と反応速度をもつ生命体」の誕生につながったのだ。

しかし、スバースの遺伝子を受け継いでいるとは言え、その騎士としての力は星団暦の騎士の80%程度にまで拡散しており、超帝國の遺伝子を使ってですら、星団暦には人工的に騎士を生み出すことができなかったのである。

ファティマが発表された時点で星団中の科学者が「騎士の安定した生産」という可能性に期待していたのだが、この事実によってそれは絶望的となった。

騎士は不安定な確率でしか生まれてこない、ということの再認識でもあったのだ。

スバースの遺伝子を使って初めて生まれた４人のファティマはそれぞれ、

「ザ・フォーカスライト」
「ザ・ニーブ」
「ザ・ソリッド・ステート・ロジック」
「ジ・インタシティ」

と名付けられた。

彼女らは皆同じ外見と同じ顔をもつファティマとしての基本体であり、母体であった。

最初のファティマが天照家初代女帝の幼名をもつのはバランス公が天照家に敬意を表してと、いわれる。しかし、スバースのことばから、スバースを認め、救ってくれたフォーカスライト女帝へのアイロニーからスバース自身がその名を希望したともいわれ、すべてのファティマの中でもこのフォーカスライトは別格に扱われている。

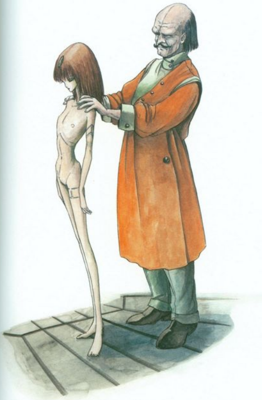
星団暦３０３０年現在、フォーカスライトはその肉体をとっくに捨て、「アウクソー」というバランシェ公の作り上げたファティマへと移動している。彼女の記憶と精神はアウクソーの中にしっかりといまも残っている。その証拠にフォーカスライトは超帝國の騎士、スバースに仕えた後、まったく別の方法で星団に残されていたもうひとりの超帝國の騎士、その純粋たる子供のカイエンを生涯のパートナーとして認めている。

その後彼女はまた姿を変えて登場しているがそれはまだ先の話。

彼女ら初期のファティマはその数の少なさと「自分で騎士を選ぶ」という事実が判明していなかったために数々の騎士とＭＨを駆っていたが、フォーカスライトだけは実験の継続という意味も含めてフェイツ公国に残されていたのだ。そして、強力な記憶保持能力をもつフォーカスライトは延々とその後の星団暦に語り継がれることになる。

４人目の「インタシティ」は寿命によって２９９２年にこの世を去っている。バランシェ公はこれら初期のファティマの肉体的寿命の限界に気がついており、その対処のための研究を行なっていたということでもあった。

その後のファティマはワームループ遺伝子と騎士の遺伝子との安定化に成功し、理論的にはほぼ無限の寿命をもつ生命体となっている。初期のこれら４人のファティマの寿命が不安定なのはスバースの遺伝子そのものが使用されているために無限分裂細胞の自己保存に無理があったからとされているが、その真実はいまだ謎である。



リチウム・バランス公
バランス家3代目公爵
LITHIUM BALLANCE / BALLANCE Ⅲ

身長 172cm　**体重** 68kg

祖父の理論から実際にファティマを作り出した偉大なる科学者。しかし彼の力だけでなく、祖父や父、そしてナッカンドラがいなければファティマの完成には至らなかったであろう。しかし、後の世にまで延々と作り続けられるファティマの基本体を作り上げたという事実は揺るがない。

イラスト：1997年BBケント荒目＋透明水彩

ファティマ・ザ・フォーカスライト
Fatima the FOCUSLIGHT

身長 158cm　**体重** 37kg

工場製のファティマの髪と瞳の色はほぼこのフォーカスライトに準ずるが、色素の調整は最も簡単な生体パラメーターであるために個体識別を兼ねて黒髪から金髪までバリエーションは増えている。ただ、色素を薄くするということは生態的に弱いファティマにとって別の障害を増やすことにもなるためにファティマを並べてみればわかるがブロンドの髪をもつファティマはまずいない。ブロンドは金髪ではない。透ける髪という意味で金髪よりも薄い。
現在名前が出ているファティマの中でブロンドの髪をもつファティマは「湖のオーハイネ」だけである。この彼女も現在は消息が不明であるが、魔導大戦で再登場してくる。
今後フォーカスライト自身が物語に登場することはまずないであろうが、彼女の精神だけはアウクソー、そしてデルタ・ベルンへと受け継がれていく。
何よりも大切なことはバランス家最初のファティマである彼女が、バランス家最後のファティマであるクローソーをちゃんと見守っているということなのではないだろうか。そういった意味では彼女もまた運命の女神なのかもしれない。

デザイン／デザイン画：1997年2月22日リスマチックセル

10代目バランス家当主　アルセニック・バランス

バランス家の中でも別格的に扱われるのがこのアルセニックである。

クローム・バランシェの母でもあるが、彼女はある意味において天照すら想像もできないことを行なっている。

彼女はもちろんファティマ・マイトとしての能力ももつが、その彼女が生涯作ったファティマはたった4人で、風のファティマといわれるコーラス王家の3ファティマと「光のタイ・フォン」の4人であった。

作ったファティマが4人のために彼女の名が星団暦に出てくることはほとんどないが、注目されるのはその4人目のファティマ、タイ・フォンである。フランス語で「台風」を表わすそのことばは風のファティマと名前のつながりはあってもその中身はまったく別物である。

なぜならタイ・フォンはラキシスの母体ともなる「ダブル・イプシロン・ヒューマン」であり、ファティマではない新人類なのだ。

のちにバランシェが生み出した「運命の3人の女神」は、この母の生み出したタイ・フォンがなければ生まれては来なかった。彼女はこのダブル・イプシロンの研究とフェイツ公国の学業国家としての安定化に力を注いでいた。そのために彼女が作ったファティマはたった4人であったともいえる。

タイ・フォンはファティマとしての能力ももつが、その作られた真の目的は、ジョーカー星団すべての、存在しうるすべての生命の中に暗号化して隠されているコード、その究明であった。

ジョーカー人類から鳥、爬虫類、魚、果ては微生物にいたるまですべての生命と呼べるものはとある生体コードが隠されている。この事実は星団のほんのひと握りの学者が口頭で次の世代の科学者に伝えているといわれ、学会はおろか星団のどの情報サービスにも出てこない事実である。列強各国の主宰やアマテラスなどの強力な権力をもつ者はこの事実があるということは聞いてはいるだろうが、それがどういうことなのかまでは興味の対象には入っていない。

あらゆる文献を調査してもこれらの事実は出ては来ない。

アルセニックがその事実を知り、研究を開始したのはハスハの巫女の言霊である。かつてエンシェント・ディメンジョンの世紀の支配者、炎の女皇帝が騎士やダイバーを創造したとき初めて気が付いたこれらの事実。その事実を記憶として受け継ぐハスハの巫女、ジキジディーはアルセニックに託した。

炎の女皇帝が彼女に託したとも言っていい。

ジョーカー星団には何かが隠されている。

ジョーカー星団の不可解な事実。

すべての太陽系と人類生存星は同じ周期と公転速度をもち、ジョーカーの生態系からは外れた生命体ドラゴンがいること。そしてこのドラゴンだけが隠された生体コードをもっていないこと。

さらには巫女や人類の記憶にうっすらと残る伝承。それに登場する奇怪な攻撃体サタン。

そして隠された生体コードに打ち込まれていたことば、

「モナーク・セイクレッドののぞみ」。

アルセニックはそのすべての能力をかけてこれらの究明に乗り出した。その結果として生まれたのがタイ・フォンである。限りある自分の寿命を彼女に託してジョーカー星団の謎に挑もうとしているのだ。

そう。言い換えればアルセニックはタイ・フォンでもある。

自分の姿形、意識や記憶ではなく、自分の希望を彼女に託してこの世を去っている。

その事実が判明するのはいったいいつの日のことであろうか？

バランス家がほかの科学者とは次元が違うといわれるのはこういった歴史があるからである。

彼女が死ぬ間際、ひとりの男が彼女を訪ねている。

そしてその男は何かを伝えたという。

「タイ・フォンが目指しているものに私はいま到達したのね」。

彼女の死に顔は非常に安らかであったといわれている。

アルセニック・バランス　バランス10世
ARSENIC BALLANCE/BALLANCE X

身長 168cm

バランシェの母。

デザイン／デザイン画：2005年4月10日デジタルセル

光のタイ・フォン
Optical TY-PHON
データ不明

デザイン／デザイン画：2000年6月21日リスマチックセル

光のタイ・フォン

バランス家のもつ生体演算理論は発表されているものとは別に副論も多数存在している。それを閲覧、再構築可能なのは歴代バランス家の当主だけである。生体演算理論は発表後あらゆるアカデミーによって解析され尽くしているが、その理論の発展系を研究しているのはバランス家だけである。

バランシェの母、アルセニックはファティマを作り出すことにあまり執着していなかったようだが、生体演算理論の展開型研究において非常に注目すべき研究を行なっている。その結果として生まれたのがこのタイ・フォンであるといわれているがタイ・フォンもアルセニックもいない現在では証明のしようがない。ダブル・イプシロン型ファティマがどういうものなのかいまもなお謎なのである。

タイ・フォンは特殊な任務のために生まれたファティマでサイレント・フローレスという特別な称号をもっている。この称号はモナーク・セイクレッドの存在を確かめるためにクラウン銀河の中心、スターバーストと呼ばれる銀河の集結地点に送り込まれる彼女のために付けられたものである。銀河の中心はその想像を絶する重力圏のため時間が停止しているといわれ、現在タイ・フォンはここにいると思われる。無限ともいえる時間の中で過ごすタイ・フォンの寿命はもちろん半永久的なものだが、その着ている服も非常に特殊なものである。

蛍光ピンクのスーツは「マンティック・モード」と呼ばれる特殊なデザインだが、この蛍光ピンクのスーツ生地は後にラキシスに使われるものと同じもので、太陽光線に当てればピンクと黄金に輝いているのがわかるはずである。これはK.O.Gの装甲にコーティングされている半永久素子を使用した生地で、経年変化による劣化を防ぐものである。

永久の時の中でという、寿命がある人間には不可能な条件の任務を行なうために生まれたタイ・フォン。

彼女の称号は人類がかなえられない探求の夢を永遠に追い続けてくれる彼女に敬意を表したアカデミーの科学者たちによって付けられた。

人類のためのという本来の理由で人工生命体やロボットたちに託されるべき任務は、ことごとく戦争の道具、兵器として使用される現実に打ちのめされてきた。それを純粋な形で引き継ぐタイ・フォンは戦争の道具でも兵器でもないファティマとして初めて生まれたファティマなのかもしれない。

光のタイ・フォン、オプチカル・タイ・フォン「沈黙する女神」。

彼女はいまもクラウン銀河の中心にいる。

若き日の
クローム・バランス（バランシェ）
フェイツ公国を出る前の若きバランス。この後、アドラー星に生涯の住居を構えたとき、名をバランスからバランシェへと変えた。
家を出た彼が成し遂げたのは歴代バランス公がやってきたことの集大成、そして完成型であった。

幼少時の
クローム・バランス（バランシェ）
このような少年時代のイラストが存在するということは、その時代のエピソードが考えられているということだが、いまだ公開されず。

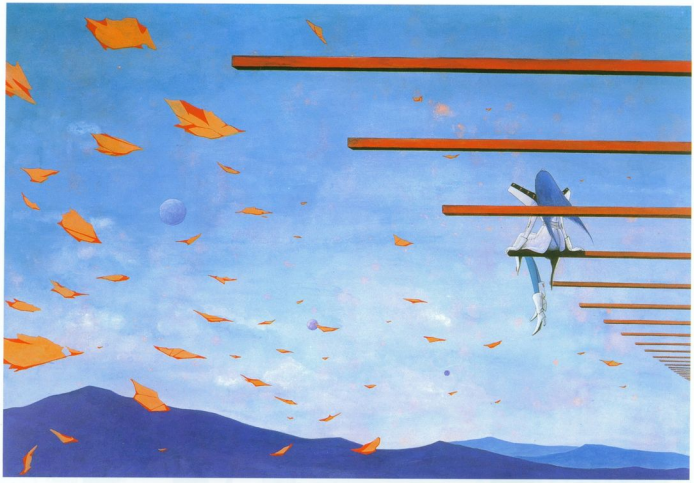
デザイン／デザイン画：1990年ごろリスマチックセル

クローム・バランス（バランシェ）
バランス家11代目当主
CHROME BALLANCE(BALLANCHE)

身長 185cm　体重 68kg

のちにクローム・バランシェと改名。ジョーカー太陽星団史上最高の科学者。物語の中心のひとつ。運命の3人の女神の創造者。詳しくは「DESIGNS」次巻。

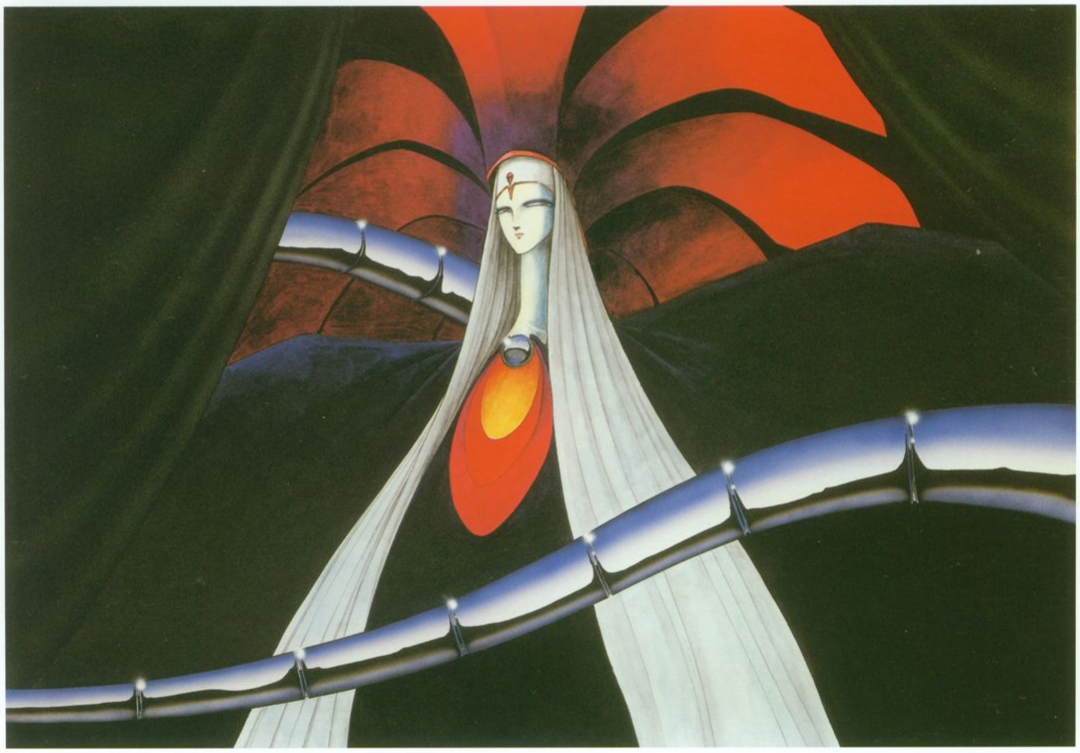
デザイン／デザイン画：1991年11月17日リスマチックセル



QUEEN
イラスト：1994年BBケント荒目+アクリル

the DEITIES, SPIRITS and TALES

神々と神話の世界



1985年に描かれたタイカ・クィーンことカレンのイメージ画。この帽子の形はそのままメル・ズームへと移行されている。

イラスト：1985年9月水彩＋アクリル＋ロットリングペン

タイカ宇宙とシルビス

第5巻に突如登場した別世界の彼女らは「F.S.S.」というおとぎ話の中で固定化されてしまった概念を潰すために登場したのかもしれない。天照という神がいる世界のジョーカー星団で、ともすれば神を形態化、具象化、説明して天照という神を設定しそうになる物語の流れを根本から潰すために存在しているのかもしれない。

神々は神々であって、いかなる論理と手段を使っても説明可能なものになってはいけないのだ、という、この物語にとって大きなかせがある。

それは物語が作者の想像すら超える、表現不可能なものであってほしいという願望なのだろう。

タイカはジョーカー宇宙とはまったく違う世界である。

ジョーカー世界とは天照を通しての、カレンやマキシとシルビスとの出会い、そしてその後の干渉された物語で、別宇宙の別次元での話だ。

シルビス・レィス・ビーナス
ペン画イラスト：1991年2月／1994年3月リスマチックセル／2005年7月デジタルスキャン・色補正

THE SILVIS RIDE
イラスト：1996年11月2日デジタルイラスト 3541 × 5015pixel

シルビス・レィス・ビーナス
SILVIS RACE VENUS

身長不明

古代タイカの巫女。別宇宙からカレンを呼び出し、その後10万年続くといわれるアンカーとの戦いのために、ジョーカー宇宙から「刺盟マキシ」を召喚するが、ファティマの因子をもつマキシはシルビスと長い戦いを続けていくにはうってつけであった。また、シルビスはマキシのその力を引き出し、のちのタイカ・シバレースを作り出す。
マキシもまだ初めての人間としての感情を、ようやくこのタイカで得ることになる。
シルビスはその巫女としての力を使い、10万年後に自分の分身を送り出すことを最後の仕事としている。

ペン画イラスト：1994年6月ごろ／同月リスマチックセル／2005年7月デジタルスキャン・色補正

シルビス
ペン画イラスト：1996年7月ごろ／同月リスマチックセル／2005年7月デジタルスキャン・色補正

シルビス
ペン画イラスト：1996年3月／同月リスマチックセル／2005年デジタルスキャン・色補正

シルビスの側近
髪を結っているのはフォン・リル。烟権史といわれる古代タイカの最高審判。シルビスは太権史と呼ばれ最高権力者である。フォン・リルとカル・リルらの下に12天史と呼ばれる巫女が続きさらに36烟史が控える。

ペン画イラスト：1995年6月／同月リスマチックセル／2005年デジタルスキャン・色補正

シルビス
ペン画イラスト：1996年3月／同月リスマチックセル／2005年デジタルスキャン・色補正

デモン・ホーン
DEMON HORN

第5巻に登場するカレンと第6巻に登場したユライヒの駆る神聖タイカの攻撃兵器MMTを象徴する角である。

デザイン：1985年／デザイン画：1986年セルロイドフィルム／1990年代リスマチックセル

シルビス・ミラー
SILVIS MIRROR

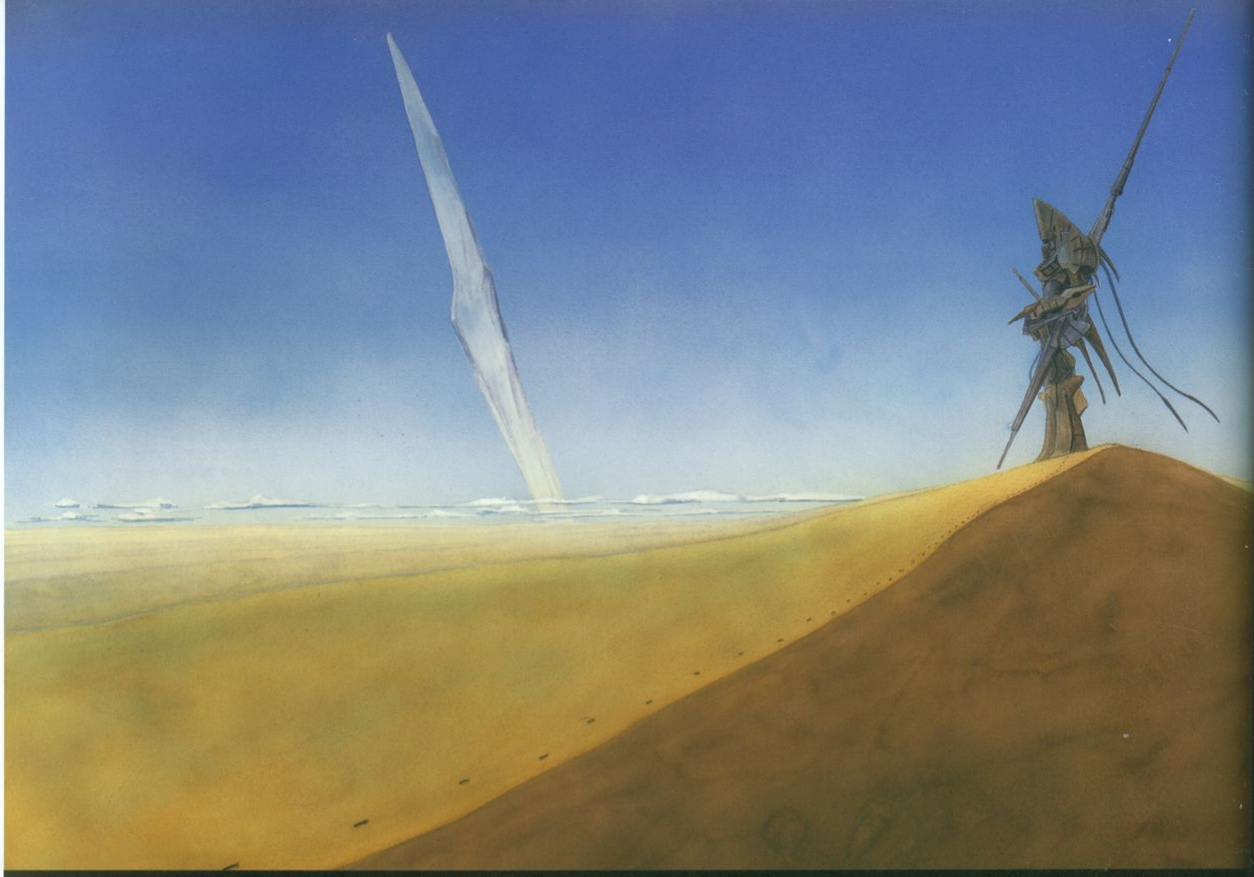
身長不明

第10巻冒頭に登場。タイカ・エピソード後半はユライヒ、カレンのいる神聖タイカ時代となるが、彼女はタイカの終盤に登場する神聖タイカでのシルビスの分身である。タイカ民族同様の外見をもち、カレンがもってきた「クフィル・インペリューン」を操る。タイカの後半はラキシス外伝とミキシングされている。マキシのデータを受け継いでいるために非常に強力な戦士だ。というかシルビスとマキシの娘と言ったほうが早い。

デザイン／デザイン画：2001年2月7日リスマチックセル

ここにあるシルビスのイラストは「F.S.S.」のファン雑誌の表紙を飾ったもので、彼女のさまざまな衣装のバリエーションが描かれている。
これらのシルビスのイラストはペンで描かれた原画をリスマチックセルに転写してアニメカラーで彩色してある。「F.S.S.」のデザイン画がサインペンで均等な太さの線で描かれているのと違って非常に細かくデリケートなセルイラストとなっている。
また、これらシルビスのリスマチックセルはスキャンデータがなかったためにこの作品集のために大日本印刷でデジタルスキャンされたが、ほとんど色補正の必要もないほどの再現性であった。セルそのものの保存も非常にいい状態であったこともある。「F.S.S.」は単行本第8巻からセルをデジタルスキャンし、データ化して印刷されているが、第10巻あたりに発表されたかなりのキャラクターセルは大日本印刷が導入した当時最高峰のスキャナでスキャンされたものばかりだったのだが、最新のこのシルビスのセルスキャンとは比較にならないほどの再現性で、スキャンされたセルの色補正に数時間もかかったものであった。もちろんスキャナ自体の性能の向上もあるが、スキャンソフトとスキャンをオペレーションする印刷所のスタッフの経験と腕が遙かに向上しているということもあるだろう。このスキャンデータを見た瞬間、手持ちのすべてのセルをまた再スキャンしなくてはならないのかと途方に暮れている。

シルビス
ペン画イラスト：1996年8月／同月リスマチックセル／2005年7月デジタルスキャン・色補正



マンティコア
MANTICORE

詳細不明

ラキシス外伝に登場する巨大なサイボーグともいうべき生命体でジョーカーでのドラゴンに近い生き物だ。ただし、ジョーカーのドラゴンとのつながりは何もない。口から吐き出す火の玉はバスターランチャー級で、大変に怖そうだが、ラキシスの子分である以上、災難が絶えないと思われる。マンティコアもクフィル同様手のひらサイズのミニチュアの大きさに収まるので、the K.O.G.のラキシスコクピットに飾ってある。

デザイン：1985年／デザイン画：1988年10月

クフィル・インペリューン
KFIR IMPERIUM

身長 35m 変動

ラキシス外伝に登場する飛行生命体。陸のマンティコアとともに惑星オリンポスに生息していた。そして、最後のカード、ピュランコートもラキシスのしもべとなる。非常に強力な機械生命体で、ラキシス外伝以外にも神聖タイカの戦いにも参加している。ひと言で言えばむちゃくちゃかっこいいサイボーグ。クフィルとマンティコアはジョーカーの機械科学からは想像もできないテクノロジーで作られており、なんと体の大きさは変動する。戦闘時は35mもの巨体だが、普段はラキシスのポケットにミニチュアとなって収まっている。いったいどういう構造なのだろうか？

デザイン：1988年／デザイン画：2005年4月10日デジタルセル

ラキシス外伝・ファイブスター物語第3部

単行本巻末の星団年表にある通り、ラキシスは星団を離れ the K.O.G. とともに時間と空間を放浪することになる。魔導大戦以後、アマテラスとラキシスの意見の食い違いはお互いが理解することなくカラミティ星の崩壊、爆発とともに離ればなれになってしまう。彼女がアマテラスと離れ、何を思ったか。また、ラキシスのいないジョーカーでアマテラスがどう変わっていったのか。ラキシスはさまよう時間と空間の中で数々の出会いをし、さまざまな生命や意志と遭遇する。そのいくつかは最後までラキシスに付き合い、ラキシスにとって頼りになる友人でありまた、武器ともなっていった。
物語に登場するジョーカー以外の生命や人々。ラキシスはこれらすべてと出会うことになる。タイカのシルビス、死んだはずのマキシ、デモンやユライヒ、サタンやオリンポスの人々、そして我ら地球人とも……。

【P160-161 イラスト】

LACHESIS 6599
1985年アクリル＋水彩＋ロットリングペン

【P163 イラスト】

DESTINY LACHESIS 5899
1984年水彩＋ロットリングペン

7777
1985年水彩＋アクリル＋ロットリングペン

【P162 イラスト】

ESCAPE 3239
1984年水彩

OUT SPACE 4300
1985年水彩＋アクリル＋ロットリングペン

「ファイブスター物語（F.S.S.）」ではジョーカー太陽星団の歴史的物語とは別にまったく時間も次元も異なる神々の世界がしばしば並行して割り込んでくる。これは主人公天照が光の神のために起こることで、物語中ではそういったシーンがあったとしても別に超常的であるとかいきなりジョーカー宇宙の世界観が変わってしまうということなく、ごく自然に普通に割り込んできてしまうために、読んでいる側とすれば気持ちの切り替えができないということもあるかもしれない。しかしこれはこの物語の避けて通れないところでもあるので、すんなりとそのままに読んでいただくのがベストであるし、そうお願いしたいところでもある。

人間の世界での話と人間と神々が干渉する世界と神々の世界の話。この3つが織り交ぜられているということをたまに思い出していただければ幸いである。

登場する神々一覧

大神望（おおかみののぞみ　ビヨンドクラスファー・オーバーマテリアル）

天照たちの上位にあたるバランサー。だが別に天照より偉いとかいうわけではない。ヒエラルキーは存在しない。

門神（ゲートキーパー）

クローソーとアトロポスのこと。神々の門番であり、大変に強いらしい。天照からジョーカー世界での姿と、ラキシスからインペリューンとマンティコアのイメージを受け継いでいる。

デモン・ダ・インプレッション

たぶんカレンの夫、ユライヒの神の姿。不明。

天照大御神（あまてらすおおみかみ）
天照大神も同様

ジョーカー宇宙を創造した全能神。すべては彼が生み出しコントロール下に置いているが、そこで生まれてくる星などを含めた物質、生命はありのままに、まったく天照大神に干渉されずに躍動している。

その彼が人間と同様の営みを行なうために星団暦２０２０年にみずからを出現させたのは何か意味と意義があってやったことではないだろう。別にその場にいなくとも何ら変わりはないのだから。彼がいようといるまいとカラミティ星は崩壊するだろうし、デルタ・ベルン星はドラゴンによって焼き尽くされるだろう。

神々の思考など我々人間が察知や想像できるようなものではない。よって彼がなぜジョーカー星団に存在しているのかは永久に不明であるし、その謎解きも説明もしてくれはしないだろう。

天照大御神は基本的に天照の帝とラキシスの融合した姿である。とは言え、融合したからどうだとか融合することに意味があるのかに関しても謎。理解不可能。

人間には後付けでの説明しかできないが、その根本的な理由がまったくわからないのにそういう説明をすることも無駄であるのかもしれない。

ゲートキーパー
イラスト：1989年 水彩（73.0cm × 51.0cm）

サタン

ライフ・ウォッチング・オーバーロードオーバーロード。別世界から送り込まれる異次元の生命体。幾度もジョーカー宇宙に出現しているが、その目的はその宇宙を創造した神との代理戦争であろうと推測されている。

サタンには出現した時期によってさまざまな形態があるが、ジョーカー宇宙の天照の君臨する時代に出現しているのはいくつかの種類に分かれているらしい。

蟻や蜂のようにその外形と体型は大きく異なる個体が確認されている。中でもひときわ巨大な姿をもつ者は「サタン・コマンダー」と呼ばれ、侵攻部隊のリーダー格で桁違いの強さをもっている。マトモに戦うことのできるのはログナーと剣聖マキシくらいしかいない。さらにごくまれにその上位のサタンである「ジェネリック・オーバーロード」が姿を現わすときがある。この個体はさらに大きな体で固有名詞をもっているのですぐにわかる。物語中に登場したジェネリック・オーバーロードはボォス星の伝承に登場した「オーピー・クル」だけであるが、ほかに「ノストスパスムス」「タンツミンレ」が知られる。このレベルになるとL.E.D.ドラゴンとの協力がなければ撃退することも戦うことも不可能とログナーは言っている。

彼らに対しては、彼らの存在を知る者たちはすべて一致団結して追い払っている。それは星団暦の天照率いるミラージュ騎士団であったり、AD世紀の炎の女皇帝と超帝國剣聖たち、アズデビュート・モンソロン大帝とモナーク・セイクレッド武士団、そしてカラミティ・ゴーダース星帝である。

また、討伐にはすべてのドラゴン、星団暦３２５０年ではシステム・カリギュラなども協力。

さらにはマンティコア、クフィル・インペリューン、そしてラキシスが覚醒させた禁断の最終兵器・ビュランコートなども荷担し、協力している。サタンたちの目的が「命の水」そして「ラキシス」であることは明白で、ラキシスに至ってはタイカのダークプリンス、ルシファ・センタイマを介して狙ってきている。

それほどまでに有無を言わさない存在なのである。

サタン・コマンダー
SATAN COMMANDER

詳細不明

第6巻に登場。このときの彼らはMH並の巨大さであったというが、ボォス星の伝承では3mほどであったともいわれ、彼らの大きさの概念自体が違うのかもしれない。ただ、非常に重要なことはアマテラスのミコトが彼らの存在を周知しており、なおかつ彼女のダイバーパワーで数体が撃破されているということだ。このときにはフェザードラゴンが駆けつけ事なきを得たが、彼らが登場するすべてのシチュエーションではドラゴンもテレポートして来るということだ。別働隊がラキシスを狙っており、それはカレンとMMT「バイナス」によって退散させられている。L.E.D.ドラゴンもログナーも不在、天照は死亡中で、the K.O.G. は分解中のみごとなタイミングでの登場であった。

デザイン：1980年／デザイン画：2005年4月10日デジタルセル

85代目天照王朝女帝・カレン

星団暦7777年に天照とラキシスの間に生まれた娘で天照家85代目の女帝。実に5700年ぶりに登場した天照家の跡取りであるが、この7777年というのは天照が星団を離れて、次元移動戦闘コロニー「ウィル」の中で経過したコロニー内経過時間であって、実際の時間ではない。実際のジョーカー宇宙では56億7000万年が経過し、ジョーカー宇宙そのものは寿命で宇宙全体が収縮拡散を始めているときでもある。ジョーカー太陽星団のすべての星もクラウン銀河のすべての太陽系も寿命でほとんどが消滅し、すべての物質は拡散を進行させている。そう、ジョーカー宇宙は消滅を始めている時間でもある。

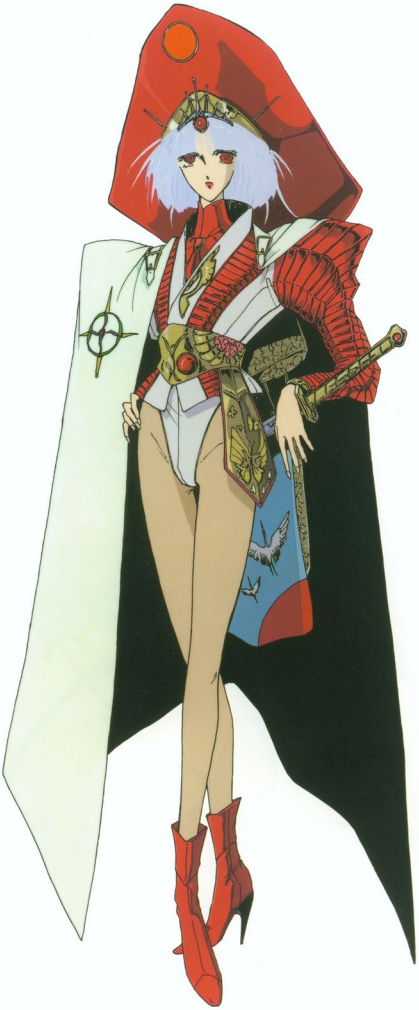
天照の言う56億7000万年とは宇宙の終わりを示すことばである。

つまりカレンの登場は寿命によって消滅するジョーカー宇宙からカレンが新たに生み出す新宇宙「フォーチュン宇宙」へとジョーカーで最後に作られた恒星系フォーチュンを移動させるために出現したと言っていいだろう。

従ってカレンはジョーカー宇宙では生まれていない。アマテラスとラキシスが融合し、全能神天照大御神となったあとに生まれてきた娘である。無から生まれた天照家の女帝なのだ。気性の強い少女であるが非常に親思いで、たびたびジョーカー宇宙に干渉している。

タイカ宇宙の創造主。全能神ユライヒの妻。太剛神モイキュードを相手にカレンとユライヒはタイカ宇宙とバスター宇宙との宇宙間大戦争を繰り広げる。ジョーカー宇宙にサタンを送り込み続ける神と神との戦いである。ジョーカー宇宙ではそれでも人類がサタンと戦うこともできたが、このレベルになるともはや人類は奴隷の外である。

カレンやシルビスになると完全なる神々の世界となるので星団暦やジョーカー太陽星団の話とは完全に切り離して考えてもらったほうがいいだろう。



カレン／花蓮
KAREN

身長0cm～182cm 無限 測定不能

デザイン／デザイン画：1992年7月ごろリスマチックセル

天照家神双剣・ミストブレーカー（懐園剣）

天照家に伝わる神剣。天照の実の娘、カレンが天照の警護のためにジョーカー宇宙にタイカ宇宙から宇宙を越えて送り出したもので、この世のものではない。全能神カレンの力の一部をもつために神論的には星ひとつを真っ二つに切り裂くことも可能な剣である。また、この世のものでないものもすべて物理的に破壊することが可能な力をもっている。つまり、幽霊や悪魔といった物質世界に存在し得ないものを破壊するために存在していると断言してもよいだろう。

剣は長い鞘をもつ「雄剣」と鞘をもたない光剣の「雌剣」の2振りからなる。2振りの剣自体はそれぞれ自分の意思をもち、自分の意思に沿って時間を超えてジョーカー宇宙のあちこちにバラバラに分かれて姿を現わしている。初出現時、2本は天照のもとからすぐにどこかに姿を消しているが、過去の世界に行ったのか未来に行ったのかは我々にはわからない。ただ、この懐園剣はAD世紀の超帝國騎士、スキーンズが雄剣を所有していた記録があり、さらにはそれ以前の歴史の中でもこの剣らしき記録がある。

時間を自由に飛び回っているようだ。

星団暦3030年の時点でわかっているのは、雄剣は2400年ごろ、剣型スパースのもとからジュノーの剣型、ハリコンのもとに行き、現時点ではハリコンの末裔であるアルル・コーラス王女が所有している。雌剣は剣型カイエンが数百年間所有していたようだが、現在はカイエンの手から直接ミース・バランシェ伯爵に渡されている。

この剣の最終所有者は決定されており、ミースの息子、マキシが雄剣を受け継ぐ。また雌剣も成人後のマキシが持つが、マキシの死亡後は雌剣は消息不明となる。雄剣はマキシとともにシルビスの待つタイカ宇宙に向かった。

雌剣はジョーカー最後の恒星系フォーチュンで創造主カレンを待っている。

懐園剣は通常は漆黒のこの状態だが、戦闘状態になると純白の剣に変化する。その放出エネルギーは通常の黒い状態とは宇宙レベルの違いがある。

神双・懐園剣
the MIST BREAKER

イラスト：2003年10月23日デジタルイラスト

カラミティ・ゴーダース星団皇帝

本来は神ではないのでこの場所にいるべきではないが、ほかにカテゴリー分け不可能な人物のためにここで頼外する。

現在物語中では、歴史は大まかに分けて天照がいる「星団暦」の時代、星団暦より遙か1万年も未来の時代「太陽暦」の時代、そして過去の時代である炎の女皇帝の超帝國が支配した時代「AD世紀」、そして名前だけが登場しているさらに過去の時代、アズデビュート宗家が支配していたモンソロンの時代がある。

この時代、星団皇帝といわれている以上どこかの時代に属していたのか、それともまたそれらとは別の時代の人物なのかいまはまったくわからない。

しかし、数多くの伝承、残された記録の中にこの人物の名前はある。

一体この人物の名前は何者なのか？

炎の女皇帝すら知り得なかった彼の正体を知る人物がひとりだけいる。それは、天照のミコト。天照の母親である。

なぜ彼が人類のすべての歴史に登場しているのか？

なぜ天照に謁見を許っているのか？

サタンたちはなぜこの人物を周知しているのか？

なぜ彼だけがクローン再生が可能なのか？

謎は尽きないが、すべては「その年」の頃が語られるときに判明するだろう。

炎の女皇帝はその人物のコピーがいずれは尽きることを予測して「ドウター・チップ」を天照初代皇帝に託したのだろうか？

やがて星団はまた彼の力が必要なことを察知して。

カラミティ皇帝のコピー体が尽きた現在でもこの人物だけがドウター・チップによって新たに再生され続けている。

彼は人間である。神々が関渉するこの物語において、パラシュとともに神々の世界に干渉しようとする抵抗者なのだ。

モナーク・セイクレッドの騎士。ドラゴンたちの主人。

ただしドラゴンたちは「その時」でないと彼の支配下にはならないようである。そのとき以外のドラゴンたちは物語にあるとおりスペクターの「しもべ」である。スペクター、スレイヤーの配下にあり、天照、スペクター、スレイヤー、ロードナイト、モナーク、セイクレッドなどとこのあたりの関連は「DESIGNS」次巻以降となる。

モノクロイラスト：『月刊ニュータイプ』2003年8月号掲載

10万年もの昔
宗帝アズデビュートのモンソロン帝が
クラウン銀河の中心
時の彼方への入り口といわれる
スターバーストで見つけた

次にAD世紀の支配者
炎の女皇帝が
騎士を生み出すための生体構造を解析中に
すべての生命体の素粒子配列の表面に
その存在が書き記されていることを知った

光の中
無限の彼方に
閲覧者を待っている

超帝國の騎士ナッカンドラ・スバースの血の中に
女皇帝のメッセージを見つけた
フェイツ公国10代目太閤アルセニックは
無限の時間の中に人工生命体を託すことを決めた

小さな船
次元航行船
ザイ・クー・ローンの中で

光のタイ・フォンは
停止した空間の中
環状遺伝子をもつ無限の生命体

彼女はサイレント・フローレス

光の中に
無限の彼方に
閲覧者を待っている
その最後のページに署名された
閲覧者の名前はない

全宇宙のすべての記録を書き記し
いまもなお新たな記録を書き込んでいる

モナーク・セイクレッド

好奇心と探求心を失わない
すべての人への贈り物

記憶者（モナーク・セイクレッド）

それはあなた。
この物語を読み、伝えていくあなた方。
その意志と希望である。
ジョーカー太陽星団の人類側のコントローラー。
生み出したのは人類。ともに寄り添うのは人類が生み出した人工生命体「光のタイ・フォン」。
ジョーカー太陽星団のあるクラウン大銀河のほぼ中心にセットされた記憶体である。
このモナークが存在しているということを知る人類はモンソロン、天照のミコト、ロゲナー、炎の女皇帝、ニュー、システム・カリギュラのメンバー。アルセニック、そしておそらくバランシェであるが、それ以外にもうっすらと知っている人類は少なくはないであろう。タイ・フォンを送り込んだ科学者たちがいたということは、公言はされないにしてもこのようなものがあるということを確認していた証拠でもある。
神々に干渉することもなく、またいかなる神々からも干渉されることのない人類の生命としての意志である。
存在こそがすべて。
あなたは生きている。
生きていることがあなたが生まれ、存在している証なのである。
そうモナーク・セイクレッドは主張し続ける。

作品集「DESIGNS」について

角川書店「月刊ニュータイプ」誌にて1986年から20年にわたり連載されているコミック作品集「DESIGNS」。ファンタジー、SF、ロボット、ホラーなどの国家を、様々な連載を並ねるに従っては、初めて読まれた方にはそれぞれの情報が付随する作品と思えるかもしれませんが、そういった細かい情報を楽しまれた方のためにこの作品集が発行されていましたが、いままでは編成に手が回無理で、また、20年の期間、また意図的に変わっていった情報あり、熱心な読者の方々の間でも混乱することも多々ありました。

今回、角川書店よりこの作品集が発行されるにあたり、単行本第12巻までのほぼすべてのデザイン画と情報をまとめて統一し、系統立ててわかりやすくするためにこの本を作りました。

本のタイトル「DESIGNS」は、作者、永野護が作ってきたデザイン、これは人物やメカニック、さらにはそれに関連する歴史や国家の構成まですべてを含めたデザイン画集という意味を込めてこのタイトルにいたしました。

単純に1986年から2004年までの永野護の作品集として楽しんでいただければ幸いです。

この本ではキャラクターの絵があってもそのキャラクターが物語の中でどういった人物なのか？というようなことはほとんど書かれていません。

それにどころか物語には描かれていないようなやまったく関係のないことばかりが書かれているように思われた方がほとんどでしょう。

物語に出てくるキャラクターたちのデザインと存られた背景が書かれているのです。

ファッションデザイナーや車のデザイナーはその作品を作り出すときにイメージがあるはずです。

どんな生地を選ぶのか？

その生地をどう裁断するのか？

帽子やアクセサリーは何がマッチするか？

靴はどんなものが分ののか？

そして、

どんな人が、どんな場所で、どういう人と、この服を着てくれるのか？

この本はそういったことが書いてあると思っていただいて結構です。本文後の物語にいうようでもいいことが書かれています。

セルイラストは作者がそういうことを考えながら作り上げられたものばかりです。

作者がどんなとこ、どんな場所で、どういう人がこの服を着てくれるのだろう？と、思いながら描いています。

このことを作品に当てはめれば、これが物語の根幹で、作られていく物語の発端となるのです。

そして、実際にはその服を買って着る場所、着てこな方法はつた人に任せられ、デザインのイメージとはまた違った服となることもあります。

たこれに相はするが実際に物語に登場し画から離れ、物語をその時代の雰気に添って動いてきます。

そう思って見ていただければよいのではないでしょうか？

今まで、いままで出された情報と根本的に変わっている箇所がひとつあります。

それは川田さんラージュマシンの型式が全に変えられている箇所です。これは進んでいく物語がそうさせたということです。

デザイン画は物語に多大な影響を与えながら物語のほぼすべてを掌握しています。

逆に進行する物語はデザインと設定にそれ以上の影響を与え続けます。

これをご理解頂きたいと思います。

次巻「DESIGNS 2」では残りのエスタ、サザンド、ノウスのすべての国家が収録されます。ただし、ハスハ連合共和国とカステポーは収録されます。それに加えて基本設定である騎士とファティマとMIに関することが主体となるでしょう。物語の基本的な設定がメインとなります。

さらに本公開の原画、下描きやペンまで入っていたのに没になり掲載までに描き直されたページなどに加えて、MI中人物の準備稿、ラフイラストなど、いままで日の目を見ることのなかった完全な未公開のイラストやデザインも収録する予定です。また、「月刊ニュータイプ」誌に掲載されたイラストやカレンダーイラストなどもほぼすべて網羅する予定です。

さらにそのあの「DESIGNS 3」はカステポー、ドラゴンたち、ハスハ連合ユラヒいっぱと最新情報が主体となり、カリギやダイバーたちといっぱいまでの本当の理由はなんなのか？というまでもまだ触れられてもいなかったことが次々と発表されることでしょう。

そして「DESIGNS 4」は完全最新作品集となり、別タイトルとなります。

この作品集は連載再開とほぼ同時に発行されます。単行本第13巻以降の「F.S.」の新キャラクターアシリヤ・セレーツ等連載は止まっていますが、作者の頭の中には全開状態で単行本第20巻までのストーリーとデザインが溢巻しております。どうかご期待ください。

永野護　サクラの咲く日に

ラスト：1987年セルロイドフィルム
クヨ社の下敷きとノートのために描かれたもの
品は現在入手不可
ルおよび原画喪失のため商品写真を掲載

◆企画
オートマチック・フラワーズ／ニュータイプ編集部

◆著者
永野護

◆製作
角川歴彦
井上伸一郎
安田猛

◆永野護マネージメント
株式会社角川書店

◆パブリシティ
株式会社角川書店

◆構成・イラスト・文
永野護

◆編集
矢野健二　榎本郁子

角川歴彦　佐藤良悦　土屋良彦　井上伸一郎
太田修　重信裕之　白石順人　渡邊隆史

ニュータイプ編集部
御手洗光司　水野寛　湯浅太一　力石恒元

◆装幀・レイアウトデザイン
朝倉哲也

◆セル・マネージメント
伊吹眞（プロダクション・アイジー）
山津真紀子

◆デジタル・セル・ペインティング
株式会社プロダクション・アイジー
色彩設定
戸部弥生
仕上
戸部弥生
2D ワークス
中山亜希子　小野智恵美

◆リスマティック・セル・ペインティング
株式会社プロダクション・アイジー
DAME
色彩設定
戸部弥生　渡辺陽子　津守裕子
高島清子
DAME
仕上
戸部弥生　遊佐久美子　藤岡真子　水田信子
小林美代子　小島真喜子　津守裕子　敦賀忍
横瀬貴幸　中川恵
加藤礼子
高島清子
DAME

東京リスマチック株式会社／川田宏文
太陽色彩株式会社
株式会社サンライズ

◆セル・スキャニング
大日本トータルプロセス市谷
高木明　坂入大介　小田切武

◆マッキントッシュオペレーション
大日本アート株式会社
栗原健一　田中裕之　深田啓輔
高橋未央子

◆校正
株式会社アドリブ

◆AD&レイアウト
株式会社デザインクレスト
朝倉哲也　袴田和正　櫻井幸子　田畑善行
松崎玲子　福井絵里子

◆印刷
大日本印刷株式会社

◆協力
角川書店　アニメ・コミック事業部
ニュータイプ編集部

プロダクション・アイジー
TOYSPRESS.inc
株式会社サンライズ
株式会社ジェー・シー・スタッフ
株式会社ガイナックス
株式会社GDH
株式会社ハートビーツ

◆ THANKS
富野由悠季
村濱章司
小田雅弘
川村万梨阿
いのまたむつみ
橋本正枝

松波真紀子
鎌野久美
岡田麗弥
岡田華
藤島千恵

藤崎正範
柴田博之
富樫真

The Five Star Stories Logo Design by Tetsuya Asakura
Automatic Flowers Logo Design by Mamoru Nagano
AUTOMATICFLOWERS™ The Five Star Stories®
and FATIMA® are Trademarks of Edit co.,Ltd

©Copyright 2005 Edit all rights reserved.

Last Design is a Wedding Dress from the Collections

ザ・ブライド
"The B.R.I.D.E."
デザイン／デザイン画：2005年4月12日デジタルイラスト

F.S.S. DESIGNS 1
EASTER; A.K.D.
F.S.S.デザインズ 1　イースター：A.K.D.

著者　永野護 ながのまもる

2005年9月25日初版発行

発行人　井上伸一郎
発行所　株式会社角川書店
〒102-8177　東京都千代田区富士見2-13-3
営業 03-3238-8530
編集 03-3238-8606
振替 00130-9-195208
印刷・製本　大日本印刷株式会社

落丁・乱丁本はご面倒でも小社受注センター読者係宛にお送りください。
送料は小社負担でお取り替えいたします。

©2005 EDIT

禁無断転載・複製

Printed in JAPAN
ISBN4-04-853881-0 C0076

KADOKAWASHOTEN

9784048538817

1920076028007

ISBN4-04-853881-0

C0076 ¥2800E

定価：本体2800円(税別)

角川書店

9784048538817
1920076028007
ISBN4-04-853881-0
C0076 ¥2800E
定価：本体2800円（税別）
角川書店

ンデモなく超越的な著者の紡ぎ出す深く果てしなき「F.S.S.」ワールド。
れまでのすべての解説はここに集約され、またすべてはここから新たに始まる！
が解けたりまた増えたり。初心者は「ファイブスター物語」をわかりやすく読み解き、
練者は一歩進んだ境地を見ることができる、まるで魔法の本。
リーズの第一弾は主人公たる天照の帝が君臨する統治国家、A.K.D.と、そこに関わる
、マシン、ファティマ、その他、2005年現段階での一切を一挙掲載する。
界を翔ぶための手がかりがここにある。これを読まずして「F.S.S.」は語れない！

ジョーカー太陽星団を舞台に描かれる
人智を超えた究極のストーリー!!
ニュータイプ100%コミックス ストーリーズ
「ファイブスター物語」
第1巻 1998 EDITION
第2巻 2005 EDITION
第3～11巻
（発売：角川書店）
好評発売中！

MAMORU NAGANO'S
The Five Star Stories